550.9
N77
550. 9-N77-2ウ
1200500746469

始

船用品法・船舶安全法關係法令

船用品協會編纂

550.9
N77

550.9-N77-2ウ
1200500746469

550.9
N77
日2

日本船用品協會編纂

船舶法・船舶安全法關係法令

956
137

船舶法・船舶安全法關係法令目次

船舶法……(一)
船舶法施行細則……(五)
船舶法取扱手續……(二五)
船舶檢査規則……(四三)
船舶檢査札規則施行手續……(四九)
船舶積量測度法……(五三)
船舶積量測度規程……(五六)
船舶積量測度心得……(六一)
船舶積量測度圖解……(六七)
船舶安全法……(八七)
船舶安全法施行令……(九一)
船舶安全法施行規則……(九三)
船舶設備規程……(一五四)
船舶滿載吃水線規程……(二〇五)
木船構造規程……(一四三)
鋼船構造規程……(二七七)
船舶機關規程……(四一三)
漁船特殊規則……(四七九)
漁船特殊規程……(四八〇)
船舶檢査執行地指定ノ件……(五〇一)
休暇日船舶檢査執行地ノ件……(五〇六)
漁船特殊規則第三條第十號及第四條第十號ノ業務指定ノ件……(五〇六)
登錄稅法(抄錄)……(五〇七)
登錄稅法施行規則(抄錄)……(五一〇)
船舶登記規則……(五一〇)
船舶登記取扱手續……(五一九)
船籍港ガ數箇登記所ノ管轄地ニ跨ル場合ノ

登記取扱方……（五二四）
造船事業法……（五二四）
造船事業法施行令……（五三一）
造船事業法施行規則……（五三六）

附錄

海務院關係船舶造修用資材並船用品需給要領（其ノ一）（五四七）
海務院關係船舶造修用資材並船用品需給要領（其ノ二）（五七一）

船舶法

（明治三十二年三月 法律第四十六號）

改正（明治三十八年三月 法律第六八號）（昭和十四年四月 法律第六八號）

第一條 左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス

一 日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶

二 日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶

三 日本ニ本店ヲ有スル商事會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社及ヒ有限會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

四 日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ニ在リテハ業務擔當社員ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶ヲ以テ日本船舶トス

第二條 日本船舶ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲グルコトヲ得ズ

第三條 日本船舶ニ非サレハ不開港場ニ寄港シ又ハ日本各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但法律若クハ條約ニ別段ノ定アルトキ、海難若クハ捕獲ヲ避ケントスルトキ又ハ主務大臣ノ特許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第四條 日本船舶ノ所有者ハ日本ニ船籍港ヲ定メ其船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ要ス

船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ他ノ管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ囑託スルコトヲ得

外國ニ於テ取得シタル船舶ヲ外國各港ノ間ニ於テ航行セシムルトキハ船舶所有者ハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ニ其船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ得

第五條 日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ定メタル登錄ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スルコトヲ要ス

第六條 日本船舶ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲ケ又ハ之ヲ航行セシムルコトヲ得ス

第七條 日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ゲ且其名稱、船籍港、番號、積量、吃水ノ尺度其他ノ事項ヲ標示スルコトヲ要ス

第八條 日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 船舶所有者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積量ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ遲滯ナク船籍港ヲ管

轄スル管海官廳ニ其船舶ノ積量ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス

第四條第二項及ビ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條 登錄シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間內ニ變更ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間內ニ其書換ヲ申請スルコトヲ要ス船舶國籍證書カ毀損シタルトキ亦同シ

第十二條 船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間內ニ更ニ之ヲ請受クルコトヲ要ス

第十三條 日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍證書カ滅失若クハ毀損シ又ハ之ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

日本船舶カ外國ニ航行スル途中ニ於テ前項ノ事由カ生シタルトキハ船長ハ最初ニ到着シタル地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

前二項ノ規定ニ從ヒテ假船舶國籍證書ヲ請受クルコト能ハサルトキハ其後最初ニ到着シタル地ニ於テ之ヲ請受クルコトヲ得

第十四條 日本船舶カ滅失若クハ沈沒シタルトキ、解撤セラレタルトキ又ハ日本ノ國籍ヲ喪失シ若クハ第二十條ニ揭クル船舶トナリタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間內ニ抹消ノ登錄ヲ爲シ且遲滯ナク船舶國籍證書ヲ返還スルコトヲ要ス船舶ノ存否カ六箇月間分明ナラサルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ船舶所有者カ抹消ノ登錄ヲ爲ササルトキハ管海官廳ハ一箇月內ニ之ヲ爲スヘキコトヲ催告シ正當ノ理由ナクシテ尙其手續ヲ爲ササルトキハ職權ヲ以テ抹消ノ登錄ヲ爲スコトヲ得

第十五條 日本ニ於テ船舶ヲ取得シタル者ガ其取得地ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域內ニ船籍港ヲ定メサルトキハ其管海官廳ノ所在地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十六條 外國ニ於テ船舶ヲ取得シタル者ハ其取得地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 外國ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有效期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

日本ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有效期間ハ六箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

前二項ノ期間ヲ超ユルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ更ニ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十八條 船舶カ船籍港ニ到着シタルトキハ假船舶國籍證書ハ有效期間滿了前ト雖モ其效力ヲ失フ

第十九條 第十一條乃至第十四條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第二十條 前十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶及ヒ端舟其他櫓櫂ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓櫂ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第二十一條 前條ニ揭ケタル船舶ノ船籍及ヒ其積量ノ測度ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 日本船舶ニ非スシテ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ揭ケタルトキハ船長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス但捕獲ヲ避ケントスル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ揭ケタルトキハ此限ニ在ラス

日本船舶カ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ニ非サル旗章ヲ揭ケタルトキ亦前項ニ同シ

第二十三條 第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス

第二十四條 官吏ヲ欺キ船舶原簿ニ不實ノ登錄ヲ爲サシメタル者ハ二月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リテ處斷ス

第二十五條 第六條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第七條ノ規定ニ從ヒテ日本ノ國旗ヲ揭ケサルトキハ船長ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第七條ニ定メタル事項ヲ船舶ニ標示セサルトキ又ハ第八條乃至第十二條若クハ第十四條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ビ第二十六條ノ規定ハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十九條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ニ定メタル罪ニ付テハ刑法數人共犯ノ例ヲ適用セス

第三十條 第二十七條ノ場合ニ於テ刑法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ罪ヲ論スヘカラサルトキハ其法定代理人ヲ罰ス

第三十一條 第二十七條ノ規定ハ船舶管理人又ハ商事會社其他ノ法人ノ代表者若クハ淸算人ニ之ヲ適用ス

第三十二條 管海官廳ノ事務ハ外國ニ在リテハ日本ノ領事又ハ貿易事務官之ヲ行フ

附則

第三十三條　本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十四條　船舶ノ登記ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治十九年法律第一號登記法中船舶ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十五條　商法第四編ノ規定ハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テセサルモ航海ノ用ニ供スル船舶ニ之ヲ準用ス但官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テハ此限ニ在ラス

第三十六條　明治三年正月二十七日布告商船規則、同十二年第五號布告、同年第十九號布告、同十四年第十二號布告其他ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ抵觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十七條　本法施行ノ際登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クヘキトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ登錄ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ從ヒテ船舶國籍證書ヲ請受クルマテハ登簿船免狀又ハ船鑑札ハ船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス

第三十八條　本法施行ノ際登簿船假免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クヘキ場合ニ於テハ其假免狀ハ有效期間ノ滿了ニ至ルマテハ假船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス但船舶カ船籍港ニ到着シタルトキハ此限ニ在ラス

登簿船假免狀ノ有效期間カ滿了シタルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第三十九條　第十四條ノ規定ハ本法施行前ニ同條ニ揭ケタル事由カ生シタルモ未タ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサル場合ニ之ヲ準用ス但同條ニ定メタル二週間ノ期間ハ船舶所有者カ本法施行前ニ事實ヲ知リタルトキト雖モ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

本法施行前ニ踪跡ヲ失ヒタル船舶ニシテ未タ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサルトキ亦同シ

前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條及ビ第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十條　本法施行前ヨリ存否ガ分明ナラサル船舶ニシテ未タ舊法ノ期間カ經過セサルモノニ付テハ第十四條ニ定メタル六箇月ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四十一條　本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

附　則（明治三十八年三月法律第六八號附則）

船舶國籍證書ヲ受有スル日本船舶ニシテ本法施行前ニ第二十條ニ揭クル船舶トナリタルモノニ付テハ第十四條ニ定メタル二週間ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

船舶法施行細則

（明治三十二年六月遞信省令第二十四號）

改正
明治三八年三月省令第一五號　大正十年三月省令第五四號　昭和九年二月省令第二九號
大正三年七月省令第一八號　大正十年三月省令第九二號　昭和十年九月省令八九號
大正九年九月省令第七四號　昭和七年四月省令第八號
大正十年三月省令第六號　昭和八年七月省令第三二號

第一章　總則

第一條　本則ニ於テ船舶ノ種類ト稱スルハ汽船、帆船ノ別ヲ謂フ

機械力ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶ハ蒸氣ヲ用ユルト否トニ拘ハラス之ヲ汽船ト看做ス

主トシテ帆ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶ハ機關ヲ有スルモノト雖モ之ヲ帆船ト看做ス

第二條　浚渫船ハ推進器ヲ有セサレハ之ヲ船舶ト看做サス

第三條　船籍港ハ市町村ノ名稱ニ依ル但市制、町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ市町村ニ準スヘキ區畫ノ名稱ニ依ル

船籍港ト爲スヘキ市町村及之ニ準スヘキ區畫ハ船舶ノ航行シ得ヘキ水面ニ接シタルモノニ限ル

船籍港ハ當該船舶所有者ノ住所、若シ住所カ前項ノ規定ニ該當セサルトキハ其最寄ノ地ニ之ヲ定ムヘシ但住所カ日本ニナキ場合其他已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テ遞信大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス

船舶所有者前項但書ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其住所ヲ管轄スル管海官廳又ハ領事ヲ經由シ申請書ヲ提出スヘシ

第四條　左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ受有前ト雖モ最寄管海官廳ノ認可ヲ受ケ船舶ヲ航行セシムルコトヲ得

一　試運轉ノトキ

二　積量ノ測度ヲ受ケントスルトキ

三　正當ノ事由アルトキ

管海官廳ニ於テ前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ前項第一號ノ場合ヲ除クノ外第六號書式ノ航行認可書ヲ交付ス

第五條　左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ受有前ト雖モ船舶ニ國旗ヲ揭クルコトヲ得

一　祝日、大祭日但外國ノ祝祭日ニ付テハ其國ノ港ニ碇泊スル場合ニ限ル

二　前號ノ外祝意又ハ敬意ヲ表スルトキ

三　進水ノトキ

四　前條ノ規定ニ依リ船舶ヲ航行セシムルトキ

第六條　船舶ノ積量若クハ登錄ニ關スル事項又ハ其標示ヲ照査スル爲メ必要アリト認ムルトキハ檢査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨檢スルコトヲ得

第七條　本則ノ規定ニ依リ管海官廳ニ書類ヲ差出スヘキ場合

ニ於テ代理人ヲ使用スルトキハ其權限ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二章　積量ノ測度

第八條　船舶法第四條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請セントスル者ハ附錄第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

管海官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ申請書ノ外造船地、造船者、進水ノ年月及船舶ノ原名ヲ證スル書面ヲ差出サシムルコトヲ得

總噸數約五百噸以上ニシテ旅客ヲ搭載セントスル船舶ニ付テハ管海官廳ハ前項ノ書面ノ外尙船體中心線縱截面圖及各甲板平面圖ヲ差出サシムルコトヲ得

第八條ノ二　前條ノ申請者カ支那ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル帝國法人ナルトキハ大正十四年勅令第三百二十七號（大正十四年法律第五十二號支那ニ於ケル帝國法人ノ所有スル船舶等ニ關スル件施行ニ關スル勅令）第一條ノ規定ニ依ル領事官ノ認定ヲ受ケタルコトヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附スルコトヲ要ス

第八條ノ三　船舶法第九條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ改測ヲ申請セントスル者ハ申請書ニ改測ヲ受ケントスル部分及改測ノ爲メ檢査官吏ノ臨檢ヲ受ケントスル場所ヲ記載シ管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第八條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條　積量ノ測度又ハ改測ハ船舶檢査執行地ニ於テ之ヲ行フ但船舶ノ構造、航路ノ狀況又ハ其他ノ事由ニ依リ船舶ヲ檢査執行地マデ航行セシムルコト能ハサル場合ニ於テ管海官廳ノ認可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

外國ニ於テ積量ノ測度又ハ改測ヲ行フ場所ハ當該官廳之ヲ指定ス

第十條　積量ノ測度又ハ改測ヲ申請スル者ハ測度又ハ改測ヲ受クルニ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第十一條　削除

第十二條　管海官廳ニ於テ積量ノ測度又ハ改測ノ申請ヲ受ケタルトキハ檢査官吏ヲシテ船舶ニ臨檢シ附錄第二號書式ノ船舶件名書及別ニ定ムル書式ノ船舶積量測度表ヲ調製セシムベシ

第十二條ノ二　管海官廳ハ積量ノ測度ヲ行ヒタル場合ニ在リテハ船舶件名書ノ謄本ヲ申請者ニ交付シ第八條第二項ノ規定ニ依リ差出シタル書面アルトキハ之ヲ還付スヘシ

管海官廳ハ積量ノ改測ヲ行ヒタル場合ニ於テ既ニ登錄シタル事項ニ變更アリト認メタルトキハ其變更ニ係ル事項ヲ申請者ニ通知スヘシ

第十三條　外國ニ於テ船舶ノ積量ノ測度又ハ改測ヲ行ヒタル場合ニ於テハ當該官廳ハ遲滯ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ關係書類ヲ送付スヘシ

支那ニ船籍港ヲ定ムル船舶ニ對シ大正十四年勅令第三百二十七號第三條第二項但書ニ依リ內國ノ管海官廳ニ於テ積量ノ測度ヲ行ヒタル場合亦前項ニ同シ

第十四條　船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域外ニ在ル船舶ニ付積量ノ測度又ハ改測ノ申請アリタル場合ニ於テ第九條第一項但書ノ事由ニ依リ船舶ヲ其管轄區域內マテ航行セシムルコト能ハサルトキハ該官廳ハ船舶所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ第十二條及第十二條ノ二ニ規定スル事務ヲ囑託スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ囑託ヲ受ケタル管海官廳ハ囑託ヲ爲シタル管海官廳ニ船舶件名書及船舶積量測度表ヲ送付スヘシ

第十五條　削除

第十六條　國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ內國ニ於テ製造スル船舶ニ付テハ其竣工前ト雖モ最寄管海官廳ニ積量ノ部分測度ヲ申請スルコトヲ得

第十條第十二條及第十二條ノ二第一項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ船舶件名書ノ謄本ヲ申請者ニ交付スルトキハ同時ニ船舶積量測度表ノ謄本ヲ交付スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ船舶件名書及船舶積量測度表ノ謄本ヲ受ケタル者第八條ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ該謄本ヲ申請書ニ添附スヘシ

第三章　船舶ノ登錄

第十七條　船舶法第五條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ登錄ヲ爲スニハ申請書ニ登記ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第十七條ノ二　管海官廳ハ前條ノ申請書ヲ受ケタルトキハ關係書類ヲ調査シ長二十メートル以上ノ船舶ニ在リテハ左ノ事項ヲ船舶原簿ニ登錄ス

一　番號
二　信號符字
三　種類
四　船名
五　船籍港
六　船質
七　帆船ノ帆裝
八　上甲板梁上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長
九　船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅
十　長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ舷側ニ於ケル上面ニ至ル深
十一　總噸數
十二　總積量

上甲板下ノ積量
上甲板上蔽圍シタル場所ノ積量
船首樓ノ積量
船橋樓ノ積量
船尾樓ノ積量
甲板室ノ積量
艙口ノ超過積量
機關室ノ積量
其他ノ場所ノ積量

十三　控除積量
船員常用室ノ積量
荷足水艙ノ積量
機關室ノ積量
帆船ノ帆庫ノ積量
其他ノ場所ノ積量

十四　純積量
十五　純噸數
十六　機關ノ種類及數
十七　推進器ノ種類及數
十八　造船地
十九　造船者
二十　進水ノ年月

二十一　原名
二十二　所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有ナルトキハ各共有者ノ持分

長二十メートル未滿ノ船舶ニ在リテハ前項第一號乃至第十一號、第十四號乃至第二十二號ノ事項及左ノ事項ヲ登錄ス

一　總積量
上甲板下ノ積量
上甲板上蔽圍シタル場所ノ積量

二　控除積量

第十七條ノ三　信號符字ハJヲ頭字トスル「アルハベット」四文字ヲ以テ之ヲ表示ス

信號符字ハ總噸數百噸以上ノ船舶ニ之ヲ點附ス總噸數百噸未滿ノ船舶ニ付テハ船舶所有者ノ申請ニ依リ信號符字ヲ點附シ又ハ取消スコトヲ得

第十七條ノ四　信號符字ノ點附又ハ取消ハ之ヲ官報ニ告示ス

第十八條　船舶ノ名稱ヲ變更セントスル者ハ其事由ヲ記載シタル申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第十九條　管海官廳ニ於テ船舶ノ名稱ノ變更ヲ許可スルハ左ノ場合ニ限ル

一　前所有者ノ氏名、名稱又ハ之ト同一ト認ムヘキ名稱ヲ有スル船舶ヲ取得シタルトキ

二　船舶ノ名稱ニ番號ヲ冠附シ又ハ冠附シタル番號ヲ變更

若クハ削除スルトキ

三　所有者ニ於テ船舶ノ名稱ノ爲メニ著シキ不便ヲ受クルトキ

第二十條　甲管海官廳ノ管轄區域內ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ船籍港ヲ乙管海官廳ノ管轄區域內ニ變更スル場合ニハ甲管海官廳ニ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ甲管海官廳ハ其船舶ニ關スル船舶原簿ノ謄本及其附屬書類ヲ乙管海官廳ニ移送シ該船舶原簿ヲ閉鎖ス

船舶原簿ノ謄本ニハ現存セル登錄ノミヲ謄寫ス

乙管海官廳ハ第二項ノ規定ニ依リ移送ヲ受ケタル謄本ニ依リ其船舶原簿ニ登錄ヲ移ス

第二十一條　船籍港甲管海官廳ノ管轄區域內ヨリ乙管海官廳ノ管轄區域內ニ轉屬シタルトキハ管海官廳ハ申請ヲ待タス前條第二項乃至第四項ノ手續ヲ爲ス

第二十二條　第十七條ノ二第一項第三號、第六號、第七號、第十六號又ハ第十七號ノ事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ變更ノ登錄ヲ爲サントスル者ハ變更ニ係ル新舊事項ヲ申請書ニ列記シ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ檢査官吏ヲシテ船舶ニ臨檢シ附錄第二號書式ニ準シ船舶件名書ヲ調製セシムヘシ但第二十三條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ申請書ニ臨檢報告書ヲ添附シテ差出シタルトキハ此限ニ在ラス

第二十三條　船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域外ニ船舶ノ所在スル場合ニ於テ前條ノ登錄ヲ爲サントスルトキハ船舶所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ臨檢ヲ申請シ臨檢報告書ノ交付ヲ受クルコトヲ得

前項ノ臨檢報告書ハ前條第一項ノ申請書ニ之ヲ添附スヘシ

第二十四條　第十二條ノ二第二項ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ變更ノ登錄ヲ爲サントスル者ハ變更ニ係ル新舊事項ヲ申請書ニ列記シ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第二十五條　船舶所有者ノ變更アリタルトキハ新所有者ハ申請書ニ變更ノ事實ヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證ヲ添附シテ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ハ船舶所有者ノ氏名若クハ名稱、住所又ハ共有者ノ持分ノ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條　行政區畫、其名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船舶原簿ニ記載シタル行政區畫、其名稱又ハ地番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス字又ハ其名稱ノ變更アリタルトキ亦同シ

第二十七條　船舶法第十四條第一項ノ規定ニ依リ抹消ノ登錄ヲ爲サントスル者ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ抹消ノ登記ヲ爲シタルコトヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證ヲ添

へ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

前項ノ場合及船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登錄ヲ爲シタル場合ニ於テ管海官廳ハ其船舶原簿ヲ閉鎖ス

第二十七條ノ二 船籍港ヲ管轄スル登記所ヨリ抹消ノ登記ヲ爲シタル旨ノ通知ナキ船舶ニ付船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登錄ヲ爲シタルトキハ當該管海官廳ハ遲滯ナク左ノ事項ヲ其登記所ニ通知スヘシ

一 船舶ノ種類、名稱及總噸數

二 船舶所有者ノ住所及氏名又ハ名稱

三 抹消ノ登錄ヲ爲シタル原因

四 抹消ノ登錄ヲ爲シタル年月日

第二十八條 船舶所有者ニ於テ登錄ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ疏明シ登錄ノ訂正ヲ申請スヘシ

管海官廳ニ於テ登錄ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ訂正シ其旨ヲ船舶所有者ニ通知スヘシ

第二十九條 何人ト雖モ手數料ヲ納付シテ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ申請シ又利害ノ關係アル部分ニ限リ船舶原簿ノ閲覽ヲ請求スルコトヲ得

手數料ノ外郵送料ヲ納付シテ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第四章 船舶國籍證書及假船舶國籍證書

第三十條 管海官廳ニ於テ第十七條ノ二ニ依リ船舶ノ登錄ヲ爲シタルトキハ附錄第三號書式ノ船舶國籍證書ヲ申請者ニ交付ス

第三十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ニ依リ該證書ノ書換ヲ申請セントスル者ハ變更ノ登錄ノ申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第三十二條 第二十六條ノ規定ハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第三十三條 船舶國籍證書ノ毀損ニ依リ該證書ノ書換ヲ申請セントスル者ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ船舶國籍證書ノ滅失ニ依リ更ニ之ヲ請受ケントスルトキ亦同シ

第三十四條 第三十一條又ハ前條ノ申請ヲ受ケタル管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ調製シ之ヲ申請者ニ交付ス但第二十條第一項ノ場合ニ於テハ乙管海官廳之ヲ交付ス

第三十五條 船舶國籍證書ノ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其交付アリタルトキハ遲滯ナク舊證書ヲ返還スヘシ

第三十六條 船舶法第十三條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ請受ケントスル船長ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ假船舶國籍證書ニ記載スヘキ事項ヲ證明スルニ必要ナル書類アルトキハ其書類ヲ添ヘ當該管海官廳ニ差出スヘシ

船舶國籍證書ノ毀損又ハ船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ

變更ニ依リ前項ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ假船舶國籍證書ノ交付アリタルトキハ遲滯ナク船舶國籍證書ヲ返還スヘシ

第三十七條 船舶法第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ請受ケントスル者ハ第五號書式ノ申請書ニ所有權ノ取得ヲ證スル書面ヲ添ヘ當該管海官廳ニ差出スヘシ

第三十七條ノ二 假船舶國籍證書ノ書式ハ附錄第四號書式ニ依ル

第三十八條 假船舶國籍證書ノ有效期間ハ其船舶ノ船籍港ニ回航セントスル場合ニ於テハ到達スヘキ期間ヲ標準トシ其他ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得ル期間ヲ標準トシ船舶法第十七條ニ定ムル期間內ニ於テ當該管海官廳之ヲ定ム

第三十九條 假船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ申請書ニ新舊事項ヲ列記シ最寄管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第三十二條乃至第三十五條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第四十條 假船舶國籍證書ハ其效力ヲ失ヒタルトキ又ハ船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ最寄管海官廳ニ返還スヘシ

第四十一條 本章ノ規定ニ依リ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ之ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ疏明スヘシ

船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ滅失シタルトキ又ハ之ヲ返還スヘキ場合ニ於テ返還セサルトキハ其無效ナルコトヲ官報ニ公告ス

第四十二條 船舶所有者ニ於テ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ疏明シ訂正ヲ申請スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ船舶所有者ニ通知スヘシ

第四十二條ノ二 船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ英譯書ヲ請受ケントスル者ハ最寄管海官廳ニ之ヲ申請スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ英譯書ヲ交付スヘシ

英譯書ノ書式ハ別ニ之ヲ定ム

第四十二條ノ三 第四十二條ノ規定ハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ英譯書ニ之ヲ準用ス

第四十二條ノ四 船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ英譯書ヲ受有スル者ハ原證書ヲ返還スルトキ之ヲ管海官廳ニ返還スヘシ但毀損ニ依リ原證書ヲ返還スル場合ハ此限リニ在ラス

第五章 國旗及船舶ノ標示

第四十三條 船舶ハ左ノ場合ニ於テ國旗ヲ後部ニ掲クヘシ

一 帝國軍艦ヨリ要求セラレタルトキ

二 帝國ノ燈臺又ハ海岸望樓ヨリ要求セラレタルトキ

三 外國ノ港ヲ出入スルトキ

四 外國貿易船帝國ノ港ヲ出入スルトキ

五 法令ニ別段ノ定アルトキ

六 管海官廳ヨリ指示アリタルトキ

第四十四條 船舶ニ標示スヘキ事項及其標示方法ハ左ノ如シ

一 船首兩舷ノ外部ニ船名、船尾外部ノ見易キ場所ニ船名及船籍港名ヲ十センチメートル以上ノ國字ヲ以テ記スルコト

二 中央部船梁其他適當ノ所ニ船舶ノ番號、總噸數及純噸數ヲ彫刻シ又ハ之ヲ彫刻シタル板ヲ釘著スルコト

三 船首及船尾ノ外部兩側面ニ於テ喫水ヲ示ス爲船底ヨリ最大喫水線以上ニ至ルマテ二十センチメートル毎ニ十センチメートルノ亞剌比亞數字ヲ以テ喫水尺度ヲ記シ數字ノ下端ハ其數字ノ表示セル喫水線ト一致セシムルコト

四 長二十メートル以上ノ船舶ニ在リテハ積量測度ニ於テ純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除シタル室及場所ノ見易キ所ニ其室名又ハ使用ノ目的ニ相當スル名稱ヲ記スルコト

特殊ノ構造ヲ有スル爲前項ノ規定ニ依リ難キ船舶ニ在リテハ檢査官吏ノ相當ト認ムル方法ニ依リ前項ノ事項ヲ標示スルコトヲ得

第一項第三號ニ依ル喫水尺度ノ外英尺ニ依リ喫水尺度ヲ標示スル場合ニ於テハ羅馬數字ヲ以テ之ヲ記載スヘシ

遞信大臣必要アリト認ムルトキハ第一項ノ規定ニ拘ラス標示ノ場所ヲ指定シ又ハ標示ノ場所ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第四十五條 削除

第四十六條 船舶ノ標示ハ明瞭ニシテ久ニ耐ユル方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十七條 標示スヘキ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滯ナク其標示ヲ改ムヘシ

第六章 登錄稅、手數料及旅費

第四十八條 登錄稅法ノ規定ニ從ヒ登錄稅ヲ納付スルニハ左ノ區別ニ依リ相當ノ收入印紙ヲ貼用シタル登錄稅納付書ヲ登錄ノ申請書ニ添ヘテ差出スヘシ

一 第十七條ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第一號

二 船籍港以外ノ登錄事項ノ變更ニ依リ登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第四號

三 第二十七條ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第三號

四 船籍港變更ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第二號

第四十九條 登錄稅法第四條第一項第四號ニ付テハ第十七條ノ二各號ノ事項ノ變更ヲ以テ毎一箇トス

第五十條 登錄稅納付書ニハ船舶ノ名稱、總噸數及稅金額ヲ記載シ登錄稅法第四條第一項第四號ノ場合ニ於テハ變更ノ箇數ヲモ記載スヘシ

第五十條ノ二 船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登錄ヲ爲シタル場合ニ於テハ當該管海官廳ハ遲滯ナク左ノ事項ヲ船舶所有者ノ住所又ハ船舶管理人ノ住所ヲ管轄スル稅務署ニ通知スヘシ

一 船舶ノ種類、名稱及總噸數

二 船舶所有者又ハ船舶管理人ノ住所、氏名又ハ名稱

三 抹消ノ登錄ヲ爲シタル年月日

四 登錄稅額

第五十條ノ三 船舶法第四條又ハ同法第九條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度又ハ改測ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ附錄船舶積量測度手數料表ニ定ムル測度手數料ヲ納付スヘシ

申請人ノ都合ニ依リ測度ノ申請ヲ取下又ハ船舶カ測度ヲ要セサルモノトナリタル場合ト雖モ測度著手後ナルトキハ測度手數料ヲ徵收ス改測ノ場合ニ付亦同シ

第五十條ノ四 前條ノ測度手數料ハ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ測度手數料納付書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

前項ノ測度手數料納付書ニハ船舶ノ名稱、汽船、機關ヲ有スル帆船又ハ機關ヲ有セサル帆船ノ區別、總噸數（長二十メートル未滿ノ船舶ニ在リテハ總噸數ノ外ニ其長）、新規測度、全部改測又ハ一部改測ノ區別及手數料額ヲ記載スヘシ

又一部改測ノ場合ニシテ測度甲板下全部ノ改測ヲ受ケタルトキハ尙其旨ヲモ附記スヘシ

第五十一條 左ノ場合ニ於テハ各號ニ相當スル手數料ヲ納付スヘシ

一 船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ申請スルトキ　一枚ニ付　二十錢

二 船舶原簿ノ閱覽ヲ請求スルトキ　一回ニ付　二十錢

三 汽船ノ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受ケントスルトキ　二圓

四 前號ノ證書ノ英譯書ノ交付ヲ受ケントスルトキ　四圓

五 帆船ノ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受ケントスルトキ　一圓

六　前號ノ證書ノ英譯書ノ交付ヲ受ケントスルトキ　二圓

前項ノ手數料ハ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ第一號及第二號ノ場合ニ於テハ申請書ニ、第三號乃至第六號ノ場合ニ於テハ手數料納付書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

第五十二條　登錄稅又ハ手數料納付ノ爲メ書類ニ貼用シタル收入印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但納付者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ

第五十三條　檢査官吏カ船舶所有者ノ申請ニ依リ船舶檢査執行地以外ニ出張スルトキハ船舶所有者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ檢査官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ヲ納付スヘシ

船舶安全法施行規則第百八十四條第一項ノ場合ニ於テ出張シタル檢査官吏ノ臨檢ヲ受クルトキハ其ノ旅費ハ相互ニ之ヲ通算ス

第五十三條ノ二　本則ノ規定ニ依ル手數料及旅費ハ官廳又ハ公共團體ニ對シテハ之ヲ徵收セス

第七章　罰則

第五十四條　本則ノ規定ニ依リ船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ英譯書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ其義務ヲ怠リタルトキハ船舶所有者ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第五十五條　本則ハ船舶法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十六條　明治二十六年二月遞信省令第三號、同年三月遞信省令第六號失踪船取扱規則、同年同月遞信省告示第八十五號及明治二十九年四月遞信省令第三號登簿船免狀取扱規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

第五十七條　船舶法施行ノ際登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ニシテ船舶法ノ規定ニ依リ登錄ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クヘキモノノ所有者ハ登簿噸數十五噸以上又ハ積石數百五十石以上ノ船舶ニ付テハ船舶法施行ノ後始テ定期檢査又ハ特別檢査ヲ申請スルトキ當該檢査官廳ニ、登簿噸數十五噸未滿ノ汽船及檢査ヲ要セサル船舶ニ付テハ船舶法施行ノ日ヨリ起算シ二箇年內ニ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ積量ノ測度ヲ申請スヘシ

前項ノ船舶ニシテ登簿船免狀又ハ船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ前項ノ規定ニ拘ハラス遞滯ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ前項ノ申請ヲ爲スヘシ

第五十八條　第十條及第十二條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ船舶ニ臨檢シタル檢査官吏ハ積量ノ測度ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

第五十九條　前條ノ規定ニ依リ積量ノ測度ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ遲滯ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ登錄及船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

前項ノ申請ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ差出シテ之ヲ爲スヘシ

一　船舶ノ番號、名稱及積量

二　船籍港

三　船舶共有者ニ在リテハ各共有者ノ住所、氏名又ハ名稱及持分

第六十條　前條ノ申請書ニハ左ニ掲クル書面ヲ添附スヘシ

一　登記ノ謄本

二　機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ汽機及汽罐ノ製造者ニ於テ其製造ノ年月日ヲ證スル書面

三　船鑑札ヲ受有スル船舶ニアリテハ當該地方官廳ニ於テ原名、製造地、進水ノ年月日及造船者ノ氏名又ハ名稱ヲ證スル書面

第六十一條　管海官廳ニ於テ第五十九條ノ申請ニ依リ登錄ヲ爲ストキハ登簿船免狀又ハ船鑑札ニ記載シタル製造年月ヲ以テ進水ノ年月ト看做ス

第六十二條　登簿船免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキハ遲滯ナク該免狀ヲ最寄管海官廳ニ返還スヘシ

船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキハ遲滯ナク該鑑札ヲ原地方官廳ニ返還スヘシ、

第六十三條　第五十四條ノ罰則ハ前條ノ義務ヲ怠リタル船舶所有者ニ之ヲ適用ス

第六十四條　船舶法施行ノ際登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ハ登錄ヲ了ルマテ第四十四條又ハ第四十五條ノ標示ヲ爲ササルコトヲ得

第六十五條　第四十條及第五十四條ノ規定ハ船舶法施行ノ際受有スル假免狀ニ之ヲ準用ス

附則（大正三年七月遞信省令第一八號）

第一條　本令ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　本令施行ノ際現ニ船舶原簿ニ登錄シタル船籍港ニ付テハ第三條第二項ノ規定ニ適合セサルモノト雖當該船舶カ引續キ其地ニ船籍ヲ置ク場合ニ限リ從前ノ例ニ依ル

第三條　第十七條ノ二ノ規定ニ依リ登錄ヲ爲スヘキ事項、第二十二條及第二十四條ノ規定ニ依リ變更ノ登錄ヲ爲スヘキ事項竝船舶件名書、船舶國籍證書及假船舶國籍證書ノ書式ハ船舶積量測度法第十二條ノ規定ニ依ル改測前ノ船舶ニ付テハ從前ノ例ニ依ル

第四條　本令公布前積量ノ測度又ハ改測ヲ申請シタル船舶ニ付テハ本令施行後其測度又ハ改測ヲ了リタル場合ニ於テモ第五十條ノ三ノ規定ニ依ル測度手數料ヲ徵收セス

第五條　船舶積量測度法第十二條ノ規定ニ依ル改測ニ依リ船舶國籍證書又ハ其英譯書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタル爲メ其書換ヲ申請スル場合ニ於テハ第五十一條ノ規定ニ依ル手數料ヲ徴收セス

前項ノ申請ト同時ニ船名、船籍港、所有者ノ氏名又ハ名稱住所及持分以外ノ事項ノ變更ニ依リ船舶國籍證書又ハ其英譯書ノ書換ヲ申請スル場合ニ付亦前項ニ同シ

第六條　船舶積量測度法第十二條ノ規定ニ依ル改測ノ場合ニ於テハ第五十三條ノ規定ニ依ル旅費ヲ徴收セス

第七條　石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付本令施行ノ際現ニ受有スル船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ハ本令ノ爲メ其效力ヲ妨ケラルルコトナシ

前項ノ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載シタル事項中外板ノ材料、船骨ノ材料又ハ檣ノ數ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ遲滯ナク證書ノ書換ヲ申請スヘシ

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ第五十一條ノ規定ニ依ル手數料ヲ徴收セス

附　則（大正十年五月省令第六號改正）

本令ハ大正十年三月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前積量ノ測度又ハ改測ヲ申請シタル船舶ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則（昭和七年四月省令第八號改正）

第一條　本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　本令施行ノ際現ニ受有スル船舶國籍證書ハ昭和九年六月三十日マテ、假船舶國籍證書ハ其證書ニ記載スル有效期間内其效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第三條　積量測度ニ關スル從前ノ規定ニ依リ積量ノ測度ヲ爲シタル船舶ノ登錄、國籍證書及假國籍證書ノ交付竝標示ニ付テハ昭和九年六月三十日マテ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

第四條　石數ヲ以テ積量ヲ登錄シタル船舶ニ關シテハ石數船改測規則ニ依リ改測ヲ受クルマテ第二十七條ノ二、第五十條又ハ第五十條ノ二ニ規定スル事項ニ付仍從前ノ規定ニ依ル

第五條　從前ノ規定ニ依リ噸數ヲ以テ積量ヲ登錄シタル船舶ニ付テハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ昭和九年六月三十日（無線電信ノ施設ヲ有スル船舶ニ在リテハ昭和八年十二月二十八日）マテニ船舶所有者ノ申請ヲ俟タスシテ船舶原簿ヲ書換ヘ且船舶國籍證書ヲ書換交付ス

石數ヲ以テ積量ヲ登錄シタル船舶ニシテ石數船改測規則ニ依リ改測ヲ受ケタルモノニ付テハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ船舶所有者ノ申請ヲ俟タスシテ船舶原簿ヲ書換ヘ且船舶國籍證書ヲ書換交付ス

船舶所有者ハ遲滯ナク證書ノ交付ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク舊船舶國籍證書ヲ返還スヘシ

第六條　本令施行ノ際現ニ登錄シタル船舶ノ信號符字ニ付テハ前條第一項ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ノ書換交付ヲ受クルマテ仍從前ノ規定ニ依ル

第七條　第五條ニ依ル船舶國籍證書ノ書換及之ニ基ク英譯書ノ書換竝登記ノ申請ニ要スル船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ニ付テハ手數料ヲ徴收セス

本令施行ノ際登記登錄ヲ要セサル船舶カ昭和六年法律第六號施行ノ結果登記登錄ヲ要スルモノト爲リタル場合ニ於ケル船舶國籍證書及假船舶國籍證書ノ交付ニ付テハ手數料ヲ徴收セス

第八條　石數船改測規則ニ依ル積量ノ改測ニ付テハ測度手數料及旅費ヲ徴收セズ

附　則（昭和八年七月省令第三二號改正）

本令ハ昭和八年八月十日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ船舶原簿ニ登錄シタル船籍港ニ付テハ第三條第三項ノ規定ニ適合セサルモノト雖モ當該船舶カ引續キ其地ニ船籍ヲ置ク場合ニ限リ從前ノ例ニ依ル

附　則（昭和十六年九月省令第八十九號改正）

本令ハ昭和十六年九月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

附錄

船舶積量測度手數料表

測度種類		總噸數	二十噸以上五十噸未滿	五十噸以上百噸未滿	百噸以上三百噸未滿	三百噸以上五百噸未滿	五百噸以上千噸未滿	千噸以上二千噸未滿	二千噸以上三千噸未滿	三千噸以上四千噸未滿	四千噸以上六千噸未滿	六千噸以上八千噸未滿	八千噸以上一萬噸未滿	一萬噸以上
新規測度又ハ全部改測	汽船及機關ヲ有スル帆船		七圓	十圓	十五圓	二十圓	二十五圓	三十圓	四十圓	五十圓	六十圓	七十圓	八十圓	百圓
	機關ヲ有セザル帆船		五圓	七圓	十圓	十五圓	二十圓	二十五圓	二十圓					
一部改測	汽船及機關ヲ有スル帆船		三圓		五圓					七圓				
	機關ヲ有セザル帆船		二圓		三圓		五百噸以上		三十圓		十圓			

備考

一　測度甲板下全部ノ改測ヲ受ケタルトキハ之ヲ全部改測ト看做シ本表ニ規定スル手數料ヲ納付スヘシ

二　第五十條ノ三第二項ノ場合ニ於テ總噸數ヲ定ムルコト能ハサルトキハ計畫總噸數ニ依リ測度手數料ヲ納付スヘシ

三　長二十メートル未滿ノ船舶ノ新規測度又ハ全部改測ヲ受ケタルトキハ其手數料ハ本表ニ規定スル金額ノ十分ノ七トス

四　外國ニ於テ測度又ハ改測ヲ受ケタルトキハ其手數料ハ本表及前各號ノ規定ニ依リ算出シタル金額ノ四倍トス

五　臺灣、朝鮮、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於テ測度又ハ改測ヲ受ケタルトキハ其ノ手數料ハ本表及第一號乃至第三號ニ依リ算出シタル金額トス

第一號書式

船舶積量測度申請書

汽(帆)船何丸

一　船籍港　何府縣何郡市何町村

二　積量　總噸數約何噸

三　造船地　何府縣何郡市何町村

四　造船者　何某又ハ何會社

五　進水ノ年月　年　月　日

六　原名　何

七　所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有ナルトキハ各共有者ノ持分

何府縣何郡市何町村何番地

何某又ハ何會社

八　測度ヲ受ケントスル場所　某所

右今般新造致(又ハ何國人何某ヨリ買受等)候ニ付積量測度相成度關係書類何通相添此段及申請候也

年　月　日

住所　何　某　印

管海官廳宛

備考

一　船名ニハ振假名ヲ附記スヘシ

二　郡市町村名、氏名及名稱ニハ讀方ノ明瞭ナル場合ノ外振假名ヲ附記スヘシ

三　外國ノ名稱ニハ外國文字ヲ附記スヘシ

四　原名ノ項ニハ外國船カ日本ノ國籍ニ入リタル場合ニ在リテハ國籍取得前ノ最近ノ船名、船舶法第二十條ニ掲クル船舶カ總噸數二十噸以上ト爲リタル場合ニ在リテハ測度申請前ノ最近ノ船名ヲ記載スヘシ

五　進水ノ年月ノ項ニハ外國ニ於テ製造シタル船舶ニ付テハ西曆ニ依リ記載スヘシ

第二號書式

船舶件名書

汽(帆)船何丸

一　船質　鋼、木等

二　帆船ノ帆裝　三檣バーク、二檣トップスルスクーナー、二檣スクーナー、一檣スループ等

三　總噸數　何噸何々

四　純噸數　何噸何々

五　機關ノ種類及數　往復動汽機、タービン汽機、發動機又ハ電動機何箇

六　推進器ノ種類及數　外車又ハ螺旋推進器何箇

七　進水ノ年月　年　月

右　年　月　日　某所ニ於テ臨檢シタル處前記ノ通ニ有之候也

所屬官廳

官氏名　印

備考

一　進水ノ年月ノ項ニハ外國ニ於テ製造シタル船舶ニ付テハ西曆ニ依リ記載スヘシ

二　石數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船舶ヲ石數船改測規則ニ依リ改測シタル場合ニ於テハ其件名書ノ末尾ニ「昭和六年法律第六號ニ依リ改測ス」ト記載スヘシ

第三號書式乙（船舶法施行細則第十七條ノ二）竪十八センチメートル（第二項ニ掲クル船舶ニ用ユルモノ）横三十二センチメートル

紋章

船舶國籍證書

番號	
信號符字	
種類	
船籍港	
船質	
帆船ノ帆裝	
機關ノ種類及數	
推進器ノ種類及數	
造船地	
船名	
造船者	
進水ノ年月	
所有者	

尺度

上甲板梁上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長……
船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅……
長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ舷側ニ於ケル上面ニ至ル深……

積量

總噸數……
總積量……
上甲板下……
上甲板上蔽圍シタル場所……
控除積量……
純積量……
純噸數……

前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス

年　月　日

日本帝國
管海官廳名印

第三號書式甲（船舶法施行細則第十七條ノ二）竪二十一センチメートル（第一項ニ掲クル船舶ニ用ユルモノ）横三十七センチメートル

紋章

船舶國籍證書

番號	
信號符字	
種類	
船籍港	
船質	
帆船ノ帆裝	
機關ノ種類及數	
推進器ノ種類及數	
造船地	
造船者	
進水ノ年月	
船名	
所有者	

尺度

上甲板梁上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長……
船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅……
長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ舷側ニ於ケル上面ニ至ル深……

積量

總噸數……
總積量……
上甲板下……
上甲板上蔽圍シタル場所……
船首樓……
船橋樓……
船尾樓……
甲板室……
艙口ノ超過……
機關室……
其他ノ場所……
控除積量……
船員常用室……
荷足水艙……
機關室……
帆船ノ帆庫……
其他ノ場所……
純積量……
純噸數……

前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス

年　月　日

日本帝國
管海官廳名印

第四號書式

假船舶國籍證書

種類	船籍港	船質	帆船ノ帆装	種機類及數ノ	種推進類及器ノ數	造船地	船名	年月ノ進水

尺度	積量	所有者
上甲板梁上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長…… 船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅…… 龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ舷側ニ於ケル上面ニ至ル深	總噸數…… 純噸數……	

本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス本證書ハ　年　月　日迄效力ヲ有スルモ其以前ニ於テ船籍港ニ到著シタルトキハ直ニ其效力ヲ失フ

年　月　日

日本帝國
管海官廳　印

縮尺　一十七センチメートル

第五號書式

假船舶國籍證書交付申請書

汽(帆)船何丸

一　船籍港　何府縣何郡市何町村
二　船質　鋼、木等
三　帆船ノ帆裝　三檣バーク、二檣トップスルスクーナー、二檣スクーナー、一檣スルーブ等
四　上甲板梁上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長　何メートル何々
五　船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅　何メートル何々
六　長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ舷側ニ於ケル上面ニ至ル深　何メートル何々
七　總噸數　何噸何々
八　純噸數　何噸何々
九　機關ノ種類及數　往復動汽機、タービン汽機、發動機又ハ電動機何箇
十　推進器ノ種類及數　外車又ハ螺旋推進器何箇
十一　造船地　何府縣何郡市何町村
十二　造船者　何某又ハ何會社
十三　進水ノ年月　年　月
十四　所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有ナルトキハ各共有者ノ持分　何府縣何郡市何町村何番地

何某又ハ何會社

右今般新造致(又ハ何國人何某ヨリ買受等)候ニ付假船舶國籍證書交付相成度船舶法第十五條(又ハ第十六條)及船舶法施行細則第三十七條ノ規定ニ依リ關係書類何通相添此段及申請候也

住所
何　某印

年　月　日

管海官廳宛

備考
進水ノ年月ノ項ニハ外國ニ於テ製造シタル船舶ニ付テハ西暦ニ依リ記載スヘシ

第六號書式

航行認可書

汽(帆)船何丸

住所
所有者　何　某

右船舶法施行細則第四條第一項ノ規定ニ依リ何地ヨリ何地マテ航行セシムルコトヲ認可ス此認可ハ何年何月何日限リ無效トス

年　月　日

管海官廳名印

備考
船舶カ共有ナルトキハ共有者一人ノ氏名又ハ名稱ヲ記載シ外何人ト附記スヘシ

船舶法取扱手續

(明治三十三年七月選信省公達第三百六十三號)

改正
(明治三十四年十二月公達第七三三號　大正十五年四月公達第三〇七號　明治四十四年二月公達第三七號　昭和七年五月公達第二九三號　大正三年七月公達第三五二號)

第一章　總則

第一條　船舶ノ名稱ニハ成ルヘク其ノ末尾ニ丸ノ文字ヲ附セシムベシ

第二條　船舶ノ登錄ヲ爲シ又ハ船舶國籍證書若ハ假船舶國籍證書ヲ調製スル場合ニ於テ不明ノ事項アルトキハ其ノ欄內ニ不詳ト記載シ、記載スヘキ事項ナキ欄內ニハ斜線ヲ畫スベシ

第三條　船舶ノ登錄ヲ爲シ又ハ船舶國籍證書、假船舶國籍證書、英譯書、船舶件名書、船舶積量測度表、臨檢報告書、各種ノ謄本若ハ抄本ヲ調製スルニハ字畫ヲ明瞭ニスヘシ

數量及番號ヲ記載スルニハ〇壹貳參四五六七八九ノ文字ヲ用ヰ拾百千等ノ文字ヲ用ウヘカラス

但シ船舶原簿及船舶積量測度表ニハ亞刺比亞數字ヲ用ウヘシ

年月日ヲ記載スルニハ壹貳參四五六七八九拾百千等ノ文字ヲ用ウヘシ

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若訂正、挿入又ハ削除シタルトキハ其ノ文字ヲ欄外ニ記載シ當該官吏之ニ捺印シ其ノ削除ニ係ル文字ハ尙讀ミ得ヘキ樣朱抹スヘシ但シ船舶ノ登錄ヲ爲ストキハ欄外ニ記載スヘキ事項ヲ記事欄ニ記載スヘシ

船舶國籍證書、假船舶國籍證書及英譯書ノ文字ハ之ヲ改竄訂正、挿入又ハ削除スルコトヲ得ス

第四條　削除

第五條　各種ノ謄本又ハ抄本ヲ調製スルニハ當該官吏ハ用紙ノ末尾ニ原本ニ依リ謄寫シタル旨、其ノ年月日及官氏名ヲ記載シ之ニ捺印スヘシ

第六條　何時タリトモ檢査官吏ニ於テ船舶ニ臨檢シタルトキハ船舶ノ標示ノ適法ナルヤ否ヤヲ注意スヘシ

第七條　左ニ揭クル書類ハ下ニ記載スル期間管海官廳ニ之ヲ保存スヘシ

一　船舶原簿、共同人名簿及船舶原簿見出帳　永久
二　第三十五條ノ書類　五年
三　第四十一條ノ書類及船舶國籍證書交付簿　三年
四　假船舶國籍證書交付簿及英譯書交付簿　二年
五　船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付申請書、船舶原簿閲覽申請書、登錄稅納付書及手數料納付書　一年

前項ノ保存期間ハ第二號ノ書類ニ付テハ抹消ノ登錄ヲ爲シタル年ノ翌年ヨリ、第三號及第四號ノ書類ニ付テハ記入ヲ

了リタル年ノ翌年ヨリ、第五號ノ書類ニ付テハ受理シタル年ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス

第二章　積量ノ測度

第八條　船舶法施行細則第八條第二項ノ規定ニ依リ差出サシメタル書面アルトキハ管海官廳ハ該書面ト船舶積量測度申請書トヲ對照シ若差違アルトキハ申請書ヲ補正セシムヘシ

第九條　管海官廳ニ於テ船舶法施行細則第八條又ハ第八條ノ三ノ規定ニ依リ測度又ハ改測ノ申請ヲ受ケタル場合ニ於テハ船舶件名ノ調査ハ測度又ハ改測ヲ爲ストキ之ヲ爲スヘシ

第十條　削除

第十一條　檢査官吏船舶法施行細則第十二條ノ規定ニ依リ改測ヲ爲シタル場合ニ於テハ船舶積量測度表ニハ變更シタル部分ノミヲ記載スヘシ

第十二條　削除

第十三條　船舶法施行細則第十六條ノ場合ニ於テハ檢査官吏ハ測度シ得タル事項ノミヲ船舶件名書及船舶積量測度表ニ記載スヘシ

第十四條　船舶法施行細則第八條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スル者同則第十六條第四項ノ規定ニ依リ船舶件名書及船舶積量測度表ノ謄本ヲ申請書ニ添附シテ差出シタル場合ニ於テハ檢査官吏ハ其ノ書類ニ記載シタル事項ニ付測度ヲ省略スルコトヲ得

第十五條　檢査官吏船舶法施行細則ノ規定ニ依リ船舶ニ臨檢シ船舶積量測度表ヲ調製シタルトキハ管海官廳ハ遲滯ナク其ノ謄本ヲ遞信省ニ送付スヘシ

船舶法施行細則第八條第三項又ハ同則第八條ノ三第二項ノ規定ニ依リ差出シタル圖面アルトキハ管海官廳ハ前項ノ謄本ト共ニ之ヲ遞信省ニ送付スヘシ

第十六條　削除

第三章　船舶ノ登錄

第十七條　船舶原簿ノ用紙ハ左ノ二種トス

甲號用紙　長二十メートル以上ノ船舶ヲ登錄スルニ用ウ

乙號用紙　長二十メートル未滿ノ船舶ヲ登錄スルニ用ウ

前項ノ用紙ハ遞信省ニ於テ之ヲ調製シ管海官廳ニ之ヲ配付ス

第十八條　管海官廳ニ於テ船舶原簿ニ各事項ヲ登錄スルハ次ノ規定ニ依ルヘシ

左ノ事項ハ船舶積量測度申請書又ハ變更登錄ノ申請書ヲ基礎トスヘシ

一　船名
二　船籍港
三　造船地
四　造船者
五　原名
六　控除積量
船員常用室ノ積量
荷足水艙ノ積量
機關室ノ積量
帆船ノ帆庫ノ積量
其他ノ場所ノ積量
七　純積量
八　純噸數

左ノ事項ハ船舶件名書又ハ臨檢報告書ヲ基礎トスヘシ

一　種類
二　船質
三　帆船ノ帆裝
四　機關ノ種類及數
五　推進器ノ種類及數
六　進水ノ年月

左ノ事項ハ船舶積量測度表ヲ基礎トスヘシ

一　上甲板梁上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長
二　船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅
三　長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ舷側ニ於ケル上面ニ至ル深
四　總噸數
五　總積量
上甲板下ノ積量
上甲板上蔽圍シタル場所ノ積量
船首樓ノ積量
船橋樓ノ積量
船尾樓ノ積量
甲板室ノ積量
艙口ノ超過積量
機關室ノ積量
其他ノ場所ノ積量

所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有者ノ持分ハ登記ノ謄本抄本又ハ登記濟證ヲ基礎トスヘシ

第十九條　船舶法施行細則第十七條ノ規定ニ依リ差出シタル登記ノ謄本ニ記載シタル事項カ船舶積量測度申請書又ハ船舶件名書ニ記載シタル事項ト符合セサルトキハ之ヲ調査シ申請書又ハ件名書ニ誤謬アリタルトキハ之ヲ訂正セシメ又ハ之ヲ訂正シ又登記ニ誤謬アリタルトキハ申請者ヲシテ登記更正ノ手續ヲ爲サシメタル後登錄ヲ爲スヘシ

第二十條　各管海官廳ニ於テ船舶ニ附スヘキ番號及信號符字ハ豫メ遞信省ヨリ之ヲ配付ス

船舶ノ番號ハ汽船帆船ノ別ヲ問ハス船舶毎ニ其ノ登錄ノ順序ニ從ヒ之ヲ附スヘシ

船舶ノ信號符字ハ汽船帆船ノ別ヲ問ハス之ヲ附スヘキ船舶毎ニ其ノ登錄ノ順序ニ從ヒ之ヲ附スヘシ

一旦抹消ノ登錄ヲ爲シタル船舶ニ番號ヲ附スル場合又ハ一旦信號符字ヲ取消シタル船舶ニ信號符字ヲ附スル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ拘ラス最初ニ附シタルモノヲ再用スルコトヲ得此ノ場合管海官廳ハ再用セントスル番號又ハ信號符字カ既ニ他ノ船舶ニ點附セラレタルヤ否ヤヲ遞信省ニ確ムヘシ

第二十一條 船舶原簿ニ各事項ヲ登錄スルニハ船舶法施行細則附錄第一號書式及第二號書式ニ示シタル各事項記載ノ振合ニ依ルヘシ但シ第三條及第二十二條ニ於テ別ニ記載ノ方法ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 船籍港及內國ニ於ケル造船地ヲ記載スルニハ市ニ在リテハ府縣名ヲ省略シ單ニ何市ト記載スヘシ住所ヲ記載スルニハ市ニ在リテハ府縣名ヲ省略シ何市何區何町何番地ト記載スヘシ

進水ノ年月ハ月ノ分明ナラサルトキハ年ノミヲ記載スヘシ

原名ヲ有セサル船舶ニ付テハ原名ノ欄ハ空白ノ儘存スヘシ

船舶共有者ノ持分ハ各共有者ノ氏名又ハ名稱ノ次ニ亞剌比亞數字ヲ以テ何分ノ何ト記載シ括弧ヲ附スヘシ但シ持分相等シキトキハ此ノ限ニ在ラス

振假名ハ船舶ノ名稱ノミ附記スヘシ

外國文字ハ番號、信號符字及數量ヲ除クノ外船舶原簿ニ記入セサルモノトス

第二十三條 船舶共有者多數ニシテ船舶原簿ノ當該欄內ニ記入ヲ了スルコト能ハサルトキハ共同人名簿ヲ製シ置キ原簿ニハ筆頭ノ者ノ住所氏名又ハ名稱及外何人ト記載シ置キ共同人名簿ニハ筆頭以外ノ者ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載シ且其ノ船舶ノ番號、種類及名稱ヲ表記スヘシ

第二十四條 總テ登錄ヲ爲ストキハ用紙中登錄年月日ノ欄ニ登錄ヲ爲シタル年月日ヲ記載スヘシ

第二十五條 始テ船舶ノ登錄ヲ爲ストキハ記事欄ニ新造、船鑑札船ヨリ編入等登錄ノ事由ヲ記載シ外國船ヨリ編入シタルモノニ付テハ何國人何某ヨリ買受等國籍取得ノ原因ヲ記載スヘシ

第二十六條 削除

第二十七條 變更ノ登錄ヲ爲スニハ舊事項ヲ朱抹シ左ノ規定ニ從ヒテ新事項ヲ記載シ記事欄ニ變更ノ事由ヲ記載スヘシ

一 始テ變更ノ登錄ヲ爲ス場合ニハ朱抹シタル欄ノ次ノ欄ニ新事項ヲ記載スヘシ

二 第二回ニ變更ノ登錄ヲ爲ス場合ニハ前號ニ依リ記載シタル欄ノ次ノ欄ニ新事項ヲ記載スヘシ第三回以後總テ之ニ倣フ

變更ノ登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ登錄ヲ別種ノ原簿用紙ニ移シタルトキハ其ノ旨ヲ新原簿ノ記事欄ニ附記シ第三十一條ノ規定ニ依リ舊原簿ヲ閉鎖スヘシ

原名ヲ有セサル船舶ノ名稱ニ付始テ變更ノ登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ舊船名ヲ原名ノ欄ニ記載スヘシ

第二十七條ノ二 行政區畫、其ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船舶原簿ニ記載シタル行政區畫 其ノ名稱又ハ地番號ハ變更ノ登錄若ハ登錄ノ訂正ヲ爲ストキ、原簿ノ謄本若ハ抄本ヲ作成スルトキ其ノ他便宜ノトキ訂正ノ手續ヲ爲スヘシ字又ハ其ノ名稱ノ變更アリタルトキ亦同シ

第二十八條 船舶原簿ノ餘白ナキニ至リタルトキハ其ノ登錄ヲ新ナル原簿用紙ニ移スヘシ此ノ場合ニ於テハ前ノ原簿ノ欄外ニ「第一表」ト記シ其ノ末尾ノ記事欄ニ第二葉用紙ニ移シタル旨ヲ附記シ新ナル用紙ノ欄外ニ「第二葉」ト記載シ其ノ最初ノ記事欄ニ第一葉ヨリ移シタル旨ヲ附記スヘシ第三葉以下亦之ニ倣フ

第二十九條 船舶法施行細則第二十條又ハ同則第二十一條ノ規定ニ依リ乙管海官廳ニ於テ船舶原簿ニ登錄ヲ移シタルトキハ記事欄ニ第二十條ノ場合ニ在リテハ何管海官廳管內ヨリ轉籍ノ旨及舊船籍港名ヲ記載シ第二十一條ノ場合ニ在リテハ管轄區域ノ變更ニ因リ何管海官廳ヨリ轉屬ノ旨ヲ記載スヘシ

第二十九條ノ二 抹消ノ登錄ヲ爲スニハ記事欄ニ何年何月何日何國人何某ニ賣却ノ爲國籍喪失等抹消ノ登錄ヲ爲シタル原因ヲ記載シ其ノ記事欄及其ノ登錄年月日ノ欄ヲ除クノ外各欄ニ記載シタル事項ヲ朱抹スヘシ

前項ノ手續ヲ了リタルトキハ其ノ船舶原簿ハ之ヲ閉鎖シタルモノト看做ス

第三十條 登錄ヲ爲シタル官吏ハ記事欄ニ爲シタル記載ノ末尾ニ捺印スヘシ

第三十一條 船舶原簿ヲ閉鎖スルニハ記事欄ニ閉鎖ヲ爲シタル事由及何年何月何日閉鎖シタル旨ヲ記載シ其ノ記載事項ヲ除クノ外各欄ニ記載シタル事項ヲ朱抹スヘシ

第三十二條 管海官廳ハ船舶ノ登錄ヲ爲シタルトキハ五日以內ニ遞信省ニ左ノ書類ヲ送付スヘシ

一 始テ登錄ヲ爲シタルトキハ船舶原簿ノ謄本

二 變更ノ登錄ヲ爲シタルトキハ船舶原簿ノ謄本又ハ船舶ノ番號、種類、名稱、所有者ノ氏名若ハ名稱、變更ニ係ル新舊事項登錄ノ年月日及記事欄ノ記事ヲ抄寫シタル船舶原簿ノ抄本

三 抹消ノ登錄ヲ爲シタルトキハ船舶ノ番號、種類、名稱總噸數、純噸數、所有者ノ氏名若ハ名稱、登錄ノ年月日及記事欄ノ記事ヲ抄寫シタル船舶原簿ノ抄本

四 船舶法施行細則第二十條又ハ同則第二十一條ノ場合ニ

於テハ船舶ノ番號、種類、名稱、船籍港、所有者ノ氏名若ハ名稱、登錄ノ年月日及記事欄ノ記事ヲ抄寫シタル船舶原簿ノ抄本

第三十三條 船舶法施行細則第二十條及第二十一條ノ場合ニ於テハ乙管海官廳ニ於テ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十四條 船舶法施行細則第二十條第一項ノ申請ト同時ニ船籍港以外ノ登錄事項ニ付變更ノ登錄ノ申請アリタルトキハ甲管海官廳ハ船籍港以外ノ登錄事項ニ付變更ノ登錄ヲ爲シタル上同條第二項ノ手續ヲ爲スヘシ

船舶法施行細則第二十一條ノ場合ニ於テ船籍港以外ノ登錄事項ニ付變更ノ登錄ノ申請アリタルトキ亦前項ニ同シ

第三十五條 登錄ニ關スル申請書、船舶件名書、船舶積量測度表其ノ他一切ノ附屬書類ハ各船舶每ニ其ノ取扱ヒタル順序ニ依リ之ヲ編綴シ何船舶ノ附屬書類タルコトヲ表示シテ之ヲ整理スヘシ

第三十六條 削除

第三十七條 削除

第三十八條 船舶法施行細則第二十三條ノ臨檢報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ臨檢ヲ爲シタル檢査官吏之ニ捺印スヘシ

一 船舶ノ番號、種類、名稱、積量及船籍港

二 船舶所有者又ハ共有者ノ氏名又ハ名稱

三 變更ニ係ル新舊事項

四 臨檢ヲ爲シタル場所及年月日

五 臨檢ヲ爲シタル檢査官吏ノ官氏名

第三十九條 船舶法施行細則第二十八條ノ規定ニ依リ登錄ノ訂正ヲ爲シタルトキハ何字ヲ訂正シタル旨、訂正ノ事由及年月日ヲ記事欄ニ記載シ其ノ末尾ニ捺印シ削除ニ係ル文字ハ尙讀ミ得ヘキ樣朱抹スベシ

登錄ノ訂正ヲ爲シタルトキハ五日以內ニ訂正ニ係ル船舶ノ番號、種類、名稱、訂正ニ係ル新舊事項、所有者ノ氏名又ハ名稱及記事欄ノ記事ヲ抄寫シタル船舶原簿ノ抄本ヲ遞信省ニ送付スヘシ

第四十條 管海官廳ヨリ遞信省ニ送付スル船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ニ記載スル氏名又ハ名稱ニハ振假名ヲ附記シ外國ノ名稱ニハ外國文字ヲ附記スヘシ但シ氏名又ハ名稱ノ讀方ノ明瞭ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十一條 管海官廳ニ於テ船舶番號及信號符字ノ配付ヲ受ケタルトキハ其ノ書類ヲ編綴シ置キ船舶ニ之ヲ貼附スル每ニ當該番號及信號符字ノ下ニ其ノ船舶ノ種類及名稱ヲ記入スヘシ

第四十二條 管海官廳ハ汽船及帆船ニ區分シタル船舶原簿見出帳ヲ調製シイロハ順ニ依リ豫メイノ部ヨリスノ部マテヲ設ケ置キ船舶ノ登錄ヲ爲ス每ニ其ノ船名ノ頭字ニ依リ相當ノ部ニ船舶ノ番號及名稱ヲ記載スヘシ

船舶原簿ヲ閉鎖シタルトキハ見出帳中當該船舶ノ項適宜ノ場所ニ閉鎖ト朱記スヘシ

第四十二條ノ二 船舶原簿ハ汽船及帆船ニ區分シ其ノ番號ノ順序ニ依リ之ヲ整理スヘシ

船舶原簿中閉鎖シタルモノハ前項ニ準シ別ニ之ヲ整理スヘシ

第四十三條 船舶原簿及附屬書類ハ事變ヲ避クル爲メニスル場合ヲ除ク外管海官廳以外ニ持出スコトヲ得ス

第四章 船舶國籍證書及假船舶國籍證書

第四十四條 船舶國籍證書、假船舶國籍證書及英譯書ノ用紙ハ遞信省ニ於テ之ヲ調製シ各管海官廳ニ之ヲ配付ス

第四十四條ノ二 船舶法施行細則第四十二條又ハ同則第四十二條ノ三ノ規定ニ依リ船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ英譯書ノ訂正ノ申請ヲ受ケタル場合ニ於テハ更ニ之ヲ調製シ申請者ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ證書ノ日附ハ舊證書ノ日附ニ依ルヘシ

第四十五條 船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ各事項ヲ記載スルニハ第二十一條及第二十二條ノ例ニ依ルヘシ

所有者ノ欄ニハ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載スヘシ但シ共有ノ場合ニ於テハ共有者中筆頭ノ者ノミヲ記載シ外何人ト附記スヘシ

船舶國籍證書及假船舶國籍證書ニハ振假名及外國文字ヲ記入スヘカラス但シ信號符字ハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條 行政區畫、其ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載シタル行政區畫、其ノ名稱又ハ地番號ハ證書ヲ書換、訂正又ハ再交付スルトキ新ナルモノヲ記載スヘシ字又ハ其ノ名稱ノ變更アリタルトキ亦同シ

第四十七條 削除

第四十八條 船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ニ因リ該證書ヲ書換フル場合ニ於テハ新證書ノ日附ハ其ノ作成ノ年月日ニ依ルヘシ

毀損又ハ滅失ニ因リ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ書換又ハ再交付スル場合ニ於テハ證書ノ日附ハ舊證書ノ日附ニ依ルヘシ此ノ場合ニ於テハ證書ノ欄外ニ何年何月何日書換又ハ再交付ト朱記スヘシ

前項ノ場合ニ於テ舊證書ノ日附不明ナルトキハ新證書ノ日附ハ其ノ作成ノ年月日ニ依リ其ノ下ニ書換又ハ再交付ト朱記スヘシ

第四十九條 第三十四條ノ場合ニ於テハ甲管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スルコトヲ要セス

第五十條 管海官廳ニ於テ船舶法施行細則第三十七條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ交付スルトキハ同時ニ所有權ノ取得ヲ證スル書面ヲ還付スヘシ

第五十一條 船舶法施行細則第四十一條第二項ノ規定ニ依リ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ無效ナルコトヲ官報ニ公告スル必要アルトキハ管海官廳ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出スヘシ

一 船舶ノ番號、種類及名稱
二 證書ノ種類及日附
三 所有者ノ氏名又ハ名稱
四 證書無效ノ事由

前項ノ場合ニ於テ所有者ノ氏名又ハ名稱ニ付テハ共有ナルトキハ筆頭ノ者ノ氏名ヲ記載シ外何人ト附記スヘシ

第五十二條 管海官廳ニ於テ船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ英譯書ノ返還ヲ受ケタルトキハ之ヲ廢棄スヘシ第四十四條ノ二ノ場合ニ於ケル舊證書ニ付亦同シ

證書ノ廢棄ハ紋章ヲ切取リ官廳ノ印ニ消印ヲ押捺シテ之ヲ爲スモノトス

第一項ノ場合ニ於テ返還ヲ受ケタル船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ英譯書カ他ノ管海官廳ヨリ交付シタルモノナルトキハ其ノ船舶ノ番號、種類、名稱・證書交付ノ年月日證書返還ノ事由及其ノ年月日ヲ交付官廳ニ通知スヘシ

第五十三條乃至第五十五條 削除

第五十六條 管海官廳ハ船舶國籍證書交付簿、假船舶國籍證書交付簿及英譯書交付簿ヲ調製シ各船舶毎ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 船舶ノ番號、種類及名稱
二 船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付、再交付、書換、訂正又ハ返還ノ旨、其ノ事由及年月日
三 英譯書ノ交付、訂正又ハ返還ノ旨及其ノ年月日

第五章 雜則

第五十七條 管海官廳ハ船舶登錄及船舶測度ニ關スル事務成績ヲ第一號及第二號書式ニ依リ一箇月毎ニ取纏メ翌月七日迄ニ遞信省ニ報告スヘシ

第五十七條ノ二 管海官廳ハ船舶法ニ依ル用紙類ノ受拂殘高ヲ第三號書式ニ依リ毎年一月、四月、七月及十月ノ四回ニ前三箇月分ヲ取纏メ其ノ月ノ七日マテニ遞信省ニ報告スヘシ

第五十七條ノ三 管海官廳ハ船舶法ニ依ル船舶登錄稅收入金額及船舶測度其ノ他ノ手數料收入金額ヲ第四號乃至第七號書式ニ依リ毎年一月、四月、七月及十月ノ四回ニ前三箇月分ヲ取纏メ其ノ月ノ七日マテニ遞信省ニ報告スヘシ

附則

第五十八條 檢査官吏ニ於テ船舶法施行細則第五十八條ノ規定ニ依リ船舶ニ臨檢シタルトキハ從來既ニ登錄セラレタル事項ニ付テハ其ノ調査ヲ省略シ新ニ登錄スヘキ事項ニ付テハ精密ニ調査スヘシ但シ從來登錄セラレタル事項ト雖モ正確ナラサル疑アルトキハ必ス之ヲ調査スヘシ

第五十九條 船舶法施行細則第五十八條ノ規定ニ依リ臨檢ヲ爲シタル檢査官廳ト船籍港ヲ管轄スル管海官廳ト同一ナラサル場合ニ於テハ檢査官廳ハ遲滯ナク積量測度申請書、船舶件名書、積量測度表及其ノ他一切ノ附屬書類ヲ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ送付スヘシ但シ測度表ニハ船舶法施行細則第五十八條第二項ニヨリ省略セシ部分ヲ記載スルニ及ハス

第六十條 船舶法施行細則第五十八條第二項ノ規定ニ依リ測度ノ一部ヲ省略シタルトキ又ハ造船規程ニ定ムル方法ニ依リテ測リタル長幅深ノ三點ノミヲ測リ積量測度表ヲ調製セサルトキハ第五條ニ依リ本省ヘ送付スル船舶件名書ノ謄本、其ノ送付書又ハ附箋ニ其ノ船舶ノ番號、船籍港、所有者ノ氏名又ハ名稱ヲ記入スヘシ

第六十一條 管海官廳ニ於テ船舶法施行細則第五十九條第一項ノ申請ニ依リ登錄ヲ爲ス場合ニ於テ船舶原簿ニ記載ヲ爲スニハ左ノ書類ヲ基礎トスヘシ

一 船舶法施行細則第五十九條第二項ノ申請書
二 船舶法施行細則第六十條ノ書面
三 船舶法施行細則第五十八條ノ規定ニ依リ檢査官吏ノ作リタル船舶件名書及積量測度表

前項ノ書類ニ記載セサル事項ニ付テハ從來ノ登簿船原簿ノ寫ニ記載シタル事項ヲ基礎トスヘシ

第六十二條 前條ニ依リ登錄シタル船舶原簿ノ謄本ヲ第三十二條ニ依リ遞信大臣ニ差出スニ當リ前條第二項ニ依リ基礎トシタル事項ニ變更ヲ生シ若ハ訂正ヲナシタル場合ニハ其ノ事由ヲ其ノ欄外又ハ附箋ニ記載スヘシ

第六十三條 登簿船免狀ノ處分ニ關シテハ船舶法施行細則第四十一條第二項及本手續第五十一條、第五十二條ノ規定ヲ準用スヘシ但シ本手續第五十二條ニ交付官廳トアルハ此ノ場合ニ於テハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ヲ指スモノトス

第六十四條 登簿船免狀ヲ受有スル船舶ニシテ船舶法施行細則第五十九條ニ依リ登錄ヲ申請スルトキハ新規登錄稅ヲ徵收スヘカラズ

第六十五條 登簿船免狀ヲ受有スル船舶ニシテ船舶法第三十七條第一項及同施行細則第五十九條ノ規定ニ依リ登錄ノ申請ヲナシタル場合ニ於テ登簿船原簿ニ登錄セル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ官ノ誤記又ハ誤測ニ起因セサル限リ同施行細則第四十八條第二號以下ニヨリ登錄稅ヲ徵收スヘシ

第六十六條 登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ニシテ甲管海官廳ノ管內ヨリ乙管海官廳ノ管內ニ船籍港ヲ變更スル場合又ハ之ト同時ニ船籍港以外ノ登錄事項ニ付變更ヲ生シタル場合ニ於テハ積量ノ測度ハ甲管海官廳ニ申請セシムヘシ

前項ノ積量ノ測度ニ關シテハ船舶法施行細則第九條及第十四條ノ規定ヲ準用ス但シ乙管海官廳カ測度ノ囑託ヲ受ケタル場合ニ於テハ船鑑札受有船ニ在リテハ船舶件名書等ヲ送付セスシテ測度ヲ結了シタルコト及其ノ船舶ノ總噸數又ハ積石數ヲ甲管海官廳ニ通知スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ測度ヲ結了シタルトキハ甲管海官廳ニ登錄及船舶國籍證書ノ交付ヲ申請セシメ甲管海官廳ハ登簿船免狀受有船ニ在リテハ船舶原簿ニ一旦登錄シタル後船舶法施行細則第二十條第二項第三項ノ手續ヲ爲シ船鑑札受有船ニ在リテハ船舶原簿ニ登錄スル事ナク單ニ關係書類ヲ乙管海官廳ニ移送スヘシ乙管海官廳ハ之ニ據リ船舶原簿ニ登錄シ船舶國籍證書ヲ交付スヘシ

第六十七條　前條第三項ノ場合ニ於テハ甲管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スルノ限ニ在ラス

第六十八條　船舶法施行細則第五十九條ニヨリ始テ原簿ニ登錄ヲ爲ストキハ第一欄ニ記入シ其ノ記事欄ニ「船舶法施行細則第五十九條ニヨリ登錄ス」ト記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ石數ヲ噸數ニ改算シタル船舶ナルトキハ「船舶法施行細則第五十九條ニヨリ登錄ス但シ檢査ノ上石數ヲ噸數ニ改算シタルモノ」ト記載スヘシ

第六十九條　船舶法施行細則第六十條第一號ノ登記謄本ニ記載シタル事項カ積量測度申請書又ハ船舶件名書ニ記載シタル事項ト符號セサルトキハ本手續第十九條ノ手續ヲ準用スヘシ船舶法施行細則第六十條第三號ノ證明書ト積量測度申請書ト符合セサルトキ亦同シ

附　則（大正三年七月　遞信省公達第三五二號）

第一條　本公達ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　第七條ニ揭クル書類ハ本公達施行前ニ受理又ハ結了シタルモノト雖モ管海官廳ハ同則ノ規定ニ準シ之ヲ處理スヘシ

第三條　船舶積量測度表、船舶原簿及英譯書ノ書式ハ船舶積量測度法第十二條ノ規定ニ依ル改測前ノ船舶ニ付テハ從前ノ例ニ依ル

第四條　第三條、第二十一條、第二十二條、第二十三條、第二十六條、第二十八條、第三十二條、第三十九條、第四十二條及第四十二條ノ二ニ規定スル事項ニシテ前條ノ規定ニ依ル船舶原簿ニ適用シ難キモノニ付テハ從前ノ例ニ依ル

第五條　船舶積量測度法第十二條ノ規定ニ依リ改測ヲ爲シタル爲變更ノ登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ旨船舶原簿ノ記事欄ニ記載スヘシ

第六條　船舶法施行細則附則第七條第二項ノ規定ニ依リ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ書換ノ申請ヲ受ケタルトキハ管海官廳ハ同則附錄第三號書式丙又ハ第四號書式乙ノ證書ヲ交付スヘシ

第七條　石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ本公達施行ノ日ヨリ三月以內ニ其ノ登錄ヲ新ナル原簿用紙ニ移スヘシ

附　則（昭和七年五月　公達第二九三號）

第一條　本公達ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　昭和六年法律第六號施行ノ結果登錄ノ變更又ハ抹消ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ旨ヲ船舶原簿ノ記事欄ニ記載スヘシ

第三條　登錄ヲ要セサル船舶カ石數船改測規則ニ依リ改測ヲ爲シタル爲新ニ登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ旨船舶原簿ノ記事欄ニ記載スヘシ

第四條　明治三十四年十二月公達第七三四號中船舶登錄及船舶測度事務ニ關スル事項ハ之ヲ削除ス

第一號書式

船舶登錄事務成績報告

種別		件數			摘要
		汽船	帆船	合計	
新規登錄					
變更登錄					
抹消登錄					
登錄ノ訂正					
合計					

年　月中

右及報告候也

年　月　日

海務院宛

管海官廳

備考

一　變更登錄又ハ登錄ノ訂正ノ件數ハ變更又ハ訂正ノ事項ノ數ニ拘ラス毎船舶ヲ一件トシテ計上スヘシ

二　變更登錄ト同時ニ登錄ノ訂正ヲ爲シタル場合ニ於テハ訂正ノ件數ヲ登錄ノ訂正ノ項ニ朱字ヲ以テ表示スヘシ

三　船舶ノ種類變更ノ場合ニ在リテハ變更登錄ノ件數ヲ新ナル種類ノ欄ニ計上スヘシ

第二號書式

船舶測度事務成績報告

年　月中

種別		汽船		帆船		合計	
		船數	總噸數	臨檢度數	船數	總噸數	臨檢度數	船數	總噸數	臨檢度數
新規測度又ハ改測	二十噸未滿									
	二十噸以上長二十メートル未滿									
	五十噸未滿長二十メートル以上									
	五十噸以上長二十メートル未滿									
	百噸未滿長二十メートル以上									
	百噸以上三百噸未滿									
	三百噸以上五百噸未滿									
	五百噸以上千噸未滿									
	千噸以上二千噸未滿									
	二千噸以上三千噸未滿									
	三千噸以上四千噸未滿									
	四千噸以上六千噸未滿									
	六千噸以上八千噸未滿									
	八千噸以上一萬噸未滿									
	一萬噸以上									
	合計									
一部改測										
其ノ他ノ臨檢										

右及報告候也

年　月　日

海務院宛

管海官廳

備考

一　新規測度又ハ全部改測欄二十噸未滿ノ項ニハ船鑑札規則ニ依リ測度ヲ行ヒタル噸數ヲ計上スヘシ

二　噸數ハ總テ單位下ヲ省略シテ計上スヘシ

三　船鑑札規則ニ依リ一部改測ヲ行ヒタル船舶ニ付テハ別ニ之ヲ計上シ一部改測ノ項ニ朱記スヘシ

四　船舶法施行細則第十六條ノ規定ニ依ル部分測度ハ一部改測ノ項ニ合算シテ計上スヘシ

五　臨檢度數ハ船舶ノ檢査ト同時ニ測度又ハ改測ヲ行ヒタル場合ニ於テモ之ヲ本表ニ計上スヘシ

六　其ノ他ノ臨檢ノ項ニハ船舶法施行細則第二十二條ノ規定ニ依リ調査ノ爲臨檢シタル船數ヲ計上スヘシ但シ同時ニ測度又ハ改測ヲ行ヒタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三號書式

船舶原簿及船舶國籍證書用紙殘高報告

年　月末現在

種別	前期殘高	新規受高	發出高	書損及汚損高	殘高
船舶原簿（甲）					
船舶原簿（乙）					
船舶國籍證書（甲）					
船舶國籍證書（乙）					
假船舶國籍證書					
船舶國籍證書英譯書（甲）					
船舶國籍證書英譯書（乙）					
假船舶國籍證書英譯書					

右及報告候也

年　月　日

海務院宛　　管海官廳

備考

一　船舶國籍證書ヲ書損又ハ汚損シタルトキハ該用紙ハ本報告書ニ添附スヘシ

二　當分ノ内舊書式ニ依ル受拂殘高表ヲモ併セ報告スヘシ

第四號書式

船舶登錄稅收入報告

一金何　圓也

内譯

自　年　月分
至　年　月分

種目	件數	貼用印紙額面金額
新規登錄		
轉籍		
除籍		
登錄ノ變更		
合計		円

右及報告候也

年　月　日

海務院宛　　管海官廳

備考

箇數ノ欄ニハ新規登錄、轉籍及除籍ノ場合ハ登錄稅法第四條ノ規定ニ依リ毎十噸又ハ十噸未滿ノ端數ヲ一箇トシ登錄ノ變更ノ場合ハ變更シタル一事項ヲ一箇トシテ計上スヘシ

第五號書式

船舶原簿謄本交付等手數料收入報告

一金何　圓也

内譯

自　年　月分
至　年　月分

種目	件數	貼用印紙額面金額
原簿謄本ノ交付	枚	円

原簿抄本ノ交付		枚
原簿ノ閲覽		回
合計		

右及報告候也

年　月　日

海務院宛

管海官廳

第六號書式

船舶國籍證書交付等手數料收入報告

一金何　圓也

內譯

自　年　月
至　年　月分

種目		件	円
船舶國籍證書（汽船／帆船）	新交付	件	
	再交付	件	
	書換	件	
	貼用印紙額面金額		

假船舶國籍證書（汽船／帆船）	
船舶國籍證書英譯書（汽船／帆船）	
假船舶國籍證書英譯書（汽船／帆船）	
合計	

右及報告候也

年　月　日

海務院宛

管海官廳

第七號書式

船舶測度手數料收入報告

一金何　圓也

內譯

自　年　日
至　年　日分

總噸數 ＼ 種目	每船手數料						汽船						機關附帆船						機關ヲ有セザル帆船						合計		
	汽船及機關ヲ有セザル帆船			機關ヲ有セザル帆船			船數			貼用印紙額面金額			船數			貼用印紙額面金額			船數			貼用印紙額面金額			船數		貼用印紙額面金額
	新規測度又ハ全部改測	一部改測	新規測度又ハ全部改測	一部改測	新規測度又ハ全部改測	一部改測	新規測度又ハ全部改測	一部改測	新規測度又ハ全部改測	一部改測	新規測度又ハ全部改測	一部改測	新規測度又ハ全部改測	一部改測	新規測度又ハ全部改測	一部改測	新規測度又ハ全部改測	一部改測	新規測度又ハ全部改測	一部改測	新規測度又ハ全部改測	一部改測	新規測度又ハ全部改測	一部改測	新規測度又ハ全部改測	一部改測	新規測度又ハ全部改測	一部改測
二十噸以上五十噸未滿 長二十メートル未滿	四・九		三・五																								
五十噸以上百噸未滿 長二十メートル以上長二十メートル未滿	七	七	四・九	五																							
百噸以上三百噸未滿 長二十メートル以上	一〇		七																								
三百噸以上五百噸未滿	一五		一〇																								
五百噸以上千噸未滿	二〇		一五																								
千噸以上二千噸未滿	二五		二〇																								
二千噸以上三千噸未滿	三〇		二五																								
三千噸以上四千噸未滿	四〇		三〇																								
四千噸以上六千噸未滿	五〇		四〇																								
六千噸以上八千噸未滿	六〇		五〇																								
八千噸以上一萬噸未滿	七〇		六〇																								
一萬噸以上	八〇		七〇																								
計	一〇〇		八〇																								
合計																											

右及報告候也

年　月　日

海務院宛

管海官廳

備考

測度甲板下全部改測ヲ受ケタルモノハ之ヲ全部改測ト看做シ相當欄ニ計上スヘシ

船鑑札規則

（明治四十年五月遞信令第二十四號）

改正（大正二年九月省令第八四號　昭和七年四月省令第九號）（大正十一年六月省令第三九號　昭和十六年十一月省令第九八號）（大正十四年十二月省令第九三號）

第一條　總噸數二十噸未滿ノ船舶ハ左ニ掲クルモノヲ除ク外、日本ニ船籍港ヲ定メ船鑑札ヲ受有スヘシ

一　總噸數五噸未滿ノ帆船

二　端舟其ノ他櫓櫂ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓櫂ヲ以テ運轉スル舟

大正十四年勅令第三百二十七號（大正十四年法律第五十二號支那ニ於ケル帝國法人ノ所有スル船舶等ニ關スル件施行ニ關スル勅令）第一條ノ法人又ハ支那ニ住所ヲ有スル日本臣民ノ所有スルモノハ前項ノ規定ニ拘ラス支那ニ船籍港ヲ定ムルコトヲ得

第二條　船鑑札ヲ受有スヘキ船舶ノ所有者ハ第一號書式ノ船鑑札交付申請書ヲ船籍港ヲ管轄スル地方官廳ニ差出スヘシ

管海官廳、日本ノ領事館、貿易事務官、其ノ他相當官廳ニ於テ積量ノ測度ヲ受ケタル船舶ニ付テハ前項ノ申請書ニ積量ニ關スル證明ヲ添附スヘシ

第一項ノ申請者カ支那ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル帝國法人ナルトキハ大正十四年勅令第三百二十七號第一條ノ規定ニ依ル領事館ノ認定ヲ受ケタルコトヲ證明スル書面ヲ

申請書ニ添附スヘシ

第三條 地方官廳ニ於テ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ船舶ノ積量ヲ測度スヘシ但シ前條第二項ノ證明書ヲ差出シタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 地方官廳ニ於テ前條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度ヲ爲シタルトキ又ハ第二條第二項ノ規定ニ依リ差出シタル證明書ヲ適當ナリト認メタルトキハ第二號書式ノ船鑑札ヲ交付スヘシ

第四條ノ二 船鑑札ヲ受有スル船舶ハ船體外部ニ於テ船首兩舷ニ船名、船尾ノ見易キ所ニ船舶ノ所屬道府縣名（支那ニ船籍港ヲ定メタル船舶ニ在リテハ船籍港ヲ管轄スル領事館ノ所在地名）及船鑑札番號ヲ標示スヘシ

特殊ノ構造ヲ有スル船舶ニシテ前項ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ當該官吏ノ相當ト認ムル方法ニ依リ前項ノ事項ヲ標示スルコトヲ得

前二項ノ標示ハ塗料ノ使用其ノ他久シキニ耐ユル方法ニ依リ高幅共十センチメートル以上ノ文字ヲ以テ明瞭ニ之ヲ現ハシ船名及道府縣名又ハ領事館ノ所在地名ハ國字、船鑑札番號ハ亞剌比亞數字ト爲スヘシ但シ府縣名ヲ記ス場合ニ於テ「府」又ハ「縣」ノ文字ハ之ヲ省略スヘシ

標示スヘキ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滯ナク其ノ標示ヲ改ムヘシ

第五條 船鑑札ハ船舶ニ備置キ船長其ノ他船舶ヲ指揮スル者之ヲ保管シ當該官吏ニ於テ檢閲ヲ求ムルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條 船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ船鑑札カ毀損シタルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ疏明シ書換ヲ申請スヘシ

第二條第二項ノ規定ハ船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ積量ノ變更ニ係ル場合ニ之ヲ準用ス

船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ船舶所有者ノ變更ニ係ルトキハ第一項ノ申請ハ新所有者ヨリ變更ノ事實ヲ證スル書面ヲ提出シテ之ヲ爲スヘシ

第二條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ積量ノ變更ニ係ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ

第三條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八條 甲地方官廳ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ船籍港ヲ乙地方官廳ノ管轄區域内ニ變更スルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ疏明シ甲地方官廳ニ轉籍ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ甲地方官廳ハ遲滯ナク前項ノ申請書ニ船鑑札臺帳ノ謄本、積量ノ測度ニ關スル書類ヲ添附シテ其ノ旨乙地方官廳ニ通知スヘシ

第九條 行政區畫變更ノ爲メ船籍港カ甲地方官廳ノ管轄區域内ヨリ乙地方官廳ノ管轄區域内ニ轉屬シタルトキハ甲地方官廳ハ申請ヲ待タス遲滯ナク船鑑札臺帳ノ謄本、積量ノ測度ニ關スル書類ヲ乙地方官廳ニ送付スヘシ

行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船鑑札ニ記載シタル區畫名稱又ハ番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス但シ前項ノ場合ニハ此ノ限ニ在ラス

第十條 船鑑札カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ疏明シ再交付ヲ申請スヘシ

第十一條 地方官廳カ第六條若ハ前條ノ申請ヲ受ケタル場合第八條第二項ノ通知ヲ受ケタル場合又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ船鑑札臺帳ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ船鑑札ヲ交付スヘキモノト認ムルトキハ之ヲ船舶所有者ニ交付スヘシ

第十二條 左ニ掲クル場合ニ於テハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ疏明シ船鑑札ヲ管轄地方官廳ニ返還スヘシ

一 船舶カ滅失若ハ沈沒シタルトキ又ハ解撤セラレタルトキ

二 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ又ハ船舶ノ存否カ六箇月間分明ナラサルトキ

三 船舶カ船舶法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ受有スヘキモノト爲リタルトキ又ハ本則ノ規定ニ依リ船鑑札ヲ受有スルコトヲ要セサルモノト爲リタルトキ

前條ノ規定ニ依リ船鑑札ノ交付ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ之ヲ引換ニ舊船鑑札ヲ管轄地方官廳ニ返還スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ船鑑札ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ疏明スヘシ

船鑑札ノ滅失シタルトキ又ハ船鑑札ヲ返還スヘキ場合ニ於テ其ノ返還ヲ爲スコト能ハサル事由ノ疏明アリタルトキ若ハ一定ノ期間ヲ定メ催告ヲ爲スモ尚其ノ返還ヲ爲ササルトキハ其ノ無效ナルコトヲ官報ニ公告ス

第十三條 船鑑札ヲ受有スヘキ船舶ニシテ船舶安全法ノ適用ヲ受クルモノノ所有者ハ管海官廳ニ積量ノ測度又ハ改測ヲ申請スルコトヲ得

第十四條 地方官廳又ハ管海官廳ハ隨時當該官吏ヲ船舶ニ臨檢セシメ必要アリト認ムルトキハ積量ノ改測又ハ標示ノ改訂ヲ爲サシムヘシ

第十五條 第一條、第四條ノ二、第五條、第六條第一項、第八條第一項、第十條又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條ノ二 本令ニ於テ地方官廳ノ事務ハ支那ニ在リテハ日本ノ領事館之ヲ行フ

附 則

第十六條 本則ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條　明治二十九年十二月遞信省令第二十五號船鑑札規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十八條　本則施行ノ際現ニ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者ハ本則施行ノ日ヨリ五箇年內ニ於テ地方長官ノ定ムル期間內ニ更ニ船鑑札ノ交付ヲ申請シ現ニ受有スル船鑑札ヲ返還スヘシ

前項ノ期間內ト雖モ本則ノ規定ニ依リ船鑑札ノ書換又ハ再交付ヲ要スルトキハ遲滯ナク前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條、第三條、第四條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　本則施行ノ際現ニ受有スル船鑑札ハ本則ノ規定ニ從ヒ更ニ船鑑札ヲ受有スルニ至ルマテ本則ニ定ムル船鑑札ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十條　第十二條ノ規定ハ本則施行前ニ同條ニ揭ケタル事由カ生シタルモ未タ船鑑札ヲ返還セサル場合ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ同條第一項ニ定ムル期間ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條　前條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則（大正二年九月省令第八八號）

本令施行ノ際現ニ受有スル船鑑札ハ本令ノ爲メ其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

本令施行前ニ船舶國籍證書ヲ受有スヘキモノトナリタル船舶ニ付テハ船鑑札規則第十二條第一項ニ定ムル期間ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

附　則（大正十一年七月省令第三九號）

本令ハ大正十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ船鑑札ヲ受有スル船舶ニ付テハ大正十一年十二月三十一日迄本令ノ施行ヲ猶豫ス

附　則（昭和七年四月省令第九號）

第一條　本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　本令施行ノ際現ニ受有スル船鑑札ハ昭和九年六月三十日マテ其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第三條　從前ノ規定ニ依リ噸數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船鑑札ヲ受有スル船舶ニ付テハ船籍港ヲ管轄スル地方官廳ハ昭和九年六月三十日マテニ船舶所有者ノ申請ヲ俟タスシテ船鑑札ヲ書換交付ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船鑑札ヲ受有スル船舶ニ付テハ石數船改測規則ニ從ヒ地方長官ノ定ムル所ニ依リ積量ノ改測ヲ受ケタルトキハ船籍港ヲ管轄スル地方官廳ハ船舶所有者ノ申請ヲ俟タスシテ船鑑札ヲ書換交付ス

船舶所有者前二項ノ規定ニ依リ船鑑札ノ交付ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク舊船鑑札ヲ返還スヘシ

（第一號書式）

船鑑札交付申請書

一　船　種（汽船、帆船ノ別）船名

二　船　籍　港（當該市町村名）

三　進水ノ年月

四　尺　度（船ノ長、幅、深）

五　機關ノ種類（汽機、發動機、電動機ノ別）

六　所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有ナルトキハ各共有者ノ持分

七　測度ヲ受ケントスル場所

八　申請ノ事由（新造、外國船購入等）

右船舶新造（又ハ何國人何某ヨリ買受等）候ニ付船鑑札交付相成度此段及申請候也

年　月　日

住　所

氏　名　印

地方官廳宛

（第二號書式）

表

船鑑札

第　號

汽船
帆船　丸

年　月　日

住所
氏名

地方官廳名

烙印

裏

船籍港
長
幅
深
總噸數
純噸數
進水ノ年月
機關ノ種類

備考

一　船籍港ハ市ニ付テハ單ニ何市ト記載シ町村其ノ他之ニ類スル區劃ニ付テハ何府縣何郡何町何村等ト記載スヘシ

二　船鑑札ノ寸法ハ竪十五センチメートル横十センチメートル厚及木質ハ適宜トス

附　則（昭和十六年十一月省令第九八號）

本令ハ昭和十六年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

船鑑札規則施行手續

（明治四十年五月遞信省訓令第一號）

改正（大正二年九月訓令第一號　大正三年九月訓令第二號　昭和十年五月訓令第二號　昭和十六年十一月訓令第一號）

第一條　地方官廳ハ第一號書式ノ船鑑札臺帳ヲ備置キ船鑑札規則ニ依リ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ件名及船鑑札ノ交付、書換、再交付若ハ返還ノ年月日竝事由ヲ記載スヘシ

船鑑札規則第十二條第一項ノ規定ニ依リ船鑑札ノ返還アリタルトキ又ハ船鑑札ヲ返還スルコト能ハサル事由ノ疏明アリタルトキハ同項各號ノ事實アリタルヤ否ヲ審査シ必要ト認ムルトキハ實地臨檢シタル上船鑑札臺帳中當該船舶ニ對スル記載面ニ消印ヲ押捺シテ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

船鑑札規則第十二條第一項ノ規定ニ揭クル事實アリタルニ拘ラス船鑑札ヲ返還セス且其ノ事由ヲ疏明セサルトキハ一箇月内ニ返還スヘキコトヲ催告スヘシ

前項ノ催告ヲ爲スモ船鑑札ノ返還ヲ爲サス又ハ其ノ事由ノ疏明ヲ爲ササルトキハ職權ヲ以テ船鑑札臺帳中當該船舶ニ對スル記載面ニ消印ヲ押捺シテ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

船鑑札臺帳ニ索引ヲ附スヘシ

第二條　船舶ニハ番號ヲ貼附シ之ヲ船鑑札及船鑑札臺帳ニ記載スヘシ

第三條　船鑑札規則第八條第二項又ハ同則第九條第一項ノ規定ニ依リ乙地方官廳ニ於テ通知ヲ受ケ又ハ船鑑札臺帳ノ謄本ノ送付ヲ受ケ船鑑札ヲ交付シタルトキハ其ノ旨遲滯ナク甲地方官廳ニ通知スヘシ

甲地方官廳ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ船鑑札臺帳中當該船舶ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第四條　地方官廳ニ於テ船鑑札規則第十二條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ船鑑札ノ返還ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ廢棄スヘシ

第四條ノ二　船鑑札ノ無效ナルコトヲ官報ニ公告スル必要アルトキハ地方官廳ハ遲滯ナク左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出スヘシ

一　船鑑札番號、種類及名稱

二　船鑑札交付年月日

三　船舶所有者ノ住所氏名又ハ名稱

四　船鑑札無效ノ事由

前項ノ場合ニ於テ所有者ノ氏名又ハ名稱ニ付テハ共有ナルトキハ筆頭ノ者ノ住所氏名ヲ記載シ外何人ト附記スヘシ

第五條　地方官廳ニ於テ船舶ヲ改測シ船舶法ノ適用ヲ受クヘキモノト爲リタルコトヲ認メタルトキハ速ニ相當手續ヲ爲スヘキ旨ヲ所有者ニ告知シ遲滯ナク船鑑札臺帳ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ管轄管海官廳ニ通知スヘシ

第六條 管海官廳ニ於テ船舶ヲ改測シ積量ニ異動アルコトヲ認メタルトキハ速ニ相當手續ヲ爲スヘキ旨ヲ所有者ニ告知シ遲滯ナク其ノ旨管轄地方官廳ニ通知スヘシ

船舶法ノ規定ニ依リ積量ノ改測ヲ爲シタル船舶船鑑札規則ノ適用ヲ受クヘキモノト爲リタルトキ亦前項ニ同シ此ノ場合ニ於テハ船舶原簿ノ謄本ヲ添附スヘシ

第七條 削除

第八條 地方官廳ハ毎年一月及ヒ七月中ニ其ノ前月末現在ニ於ケル船鑑札船ノ統計ヲ、尙汽船ニ付テハ毎年一月、四月七月及十月中ニ其ノ前三箇月間ノ異動ヲ第二號書式ニ依リ遞信省ニ報告スヘシ

第九條 地方長官ニ於テ船鑑札規則ノ施行ニ關シ規程ヲ設ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ

第一號書式

番號	種類	船名	船籍港	長	幅	深	進水ノ年月	船	船	船
				米	米	米	年月	噸	噸	噸

附則

第十條 明治二十九年十二月遞信省訓令第四號船鑑札規則施行手續ハ本手續施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十一條 第八條ノ報告ハ本手續施行ノ年ノ七月ニハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第十二條 本手續施行ノ際現ニ船鑑札ヲ受有スル船舶ニ付テハ船鑑札規則第十八條ノ規定ニ依リ新船鑑札ヲ受有スルヲ待タス第二條ニ規定スル番號ヲ點附シ現ニ備付ノ船鑑札臺帳ニ之ヲ記載スヘシ

前項ノ船舶ニ關スル件名ハ別ニ定ムル用紙ニ記載シ本手續施行後三箇月內ニ遞信省ニ報告スヘシ

總噸數	噸	噸	噸	噸	噸
純噸數	噸	噸	噸	噸	噸
機關ノ種類					
所有者ノ住所氏名					
船鑑札交付年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日
記事					

備考

一 船種ノ欄ニハ汽船又ハ帆船ノ別ヲ記載スヘシ

二 機關ノ種類ノ欄ニハ汽機、發動機又ハ電動機ノ別ヲ記載スヘシ

三 進水ノ年月不明ナルトキハ製造年月ヲ記載スヘシ

四 新ニ船鑑札ヲ交付シタル場合又ハ其ノ記載事項ノ變更ニ因リ之ヲ書換ヘタル場合ニハ其ノ年月日ハ船鑑札交付年月日ノ欄ニ、其ノ事由ハ記事欄ニ記載スヘシ

五 船鑑札ヲ再交付シタル場合、毀損ニ因リ之ヲ書換ヘタル場合又ハ又ノ返還アリタル場合ニハ其ノ年月日及事由ハ記事欄ニ記載スヘシ

六 各欄ノ事項中記載スヘキモノナキトキハ斜線ヲ畫シ明カナラザルモノアルトキハ不詳ト記載スヘシ

第二號書式(甲)

船鑑札船統計報告

年月末日現在

種別		船數	總噸數	純噸數
汽	汽機ノミヲ有スルモノ			

船	發動機又ハ電動機ノミヲ有スルモノ								
	帆裝ヲ併セ有スルモノ								
	小計								
帆	帆裝ノミヲ有スルモノ								
	汽機ヲ併セ有スルモノ								
	發動機又ハ電動機ヲ併セ有スルモノ								
船	小計								
合計									

備考

本報告ニ記載スル噸數ハ船舶毎ニ單位ニ止メタルモノヲ合算シテ計上スルモノトス

第二號書式(乙)

汽船異動報告　何年自何月一日至何月末日間

第一　船鑑札新交付

番號	船名	船籍港	總噸數	純噸數	機關ノ種類	進水ノ年月	船鑑札交付事由	船鑑札交付月日	所有者住所氏名又ハ名稱

第二　船鑑札書換

番號	船名	變更事項 新	變更事項 舊	船鑑札書換事由	船鑑札書換月日	所有者住所氏名又ハ名稱

第三　船鑑札返還

番號	船名	船鑑札返還事由	船鑑札返還月日	所有者氏名又ハ名稱

備考

一　船鑑札交付事由欄ニハ新造、外國船購入、何府縣ヨリ轉入、登簿船ヨリ編入等船鑑札ヲ交付シタル原因ヲ記載シ且他府縣ヨリ轉入ノ場合ハ前地方官廳ニ於ケル番號及船名ヲ併記スヘシ

二　船鑑札ノ書換ヲ爲スモ第一書式ノ事項ニ變更ナキトキハ報告スルニ及ハス

三　船名又ハ所有者ニ變更アリタルトキハ各相當欄ハ空欄ノ儘トシ變更事項欄ニ新舊ノ船名又ハ所有者住所氏名又ハ名稱ヲ記載スヘシ

四　船鑑札返還事由欄ニハ滅失、沈沒、解撤、國籍喪失、存否不明、何府縣ヘ轉出、登簿船ニ編入等船鑑札ヲ返還シタル原因ヲ記載スヘシ

五　船鑑札規則第八條、第九條又ハ本手續第一條第三項ノ場合ニ於テハ船鑑札臺帳ノ用紙ヲ閉鎖シタルトキヲ以テ船鑑札ノ返還アリタルモノトシテ報告スヘシ

附則

本手續ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

船鑑札臺帳ノ書式ハ昭和七年四月遞信省令第九號附則第三條ノ規定ニ依リ船鑑札ノ書換ヲ爲スマテ尙從前ノ例ニ依ル

附則

本手續ハ昭和十六年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

船舶積量測度法

(大正三年三月法律第三十四號)　改正(昭和六年法律第六號)

第一條　船舶ノ積量ハ船舶ノ內法容積ヲ測度シ之ヲ定メ容積ノ單位ハ立方メートルトス

第二條　甲板一層又ハ二層ヲ備フル船舶ニ在リテハ上甲板ヲ、三層以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ最下層甲板ヨリ第二層ニ在ル甲板ヲ測度甲板トス

第三條　甲板一層又ハ二層ヲ備フル船舶ニ在リテハ測度甲板下ノ積量ニ測度甲板上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ、甲板三層以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ測度甲板下ノ積量ニ測度甲板上各甲板間ノ積量及上甲板上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ加ヘ

タルモノヲ總積量トス但シ左ニ掲クル場所ニシテ上甲板上ニ在ルモノノ積量ハ之ヲ總積量ニ算入セス

一　操舵機具、繫船機具、揚錨機具及主機關ト連結セサル副汽罐副汽機ニ使用セラルル場所

二　機關室、操舵室、賄室及出入口室

三　採光通風ニ要スル場所及便所

四　主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衞生又ハ利用上前各號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所

前項ニ掲クル機關室ノ積量ハ船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ於テ主務大臣之ヲ相當ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ總積量ニ算入スルコトヲ得

甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷端以下ノ積量ニ舷端以上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ總積量トス

第四條　總積量ヨリ左ニ掲クル場所ノ積量ヲ控除シタルモノヲ純積量トス但シ總積量ニ算入セクル場所ノ積量ハ之ヲ控除セス

一　船員常用室及海圖室

二　荷足水艙

三　機關室

四　操舵機具、繫船機具、揚錨機具及主喞筒ト連結シタル副汽罐副汽機ニ供用セラルル場所

五　水夫長倉庫

六　帆船ノ帆庫

七　主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衞生又ハ利用上前各號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所

第五條　前二條ニ掲サル場所ノ限域ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第六條　純積量ノ算定ニ付機關室ノ積量トシテ總積量ヨリ控除スヘキ積量ハ左ノ割合ニ依リ之ヲ定ム

一　螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ積量カ總積量ノ百分ノ十三ヲ超エ百分ノ二十未滿ナルトキハ總積量ノ百分ノ三十二、外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ積量カ總積量ノ百分ノ二十ヲ超エ百分ノ三十未滿ナルトキハ總積量ノ百分ノ三十七

二　前號ニ該當セサル場合ニ於テハ螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ積量ニ其ノ四分ノ三、外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ積量ニ其ノ二分ノ一ヲ加ヘタルモノ但シ船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ於テ主務大臣之ヲ相當ト認ムルトキハ前號ノ割合ニ依ルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ算定シタル積量カ純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ機關室以外ノ場所ノ積量ヲ總積量ヨリ減シタル積量ノ百分ノ五十五ヲ超ユルトキハ之ヲ百分ノ五十五ニ止ム

第七條　純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ帆庫ノ積量ガ總積量ノ千分ノ二十五ヲ超ユルトキハ之ヲ千分ノ二十五ニ止ム

第八條　總積量又ハ純積量ヲ噸（三百五十三分ノ千立方メートル）ヲ以テ表シタルモノヲ夫夫總噸數又ハ純噸數トス

第九條　積量測度ノ方法ハ主務大臣之ヲ定ム

第九條ノ二　主務大臣ハ長二十メートル未滿ノ船舶ノ積量ノ測度ニ付第二條乃至第七條ノ規定ニ拘ラス別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附　則

第十條　本法ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條　明治十七年布告第十號船舶積量測度規則ハ之ヲ廢止ス

第十二條　舊法ニ依リ噸數ヲ以テ積量ノ測度ヲ受ケタル船舶ニ付テハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ積量ヲ改測ス

第十三條　前條ノ規定ニ依ル改測前ニ於テ船舶法第九條ノ申請ニ因リ積量ヲ改測スル場合ニ於テハ舊法ニ依リ之ヲ測度スルコトヲ得

第十四條　舊法ニ依リ測度シタル船舶ノ積量ハ本法ノ測度方法ニ依リ之ヲ改測スル迄本法ニ依リ測度シタルモノト看做ス

第十五條　本法公布前造船奬勵法ニ依リ認許證書ノ交付ヲ申請シ本法施行前其ノ交付ヲ受ケ製造ニ著手シタル船舶ノ噸數ハ造船奬勵法第二條ノ規定ノ適用ニ付テハ舊法ニ依ル

第十六條　本法施行ノ際現ニ遠洋航路補助法ニ依リ補助航海ニ使用スル船舶ノ噸數ハ同法ノ適用ニ付テハ其ノ補助年限内舊法ニ依ル

第十七條　本法施行ノ際現ニ遠洋漁業奬勵法ニ依リ遠洋ニ於ケル漁獵業又ハ漁獲物ノ處理運搬業ニ使用スル船舶ノ噸數ハ同法ノ適用ニ付テハ奬勵金下付ノ許可期間内舊法ニ依ル

第十八條　第十二條ノ規定ニ依リ改測ヲ爲シタル爲登記又ハ登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ登錄稅ヲ課セス

第十九條　所有權及船舶管理人以外ノ事項ニ付登記アル船舶ガ第十二條ノ規定ニ依リ又ハ船舶法第九條ノ申請ニ因リ改測セラレタル爲登記スヘカラサル船舶ト爲リタルトキト雖仍其ノ事項ニ付登記ノ存スル間ハ之ニ關スル登記及所有權ニ關スル登記ヲ爲スヘキモノトス

附　則（昭和六年法律第六號附則）

第一條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　從前ノ規定ニ依リ測度シタル船舶ノ總噸數又ハ登簿噸數ハ各之ヲ本法ニ依リ測度シタル總噸數又ハ純噸數ト看做ス

第三條　從前ノ規定ニ依リ石數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船舶ノ積量測度ニ付テハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ積量ヲ

改測スル迄仍從前ノ規定ニ依ル

第四條 他ノ法令中登簿噸數トアルハ之ヲ純噸數トス

第五條 船舶カ本法施行ノ結果登記登錄ノ變更又ハ抹消ヲ要スル船舶ト爲リタル爲其ノ登記登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ登錄稅ヲ課セス本法施行ノ際登記登錄ヲ要セサル船舶カ本法施行ノ結果新ニ登記登錄ヲ要スル船舶ト爲リタル爲其ノ登記登錄ヲ爲ス場合亦同シ

第六條 所有權及船舶管理人以外ノ事項ニ付登記アル船舶カ本法施行ノ結果登記スヘカラサル船舶ト爲リタルトキト雖モ仍其ノ事項ニ付登記ノ存スル間其ノ事項ニ關スル登記及所有權ニ關スル登記ヲ爲スヘキモノトス

船舶ニ設定セラレタル質權ハ該船舶カ本法施行ノ結果登記スヘキ船舶ト爲リタルトキト雖モ其ノ效力ヲ害セラルルコトナシ

船舶積量測度規程

（大正三年七月遞信省令第十六號）

改正（昭和七年四月省令第十號　昭和十一年十月省令第五十一號）

第一章　總則

第一條 長二十メートル以上ノ船舶ノ積量ノ測度ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

前項ノ長ハ甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ上甲板梁上ニ於テ、甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル水平距離トス

第一條ノ二 長、幅、深、高及厚ヲ測定スルニハメートルヲ以テ單位トシ單位下ハ二位ニ止メ第三位ハ四捨五入スヘシ

分長點又ハ分深點ノ間隔及其ノ三分ノ一竝ニ面積、容積及積量ヲ算定スルニハ單位下ハ三位ニ止メ第四位ハ四捨五入スヘシ但シ總噸數及純噸數ヲ算定スルニハ單位下ハ二位ニ止メ第三位ハ四捨五入スヘシ

第二條 測度甲板ノ長ト稱スルハ左ノ各號ニ揭クルモノヲ謂フ

一　甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ中心線ニ於テ測度甲板上ニ沿ヒ船首內張板ノ內面ヨリ船尾內張板ノ內面ニ至ル距離ヲ測リ之ヨリ船首ニ於テハ甲板ノ厚ニ從ヒ船首材ノ傾斜ニ對スル甲板ノ長ヲ減シ、船尾ニ於テハ甲板ノ厚ニ終尾船梁梁矢ノ三分ノ一ヲ加ヘタルモノニ從ヒ船尾肋骨ノ傾斜ニ對スル甲板ノ長ヲ減シタルモノ

二　甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ニ於テ中心線ニテ船首內張板ノ內面ヨリ船尾內張板ノ內面ニ至ル距離

第三條 分長點ト稱スルハ測度甲板ノ長ヲ左表ニ依リ等分シタル點及首尾兩端ノ點ヲ謂フ

測度甲板ノ長	等分數
三十七メートル以下	六
三十七メートルヲ超エ五十五メートル以下	八
五十五メートルヲ超エ六十九メートル以下	十
六十九メートルヲ超ユルモノ	十二

第四條 分長點ノ深ト稱スルハ左ノ各號ニ揭クルモノヲ謂フ

一　甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ中心線ニ於テ測度甲板ノ下面ヨリ二重底內底板、肋板又ハ肋根材ノ上面迄ノ深ヲ測リ之ヨリ船底內張板ノ平均ノ厚及梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノ

二　前號ノ船舶ノ二重底內底板ガ凸面ナルトキハ中心線ニ於テ測度甲板ノ下面ヨリ內底板迄ト緣板ノ上面迄トノ平均ノ深ヲ測リ之ヨリ船底內張板ノ平均ノ厚及梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノ

三　甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ヨリ肋板又ハ肋根材ノ上面迄ノ深ヲ測リ之ヨリ船底內張板ノ平均ノ厚ヲ減シタルモノ

第五條 分深點ト稱スルハ測度甲板ノ長ノ中央ニ於ケル分長點ノ深ヲ等分シタル點及上下兩端ノ點ヲ謂フ

測度甲板ノ長ノ中央ニ於ケル分長點ノ深	等分數	
五メートル以下	二重底內底板ガ凹面ナルトキ	其ノ他ノ場合
五メートルヲ超ユルモノ	七	六
	五	四

副分深點ト稱スルハ二重底內底板ガ凹面ナル場合ニ於テ最下ノ分深點間隔ヲ四等分シタル點ヲ謂フ

第六條 分深點及副分深點ノ幅ト稱スルハ各點ニ於ケル船側內張板ノ內面ヨリ內面ニ至ル水平距離ヲ謂フ

船側內張板ノ厚ニ差異アルトキハ其ノ平均ノ厚ノ所ヲ船側內張板ノ內面ト看做ス

第七條 遮浪甲板ト稱スルハ常設開鎖裝置ヲ備ヘサル甲板ヲ有スル全通船樓甲板ヲ謂フ

遮浪甲板ハ船舶積量測度法第二條ニ揭グル甲板ノ層數ニ加ヘス

第八條 船舶積量測度法第三條及第四條ニ揭クル場所ノ限域ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外檢査官吏ノ相當ト認ムル所ニ依ル

第九條 形狀正整ナル場所ノ積量ヲ算定スルニハ第三章乃至第五章ノ規定ニ拘ラス其ノ內面ニ於ケル平均ノ長、幅及高又ハ深ヲ相乘スヘシ

第十條 第三章乃至第五章ノ規定ニ於テ一區分トシテ容積ヲ算定スヘキ場所ニシテ形狀複雜ナルモノニ在リテハ檢査官吏ニ於テ計算上精密ノ結果ヲ得ヘシト認ムル場合ニ限リ之ヲ二箇以上ニ區分シ各區分毎ニ當該規定ヲ適用シ其ノ容積ヲ算定スルコトヲ得

第十一條 特殊ノ構造ヲ有シ又ハ特別ノ事由アルカ爲本令ノ測度方法ニ依リ難キ船舶ニ付テハ遞信大臣ノ相當ト認ムル測度方法ニ依ル

第二章 測度甲板下ノ積量及舷端以下ノ積量

第十二條 分長點ニ於ケル横截面積ヲ算定スルニハ左ノ規定ニ依ル

一 分長點ノ深ヲ四等分又ハ六等分シタルトキハ分深點ヲ上端ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ上下兩端ヲ除キ奇數ニ當ル幅ハ二倍シ其ノ和ニ上下兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分深點間隔ノ三分ノ一ヲ乘ズベシ

二 分長點ノ深ヲ五等分シタルトキハ分深點ヲ上端ヨリ數ヘ第五分深點以上ノ部分ニ付テハ前號ノ規定ヲ適用シ最下分深點間隔ノ部分ニ付テハ第五分深點及第六分深點ノ幅ノ四分ノ一ト副分深點ヲ上端ヨリ數ヘ其ノ第一及第三ノ幅ト第二ノ幅ノ二分ノ一トヲ加ヘ之ニ分深點間隔ノ三分ノ一ヲ乘シ各部分ヲ加フヘシ

三 分長點ノ深ヲ七等分シタルトキハ分深點ヲ上端ヨリ數ヘ第七分深點以上ノ部分ニ付テハ第一號ノ規定ヲ適用シ最下分深點間隔ノ部分ニ付テハ前號ノ規定ヲ準用シ各部分ヲ加フヘシ

第十三條 測度甲板下ノ積量ヲ算定スルニハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外分長點ニ於ケル横截面積ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル面積ハ四倍シ首尾兩端ヲ除キ奇數ニ當ル面積ハ二倍シ其ノ和ニ首尾兩端ニ當ル面積ヲ加ヘ之ニ分長點間隔ノ三分ノ一ヲ乘スヘシ

第十四條 船首尾艙ヲ除キ二重底內底板又ハ肋板ノ高ニ階段アル船舶ノ測度甲板下ノ積量ヲ算定スルニハ各階段ニ從ヒ船體ヲ區分シ各區分毎ニ測度甲板ノ長ヲ測リ之ヲ第三條ノ測度甲板ノ長ニ充テ分長點ヲ定メ第五條ノ規定ニ依リ定メタル分深點ノ等分數ヲ以テ各區分ノ分深點ヲ定メ前條ノ規定ヲ適用シ各容積ヲ算定シ之ヲ相加フヘシ但シ各區分毎ニ測リタル測度甲板ノ長ガ九メートルヲ超エ十五メートル以下ナルトキハ之ヲ四等分シ九メートル以下ナルトキハ之ヲ二等分シ分長點ヲ定ムヘシ

第十五條 鋤鏈溝ヲ有スル浚渫船ノ測度甲板下ノ積量ヲ算定スルニハ鋤鏈溝ノ末端隔壁ヲ境界トシテ船體ヲ區分シ各區分毎ニ前二條ニ規定スル方法ニ依リ算定シタル各容積ヲ相加フヘシ

第十六條 舷端以下ノ積量ヲ算定スルニハ測度甲板下ノ積量ヲ算定スル方法ヲ準用スヘシ

第三章 測度甲板上ノ積量及舷端以上ノ積量

第十七條 測度甲板上各甲板間ノ積量ヲ算定スルニハ甲板間ノ高ノ中央ニ於テ中心線ニテ船首內張板ノ內面ヨリ船尾內張板ノ內面ニ至ル長ヲ測リ之ヲ測度甲板ノ長ノ等分數ニテ等分シ各分長點ノ高ノ中央ニ於テ內面ノ幅ヲ測リ之ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ首尾兩端ヲ除キ奇數ニ當ル幅ハ二倍シ其ノ和ニ首尾兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分長點ノ間隔ノ三分ノ一及甲板間ノ平均ノ高ヲ乘スヘシ

第十八條 上甲板上及舷端以上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ算定スルニハ左ノ規定ニ依ル

一 測度甲板ノ長ノ二分ノ一以下ノ長ヲ有スル船樓、甲板室其ノ他蔽圍シタル場所ニ在リテハ高ノ中央ニテ前後及中央ニ於ケル內面ノ幅ヲ測リ中央ノ幅ノ四倍ニ前後ノ幅ヲ加ヘ之ニ平均ノ長ノ六分ノ一ト平均ノ高トヲ乘スヘシ

二 測度甲板ノ長ノ二分ノ一ヲ超ユル長ヲ有スル船樓、甲板室其ノ他蔽圍シタル場所ニ在リテハ其ノ長ヲ四等分シ前條ニ規定スル方法ヲ準用スヘシ

第十九條 船舶積量測度法第三條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ申請アリタル場合ニ於テ上甲板上ノ機關室ノ積量ノ全部又ハ一部ヲ總積量ニ算入スルハ純積量ヲ減少スル結果ヲ生スル場合ニ限ル

前項ノ機關室ノ積量ニハ上甲板上ニ在ル機關室圍壁及之ニ附屬スル蔽圍シタル場所ノ積量ヲモ包含ス

第一項ノ機關室ノ積量ノ一部ハ機關室ノ一部ニシテ甲板又ハ甲板ノ延長面及圍壁ニ依リ區畫シタル場所ノ積量ヲ謂フ

第四章 總積量ニ算入セサル上甲板上ノ場所

第二十條 船樓、甲板室其ノ他ノ場所又ハ其ノ一部ニシテ其ノ側壁又ハ端壁ニ幅九十一センチメートル以上高百二十二センチメートル以上（緣材ヲ附スルトキハ其ノ高六十一センチメートル以下）ナル一箇以上ノ出入口ヲ有シ之ニ扉又ハ之ニ準スヘキ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサルトキハ其ノ積量ヲ總積量ニ算入セス但シ旅客ニ供用セラルル場合又ハ出入口一箇ノミヲ有スル船樓ニシテ其ノ兩舷側ニ適當ノ排水口及排水孔ヲ備ヘサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 遮浪甲板ト上甲板トノ間ノ場所ニシテ左ノ規定ニ適合スル部分ノ積量ハ之ヲ總積量ニ算入セス但シ旅客ニ供用セラルル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 遮浪甲板ニ長百二十二センチメートル以上幅同甲板ノ後部正艙口ノ幅ヨリ少カラサル常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル甲板口ヲ有シ且遮浪甲板上ヨリ操作シ得ル螺旋締裝置ヲ有スル徑十三センチメートル以上ノ自働不還弁ヲ

該口直下ノ兩舷側ニ備フルコト

二　前號ノ甲板口ヲ船尾ニ設クルトキハ其ノ後端ヲ船尾材ノ後面ヨリ船ノ長ノ二十分ノ一ヨリ少カラサル距離ニ、船首ニ設クルトキハ其ノ前端ヲ船首材ノ前面ヨリ船ノ長ノ五分ノ一ヨリ少カラサル距離ニ設クルコト

前項ノ船ノ長トハ測度甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル水平距離ヲ謂フ

三　第一號ノ甲板口ヲ船尾ニ設クルトキハ其ノ直下ノ甲板間ニ於テ該口ヨリ船首ニ在ル横通隔壁ニハ前條ノ規定ニ依ル出入口二箇以上ヲ設クルコト

四　第一號ノ甲板口ノ縁材ノ高ハ甲板上平均三十センチメートルヲ超エサルコト又該口ノ周圍ニハ之ヲ水密ニ閉鎖シ得サル樣柵欄ヲ設クルコト

第二十二條　賄室トハ厨室及麵麭燒室ヲ謂フ

第二十三條　艙口ノ積量カ總積量ニ算入スヘキ艙口以外ノ場所ノ積量ノ千分ノ五以下ナルトキハ之ヲ總積量ニ算入セス

艙口ノ積量カ總積量ニ算入スヘキ艙口以外ノ場所ノ積量ノ千分ノ五ヲ超ユルトキハ其ノ超過積量ニ限リ之ヲ總積量ニ算入ス

第二十四條　飲食水蒸溜機、消防消毒用瓦斯發生機、「サーモタンク」、探海燈及燈塔ニ供用セラルル場所ノ積量ハ之ヲ總積量ニ算入セス

遞信大臣ハ前項ニ掲クル場所ノ外船舶積量測度法第三條第一項第四號ノ規定ニ依リ同項第一號乃至第三號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所ヲ指定スルコトアルヘシ

第五章　純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ場所ノ積量

第二十五條　純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ場所ノ積量ノ算定ニ付テハ特ニ規定アル場合ヲ除タノ外第十八條ノ規定ヲ準用ス

第二十六條　船員常用室トハ船長ノ專用スル諸室、海員ノ專用スル寢室、食堂、食器室、飲食料倉庫、洗面室、浴室、病室、藥局、厨室、麵麭燒室及便所竝以上各室ニ專屬スル通路及採光通風ニ要スル場所ヲ謂フ

第二十七條　海圖室トハ海圖、信號器具其ノ他航海用器具ニ供用セラルル場所ヲ謂フ

第二十八條　荷足水艙トハ二重底水艙ヲ除クノ外人孔ノミヲ備ヘ貨物、倉庫品及燃料ヲ積載スルニ適セサル構造ヲ有スル水艙ヲ謂フ

第二十九條　荷足水艙ノ積量ヲ算定スルニハ水艙ノ頂板ノ長ヲ測リ其ノ長九メートル以下ナルトキハ之ヲ二等分シ九メートルヲ超エ十五メートル以下ナルトキハ之ヲ四等分シ十五メートルヲ超ユルトキハ之ヲ第三條ノ測度甲板ノ長ニ充テ之ヲ等分シ又船ノ中央ニ近キ分長點ノ深ヲ測リ其深五メ

ートル以下ナルトキハ之ヲ二等分シ五メートルヲ超ユルトキハ之ヲ四等分シ第十二條及第十三條ノ規定ヲ準用スヘシ

第三十條　機關室ノ積量トハ機關室ノ冠頂下ノ場所、冠頂ト上甲板トノ間ノ場所及車軸隧道ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ謂フ

船舶所有者ノ申請ニ依リ上甲板上ノ機關室ノ積量ノ全部又ハ一部ヲ總積量ニ算入シタルトキハ之ヲ機關室ノ積量ニ算入ス

機關室ノ積量中船舶ノ推進ニ關係ナキ場所アルトキハ其ノ積量ヲ機關室ノ積量ヨリ除去スヘシ

第三十一條　機關室ノ冠頂下ノ場所、冠頂ト上甲板トノ間ノ場所、上甲板上ノ場所及車軸隧道ノ積量ヲ算定スルニハ平均ノ長、幅及高又ハ深ヲ相乘スヘシ

第三十二條　螺旋推進器ヲ有シ車軸隧道ヲ設ケサル船舶ニ於テ車軸ニ供用セラルル場所ノ積量ヲ算定スルニハ中間軸ノ徑ノ三倍ヲ自乘シ之ニ機關室後端隔壁ヨリ船尾管前端ニ至ル長ヲ乘スヘシ

第三十三條　機關室內ノ船舶ノ推進ニ關係ナキ場所ノ積量ヲ算定スルニハ其ノ平均ノ長、幅及高又ハ深ヲ相乘スヘシ

第三十四條　船舶積量測度法第六條第一項第二號但書ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ申請アリタル場合ニ於テ同項第一號ノ規定ヲ適用スルハ機關室ノ積量カ螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ總積量ノ百分ノ十三以下、外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ總積量ノ百分ノ二十以下ニシテ特別ノ事由アル場合ニ限ル

第三十五條　水夫長倉庫トハ甲板用諸器具、覆布、滑車類、端艇用附屬具、救命具及索類ヲ藏置スル場所ヲ謂フ

第三十六條　純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スベキ水夫長倉庫ノ積量ハ總積量ニ應シ左表ニ掲クル控除積量ヲ超ユルトキハ之ヲ該積量ニ止ム但シ二百十三立方メートルヲ超ユルコトヲ得ス

總積	控除積量
四百立方メートル未滿	八立方メートル
四百立方メートル以上千四百立方メートル未滿	總積量ノ百分ノ二
千四百立方メートル以上二千八百立方メートル未滿	二十八立方メートル
二千八百立方メートル以上	總積量ノ百分ノ一

第三十七條　無線電氣機具、其ノ從事員室、飲料水蒸溜機、消防消毒用瓦斯發生機、「サーモタンク」及「コツファーダム」ニ供用セラルル場所ノ積量ハ純積量算定ニ付總積量ヨリ之ヲ控除スヘシ

遞信大臣ハ前項ニ掲クル場所ノ外船舶積量測度法第四條第七號ノ規定ニ依リ同條第一號乃至第六號ニ掲クルモノニ準

スヘキモノト認ムル場所ヲ指定スルコトアルヘシ

附　則（昭和七年四月遞信省令第十號附則）

本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ノ申請ニ基ク船舶ノ積量ノ測度ハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

附　則（昭和十一年十月遞信省令第五十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

船舶積量測度心得（大正三年七月遞信省訓令第一號）

改正〔大正五年二月訓令第一號　昭和七年四月訓令第一號〕〔昭和十一年十月訓令第二號〕

第一章　總　則

第一條　本訓令ハ長二十メートル以上ノ船舶ノ積量ノ測度ニ關スル心得ヲ示スモノトス

第一條ノ二　船舶ノ積量ハ登記登錄ノ基礎トナリ諸稅手數料賦課ノ標準トナルモノナレハ之カ誤測アルニ於テハ訂正ノ手續容易ナラサルニ付測度ニ際シテハ特ニ周密ナル注意ヲ拂ヒ精確ヲ期スヘシ

第二條　測度ニ當リ疑義ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ詳細ヲ具シ必要ト認ムルトキハ圖面ヲ添ヘ本省ノ指揮ヲ受クヘシ

第三條　製造中ノ檢査ヲ行フ船舶ニ付テハ成ルヘク適當ナル時期ニ於テ部分測度ヲ行ヒ測度申請アリタル場合ノ參考ニ供スヘシ

第四條　管海官廳ニ於テハ豫メ標準距離ヲ設定シ時々測定用卷尺ヲ之ト照合シ其ノ尺差ヲ檢査シタル上使用スヘシ

卷尺ヲ濕潤セシメクルトキハ之ヲ掃拭シ充分乾燥セシメタル後更ニ油布ヲ以テ清拭スヘシ

第五條　下層甲板カ貨物艙又ハ横置燃料艙ニ於テ切斷スルトキハ該甲板ハ船舶積量測度法第二條ニ掲クル甲板ノ層數ニ加ヘス

第六條　低船首尾樓甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ該船樓ノ部分ニ於テ該甲板ト平行シテ上甲板ノ延長面ヲ假定シ之ヲ船舶積量測度法第二條及第三條ニ掲クル上甲板ト看做ス

第七條　船舶積量測度規程第二條ノ規定ニ依リ測度甲板ノ長ヲ測ルニハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一　船首內張板及船尾內張板ト稱スルハ測度甲板ノ直下ニ於ケル內張板ヲ謂フ

二　甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ測度甲板上ニ於ケル船首ヨリ船尾ニ至ル水平距離ヲ測リ得ルトキハ測度甲板上ニ沿ヒタル距離ノ代リニ該距離ヲ採ルモ妨ナシ甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテモ前項ニ準シ取扱フヘシ

三　船尾ニ戶建ヲ有スル木製帆船ニ在リテハ測度甲板ノ長ハ戶建ノ內面迄測ルヘシ

四　船首ニ於テ上甲板ニ傾斜アル木製帆船ニ在リテハ測定甲板ノ長ハ該甲板ノ下面ト船首材トノ交叉部ヲ標準トシテ測ルヘシ

第八條　船首尾艙ニ於ケル分長點ノ深ハ船首尾隔壁ニ接スル二重底又ハ普通肋板ノ頂面ノ延長面迄測ルヘシ

第九條　鐵鋼船ノ船底內張板及艙內船側內張板ノ厚カ七・五センチメートルヲ超ユルトキハ之ヲ七・五センチメートルト看做シ測ルヘシ

鐵鋼船ノ冷藏艙ニ設クル內張板ニ付テモ前項ニ準シ取扱フヘシ

鐵鋼船ノ船底內張板ノ横木ノ高ハ之ヲ內張板ノ厚ニ算入ス

第十條　木船ノ內張板ノ厚ハ實際ノ寸法ヲ採ルヘシ

木船ノ肋根材上ニ設ケタル横木ノ高ハ內張板ノ厚ニ算入セス

木船ノ梁受板、艙內縱通材及彎曲部通材ハ內張板ノ一部ト看做シ船艙ノ幅ヲ測ルヘシ

第十一條　船舶積量測度規程第六條第二項ニ掲クル船側內張板ノ平均ノ厚ハ內張板又ハ「バッテン」ノ間隔カ三十センチメートル以下ナルトキハ其ノ厚ノ平均ヲ、三十センチメートルヲ超ユルトキハ其ノ厚ヲ全心距ニ等布シタルモノヲ採ルヘシ

前項ノ間隔カ九十センチメートルヲ超ユルトキハ內張板ナキモノト看做シ取扱フヘシ

第十二條　內張板ヲ備ヘサル船艙ノ深ハ二重底內底板、肋板又ハ肋根材ノ上面迄、其ノ幅ハ肋骨ノ內面迄測ルヘシ但シ肋骨ノ心距百二十二センチメートルヲ超ユル木船ノ船艙ノ深又ハ幅ハ外板ノ內面迄測ルヘシ

第十三條　艙內ニ內張板ヲ有シ船首尾艙又ハ機關室等ニ內張板ヲ有セサル船舶ノ船艙ノ深及幅ハ測度スヘキ箇所ノ實際ノ寸法ヲ採ルヘシ

第十四條　分深點カ「ボッス」ノ位置ニ在ル場合ニ於テハ分深點ノ幅ハ「ボッス」ヲ構成スル肋骨ノ內面ヨリ內面迄測ルヘシ

第十五條　肋骨ノ深ニ階段アル船舶ノ船艙ノ幅ハ測度スヘキ箇所ノ實際ノ寸法ヲ採ルヘシ

肋骨一本置キニ肋骨ノ深ヲ異ニスル船舶ノ船艙ノ幅ハ深ノ大ナル肋骨迄測ルヘシ

第十六條　二重底ヲ備ヘサル船舶ノ船底ノ幅ハ肋板又ハ肋根材ニ水平ナル部分アルトキハ該部分ノ幅ヲ採リ、肋板又ハ肋根材カ傾斜スルトキハ內龍骨ノ幅ヲ採ルヘシ

第十七條　二重底內底板カ凸面ナル場合ニ於テハ分長點ノ深ハ中心線ニ於ケル內底板迄ノ深ニ山形ナルトキハ緣板上ヨリ測リタル山形ノ高ノ二分ノ一ヲ加ヘタルモノ、蒲鉾形ナルトキハ緣板上ヨリ測リタル蒲鉾形ノ高ノ三分ノ一ヲ加ヘ

タルモノヲ採ルヘシ

前項ノ場合ニ於テ最下分深點ノ幅ハ緣板ヨリ緣板ニ至ル水平距離ヲ測ルヘシ

二重底内底板カ船側ニ達スル場合ニ於テハ船側肋骨ノ内底板ニ固著スル肘板ノ内緣ヲ前二項ノ緣板ノ位置ト看做ス

第十八條 船舶積量測度規程第五條ノ規定ノ適用ニ當リ中心線内底板ト緣板トノ高ノ差カ十五センチメートル未滿ナルトキ又ハ内底板カ凹面ナルモ彎曲セサルトキハ副分深點ヲ設ケスシテ前條ニ準シ測度スルモ妨ナシ

第十九條 上甲板上蔽圍シタル場所及純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ場所ニシテ其ノ形狀複雜ナルモノニ在リテハ檢査官吏ハ計算上便宜ニシテ且精密ノ結果ヲ得ヘシト認ムル場合ニ限リ先ツ全容積ヲ測リ之ヨリ算入スヘカラサル部分ノ容積ヲ減シ其ノ場所ノ容積ヲ算定スルモ妨ナシ

第二十條 船舶積量測度法第三條及第四條ニ掲クル副汽機トハ蒸汽喞筒及喞筒ト連結シタル汽機ヲ謂フ

第二十一條 船舶積量測度規程第二十條及第二十一條ニ掲クル場所ニシテ旅客ニ供用セサルカ爲總積量ニ算入セサル場所及船員常用室トシテ純積量ヲ算定スル爲總積量ヨリ控除シタル場所ヲ旅客ニ供用スルトキハ改測ノ申請ヲ爲サシムヘシ

第二十一條ノ二 修繕又ハ模樣替ノタメ積量ニ變更ヲ生スヘキ場合ト雖短期間ノ後復舊スヘキコト明ナル場合ニ於テハ積量ニ變更ナキモノト看做スコトヲ得

第二章　測度甲板下ノ積量及舷端以下ノ積量

第二十二條 船舶積量測度規程第十四條ノ規定ヲ適用スルニハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一　全通二重底ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ下部ニ於ケル二重底ニ三十センチメートル以下、機關室ノ下部以外ノ二重底ニ十五センチメートル以下ノ階段アルモ區分測度ヲ爲スニ及ハス

二　車軸隧道端室ニ於テ二重底又ハ普通肋板ニ階段アルモ區分測度ヲ爲スニ及ハス

三　二重底ヲ備フル船舶ニシテ汽罐室ノ下部ノミニ二重底内底板ヲ張ラサルカ又ハ普通肋板ヲ有スルトキハ區分測定ヲ爲サスシテ他ノ部分ト同一ノ高ヲ有スル二重底ヲ備フルモノト看做シ測度スヘシ

四　普通肋板ノミヲ有スル船舶ニシテ機關室ノ下部ニ於ケル肋板ニ高低アルモ區分測度ヲ爲サスシテ他ノ部分ト同一ノ高ヲ有スル普通肋板ヲ有スルモノト看做シ測度スヘシ

五　二重底ノ階段カ漸次傾斜スルモノニ在リテハ該傾斜部ハ二重底ノ高ノ低キ部分ト同一區畫トシテ取扱フヘシ

第二十三條 漁船ノ生洲及浚渫船ノ泥艙ノ積量ハ之ヲ總積量ニ算入ス

前項ノ生洲及泥艙ニ付テハ區分測度ヲ爲サスシテ其ノ部分ノ分長點ノ深ハ其ノ前後ニ於ケル二重底内底板、肋板又ハ肋根材ノ頂面ノ延長面迄測ルヘシ

第三章　測度甲板上ノ積量及舷端以上ノ積量

第二十四條 船舶積量測度規程第十七條ニ掲クル甲板間ノ平均ノ高トハ各分長點ニ於テ中心線ヨリ船ノ幅ノ約四分ノ一ノ所ニテ測リタル上層甲板ノ下面ヨリ下層甲板ノ上面ニ至ル平均ノ高ノ平均ヲ謂フ

第二十五條 上甲板上及舷端以上蔽圍シタル場所ニシテ二箇以上ノ室ヨリ成ルモノト雖相連續セル圍壁ヲ有スルトキハ一區畫室トシテ取扱ヒ其ノ長及幅ハ圍壁ノ内面ヨリ内面迄測ルヘシ

第二十六條 船舶積量測度規程第十八條ノ規定ニ依リ後端圓形ナル船尾樓又ハ低船尾樓ノ積量ヲ算定スル場合ニ於テハ平均ノ長ハ高ノ中央ニ於テ中心線ニテ船樓ノ前端内面ヨリ船尾ノ内面返測リタルモノヲ、後端ノ幅ハ船尾端ノ幅ノ代リニ高ノ中央ニ於テ船尾材ノ前面ニテ測リタルモノヲ採ルヘシ

船舶積量測度規程第十七條ノ規定ニ依リ後端圓形ナル甲板間ノ積量ヲ算定スル場合ニ於テモ亦前項ニ準シ取扱フヘシ

前二項ノ方法ニ依ルヲ特ニ不適當ナリト認ムルトキハ檢査官吏ハ適當ノ方法ニ依リ後端ノ幅ヲ算定スヘシ

第二十七條 船樓端ニ於テ舷側ニ外板ヲ有スル突出部アルトキハ其ノ容積ハ之ヲ船樓ノ積量ニ加ヘ其ノ他ノ突出部ハ小ナルモノニ在リテハ其ノ容積ハ之ヲ船樓ノ容積ニ加ヘ大ナルモノニ在リテハ之ヲ甲板室ノ一部トシテ取扱フヘシ

第四章　總積量ニ算入セサル上甲板上ノ場所

第二十八條 操舵機具、繫船機具、揚錨機具及副汽罐副汽機ニ供用セラルル場所トハ此等ノ機具機關ニ供用スル爲特ニ設ケタル室又ハ區畫アルトキハ該室又ハ該區畫ヲ、室又ハ區畫ナキトキハ其ノ實際占有スル場所及檢査官吏ニ於テ其ノ取扱ニ必要ナリト認ムル場所ヲ加ヘタルモノヲ謂フ

第二十九條 船舶積量測度規程第二十條ニ掲クル扉ニ準スヘキ常設閉鎖裝置トハ引戸及捩止釘又ハ鉤形止釘ヲ以テ閉鎖シ得ル板戸ヲ謂フ

出入口ノ兩側ニ設ケタル竪溝形材ニ挿板ヲ爲セル裝置ハ之ヲ前項ノ常設閉鎖裝置ト看做サス

船樓、甲板室其ノ他ノ場所又ハ其ノ一部ニシテ出入口一箇ヲ有スルモノト雖該出入口ノ面積カ特ニ大ニシテ出入口二箇以上ヲ有スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認メ得ヘキ場所ノ取扱ニ付テハ圖面ヲ添ヘ意見ヲ具シ本省ノ指揮ヲ受クヘシ

第三十條 船舶積量測度規程第二十條ニ掲クル適當ノ排水口

トハ高約五十一センチメートル幅約三十八センチメートルノモノトシ甲板間ニ設クル排水孔ノ間隔ハ約十メートルニ付各舷一箇ノ割合トス但シ部分隔壁ヲ以テ區分セラルル場合ニ於テハ該區分毎ニ各舷一箇以上ノ排水孔ヲ設クヘキモノトス

第三十一條 厨室トハ「ガレー」「スカレリー」及流シ場ヲ謂フ

第三十二條 上甲板以上ニ在ル出入口ノミニ供用セラルル場所ハ之ヲ出入口室ノ一部ト看做シ其ノ積量ヲ總積量ニ算入セス

第三十三條 船舶積量測度規程第二十三條ニ掲クル艙口ノ積量トハ暴露甲板ニ在ル艙口及載炭口ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ謂フ

圍壁艙口ニ非サル艙口又ハ載炭口ノ徑、長又ハ幅一メートル未滿ナルトキハ其ノ積量ハ之ヲ前項ノ艙口ノ積量ニ算入セス

圍壁艙口ノ積量ハ暴露甲板以上ニ在ルモノハ之ヲ艙口ノ積量ニ算入ス

遮浪甲板下又ハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル船樓下ノ上甲板ハ前二項ニ掲クル暴露甲板ト看做ス

艙口ノ一部ニ出入口室ヲ假設スルトキハ該出入口室ナキモノト看做シ艙口ノ積量ヲ算定ス

第三十四條 上甲板上ニ在ル採光通風ニ要スル場所ノ積量トハ天窓、其ノ圍壁内及通風圍壁内ノ積量ヲ謂フ

「カウル」「マツシユルーム」「グースネツク」其ノ他專賣式ノ頭部ヲ有スル通風管ニシテ蔽圍シタル場所ニ在ル部分ノ該積量ハ之ヲ場所ノ積量ニ算入ス

第三十五條 大型旅客船ニ在リテハ上甲板以上ニ於テ食堂上ノ「ドーム」ト其ノ直上ノ甲板トノ間ニ中間ノ場所アルトキハ圍壁ナキモノト雖圍壁アルモノト看做シテ其ノ積量ヲ算定シ之ヲ採光通風ニ要スル場所ノ積量ニ算入スヘシ

第三十六條 浴室ト便所トヲ同室内ニ設ケタルトキハ便所トシテ要スル場所ノ積量ノミヲ便所ノ積量トシテ算定スヘシ

第三十七條 操舵室ト海圖室トヲ同室内ニ設ケタルトキハ操舵ノ爲要スル場所ノ積量ノミヲ操舵室ノ積量トシテ算定スヘシ

第五章 純積量ノ算定ニ付總積量ヨリ控除スヘキ場所ノ積量

第三十八條 船員常用室ノ積量ハ各室毎ニ内法寸法ヲ測リ算定スヘシ

第三十九條 海員ノ事務室竝水先人、郵便官吏、稅關官吏、檢疫官吏、買辨、漁船ニ於テ漁獵ノミニ從事スル者、理髮人及海員ニ非スシテ船中ニ於テ職務ヲ行フ者ニ供用セラルル諸室ノ積量ハ之ヲ船員常用室ノ積量ニ算入セス

船舶及旅客ニ併用スル場所ノ積量ハ之ヲ船員常用室ノ積量ト

ニ算入セス但シ旅客船ニ非サル船舶又ハ臨時旅客ヲ搭載シタル爲旅客船ト爲リタル船舶ニ於テ船員及旅客ニ併用スル場所ノ積量竝旅客船ニ臨時旅客ヲ搭載シタル場合ニ於テ船員及臨時旅客ニ併用スル場所ノ積量ハ之ヲ船員常用室ノ積量ニ算入ス

第四十條 船首尾水艙ハ淡水艙ノミニ用ヰラルル場合ト雖之ヲ荷足水艙ト看做ス

第四十一條 船舶積量測度規程第二十九條ノ規定ニ依リ船首尾水艙ノ積量ヲ算定スル場合ニ於テ各分長點ノ深ハ船首尾隔壁ニ接スル二重底又ハ普通肋板ノ頂面ノ延長面迄測ルヘシ

第四十二條 機關室カ二室以上アル場合ニ於ケル各室間ノ通路、機關室又ハ車軸隧道ヨリ上甲板ニ至ル通路ノ積量ハ之ヲ機關室ノ積量ニ算入ス

第四十三條 船舶積量測度法第四條ニ掲クル主喞筒トハ淦水排出ニ供用セラルル蒸汽喞筒ヲ謂フ

第四十四條 主機關ト連結シタル副汽罐ニ供用セラルル場所ノ積量ハ之ヲ機關室ノ積量トシテ取扱フヘシ

第四十五條 船舶積量測度規程第三十條ニ掲クル機關室内ニ於ケル船舶ノ推進ニ關係ナキ場所トハ該室内ニ於テ主機關ト連結セサル副汽罐、發電機、製氷機、倉庫、工作場、操舵機、消防消毒用瓦斯發生機、飲料水蒸溜機、艙内送風機ニ供用セラルル場所又ハ特ニ構成シタル豫備螺旋軸置場ニシテ區畫アルトキハ該區畫ヲ、區畫ナキトキハ其ノ實際占有スル場所及檢査官吏ニ於テ其ノ取扱ニ必要ナリト認ムル場所ヲ加ヘタルモノヲ謂フ浚渫船其ノ他特殊ノ船舶ニ於テ特殊ノ目的ニ供用セラルル機械ヲ据附ケタル場合亦同シ

第四十六條 石炭庫及燃料油庫ノ積量ハ機關室ノ積量ニ算入スヘカラス

第四十七條 船舶積量測度規程第三十四條ノ場合ニ於テ船舶所有者ヨリ申請アリタルトキハ檢査官吏ハ意見ヲ具シ本省ノ指揮ヲ受クヘシ

附則（昭和七年四月遞信省訓令第一號）

本訓令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本訓令施行前ノ申請ニ基ク船舶ノ積量ノ測度ハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

附則（昭和十一年十月遞信省訓令第二號）

本訓令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

船舶積量測度圖解

（大正三年八月十二日決定）（昭和七年五月（船第七六九號通牒改正））

目次

第一 圖其ノ一 甲板ノ層數及測度甲板（測度法第二條心得第五條）

第一圖其ノ二　甲板ノ層數及測度甲板（測度法第二條心得第五條）

第二圖其ノ一　測度甲板ノ長（規程第二條）

第二圖其ノ二　測度甲板ノ長（規程第二條心得第七條第一號）

第三圖　木船ノ測度甲板ノ長（心得第七條第三號及第四號）

第四圖　分長點及分長點ノ深（規程第三條及第四條）

第五圖　船首尾艙ニ於ケル分長點ノ深（心得第八條）

第六圖　船側內張板又ハ「バッテン」ノ規程ノ厚（心得第九條第二項心得第十一條第一項）

第七圖　鐵鋼船ノ船底內張板下ニ橫木アル場合ノ內張板ノ規程ノ厚（心得第九條第三項）

第八圖　二重底內底板カ凸面ナル場合ノ分長點ノ深及最下分深點ノ幅（規程第四條第二號心得第十七條第一項及第二項）

第九圖　二重底內底板カ凹面ナル場合ノ分深點及副分深點（規程第五條）

第十圖　二重底內底板カ船側ニ達スル場合ニ於ケル最下分深點ノ幅（心得第十七條第三項）

第十一圖　二重底內底板カ凹面ニシテ彎曲セサル場合及彎曲セルモ中心線內底板ト緣板トノ高ノ差カ十五糎未滿ナル場合ノ分長點ノ深（心得第十八條）

第十二圖　木船ノ分深點ノ幅（心得第十條）

第十三圖　分深點カ「ボッス」ノ位置ニ在ル場合ノ分深點ノ幅（心得第十四條）

第十四圖　遮浪甲板ヲ有スル船舶（規程第七條及第二十一條心得第三十條）

第十五圖　形狀正整ナル場所ノ積量ノ算定（規程第九條）

第十六圖　二重底內底板又ハ肋板ノ高ニ階段アル船舶ノ測度甲板下ノ積量ヲ測定スル場合ノ區分測度（規程第十四條心得第二十二條第一號及第五號）

第十七圖　錨鏈溝ヲ有スル淺渠船ノ測度甲板下ノ積量ヲ算定スル場合ノ區分測度（規程第十五條）

第十八圖　分長點ニ於ケル甲板間ノ平均ノ高（規程第十七條心得第二十四條）

第十九圖　後端圓形ナル船尾樓及低船尾樓ノ平均ノ長及後端ノ幅（心得第二十六條第一項）

第二十圖　上甲板上ノ機關室ノ一部（規程第十九條）

第二十一圖　甲板ノ延長面ニ依リ區畫セラレタル機關室ノ部分（規程第十九條第三項）

第二十二圖　扉ニ準スル常設閉鎖裝置（規程第二十條心得第二十九條第一項及第二項）

第二十三圖　船樓、甲板室其ノ他ノ場所又ハ其ノ一部カ出入口ニ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサルカ爲總積量ニ算入セラレサル場合（規程第二十條關係）

第二十四圖其ノ一　上甲板以上ニ在ル出入口室及出入口ニノミ供用セラルル場所トシテ總積量ニ算入セサルモノ（測度法第三條心得第三十二條）

第二十四圖其ノ二　上甲板以上ニ在ル出入口室及出入口ニノミ供用セラルル場所トシテ總積量ニ算入セサルモノ（測度法第三條心得第三十二條）

第二十四圖其ノ三　上甲板以上ニ在ル出入口室及出入口ニノミ供用セラルル場所トシテ總積量ニ算入セサルモノ（測度法第三條心得第三十二條）

第二十四圖其ノ四　上甲板以上ニ在ル出入口室及出入口ニノミ供用セラルル場所トシテ總積量ニ算入セサルモノ（測度法第三條心得第三十二條）

第二十五圖　圍壁艙口內ノ場所ニシテ艙口ノ積量ニ算入スヘキモノ（心得第三十三條第三項及第四項）

第二十六圖　食堂上ノ「ドーム」ト其ノ直上ノ甲板トノ間ニ在ル中間ノ場所ニシテ採光通風ニ要スルモノトシテ總積量ニ算入セサル場所（心得第三十五條）

第二十七圖　浴室ト便所トヲ同室內ニ設ケタル場合ニ於テ便所ニノミ要スル場所トシテ總積量ニ算入セサルモノ（心得第三十六條）

第二十八圖　海圖室ト操舵室トヲ同室內ニ設ケタル場合ニ於テ操舵ニノミ要スル場所トシテ總積量ニ算入セサルモノ（心得第三十七條）

第二十九圖　機關室ノ冠頂下ノ場所、冠頂ト上甲板トノ間ノ場所及上甲板上ノ場所（規程第三十條）

第三十圖　機關室內ニ於テ推進ニ關係ナキ場所トシテ機關室ヨリ控除スヘキモノ（規程第三十條心得第四十五條）

第一圖其ノ一　甲板ノ層數及測度甲板

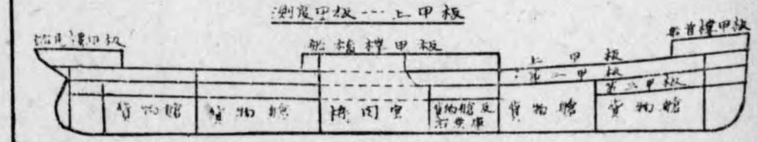
（測度法第一條心得第五條）

甲板ノ層數……三層

測度甲板……第二甲板

甲板ノ層數……二層

測度甲板……上甲板



第一圖其ノ二　甲板ノ層數及測度甲板

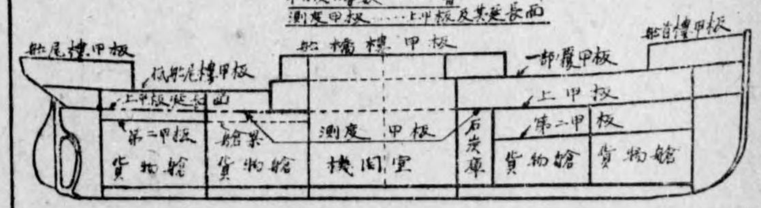
（測度法第一條心得第五條）

甲板ノ層數……一層

測度甲板……上甲板及其延長面

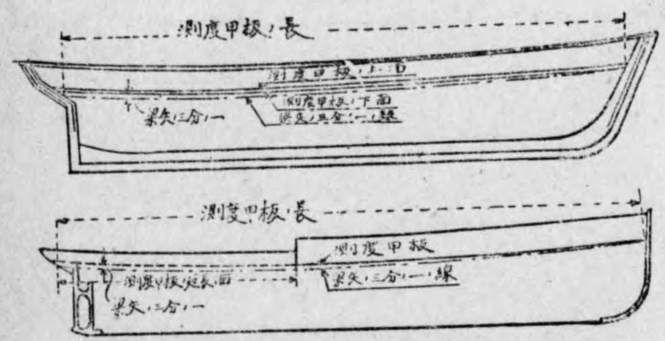
甲板ノ層數……一層

測度甲板……上甲板及其延長面



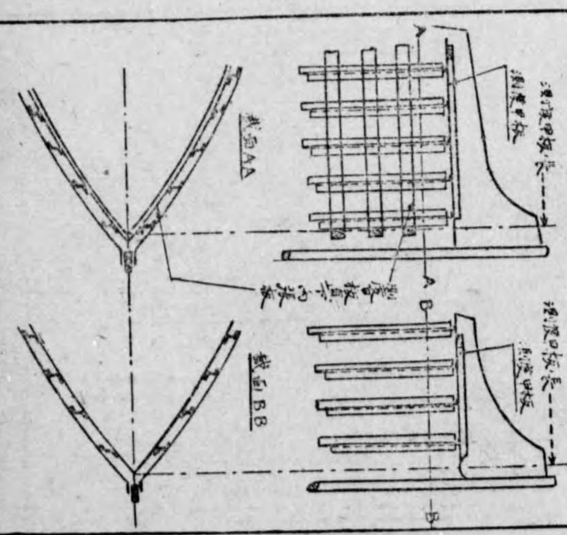
第二圖其ノ一　測度甲板ノ長

（規程第二條）



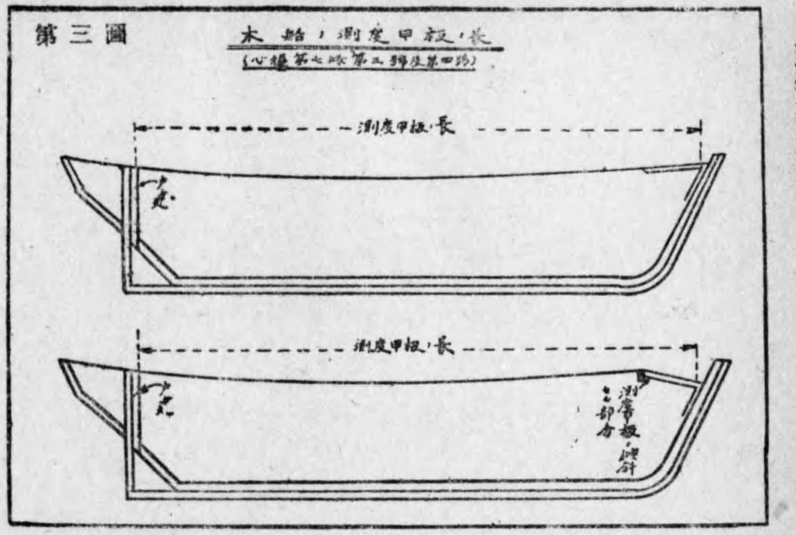
第二圖其ノ二　測度甲板ノ長

（規程第二條心得第六條第一條）



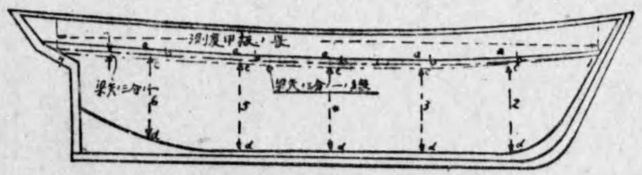
第三圖　木船ノ測度甲板ノ長

（心得第七條第二項及第四項）



第四圖　各分長點及分長點ノ深

（規程第二條及第四條）



a a a ---- 測度甲板ノ上面

b b b ---- 測度甲板ノ下面又ハ同梁上面

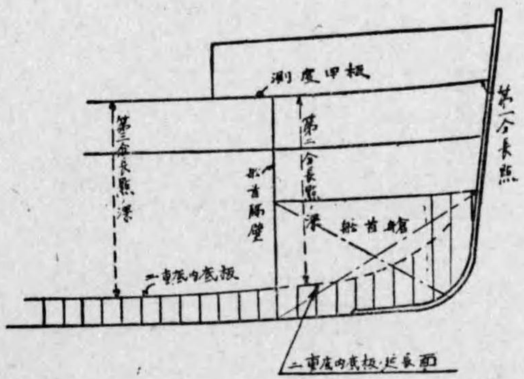
c c c ---- 測度甲板下梁矢ノ五分ノ一ノ線

d d d ---- 船體內張板ノ上面

cd cd ‥ 各分長點ノ深

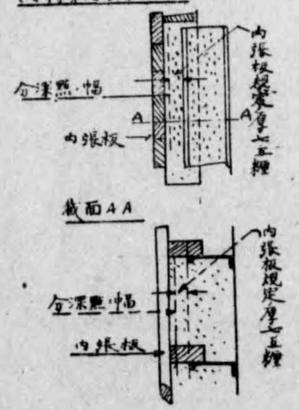
第五圖　船首及船尾ノ各分長點ノ深

（心得第八條）

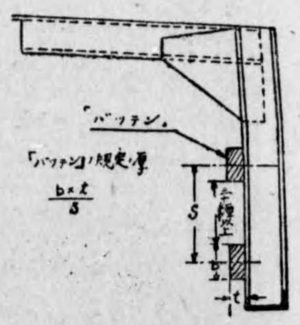


第六圖　船側內張板又ハ「バッテン」ノ規定ノ厚

鐵製船ノ分鐵ノ厚ノ場合（心得第九條第二項）

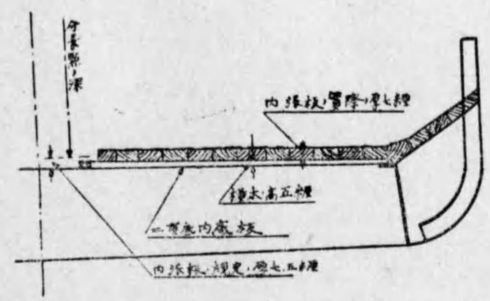


「バッテン」間隔ノ二十種ノ越ユル場合（心得第十一條第一項）



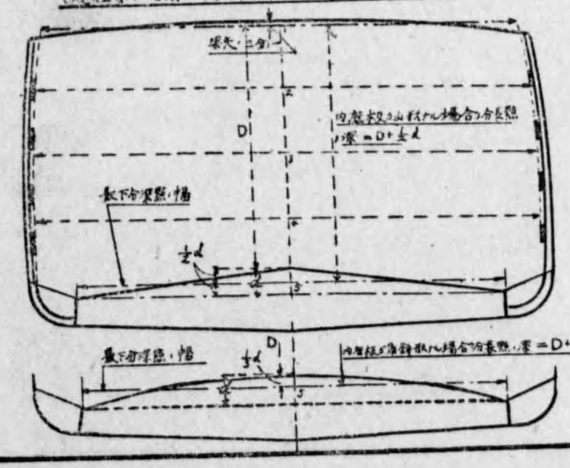
第七圖　鉄製船ノ船底内張板下端ヲ以テ場合ノ内張板規定ノ圖

（心得第九條第二項）



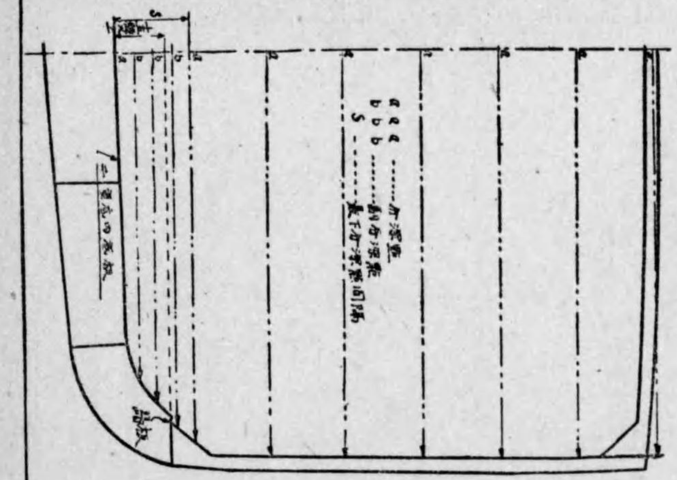
第八圖　二重底内底板ノ凹面ナル場合ノ合長點ノ深及最下部深點ノ幅

（標準第四條第二項心得第十七條第一項及第二項）



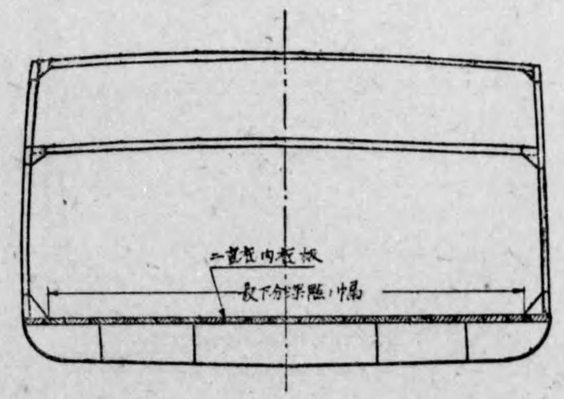
第九圖　二重底内底板ノ凹面ナル場合ノ部分深點及部分深點

（標準第五條）



第十圖　二重底内底板ガ船側ニ達スル場合ニ於ケル最下部深點ノ幅

（心得第十七條第二項）



第十一圖

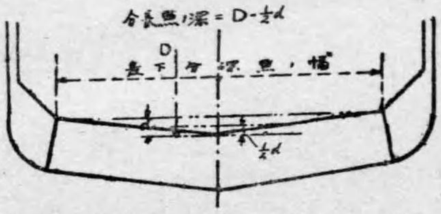
一重底内底板が間面ニシテ弯曲セサル場合及弯曲セルモ中心線

内底板ノ縁板ノ高サガ十五糎未満ナル場合ノ合長照ノ深

（心得第十八條）

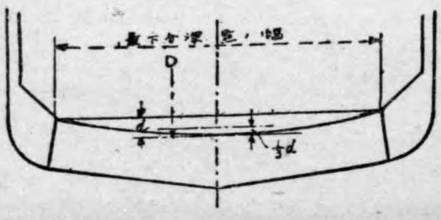
二重底内底板ノ間面ニシテ弯曲セザル場合

合長照ノ深 = D − ½d



二重底内底板ノ間面ニシテ弯曲セルdガ十五糎未満ノ場合

合長照ノ深 = D − ⅓d



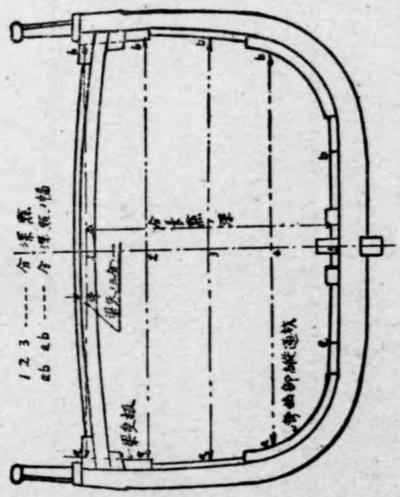
第十二圖

木船ノ分深照ノ幅

（心得第十九條）

1 2 3 ------ 分深照

ab ab ------ 分深照ノ幅



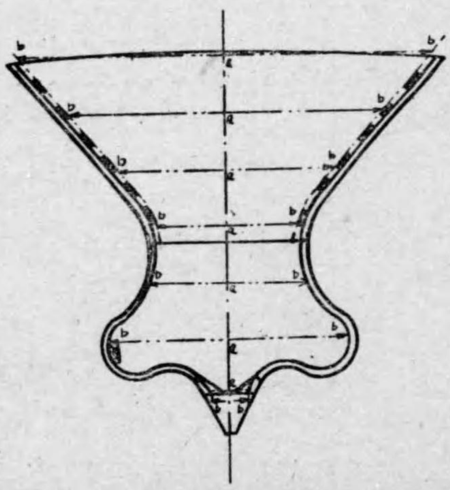
第十三圖

分深照ガ「ボリス」ノ位置ニ在ル場合ノ分深照ノ幅

（心得第十四條）

a a a ------ 分深照

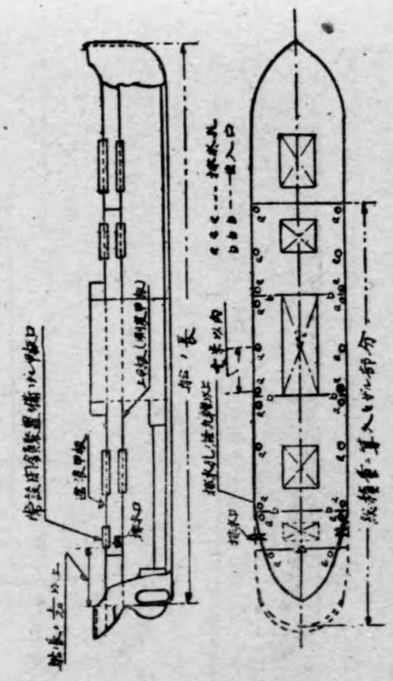
bb bb ------ 分深照ノ幅



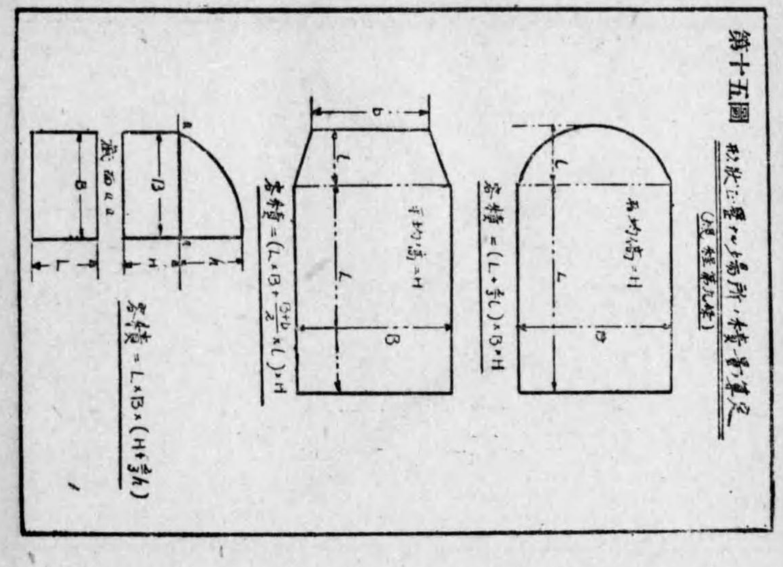
第十四圖

遮浪甲板ヲ有スル船舶

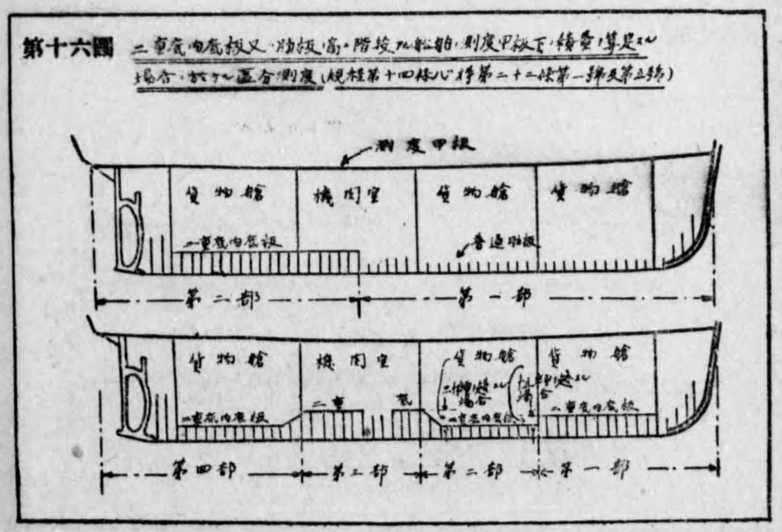
（規程第七條及第二十一條ノ備考三ノ條）



第十五圖　船艙ニ種々ノ場所ノ積量ヲ算定スル場合ノ例（規程第九條）

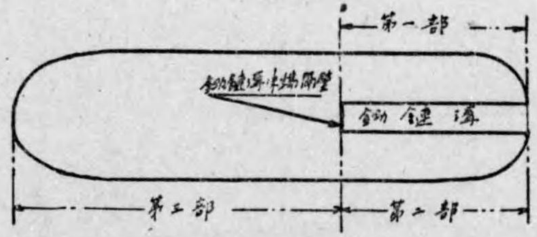


第十六圖　二重底内底板又ハ内板ノ高ノ階段ナル船舶ノ測度甲板下ノ積量ヲ算定スル場合ノ容量測度（規程第十四條ノ二第二十二條第一項及第五項）



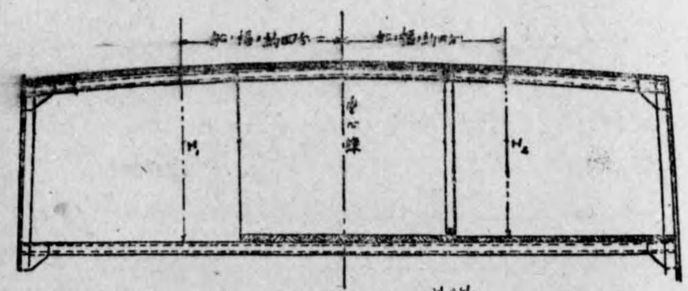
第十七圖

容量測度ニ際シ船舶ノ浸水ノ部分ヲ測度甲板下積量ヲ算定スル場合ノ例（規程第十五條）



第十八圖

容量測度ニ於ケル甲板間ノ平均ノ高（規程第十七條ノ二第二十四條）

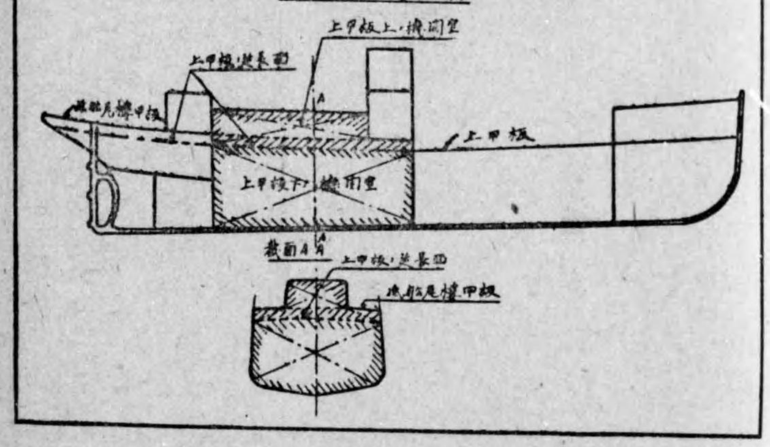


容量測度ニ於ケル甲板間ノ平均ノ高＝$\frac{H_1+H_2}{2}$

第二十一圖

甲板ノ延長面ノ線ノ區劃ノ外ノ機関室ノ部分

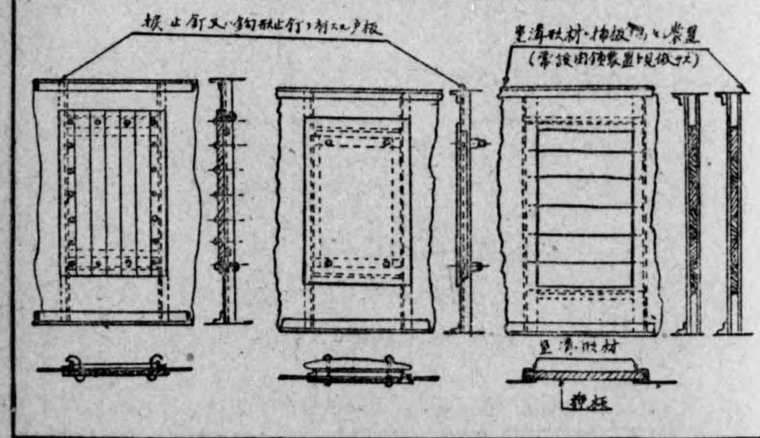
（規程第十九條　第二項）



第二十二圖

摩擦準孔常設閉鎖裝置

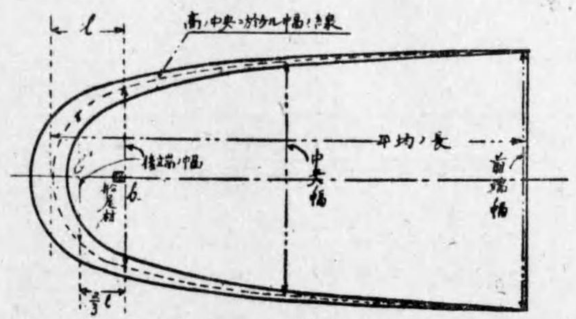
（規程第二十條心得第二十九條第一項及第二項）



第十九圖

後端ノ幅員狹ク船尾樓及船橋尾樓ノ平均ノ長及後端ノ幅ノ測

（心得第二十六條第一項）



下方ノ甲板ガ船尾ニ於テ尖ル場合……後端ノ幅 b

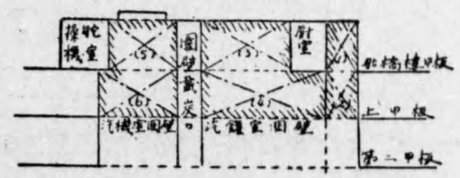
其他ノ場合及矢印ヲ船樓ノ場合……後端ノ幅 b'

第二十圖

上甲板上ノ機関室ノ一部

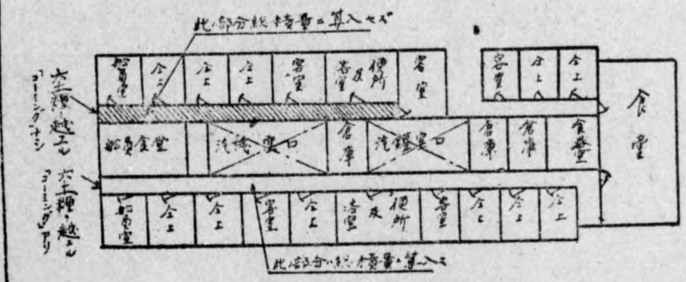
（規程第十九條）

(1)(2)(3)……各上甲板上ノ機関室ノ一部ハ



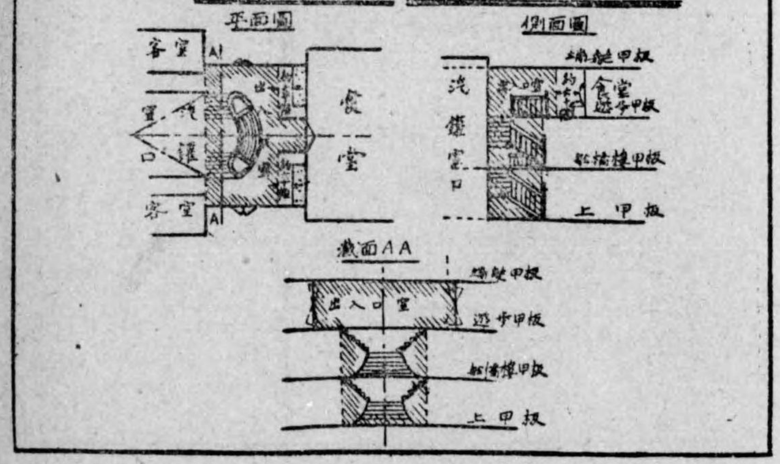
第二十三圖

船艙甲板室其他ノ場所又ハ其ノ一部ガ出入口ニ常設用鎖
裝置ヲ備ヘザルガ為総噸數ニ算入セラレサル場合
（規程第二十條関係）
（注意事項第一 十一(ホ)参照）



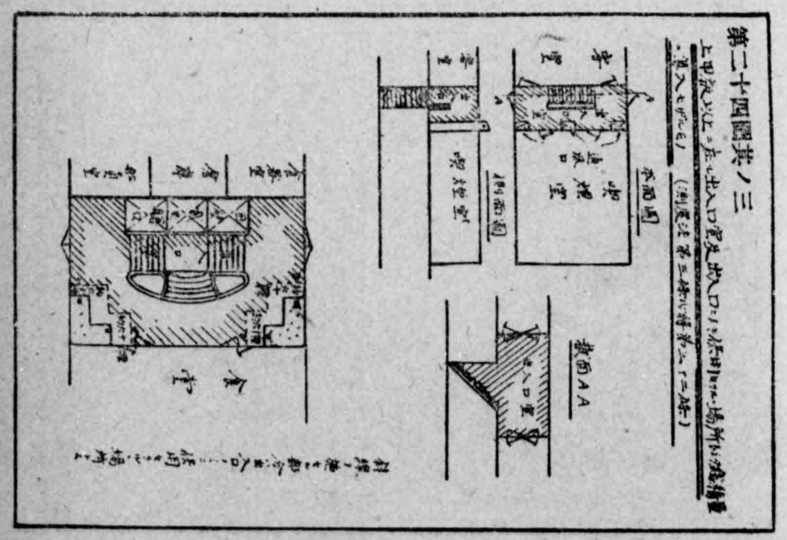
第二十四圖其ノ一

上甲板以上ニ在ル出入口室及出入口ニ常設用ヒラル場所ハ
総噸數ニ算入セザルモノ
（測度法第三條ノ特第三十二條）



第二十四圖其ノ二

上甲板以上ニ在ル出入口室及出入口ニ常設用ヒラル場所ハ
総噸數ニ算入セザルモノ
（測度法第三條ノ特第三十二條）

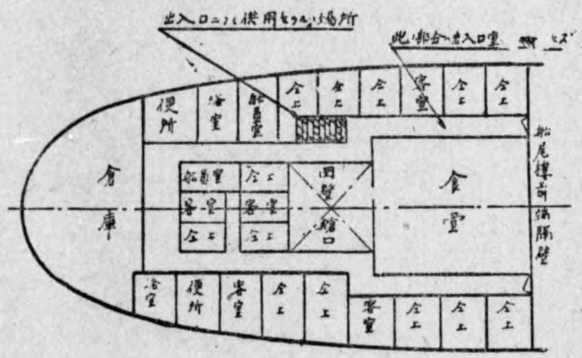


第二十四圖其ノ三

上甲板以上ニ在ル出入口室及出入口ニ常設用ヒラル場所ハ総噸數
ニ算入セザルモノ
（測度法第三條ノ特第三十二條）

第二十四圖 其ノ四

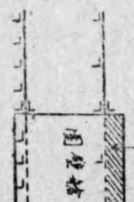
上甲板以上ニ在リ出入口蓋及出入口ニ供用セラルル場所トシテ総噸數ニ算入セザルモノ（測度法第三條ノ二第三十二條）

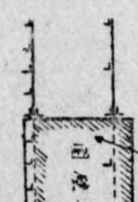


第二十五圖

圍壁囲内場所ニ在リ倉口ノ積量ニ算入スベキモノ

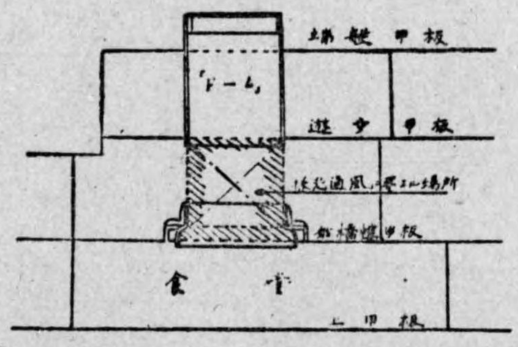
（測度法第三條第二項及第四項）



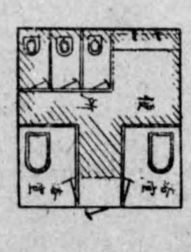


第二十六圖 食堂上ノ「ドーム」ノ頂ト甲板トノ間ニ在リ中間ノ場所ニシテ採光通風ニ要スル為トシテ総噸數ニ算入セザル場所

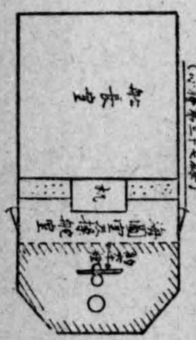
（測度法第五十五條）



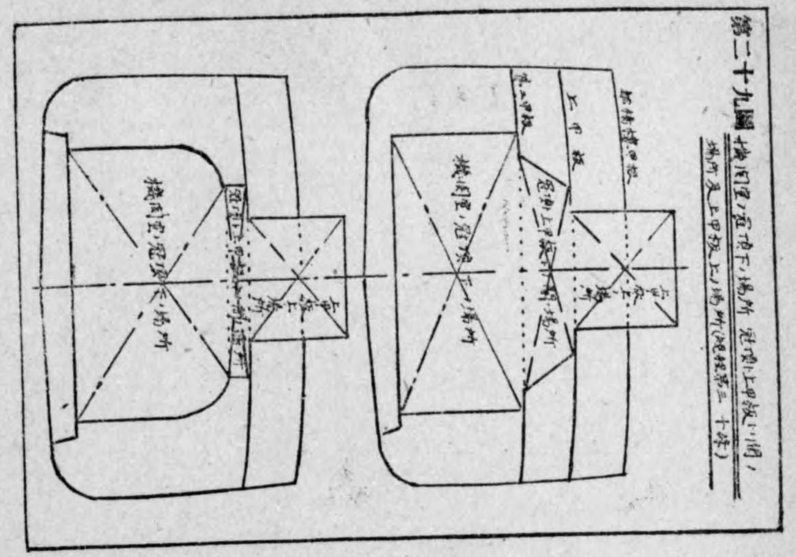
第二十七圖 浴室便所ノ間内ニ設ケラルル場所ニ於テ便所ニハ乾舷甲板ニ在リ場所トシテ総噸數ニ算入セザルモノ（測度法第三十六條）



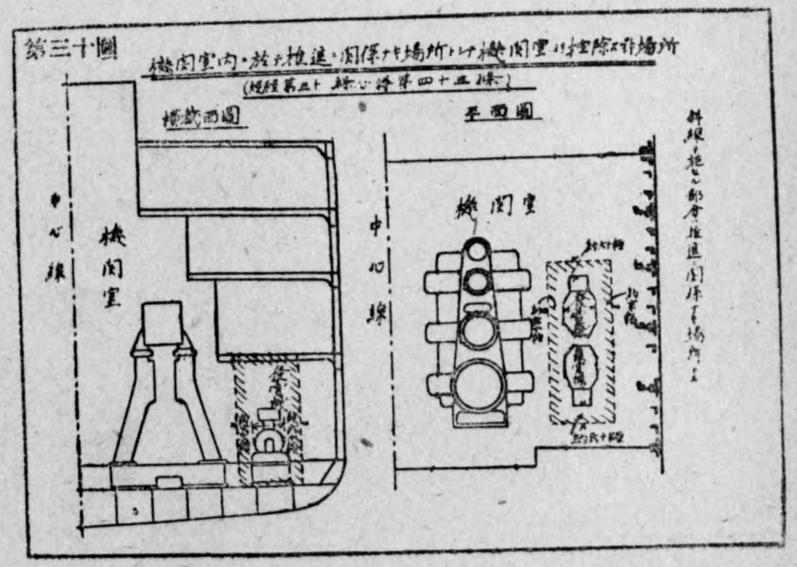
第二十八圖 食堂ニ接続スル囲壁ノ内ニ設ケラルル場所ニ於テ機械ニハ使用セラルル場所トシテ総噸數ニ算入セザルモノ（測度法第三十七條）



第二十九圖



第三十圖



船舶安全法

（昭和八年三月法律第十一號）

第一條 日本船舶ハ本法ニ依リ其ノ堪航性ヲ保持シ且人命ノ安全ヲ保持スルニ必要ナル施設ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得ズ

第二條 船舶ハ左ニ掲グル事項ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 船體
二 機關
三 帆裝
四 排水設備
五 操舵、繫船及揚錨ノ設備
六 救命及消防ノ設備
七 居住設備
八 衞生設備
九 航海用具
十 危險物其ノ他ノ特殊貨物ノ積附設備
十一 荷役其ノ他ノ作業ノ設備
十二 電氣設備
十三 前各號ノ外主務大臣ニ於テ特ニ定ムル事項

前項ノ規定ハ左ニ掲グル船舶ニハ之ヲ適用セズ

一 總噸數五噸未滿ノ船舶
二 櫓櫂ヲ以テ運轉スル舟其ノ他主務大臣ニ於テ特ニ定ムル船舶

第三條 遠洋區域ヲ航行スル船舶又ハ近海區域ヲ航行スル總噸數百五十噸以上ノ船舶ハ命令ノ定ムル所ニ依リ滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要ス但シ漁獵、曳船、海難救助、浚渫又ハ測量ニノミ使用スル船舶其ノ他主務大臣ニ於テ特ニ滿載吃水線ヲ標示スル必要ナシト認ムル船舶ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 左ニ掲グル船舶ハ無線電信法ニ依ル無線電信ヲ施設スルコトヲ要ス

一 遠洋區域又ハ近海區域ヲ航行スル總噸數千六百噸以上ノ船舶
二 遠洋區域又ハ近海區域ヲ航行スル旅客船（十二人ヲ超ユル旅客定員ヲ有スル船舶）
三 總噸數百噸以上ノ漁船

前項ノ規定ニ依リ無線電信ノ施設ヲ要スル船舶ト雖モ航海ノ目的其ノ他ノ事情ニ依リ主務大臣ニ於テ已ムコトヲ得ズ又ハ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ施設スルコトヲ要セズ

第五條 船舶所有者ハ第二條第一項ノ規定ノ適用アル船舶ニ付同條第一項各號ニ掲グル事項、第三條ノ船舶ニ付滿載吃水線、第四條ノ船舶ニ付無線電信ニ關シ命令ノ定ムル所ニ依リ左ノ區別ニ依ル檢査ヲ受クベシ

一　初メテ航行ノ用ニ供スルトキ又ハ第十條ニ規定スル有效期間滿了シタルトキ行フ精密ナル檢査（定期檢査）

二　定期檢査ト定期檢査トノ中間ニ於テ命令ノ定ムル時期ニ行フ簡易ナル檢査（中間檢査）

三　臨時ニ特殊ノ用途ニ使用スルトキ行フ檢査（特殊船檢査）

四　前各號ノ外主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキ行フ檢査（臨時檢査）

主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ中間檢査ヲ受クルコトヲ免除スルコトヲ得

第六條　本法施行地ニ於テ製造スル長サ三十メートル以上ノ船舶ノ製造者ハ第二條第一項ノ規定ノ適用アル船舶ニ付同條第一項第一號、第二號及第四號ニ揭グル事項、第三條ノ船舶ニ付滿載吃水線ニ關シ船舶ノ製造ニ著手シタル時ヨリ檢査（製造檢査）ヲ受クベシ但シ主務大臣ニ於テ已ムコトヲ得ズ又ハ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

本法施行地ニ於テ製造スル長サ三十メートル未滿ノ船舶ノ製造者ハ其ノ船舶ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ製造檢査ヲ受クルコトヲ得

本法施行地ニ於テ製造スル船舶用機關ノ製造者ハ備附クベキ船舶ノ特定前ト雖モ其ノ機關ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ檢査ヲ受クルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依ル檢査ニ合格シタル事項ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ檢査ヲ省略ス

第七條　第五條又ハ前條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依ル檢査ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ

前條第三項ノ規定ニ依ル檢査ハ船舶用機關ノ所在地ヲ管轄スル官廳之ヲ行フ

第八條　主務大臣ノ認定シタル日本ノ船級協會（以下單ニ船級協會ト稱ス）ノ檢査ヲ受ケ船級ノ登錄ヲ爲シタル船舶ニシテ旅客船ニ非ザルモノハ其ノ船級ヲ有スル間第二條第一項第一號乃至第五號、第十號乃至第十二號ニ揭グル事項及滿載吃水線ニ關シ管海官廳ノ檢査ヲ受ケ之ニ合格シタルモノト看做ス

第九條　管海官廳ハ定期檢査ニ合格シタル船舶ニ對シテハ其ノ航行區域（漁船ニ付テハ從業制限）、最大搭載人員、制限汽壓及滿載吃水線ノ位置ヲ定メ船舶檢査證書ヲ交付ス

管海官廳ハ特殊船檢査ニ合格シタル船舶ニ對シテハ特殊船檢査證書ヲ交付ス

管海官廳ハ第六條ノ規定ニ依ル檢査ニ合格シタル船舶又ハ船舶用機關ニ對シテハ合格證明書ヲ交付ス

前條ノ船舶ニ付船級協會ノ定メタル制限汽壓及滿載吃水線ノ位置ハ管海官廳ニ於テ之ヲ定メタルモノト看做ス

第十條　船舶檢査證書ノ有效期間ハ四年トス但シ命令ヲ以テ定ムル小形船ニ付テハ四年以內ニ於テ管海官廳ノ定メタル期間トス

船舶檢査證書ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ニ於テハ其ノ有效期間滿了後五月迄ハ仍其ノ效力ヲ有ス

船舶檢査證書ハ中間檢査又ハ臨時檢査ニ合格セザル船舶ニ付テハ之ニ合格スル迄其ノ效力ヲ停止ス

第八條ノ船舶ノ受有スル船舶檢査證書ハ其ノ船舶ガ當該船級ノ登錄ヲ抹消セラレ又ハ旅客船ト爲リタルトキハ其ノ有效期間滿了ス

第十一條　船舶ニ付管海官廳ノ檢査ヲ受ケタル者檢査ニ對シ不服アルトキハ其ノ事由ヲ具シ主務大臣ニ再檢査ヲ申請スルコトヲ得

再檢査ヲ申請シタル者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ關係部分ノ原狀ヲ變更スルコトヲ得ズ

第十二條　管海官廳ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ船舶ニ臨檢セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ證明スベキ證票ヲ携帶スベシ

管海官廳ハ本法ニ違反シタル事實アリト認ムルトキハ船舶ノ航行停止其ノ他ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條　船舶乘組員二十人未滿ノ船舶ニ在リテハ其ノ二分ノ一以上、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ乘組員十人以上ガ命令ノ定ムル所ニ依リ當該船舶ノ堪航性又ハ居住設備衛生設備其ノ他ノ人命ノ安全ニ關スル設備ニ付重大ナル缺陷アル旨ヲ申立テタル場合ニ於テハ管海官廳ハ其ノ事實ヲ調査シ必要アリト認ムルトキハ前條第二項ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第十四條　日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ左ニ揭グルモノニハ勅令ヲ以テ本法ノ全部又ハ一部ヲ準用ス

一　本法施行地ノ各港間又ハ湖川港灣ノミヲ航行スル船舶

二　日本船舶ヲ所有シ得ル者ノ借入レタル船舶ニシテ本法施行地ト其ノ他ノ地トノ間ノ航行ニ從事スルモノ

三　前各號ノ外本法施行地ニ在ル船舶

第十五條　主務大臣ニ於テ前條第三號ニ揭グル船舶ノ所屬地ノ本法ニ該當スル法令ヲ相當ト認メタルトキハ之ニ基キタル船舶ノ堪航性又ハ人命ノ安全ニ關スル證書ハ本法ニ依リ交付シタル證書ト同一ノ效力ヲ有ス

前項ノ規定ハ本法ニ依リ交付シタル證書ノ效力ヲ認メザル國ニ屬スル船舶ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十六條　船舶ノ堪航性及人命ノ安全ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第十七條　滿載吃水線ノ標示ヲ隱蔽、變更又ハ抹消シタル者ハ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　船舶所有者又ハ船長左ノ各號ノ一ニ該當スルト

キハ船舶所有者及船長ヲ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　船舶檢査證書ヲ受有セズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ特殊船檢査證書ヲ受有セズシテ船舶ヲ特殊ノ用途ニ使用シタルトキ

二　航行區域ヲ超エ又ハ從業制限ニ違反シテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ

三　制限汽壓ヲ超エテ汽罐ヲ使用シタルトキ

四　最大搭載人員ヲ超エテ旅客其ノ他ノ者ヲ搭載シタルトキ

五　滿載吃水線ヲ超エテ載荷シタルトキ

六　無線電信ノ施設ヲ要スル船舶ヲ其ノ施設ナクシテ航行ノ用ニ供シタルトキ

七　中間檢査ヲ受クベキ場合ニ於テ之ヲ受ケズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ

八　前各號ノ外船舶檢査證書ニ記載シタル條件ニ違反シテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ特殊船檢査證書ニ記載シタル條件ニ違反シテ船舶ヲ特殊ノ用途ニ使用シタルトキ

九　管海官廳ノ許可ヲ受ケズシテ檢査ヲ受ケタル事項ニ變更ヲ爲シ又ハ其ノ事項ニ變更アリタルニ拘ラズ適當ノ措置ヲ爲サズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ

第十九條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ第九條ニ揭グル證書ヲ受ケタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條　船舶所有者又ハ船長第十二條又ハ第十三條ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　正當ノ事由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シテ答辯ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條　船舶乘組員虛僞ノ申立ヲ爲シ管海官廳ヲシテ第十三條ノ規定ニ依ル調査ヲ爲サシメタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　船級協會ノ職員第八條ニ揭グル船舶ニ付第二條第一項第一號乃至第五號、第十號乃至第十二號ニ揭グル事項又ハ滿載吃水線ノ檢査ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價格ヲ追徵ス

第二十四條　船級協會ノ職員ニ前條ニ揭グル檢査ニ關シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十五條　本法及本法ニ基ク命令ニ依リ船舶所有者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適用シ國又ハ道府縣市町村其ノ他ノ公共團體ガ船舶所有者ナルトキハ之ヲ適用セズ

第二十六條　本法及本法ニ基ク命令中船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ在リテ船舶管理人ヲ置キタルトキハ之ヲ船舶管理人ニ、船舶貸借ノ場合ニ在リテハ之ヲ船舶借入人ニ適用シ又船長ニ關スル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ之ヲ適用ス

第二十七條　船舶ノ衝突豫防ニ關シ船舶ノ遵守スベキ船燈ノ表示、航法、信號其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ船舶ニハ海軍艦船ヲモ包含ス

第二十八條　危險物ノ運送禁止、遭難者救助、救命艇手、操練及操舵命令ニ關スル事項竝ニ危險及氣象ノ通報其ノ他船舶航行上ノ危險防止ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條　前二條ニ規定スル事項ヲ除クノ外地方長官ハ第二條第一項ノ規定ヲ適用セザル船舶ノ堪航性及人命ノ安全ニ關シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要ナル規則ヲ設クルコトヲ得

附則

第三十條　本法施行ノ期日ハ第二條第一項第十一號ニ關スル規定、同條同項第十二號ニ關スル規定、第二十七條ノ規定竝ニ他ノ一般規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條　船舶檢査法、船舶滿載吃水線法、船舶無線電信施設法及明治六年第二百九十二號布告ハ前項ノ一般規定施行ノ日ヨリ、海上衝突豫防法ハ第二十七條ノ規定ノ施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十二條　第二條第一項ノ規定ノ左ニ揭グル船舶ニハ當分ノ內之ヲ適用セズ

一　總噸數二十噸未滿ノ帆船

二　總噸數二十噸未滿ノ漁船

三　平水區域ノミヲ航行スル帆船

第三十三條　船舶滿載吃水線法ニ依リ滿載吃水線ノ標示ヲ要セザリシ船舶ニシテ本法ニ依リ其ノ標示ヲ要スルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ滿載吃水線ニ關スル檢査ヲ受クル迄之ヲ標示セザルコトヲ得

第三十四條　本法施行前ニ生ジタル事項ニ付テハ仍舊法ニ依ル但シ船級協會ノ認定其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十五條　船舶檢査法ニ依リ船舶檢査證書若ハ假證書ヲ受

有スル船舶又ハ之ヲ受有セズシテ航行ノ用ニ供スル船舶ニハ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ル迄船舶檢査、滿載吃水線及無線電信施設ニ關シ仍舊法ニ依ル

一　航行期間滿了ノ爲船舶檢査法ニ依リ檢査ヲ受クベキトキ

二　船舶檢査法ニ依リ船舶檢査證書又ハ假證書ヲ受有セズシテ航行ノ用ニ供シ得ザルニ至リタルトキ

三　船舶滿載吃水線法ニ依リ滿載吃水線ノ指定ヲ受クベキトキ

第三十六條　前條ノ船舶同條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ檢査ヲ受クベシ

前項ノ檢査ニ合格シタル船舶ニハ船舶檢査證書ヲ交付ス但シ其ノ有效期間ハ四年以内ニ於テ管海官廳ノ定メタル期間トス

前項ノ有效期間ノ滿了ハ第五條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ第十條ニ規定スル有效期間ノ滿了ト看做ス

第三十七條　他ノ法令中航路定限、遠洋航路、近海航路、沿海航路又ハ平水航路トアルハ各之ヲ航行區域、遠洋區域、近海區域、沿海區域又ハ平水區域トス

〔參照〕

明治六年八月九日第二百九十二號布告ハ危害品船積ノ法則ナリ

船舶安全法第二條第一項第十二號ニ關スル規定及同法第三十條ノ一般規定施行期日ノ件（昭和九年一月勅令第十二號）

船舶安全法第二條第一項第十二號ニ關スル規定及同法第三十條ノ一般規定ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治八年三月十五日公布　法律第十一號船舶安全法抄錄

第二條第一項

船舶ハ左ニ掲グル事項ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ施設スルコトヲ要ス

十二　電氣設備

第三十條　本法施行ノ期日ハ第二條第一項第十一號ニ關スル規定、同條同項第十二號ニ關スル規定、第二十七條ノ規定竝ニ他ノ一般規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

船舶安全法施行令（昭和九年一月勅令第十三號）

第一條　船舶安全法第一條乃至第五條、第七條第一項、第八條、第九條第一項第二項第四項、第十條乃至第十二條、第十六條乃至第二十一條、第二十三條乃至第二十六條及第二十九條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條各號ノ一ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス

第二條　船舶安全法第十三條及第二十二條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條第一號又ハ第二號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス

第三條　遞信大臣漁船ニ關シ左ニ掲グル事項ニ付法律勅令ノ制定改廢案ヲ閣議ニ提出シ若ハ省令ノ制定改廢ヲ爲サントスルトキ又ハ漁船ニ關シ船舶安全法第二十九條ノ認可ヲ爲サントスルトキハ豫メ農林大臣ニ議スベシ

一　船舶ノ構造設備及之ニ關スル法ノ適用範圍

二　滿載吃水線ノ標示及無線電信施設ニ關スル法ノ適用範圍

三　船舶ノ從業制限

四　船舶檢査ノ種類、時期及機關

附　則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

外國船舶檢査規則ハ之ヲ廢止ス

船舶安全法第三十二條乃至第三十六條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條第一號又ハ第二號ニ掲グルモノニ、同法第三十二條及第三十三條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條第三號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス

日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ船舶安全法第十四條第三號ニ掲グルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ本令施行後一年ヲ限リ本令ニ依ラザルコトヲ得

船舶安全法施行規則（昭和九年二月遞信省令第四號）

改正（昭和十五年四月省令第二二號）

目次

第一章　總則
第二章　構造及設備
第三章　滿載吃水線
第四章　無線電信
第五章　航行區域
第六章　最大搭載人員
第七章　制限汽壓
第八章　檢査ヲ行フ場合
第九章　檢査申請ノ手續
第十章　檢査ノ執行
第十一章　檢査ノ方法
　第一節　製造檢査
　第二節　定期檢査
　第三節　中間檢査
　第四節　特種船檢査及臨時檢査
　第五節　雜則
第十二章　檢査ノ準備
第十三章　證書

第十四章　再檢査
第十五章　船舶乘組員ノ不服申立
第十六章　船級協會
第十七章　航海上ノ危險防止
第十八章　雜則
第十九章　罰則
附　則

船舶安全法施行規則

第一章　總則

第一條　本令ニ於テ國際航海ト稱スルハ別ニ告示スル區域内ノ航海ヲ除クノ外一國ト他ノ國トノ間ノ航海ヲ謂フ

各植民地、海外領土、保護領又ハ宗主權若ハ委任統治ノ下ニ在ル地域ハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ一國ト看做ス

第二條　本令ニ於テ短國際航海ト稱スルハ航海中海岸ヨリ二百海里ヲ超エザル國際航海ヲ謂ヒ長國際航海ト稱スルハ短國際航海以外ノ國際航海ヲ謂フ

第三條　本令ニ於テ漁船ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ヲ謂フ

一　專ラ漁獵ニ從事スル船舶

二　漁獵ニ從事スル船舶ニシテ漁獲物ノ保藏又ハ製造設備ヲ有スルモノ

三　專ラ漁獵場ヨリ漁獲物又ハ其ノ化製品ヲ運搬スル船舶

四　專ラ漁業ニ關スル試驗、調査、指導若ハ練習ニ從事スル船舶又ハ漁業ノ取締ニ從事スル船舶ニシテ漁獵設備ヲ有スルモノ

前項第一號ノ船舶ニハ其ノ附屬漁船ヲ以テ漁獵ニ從事スル船舶ヲ、前項第二號ノ船舶ニハ其ノ附屬漁船ヲ以テ漁獵ニ從事シ且其ノ漁獲物ノ保藏又ハ製造ニ從事スル船舶ヲモ包含ス

第四條　本令ニ於テ移民船ト稱スルハ船舶安全法施行地内ノ港ニ於テ移民若ハ三等旅客五十人以上又ハ移民及三等旅客ヲ併セ五十人以上ヲ搭載シ近海區域外ノ港又ハ別ニ告示スル地方ニ到ル船舶ヲ謂フ

前項ノ移民トハ移民保護法第一條ニ該當スル者ヲ謂ヒ三等旅客トハ一室ニ八人以上雜居スル者ヲ謂フ

第五條　本令ニ於テ臨時旅客ト稱スルハ臨時ニ搭載シ得ル者ニシテ近海區域又ハ別ニ告示スル區域ニ於テハ漁夫、木材積取人夫、移住民其ノ他之ニ準ズル者又ハ軍隊、沿海區域ニ於テハ遊覽其ノ他ノ團體旅客ヲ謂フ

第六條　本令ニ於テ甲板旅客ト稱スルハ近海又ハ遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ガ船舶安全法施行地ヲ除クノ外東ハ東經百八十度、西ハ同四十度、南ハ南緯十一度、北ハ北緯三十五度ノ線ニ依リ限ラレタル區域、紅海、黃海又ハ渤海灣ニ於テ船舶ノ暴露甲板上ニ搭載スル旅客ヲ謂フ

第七條　本令ニ於テ船舶ノ長サト稱スルハ船舶ノ上甲板梁上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長サヲ謂フ

第八條　本令ノ規定ニ依ル申請、屆出又ハ證書若ハ證明書ノ返還ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶所有者又ハ船長之ヲ爲スベシ

第二章　構造及設備

第九條　船舶安全法第二條第一項ノ規定ハ倉庫船、繫留船、被曳艀船其他之ニ準ズル船舶ニハ之ヲ適用セズ

第十條　船舶安全法第二條第一項ノ規定ニ依リ船舶ニ施設スベキ事項及其ノ標準ハ鋼船ノ船體ニ付テハ鋼船構造規程、木船ノ船體ニ付テハ木船構造規程、機關ニ付テハ船舶機關規程、設備及屬具ニ付テハ船舶設備規程ノ定ムル所ニ依ル

第十一條　船舶安全法第三條ノ規定ニ依リ滿載吃水線ヲ標示スベキ船舶ハ前條ノ規定ニ依ルノ外其ノ船體及設備ニ付國際航海ニ從事スル旅客船ニ在リテハ船舶滿載吃水線規程及船舶區畫規程、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ船舶滿載吃水線規程ノ定ムル所ニ依ル

第十二條　船舶安全法第二條第一項ノ規定ニ依リ漁船ニ付特ニ施設スベキ事項及其ノ標準ハ漁船特殊規程ノ定ムル所ニ依ル

第三章　滿載吃水線

第十三條　水先船、專ラ漁業ニ關スル試驗、調査、指導若ハ練習ニ從事スル船舶、漁業ノ取締ニ從事スル船舶又ハ肋骨ヲ有セズ且推進機關ヲ有セザル木船、「ジアンク」其ノ他ノ原始的構造ノ木船ハ滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要セズ

第十四條　汽船ノ滿載吃水線ハ季節及區域ニ應ジ左ノ種類ニ分ツ

一　夏期滿載吃水線

二　冬期滿載吃水線

三　冬期北大西洋滿載吃水線

四　熱帶滿載吃水線

五　前各號ニ揭グル滿載吃水線ニ對應スル各淡水滿載吃水線

帆船ノ滿載吃水線ハ季節及區域ニ應ジ左ノ種類ニ分ツ

一　海水滿載吃水線

二　冬期北大西洋滿載吃水線

三　前各號ニ揭グル滿載吃水線ニ對應スル各淡水滿載吃水線

滿載吃水線ノ位置ノ決定竝ニ船舶ニ標示スベキ滿載吃水線ノ種類及標示ノ方法ハ船舶滿載吃水線規程ノ定ムル所ニ依ル

第十五條　國際航海ニ從事スル旅客船ハ前條ノ規定ニ依ル滿載吃水線ノ外區畫滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要ス

區畫滿載吃水線ノ位置ノ決定及標示ノ方法ハ船舶區畫規程

ノ定ムル所ニ依ル

第十六條 國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ特ニ旅客室ヲ貨物搭載場所トシテ使用スルコトアルベキモノハ當該場所ノ使用狀態ニ對應スル二箇以上ノ區畫滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ得

第十七條 甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船ハ船舶滿載吃水線規程ノ定ムル所ニ依リ木材滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ得

木材滿載吃水線ハ季節及區域ニ應ジ左ノ種類ニ分ツ

一 夏期木材滿載吃水線

二 冬期木材滿載吃水線

三 冬期北大西洋木材滿載吃水線

四 熱帶木材滿載吃水線

五 前各號ニ掲グル滿載吃水線ニ對應スル各淡水木材滿載吃水線

第十八條 船舶ハ平水區域又ハ瀨戸內（和歌山縣海草郡田倉埼ヨリ兵庫縣津名郡生石鼻ニ至ル線、兵庫縣三原郡門埼ヨリ德島縣板野郡孫埼ニ至ル線、愛媛縣西宇和郡佐田岬ヨリ大分縣北海部郡關埼ニ至ル線及福岡縣企救郡門司埼ヨリ山口縣豐浦郡甲山ニ至ル線內ノ區域）ニ於テハ滿載吃水線ヲ超ユル吃水ヲ以テ航行スルコトヲ得但シ平水區域又ハ瀨戸外ニ出航セントスル船舶ニ付テハ其ノ區域內ニ於ケル最後ノ港ヲ發航スルトキノ超過吃水ハ該港ヨリ其ノ區域外ニ達スル迄ニ推進ノ爲消費スベキモノノ重量ニ相當スルモノヨリ大ナルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ區畫滿載吃水線ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十九條 船舶ガ船積港ヲ發航シタル後不可抗力ニ因リ豫定ノ航路ヲ變更シ又ハ航海ヲ遲延シタル爲其ノ吃水ガ當該季節及區域ニ付定メラレタル滿載吃水線ヲ超ユルニ至リタルトキト雖モ其ノ儘其ノ目的港迄航行スルコトヲ得

第二十條 滿載吃水線ヲ標示シタル船舶ガ其ノ標示ヲ要セザルモノト爲リタルトキ又ハ木材滿載吃水線ヲ標示シ得ザルニ至リタルトキハ船舶所有者又ハ船長ハ當該標示ヲ抹消スベシ但シ臨時ニ標示ヲ要セザルモノト爲リタル揚合ニ於テハ之ヲ存續スルコトヲ得

第二十一條 前條ノ規定ニ依リ滿載吃水線ノ標示ノ全部ヲ抹消スベキ場合ニ於テハ乾舷甲板ヲ標示スル水平線及圓標ノ中心ヲ通過スル水平線ニ限リ之ヲ存置スルモ妨ナシ

第四章 無線電信

第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ハ無線電信ヲ設備セザルコトヲ得但シ漁船ニ付テハ漁船特殊規則ノ定ムル所ニ依ル

一 旅客船ニシテ海岸ヨリ二十海里ヲ超エザル區域內又ハ相次グ二港間ノ外海ニ於ケル距離二百海里ヲ超エザル航路ノミヲ航行スルモノ

二 旅客船ニシテ別表第一號ニ定ムル區域內ノミヲ航行スルモノ

三 旅客船ニ非ザル船舶ニシテ海岸ヨリ百五十海里ヲ超エザル區域內ノミヲ航行スルモノ

四 無線電信ヲ施設スルコト實際上不可能ナル原始的構造ノ船舶ニシテ管海官廳ノ認可ヲ受ケタルモノ

第二十三條 船舶安全法第四條第一項ノ規定ニ依リ無線電信ヲ施設スベキ船舶ト雖モ左ノ各號ノ場合ニ該當スルトキハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ一定期間ヲ限リ無線電信ヲ施設セザルコトヲ得

一 無線電信ノ施設ナクシテ航行スルコトヲ得ル航路ニ就航スル爲他ヨリ回航スルトキ

二 無線電信ノ施設ヲ要セザル船舶ガ航路、噸數又ハ旅客定員ノ變更ノ爲其ノ施設ヲ要スルモノト爲リタルモ直ニ之ヲ爲スコト能ハザル事由アルトキ

三 無線電信ノ施設ヲ要セザル船舶ガ臨時ニ旅客定員ヲ變更シタル爲其ノ施設ヲ要スルモノト爲リタルトキ

前項第二號又ハ第三號ノ場合ニ於テ當該船舶ガ國際航海ニ從事スルモノナルトキハ臨時ニ之ニ從事スル場合ヲ除クノ外前項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第二十四條 第二十二條第四號ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ具シタル申請書ヲ、前條ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及期間ヲ記載シタル申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ

第五章 航行區域

第二十五條 航行區域ヲ分チテ左ノ四種トス

一 平水區域

二 沿海區域

三 近海區域

四 遠洋區域

第二十六條 平水區域ハ湖川港內及左ニ掲グル各區域トス

第一區 神奈川縣三浦郡千駄埼ヨリ同郡笠島ヲ經テ千葉縣君津郡富津埼ニ至ル線內

第二區 靜岡縣淸水市三保埼ヨリ同縣田方郡御濱埼ニ至ル線內

第三區 愛知縣渥美郡伊良湖埼ヨリ三重縣志摩郡菅島ヲ經テ同郡松ケ鼻ニ至ル線內

第四區 和歌山縣東牟婁郡駒埼ヨリ同郡太地埼ニ至ル線內

第五區 和歌山縣有田郡宮埼ヨリ同縣海草郡田倉埼ヲ經テ兵庫縣津名郡生石鼻ニ至ル線及同郡江埼燈臺ヨリ眞方位三百三十度ニ引キタル線內

第六區 兵庫縣加古郡加古川口ヨリ同縣飾磨郡男鹿島及香川縣小豆郡大角鼻ヲ經テ同縣大川郡馬ノ鼻ニ至ル線、愛

媛縣溫泉郡轡山ヨリ山口縣大島郡平郡島ヲ經テ同縣熊毛郡長島東端ニ至ル線竝ニ同島小山ノ鼻ヨリ同郡柗取埼ニ至ル線內

第七區　山口縣熊毛郡島田川口ヨリ同縣都濃郡笠戸島火振埼ヲ經テ同縣佐波郡向島翁埼ニ至ル線及同島牛ケ頸ヨリ同縣吉敷郡丸尾埼ニ至ル線內

第八區　愛媛縣西宇和郡女岬埼ヨリ同縣東宇和郡大埼ヲ經テ同縣北宇和郡赤埼鼻ニ至ル線內

第九區　大分縣東國東郡美濃埼ヨリ同縣北海部郡關埼、同郡沖無垢島、同郡保戸島及同縣南海部郡大島ヲ經テ同郡鶴見埼ニ至ル線內

第十區　山口縣厚狹郡宇部岬ヨリ福岡縣企救郡尾上川口ニ至ル線竝ニ福岡縣遠賀郡沖田埼ヨリ同縣企救郡馬島及山口縣豐浦郡六連島ヲ經テ同郡村崎鼻ニ至ル線內

第十一區　山口縣大津郡今岬ヨリ同郡青海島西北端ニ至ル線及同島東端ヨリ同郡阿武郡虎ケ埼ニ至ル線內

第十二區　福岡縣糸島郡西浦三埼ヨリ同縣糟屋郡志賀島大埼ニ至ル線內

第十三區　福岡縣糸島郡串崎ヨリ佐賀縣東松浦郡神集島及同郡加部島ヲ經テ同郡波戸崎ニ至ル線內

第十四區　佐賀縣東松浦郡値賀埼ヨリ同郡向島、長崎縣北松浦郡黑島及同郡青島ヲ經テ同郡津崎ニ至ル線內

第十五區　長崎縣上縣郡唐洲埼ヨリ同縣下縣郡鄕埼ニ至ル線及同郡折瀨鼻ヨリ眞方位零度ニ引キタル線內

第十六區　長崎縣北松浦郡大瀨埼ヨリ同郡平戸島魚見埼ニ至ル線及同島坊山埼ヨリ同郡黑島ヲ經テ同郡七郎埼ニ至ル線內

第十七區　長崎縣北松浦郡向後埼ヨリ同縣西彼杵郡番所埼ニ至ル線內

第十八區　長崎縣西彼杵郡三重埼ヨリ同郡野母埼ニ至ル線內

第十九區　長崎縣南高來郡瀨詰埼ヨリ熊本縣天草郡天草下島大島埼ニ至ル線、同島鶴崎ヨリ同郡下須島「ビシヤゴ」瀨ノ鼻ニ至ル線、同島尾崎ヨリ鹿兒島縣出水郡長島大埼ニ至ル線及同島南端ヨリ眞方位九十度ニ引キタル線內

第二十區　鹿兒島縣揖宿郡金比羅ノ鼻ヨリ同郡肝屬郡小根占埼ニ至ル線內

第二十一區　鹿兒島縣大島郡奄美大島神ノ鼻ヨリ同郡加計呂麻島「カネンテ」埼ニ至ル線及同島西端ヨリ同郡江仁屋離、同郡奄美大島會津高埼及同郡技手久島戸倉埼ヲ經テ同郡奄美大島倉木埼ニ至ル線內

第二十二區　島根縣知夫郡知夫島帶ケ埼ヨリ同郡西ノ島漕廻鼻ニ至ル線、同島東端ヨリ同縣海士郡中ノ島北端ニ至ル線及同島本樽ケ埼ヨリ同縣知夫郡知夫島東端ニ至ル線內

第二十三區　島根縣八束郡地藏埼ヨリ鳥取縣西伯郡日野川口ニ至ル線內

第二十四區　京都府與謝郡鷲埼ヨリ同府加佐郡博奕埼ニ至ル線內

第二十五區　福井縣敦賀郡立石埼ヨリ同郡「ヲカ」埼ニ至ル線內

第二十六區　石川縣鳳至郡沖波鼻ヨリ同縣鹿島郡觀音埼ニ至ル線內

第二十七區　青森縣東津輕郡明神埼ヨリ同縣下北郡貝埼ニ至ル線內

第二十八區　宮城縣宮城郡花淵埼ヨリ同縣桃生郡宮戸島萱ノ埼ニ至ル線內

第二十九區　北海道上磯郡葛登支埼ヨリ同龜田郡函館山大鼻岬ニ至ル線內

第三十區　北海道壽都郡辨慶岬ヨリ同磯谷郡尻別川口ニ至ル線內

第三十一區　北海道高島郡高島岬ヨリ同小樽郡神威古潭ニ至ル線內

第三十二區　北海道釧路郡尻羽岬ヨリ同厚岸郡大黑島ヲ經テ同郡「ルムセシマ」岬ニ至ル線內

第三十三區　臺北州野柳半島龜頭鼻ヨリ同州基隆島ヲ經テ同州鼻頭角ニ至ル線內

第三十四區　澎湖廳馬公要港區域內

第三十五區　高雄州猫鼻頭ヨリ同州鷲鑾鼻ニ至ル線內

第二十七條　沿海區域ハ左ニ揭グル各區域トス

一　北海道本島、北海道國後島、同擇捉島、同色丹島、同志勃島、同禮文島、同利尻島、同奥尻島、本州、青森縣久六島、島根縣隱岐列島、山口縣見島、四國、九州、長崎縣五島列島、熊本縣天草島、鹿兒島縣甑列島、同縣大隅群島、臺灣本島、澎湖列島、臺北州彭佳嶼、臺東廳火燒島及同廳紅頭嶼ノ各海岸ヨリ二十海里以內ノ區域

二　千葉縣安房郡野島埼ヨリ東京府神津島ヲ經テ靜岡縣加茂郡石室埼ニ至ル線內ノ區域

三　秋田縣由利郡鹽越鼻ヨリ石川縣舳倉島ヲ經テ石川縣鳳至郡猿山埼ニ至ル線內ノ區域

四　山口縣豐浦郡觀音埼ヨリ慶尙南道蔚埼ニ至ル線及長崎縣北松浦郡生月島北端ヨリ全羅南道古突山半島南東端ニ至ル線內ノ區域

五　北海道宗谷郡野寒岬ヨリ樺太西能登呂岬ニ至ル線及北海道宗谷郡宗谷岬ヨリ樺太中知床岬ニ至ル線內ノ區域

六　東京府聟島、父島及母島ノ各海岸ヨリ二十海里以內ノ區域

七　鹿兒島縣奄美群島ノ各海岸ヨリ二十海里以內ノ區域

八　沖繩縣沖繩島及同縣島尻郡ノ各島ノ海岸ヨリ二十海里以内ノ區域

第二十八條　近海區域ハ東ハ東經百七十五度、西ハ同九十四度、南ハ南緯十一度、北ハ北緯六十三度ノ線ニ依リ限ラレタル區域トス近海區域ハ之ヲ左ノ三區ニ分ツ

第一區　東ハ東經百七十五度、西ハ同百十三度、南ハ北緯二十一度、北ハ同六十三度ノ線ニ依リ限ラレタル區域

第二區　東ハ東經百三十度、西ハ同百二度、南ハ北緯四度北ハ同二十七度ノ線ニ限ラレタル區域及遲羅海灣

第三區　東ハ東經百七十五度、西ハ同九十四度、南ハ南緯十一度、北ハ北緯二十一度ノ線ニ依リ限ラレタル區域ヨリ第二區ノ區域ヲ除キタル區域

第二十九條　遠洋區域ハ總テノ海面ヲ包含スル區域トス

第三十條　管海官廳船舶ノ航行區域ヲ定ムルニ當リ船舶ノ種類、構造、設備、大小若ハ用途又ハ季節ニ依リ必要アリト認ムルトキハ區域ヲ制限シ又ハ之ニ期間ヲ附スルコトヲ得

第三十一條　管海官廳ハ第二級船ニ付テハ遠洋ノ航行區域ヲ、第三級船ニ付テハ沿海以上ノ航行區域ヲ、第四級船ニ付テハ沿海以上ノ航行區域ヲ定ムルコトヲ得ズ

第三十二條　管海官廳總噸數二百噸未滿ノ旅客船ニ付沿海ノ航行區域ヲ定ムル場合ニハ左ニ掲グル區間ヲ包含セシムルコトヲ得ズ

一　北海道宗谷郡宗谷岬ヨリ同斜里郡知床岬ニ至ル區間
二　擇捉島沿岸
三　北海道十勝郡大津川口ヨリ同幌泉郡襟裳岬ニ至ル區間
四　青森縣下北郡尻矢埼ヨリ同縣三戸郡馬淵川口ニ至ル區間
五　宮城縣宮城郡花淵埼ヨリ福島縣雙葉郡請戸川口ニ至ル區間
六　茨城縣東茨城郡大洗岬ヨリ千葉縣長生郡大東埼ニ至ル區間
七　靜岡縣榛原郡御前埼ヨリ愛知縣渥美郡伊良湖埼ニ至ル區間

第三十三條　船舶安全法施行地外ノ各港間又ハ湖川港内ノミヲ航行スル船舶ノ航行區域ハ管海官廳ニ於テ第二十六條乃至第二十八條ノ規定ニ準ジ之ヲ定ムルコトヲ得

第三十四條　平水ノ航行區域ヲ有スル船舶ハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ當該區域ヨリ其ノ船舶ノ最强速力ヲ以テ二時間以内ニ又平穩ナル季節ニ限リ四時間以内ニ往復シ得ベキ平水區域外ニ航行スルコトヲ得

第三十五條　特殊ノ用途ニ使用スル船舶已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ航行區域外ニ航行スルコトヲ得

第三十六條　前二條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルトキハ事由ヲ具シタル申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ

前條ノ場合ニ於テ旅客又ハ貨物ヲ搭載セントスルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ附記スベシ

第三十七條　船舶左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ航行區域ヲ超エテ之ヲ回航スルコトヲ得

一　日本船舶ヲ所有スルコトヲ得ザル者ニ船舶ヲ讓渡スル目的ヲ以テ之ヲ船舶安全法施行地外ニ回航スルトキ

二　船舶ヲ修繕シ又ハ檢査ヲ受クル爲之ヲ工場所在地又ハ檢査ヲ受クル場所ニ回航スルトキ

三　航行區域外ニ在ル船舶ヲ航行區域内ニ回航スルトキ

四　航行區域變更ノ爲船舶ヲ航行區域外ニ回航スルトキ

前項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルトキハ事由ヲ具シタル申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ

第一項各號ノ場合ニ於テ旅客又ハ貨物ヲ搭載セントスルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ附記スベシ

第三十八條　船舶檢査證書ノ有效期間内ニ於テ航行區域ヲ變更セントスルトキハ申請書ニ新舊航行區域ヲ列記シ船舶檢査手帖ヲ添ヘ之ヲ最寄管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ

第三十九條　漁船ノ從業制限ハ漁船特殊規則ノ定ムル所ニ依ル

第六章　最大搭載人員

第四十條　最大搭載人員ハ管海官廳ニ於テ船舶ノ航行區域、設備等ニ應ジ旅客、船員及其ノ他ノ者ニ付各別ニ之ヲ定ム旅客、船員及其ノ他ノ者ハ各其ノ最大搭載人員ヲ超エ又ハ其ノ搭載場所ニ對スル定員ヲ超エテ之ヲ搭載スルコトヲ得ズ但シ傷病船員ノ補充、海難救助其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ臨時ニ搭載シタル人員ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十一條　最大搭載人員算定ノ標準ハ船舶設備規程ノ定ムル所ニ依ル但シ漁船ニ付テハ漁船特殊規程ノ定ムル所ニ依ル

第四十二條　船舶ニ搭載スル人員ハ十二年未滿ノ者二人ヲ以テ一人ニ換算シ一年以下ノ者ハ之ヲ算入セズ

第四十三條　左ニ掲グル者ハ旅客ト看做サズ

一　船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人及船荷上乘人

二　稅關吏員、檢疫吏員、通信吏員、水先人其ノ他船員ニ非ズシテ船内ニ於テ業務ニ從事スル者

第四十四條　第五十七條第一項第二號第三號又ハ第二項ノ規定ニ依リ特殊船檢査ヲ受ケ之ニ合格シタル船舶ハ船舶檢査證書ニ記載スル最大搭載人員ノ外特殊船檢査證書ニ記載スル人員ヲ搭載スルコトヲ得但シ臨時ノ遊覽其ノ他ノ團體旅客ヲ搭載スル船舶ニ付テハ其ノ運送區域ガ平水區域ニ非ザルトキハ當該船舶ノ總噸數二百噸以上、航行豫定時間六時

間未滿ニシテ且管海官廳ニ於テ離島其ノ他交通不便ナル地方ノ旅客運送上已ムコトヲ得ズト認メタル場合ニ限ル

第四十五條 船舶檢査證書ノ有效期間內ニ於テ最大搭載人員ヲ變更セントスルトキハ事由ヲ具シタル申請書ニ船舶檢査手帖ヲ添ヘ之ヲ最寄管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ

第四十六條 旅客室ニハ其ノ見易キ場所ニ左ノ各號ノ規定ニ依ル表示ヲ爲スベシ

一 一等室及二等室ニハ各室ニ其ノ等級及定員ヲ表示スベシ但シ總出入口其ノ他適當ノ場所ニ等級ノ表示ヲ爲ストキハ各室ニ之ヲ表示セザルモ妨ナク又其ノ定員ガ寢臺數ト同一ナル室ニハ之ヲ表示セザルモ妨ナシ

二 三等室ニハ各室ニ其ノ等級及定員ヲ表示シ且雜居客棚ヲ設ケタル室ニ在リテハ各客棚ノ定員ヲ記入シタル客棚配置圖ヲ掲グベシ

三 臨時旅客ヲ搭載スル室ニハ其ノ旅客ノ種類及定員ヲ表示スベシ

旅客若ハ船員ニ非ザル者ヲ搭載スル室及雜居船員室ニハ其ノ室名及定員ヲ、其ノ他ノ船員室ニハ其ノ室名ヲ表示スベシ

第四十七條 旅客室ト船員室トハ常ニ區別シ置クベシ

旅客及船員ハ第四十三條各號ニ掲グル者ノ室ニ之ヲ搭載スルコトヲ得ズ

旅客室又ハ船員室ニ第四十三條各號ニ掲グル者ヲ搭載シタルトキハ最大搭載人員ニ關シテハ之ヲ旅客又ハ船員ト看做ス

第四十八條 旅客、船員又ハ其ノ他ノ者ノ室ニ貨物ヲ搭載シタルトキハ該室ノ定員ヨリ貨物ノ占有スル場所ニ相當スル人員ヲ減少シタルモノヲ以テ其ノ定員ト看做ス

第七章 制限汽壓

第四十九條 制限汽壓ハ機關ノ構造及現狀ニ應ジ船舶機關規定ニ依リ之ヲ定ム

第五十條 制限汽壓ヲ定メタルトキハ管海官廳ハ逃汽試驗ヲ執行シテ安全辨ヲ封鎖ス其ノ封鎖ヲ解放シタルトキ亦同ジ

第五十一條 船長ハ安全辨ノ鍵ヲ船內ニ保管シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ヲ除クノ外安全辨ノ封鎖ヲ解放スルコトヲ得ズ

已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ安全辨ノ封鎖ヲ解放シタルトキハ船長ハ遲滯ナク最寄管海官廳ニ其ノ事由ヲ具シ更ニ安全辨ノ封鎖ヲ申請スベシ

第八章 檢査ヲ行フ場合

第五十二條 船舶安全法第二條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケザル船舶ガ其ノ適用ヲ受クルモノト爲リタルトキハ定期檢査ヲ受クベシ

第五十三條 定期檢査ハ船舶檢査證書ノ有效期間內ト雖モ申請ニ依リ管海官廳ニ於テ其ノ時期ヲ繰上ゲ之ヲ行フコトヲ得

第五十四條 中間檢査ハ船舶檢査證書ノ有效期間內ニ於テ汽船及蒸汽機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ其ノ定期檢査又ハ中間檢査ヲ受ケタル時ヨリ十二月每ニ、其ノ他ノ帆船ニ在リテハ其ノ定期檢査ヲ受ケタル時ヨリ二十四月每ニ之ヲ行フ

前項ノ規定ニ依リ中間檢査ヲ受クベキ時期ニ該當スルモ之ヲ受ケズシテ引續キ航海ヲ爲スコトヲ必要トスル事情アル船舶ニ付テハ第百二十二條ノ規定ヲ準用ス

第五十五條 第百十八條各號ノ一ニ該當スル船舶ハ中間檢査ヲ受クルコトヲ要セズ

前項ノ船舶ガ第百十八條各號ニ該當セザル船舶ト爲リタルトキハ管海官廳ニ於テ當該船舶ノ現狀ニ應ジ次回中間檢査ヲ受クベキ時期ヲ指定ス

第五十六條 中間檢査ハ之ヲ受クベキ時期ニ該當セザル場合ト雖モ申請ニ依リ管海官廳ニ於テ其ノ時期ヲ繰上ゲ之ヲ行フコトヲ得

第五十七條 特殊船檢査ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ之ヲ行フ

一 移民船ガ船舶安全法施行地ニ於ケル最後ノ港ヲ發航セントスルトキ

二 船舶ガ臨時旅客ヲ運送セントスルトキ

三 船舶ガ甲板旅客ヲ運送セントスルトキ

漁船ニ付テハ漁船特殊規則ノ定ムル場合ニ於テ特殊船檢査ヲ行フ

第五十八條 臨時檢査ハ船舶ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ之ヲ行フ

一 第三十六條第一項、第三十七條第二項、第三十八條、第四十五條、第五十一條第二項、第百二十二條第三項若ハ第百三十五條第二項ノ規定ニ依ル申請又ハ第百七十七條ノ規定ニ依ル屆出アリタル場合ニ於テ管海官廳檢査ヲ行フノ必要アリト認メタルトキ

二 修繕、自然衰耗其ノ他ノ事由ニ因リ滿載吃水線ヲ變更スベキ必要アルトキ

三 滿載吃水線ヲ標示シ又ハ無線電信ヲ施設スルコトヲ要セザル船舶ガ滿載吃水線ヲ標示シ又ハ無線電信ヲ施設スルコトヲ要スルモノト爲リタルトキ

四 第十六條ノ規定ニ依リ區畫滿載吃水線ヲ標示シ又ハ第十七條第一項ノ規定ニ依リ木材滿載吃水線ヲ標示セントスルトキ

五 管海官廳ノ指定スル所ニ依リ船舶ノ特定部分ニ付檢査ヲ受クベキ時期ニ該當シタルトキ

六 前各號ニ掲グル場合ノ外船舶檢査證書ニ記載シタル事

項ニ變更ヲ生ジタル場合ニ於テ管海官廳檢査ヲ行フノ必要アリト認メタルトキ

七　其ノ他管海官廳ニ於テ檢査ヲ行フノ必要アリト認メタルトキ

第五十九條　船舶檢査證書ノ有效期間內ニ繫船ヲ再ビ航行ノ用ニ供セントスル場合ニ於テ繫船期間中ニ中間檢査ヲ受クベキ時期ヲ經過シタルトキハ中間檢査ヲ、未ダ中間檢査ヲ受クベキ時期ニ該當セザルトキハ臨時檢査ヲ受クベシ

第六十條　中間檢査ヲ受クベキ場合ニ於テ定期檢査ヲ受ケタルトキハ中間檢査ヲ、臨時檢査ヲ受クベキ場合ニ於テ定期檢査又ハ中間檢査ヲ受ケタルトキハ臨時檢査ヲ行ハズ

第六十一條　朝鮮若ハ關東州ノ船籍又ハ外國ノ國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ船舶安全法施行地ニ於テ製造セラルル船舶ニ付テハ製造檢査ヲ行ハズ

前項ノ船舶ガ其ノ製造中日本ノ國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ製造セラルルモノト爲リタルトキハ管海官廳ハ當該船舶ニ付製造檢査ヲ行ハザルコトアルベシ

第六十二條　管海官廳ハ船舶檢査執行地外ニ於テ製造セラルル船舶ニ付テハ船舶安全法第六條第一項ノ規定ニ依ル製造檢査ヲ行ハザルコトヲ得

船舶檢査執行地外ニ於テ製造セラルル船舶ニ付テハ船舶安全法第六條第二項ノ規定ニ依ル製造檢査ヲ行ハズ

第六十三條　船舶用機關ニシテ其ノ備附クベキ船舶ノ特定セザルモノハ左ノ各號ニ揭グルモノニ限リ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル檢査ヲ受クルコトヲ得

一　往復動汽機　汽筒ノ徑ノ和ガ五百ミリメートル以上ノモノ

二　タービン汽機　三百軸馬力以上ノモノ

三　發動機　氣筒ノ徑ノ和ガ五百ミリメートル以上ノモノ

四　汽罐　受熱面積ガ二十平方メートル以上ノモノ

第九章　檢査申請ノ手續

第六十四條　定期檢査、中間檢査、特殊船檢査又ハ臨時檢査ヲ受ケントスルトキハ船舶檢査申請書(第一號書式)ヲ管海官廳ニ提出スベシ

檢査申請者ハ船舶ガ初メテ檢査ヲ受クル場合ヲ除クノ外船舶檢査申請書ニ船舶檢査手帖ヲ添附スベシ

第六十五條　初メテ滿載吃水線ニ關スル檢査ヲ受ケントスルトキハ船舶檢査申請書ニ左ニ揭グル圖面ヲ添附スベシ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ其ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

一　船體中央橫截面圖(縱通板各條ノ幅ヲモ記載スベシ)

二　船體中心線縱截面ノ諸材構造配置圖

三　甲板及艙內平面ノ諸材構造配置圖

四　甲板平面圖

五　船體線圖

六　排水量曲線圖(最上層全通甲板迄ノ各吃水ニ對スル全排水量及每一センチメートル排水量ヲ示スモノ)

前項第五號及第六號ノ圖面ハ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面ニ、木船ニ在リテハ外板ノ外面ニ對スルモノナルコトヲ要ス

第六十六條　前條第一項ニ揭グル圖面ノ外木材滿載吃水線ノ指定ヲ受ケントスルトキハ甲板積木材貨物ノ積附及定著ニ要スル裝置竝ニ其ノ配置ヲ示ス圖面ヲ、區畫滿載吃水線ノ指定ヲ受ケントスルトキハ左ノ書類ヲ船舶檢査申請書ニ添附スベシ

一　限界線迄ノ各吃水ニ對スル浮力ノ中心ヨリ縱ノ「メタセンター」ニ至ル高サヲ示ス曲線圖

二　限界線迄ノ各吃水ニ對スル船舶ノ長サノ中央ヨリ吃水面ノ中心(浮泛中心)ニ至ル距離ヲ示ス曲線圖

三　限界線迄ノ橫截面積ヲ示ス曲線圖

四　可許長曲線圖

五　可許長計算表

第六十七條　製造檢査ヲ受ケタル船舶ニ付初メテ定期檢査ヲ受ケントスルトキハ船舶檢査申請書ニ其ノ合格證明書ヲ添附スベシ但シ製造檢査ニ引續キ定期檢査ヲ受ケントスル船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

船舶安全法施行規則

船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル檢査ヲ受ケタル船舶用機關ヲ船舶ニ備附クル場合ニ於テ檢査ヲ受ケントスルトキ亦前項ニ同ジ

第六十八條　船舶安全法第八條ニ揭グル船舶ニ付管海官廳ノ檢査ヲ受ケントスルトキハ船舶檢査申請書ニ當該船級協會ノ檢査ニ關スル證明書ヲ添附スベシ

第六十九條　製造檢査ヲ受ケントスルトキハ船舶ノ製造者ハ製造著手前製造檢査申請書(第二號書式)ヲ管海官廳ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ製造仕樣書竝ニ船體及機關ノ各部ノ構造及配置ヲ示ス圖面ヲ添附スベシ

第七十條　船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル檢査ヲ受ケントスルトキハ船舶用機關ノ製造者ハ機關檢査申請書(第三號書式)ヲ管海官廳ニ提出スベシ

船舶用機關ノ製造中ヨリ前項ノ檢査ヲ受ケントスルトキハ機關檢査申請書ニ製造仕樣書及機關ノ構造ヲ示ス圖面ヲ添附シ製造著手前之ヲ管海官廳ニ提出スベシ

第七十一條　第十六條ノ規定ニ依リ二箇以上ノ區畫滿載吃水線ヲ標示セントスル船舶ニ付テハ船舶檢査申請書ニ貨物ヲ搭載スルコトアルベキ旅客室ノ詳細ナル關係事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スベシ

第七十二條　第七十五條ノ規定ニ依リ休暇日ニ檢査ヲ受ケン

トスルトキハ成ルベク二日前迄ニ其ノ旨ヲ管海官廳ニ申出ヅベシ

第十章　檢査ノ執行

第七十三條　檢査ハ船舶檢査執行地ニ於テ之ヲ行フ

船舶檢査執行地ハ別ニ之ヲ告示ス

第七十四條　檢査ハ申請ニ依リ船舶檢査執行地外ニ於テ之ヲ行フコトアルベシ但シ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル檢査ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ檢査ヲ受ケントスルトキハ檢査申請者ハ其ノ事由ヲ申請書ニ附記スベシ

第七十五條　遞信大臣ノ特ニ指定シタル船舶檢査執行地ニ於テハ急速ノ檢査ヲ必要トスル場合ニ限リ休暇日ト雖モ檢査ヲ行フ

管海官廳ハ事務ノ都合ニ依リ前項ノ船舶檢査執行地外ニ於テモ臨時ニ休暇日檢査ヲ行フコトアルベシ

第七十六條　船舶ノ檢査ヲ行フトキハ檢査事項ニ應ジ船長又ハ機關長、若シ船長又ハ機關長差支アルトキハ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ船舶職員之ニ立會フベシ

前項ニ掲グル者ノ乘組マザル船舶ノ檢査、製造檢査又ハ船舶用機關ノ檢査ヲ行フトキハ檢査申請者ハ適當ノ者ヲ指定シテ之ニ立會ハシムベシ

第七十七條　前條ニ依リ檢査ニ立會ヒタル者ハ檢査ニ必要ナル援助ヲ爲シ又ハ書類ヲ査閲ニ供スベシ

第七十八條　檢査ニ立會フ者ナキトキ又ハ檢査ニ立會ヒタル者前條ノ規定ニ違反シタルトキハ管海官廳ハ檢査ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第七十九條　管海官廳ハ檢査ノ爲必要アリト認ムルトキハ第六十四條乃至第七十一條ニ掲グル書類ノ外必要ナル書類ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

第八十條　檢査申請者已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ事由ヲ具シタル書面ヲ管海官廳ニ提出シ其ノ檢査ヲ他ノ管海官廳ニ引繼又ハ囑託センコトヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳差支ナシト認ムルトキハ其ノ檢査ヲ他ノ管海官廳ニ引繼又ハ囑託スルコトヲ得

第八十一條　管海官廳滿載吃水線ヲ定メタルトキハ船舶滿載吃水線指定書(第四號書式)ヲ檢査申請者ニ交付ス

檢査申請者船舶滿載吃水線指定書ノ交付ヲ受ケタルトキハ船舶ニ滿載吃水線ヲ標示シ書面又ハ口頭ヲ以テ管海官廳ニ標示ノ檢査ヲ受ケントスル期日及場所ヲ申出ヅベシ

第八十二條　管海官廳定期檢査、中間檢査、特殊船檢査又ハ臨時檢査ヲ結了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付ス船長ハ船舶檢査手帖ヲ船内ニ保管スベシ

船舶檢査手帖ハ管海官廳又ハ帝國領事館ニ於テ檢閲スル場合ヲ除クノ外何人ト雖モ之ヲ開封スルコトヲ得ズ

第八十三條　船舶檢査手帖ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ最寄管海官廳ニ再交付ヲ申請スベシ

船舶檢査手帖ノ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキハ船長ハ之ト引換ニ舊手帖ヲ當該管海官廳ニ返還スベシ

船舶檢査手帖ノ封緘ヲ毀損シタルトキハ船長ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ最寄管海官廳ヨリ更ニ其ノ封緘ヲ受クベシ

第十一章　檢査ノ方法

第一節　製造檢査

第八十四條　製造檢査ニ於テハ船體、機關及設備ノ設計、材料竝ニ工事ニ付檢査ヲ行フ

第八十五條　製造檢査申請者ハ工事著手前製造仕樣書及圖面ニ依リ設計ニ付檢査ヲ受ケ且左ノ各號ノ時期ニ於テ工事ニ付檢査ヲ受クベシ

一　船體

(一)　龍骨ヲ据附クルトキ竝ニ船首材及船尾材ヲ建立セントスルトキ

(二)　肋骨組成中及組成後建立セントスルトキ

(三)　内龍骨、縱通材及梁ヲ取附ケントスルトキ

(四)　甲板及外板ヲ數枚張リタルトキ

(五)　水壓試驗ヲ執行スルトキ

(六)　外板ヲ張リ了リ未ダ船底包板又ハ塗料ヲ施サザルトキ

(七)　船體完成シタルトキ

(八)　其ノ他管海官廳ニ於テ指定シタルトキ

二　機關

(一)　諸軸、諸桿又ハ「タービン」汽機ノ「ローター」ノ粗削ヲ爲シタルトキ

(二)　發動機ノ氣槽又ハ汽罐ニ使用スル鋼板ノ「マーキング」ヲ行ヒタルトキ

(三)　發動機ノ氣槽若ハ汽罐ノ各部ヲ曲緣、鍛接又ハ熔接シタルトキ

(四)　發動機ノ氣槽又ハ汽罐ノ各部ノ組立ヲ爲シ鋲孔ヲ仕上ゲタルトキ

(五)　汽機、發動機、空氣壓縮機若ハ「ポンプ」ノ要部、船尾管、推進器又ハ復水器ノ仕上ヲ了リタルトキ

(六)　汽機、發動機、空氣壓縮機、氣槽、汽罐、過熱器、復水器、「ポンプ」又ハ減速裝置ノ組立ヲ了リタルトキ

(七)　水壓試驗ヲ執行スルトキ

(八)　其ノ他管海官廳ニ於テ指定シタルトキ

前項第二號ノ發動機ニハ船舶ノ推進ニ關係アル補發動機ヲ、汽罐ニハ補汽罐ヲ、諸軸ニハ船舶ノ推進ニ關係アル補

發動機ノ「クランク」軸ヲモ包含ス

第二節　定期檢査

第八十六條　定期檢査ニ於テハ左ノ各號ニ揭グル事項ニ付精密ナル檢査ヲ行フ

一　船體及ビ機關
二　設備及屬具
三　滿載吃水線
四　無線電信施設

第八十七條　船體ニ關スル定期檢査ニ於テハ二重底、水槽、油槽及活魚艙ノ水壓試驗、外板、水密隔壁、軸路及水密戸ノ水密試驗竝ニ水密戸ノ開閉裝置、載貨門、載炭門、舷窓及上甲板上諸開口ノ閉鎖裝置ノ效力試驗ヲ行フ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ付テハ水密試驗ヲ省略スルコトヲ得

第八十八條　機關ニ關スル定期檢査ニ於テハ新ニ使用スル機關又ハ其ノ部分ニ付テハ船舶機關規程ニ依リ、既ニ使用シタル機關又ハ其ノ部分ニ付テハ左表ニ依リ水壓試驗ヲ行フ但シ左表第一欄及第三欄ニ揭グルモノヲ除クノ外管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ付テハ水壓試驗ヲ省略スルコトヲ得

欄	種別	試驗壓力
一	新ニ重大ナル修繕ヲ施シタル汽罐	汽罐ノ制限汽壓ガ毎平方糎七瓩以下ナルトキハ其ノ二倍ノ壓力、毎平方糎七瓩ヲ超ユルトキハ其ノ一・五倍ニ毎平方糎三・五瓩ヲ加ヘタル壓力
二	重大ナル修繕ヲ施サザル汽罐	汽罐ノ制限汽壓ニ毎平方糎三・五瓩ヲ加ヘタル壓力
三	主汽管	汽罐ノ制限汽壓ノ二倍
四	正給水管及副給水管	汽罐ノ制限汽壓ノ二倍
五	復水器ノ管取附部	復水器ノ頂部上二米ノ水高壓力ニ相當スル壓力
六	噴油「ポンプ」ノ送油弁ヨリ噴油器ニ至ル管竝ニ燃料油加熱器及其ノ附屬具	常用最大壓力ノ二倍及毎平方糎二八瓩ノ中大ナル壓力
七	前欄ニ揭グルモノヲ除キ機關室ニ在ル油管	毎平方糎二瓩
八	燃料油ト接觸スル加熱用蒸汽管	常用最大汽壓ノ二倍
九	蒸汽過熱器	汽罐ノ制限汽壓ノ二倍
十	潤滑油裝置	常用最大壓力ノ二倍
十一	壓縮空氣管	常用最大壓力ノ一・五倍
十二	冷却裝置	常用最大壓力ノ二倍
十三	鋲接合又ハ無接合ノ氣槽	制限壓力ノ一・五倍
十四	鍛接合又ハ熔接合ノ氣槽	制限壓力ノ二倍

第八十九條　定期檢査ニ於テハ左ノ設備及屬具ニ付效力試驗ヲ行フ但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

一　排水裝置
二　消防裝置
三　操舵、繫船、揚錨及揚貨ノ裝置
四　羅針儀、測量器其ノ他ノ航海用具
五　端艇揚卸裝置
六　汽笛又ハ汽角
七　信號器
八　端艇、救命筏、救命浮器其ノ他ノ救命器具
九　照明裝置

十五	油槽	頂板上二・五米ノ水高壓力ニ相當スル壓力但シ强壓油槽ニ付テハ其ノ常用壓力ノ二倍

第九十條　定期檢査ハ船舶ヲ入渠又ハ上架セシメテ之ヲ行フ但シ檢査申請者ヨリ特ニ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳之ヲ正當ト認メタルトキハ其ノ指定スル時期迄入渠又ハ上架ヲ猶豫スルコトヲ得

前項ノ規定ニ拘ラズ總噸數五十噸未滿ノ木船ニ付テハ据船ノ儘又湖川ノミヲ航行スル船舶ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル狀態ニ於テ定期檢査ヲ行フコトヲ得

第九十一條　汽船ノ第一回定期檢査ニ於テハ速力試驗ヲ執行ス

汽船ノ第二回以後ノ定期檢査ニ於テハ前回速力試驗執行後速力ニ直接關係アル事項ニ變更ヲ加ヘタル場合ニ在リテハ速力試驗ヲ、其ノ他ノ場合ニ在リテハ試運轉ヲ執行ス但シ旅客船ニ非ザル船舶ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ試運轉ヲ省略スルコトヲ得

第九十二條　管海官廳船舶ノ定期檢査ヲ執行シタルトキハ其ノ構造、材料、工事及現狀ニ應ジ且左表ニ揭グル長サ及速力ヲ標準トシ船舶ノ資格ヲ定ム但シ海難救助船、漁業ノ取締ニ從事スル船舶其ノ他特殊ノ用途ニ使用スル船舶ニ付テハ左表ニ依ラザルコトヲ得

資格		船種	長サ(米)	最强速力(一時間ニ付)
第一級船		汽船	六〇以上	一〇海里以上
		帆船	二五以上	
第二級船		汽船	三〇以上	八海里以上
		帆船	二〇以上	
第三級船		汽船	十〇以上	六海里以上
		帆船	無制限	

第四級船	汽船	無制限	無制限
	帆船	無制限	

甲板ヲ有セザル船舶、頂部ヲ水密ニ爲シ得ザル船舶又ハ進水後二十年以上ノ推進機關ヲ有スル木船ハ之ヲ第一級船又ハ第二級船ト爲スコトヲ得ズ

船舶ノ資格ハ管海官廳ニ於テ其ノ現狀ニ應ジ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ變更スルコトヲ得

第三節　中間檢査

第九十三條　中間檢査ニ於テハ第八十六條各號ニ揭グル事項ニ付簡易ナル檢査ヲ行フ

管海官廳特ニ必要アリト認ムルトキハ特定ノ事項ニ付定期檢査ニ準ジ中間檢査ヲ行フコトヲ得檢査申請者ヨリ特ニ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳之ヲ正當ト認メタルトキ亦同ジ

第九十四條　左ノ各號ニ揭グル船舶ヲ除キ鋼船ノ中間檢査ニ於テハ船舶ヲ入渠又ハ上架セシメテ其ノ船底、舵及推進器ヲ檢査ス

一　湖川ノミヲ航行スル船舶

二　旅客船ニ非ザル船舶ニシテ長サ十五メートル未滿ノモノ

第九十條第一項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項各號ニ揭グル船舶ノ中間檢査ニ於テ管海官廳必要アリト認ムルトキハ之ヲ入渠又ハ上架セシムルコトヲ得

第四節　特殊船檢査及臨時檢査

第九十五條　特殊船檢査ニ於テハ第五十七條ニ揭グル各場合ニ應ジ必要ナル居住、衞生、救命及消防ノ設備其ノ他人命ノ安全ニ關スル設備ヲ檢査ス

第九十六條　臨時檢査ニ於テハ第五十八條各號ノ場合ニ應ジ管海官廳ニ於テ必要ト認ムル事項ニ付檢査ヲ行フ

第五節　雜則

第九十七條　船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル船舶用機關ノ檢査ニ付テハ製造中檢査ナルカ又ハ出來上リ檢査ナルカノ區別ニ從ヒ船舶ノ製造檢査又ハ定期檢査ニ關スル規定ヲ準用ス

第九十八條　定期檢査ニ於テハ前回ノ中間檢査又ハ其ノ後ノ檢査ニ於テ定期檢査ニ準ジ檢査ヲ行ヒタル事項ニ關シテハ管海官廳ノ見込ニ依リ精密ナル檢査ヲ省略スルコトヲ得

中間檢査ニ於テハ其ノ以前六月以內ニ中間檢査ニ準ジ檢査ヲ執行シタル事項ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ其ノ檢査ヲ省略スルコトヲ得

第九十九條　同形ノ汽機又ハ發動機ニ依ル推進軸系二箇以上ヲ有スル船舶ノ機關ニ關スル定期檢査ニ於テハ機關ノ年齡、現狀、製造檢査又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル製造中檢査ヲ受ケタルモノナリヤ否ヤ等ヲ考慮シ管海官廳ニ於テ特ニ差支ナシト認ムル場合ニ限リ其ノ檢査ノ方法ヲ斟酌スルコトヲ得

十二月每ニ中間檢査ヲ受クベキ船舶ノ機關ノ部分ニシテ製造檢査又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル製造中檢査ヲ受ケタルモノニ付テハ當該部分ノ年齡、現狀等ヲ考慮シ管海官廳ニ於テ特ニ差支ナシト認ムル場合ニ限リ其ノ檢査ノ方法ヲ斟酌スルコトヲ得

第百條　製造檢査ヲ受ケタル船舶ノ第一回定期檢査又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル檢査ヲ受ケタル機關ヲ船舶ニ備附クル場合ノ檢査ニ於テハ管海官廳ニ於テ特ニ必要アリト認ムル場合ノ外既ニ檢査ヲ受ケタル事項ノ檢査ヲ省略ス

第百一條　定期檢査又ハ中間檢査ニ於テハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニ付テハ其ノ螺旋軸ヲ拔取リ檢査ヲ行フ但シ湖川ノミヲ航行スル船舶又ハ旅客船ニ非ザル長サ十五メートル未滿ノ船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限リ之ヲ省略スルコトヲ得

一　螺旋軸ガ船舶機關規程ニ定ムル第一種螺旋軸ニシテ前回拔取リテ檢査シタル後三年ヲ經タルトキ又ハ次回中間檢査若ハ定期檢査ノ期日迄ニ三年ニ達スベキトキ

二　螺旋軸ガ船舶機關規程ニ定ムル第二種螺旋軸ニシテ前回拔取リテ檢査シタル後二年ヲ經タルトキ又ハ次回中間檢査若ハ定期檢査ノ期日迄ニ二年ニ達スベキトキ

前項ニ依リ螺旋軸ヲ拔取リ檢査スベキ場合ト雖モ檢査申請者ヨリ特ニ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳之ヲ正當ト認メタルトキハ其ノ檢査ヲ行フ爲臨時檢査ヲ受クベキ時期ヲ指定シ該時期迄螺旋軸ノ拔取ヲ猶豫スルコトヲ得

第百二條　管海官廳檢査ヲ行フニ當リ必要アリト認ムルトキハ第九十一條ニ該當セザル場合ト雖モ船舶ノ速力試驗若ハ試運轉又ハ機關ノ試運轉ヲ執行スルコトヲ得

第十二章　檢査ノ準備

第百三條　檢査申請者ハ本章ノ規定ニ從ヒ檢査ノ準備ヲ爲スベシ

第百四條　船體ニ關スル定期檢査ノ準備ヲ分チテ左ノ三種トス

一　第一種準備

二　第二種準備

三　第三種準備

第百五條　第一回定期檢査ニ於テハ當該船舶ガ進水後四年未滿ナルトキハ第二種準備、四年以上ナルトキハ第三種準備ヲ爲スベシ但シ製造檢査ヲ受ケタル船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ準備ヲ輕減セシムルコトヲ得

製造檢査ヲ受ケタル船舶ノ第二回定期檢査又ハ第三種準備

ヲ爲シテ定期檢査ヲ受ケタル船舶ノ次回定期檢査ニ於テハ第一種準備、第一種準備ヲ爲シテ定期檢査ヲ受ケタル船舶ノ次回定期檢査ニ於テハ第二種準備、第二種準備ヲ爲シテ定期檢査ヲ受ケタル船舶ノ次回定期檢査ニ於テハ第三種準備ヲ爲スベシ

進水後二十五年ヲ經過シタル船舶ノ定期檢査ニ於テハ管海官廳ハ前項ノ規定ニ拘ラズ第三種準備ヲ爲サシムルコトヲ得

第百六條　第一種準備ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一　船體ノ內外部適當ノ場所ニ足場ヲ設クルコト

二　石炭及脚荷ヲ取出シ船體ニ固着セザル物品ハ成ルベク取片附ケ又淦水道覆板及通風路覆板ハ悉ク取除ケ泥芥箱ヲ開キ淦水吸水管ノ芥除ヲ露出シ船體ノ內外部ヲ總テ掃除スルコト

三　主トシテ日本ト外國トノ間ヲ航行スル汽船ニ於テハ食料品其ノ他ノ雜品置場、庖廚、船艙等鼠ノ棲息スル場所ハ硫黃燻蒸其ノ他適當ノ方法ヲ以テ鼠ノ驅除ヲ行ヒ淦水道ハ海水ヲ以チ洗滌シ便所其ノ他不潔ナル場所ハ消毒藥液ヲ以テ消毒ヲ行ヒ飲料水槽ハ石灰乳ヲ以テ洗滌シ又ハ蒸氣ヲ通ジテ掃除スルコト

四　水槽及水槽ニ使用スル二重底ハ其ノ出入口ヲ開キテ水ヲ排出シ內部ヲ掃除シ檢査ニ支障ナカラシムルコト

五　入渠又ハ上架シタル船舶ノ舵ヲ扛擧又ハ取外シ舵針及壺金等ヲ檢査スルニ支障ナカラシメ且鋼船ニ在リテハ船底外部ニ附著セル海草、介殼等ヲ落シ又木船ニ在リテハ船底包板及毛紙ノ幾分ヲ取去リ外板ノ現狀、塡隙及固著釘ヲ檢査スルニ支障ナカラシムルコト

六　鋼船ニ於テハ首尾ヲ通ジテ中心線ノ兩側ニ於テ兩舷トモ船底內張板ヲ一條宛取離スコト

木船ニ於テハ首尾ニ於テ兩舷トモ船舶ノ長サノ五分ノ一間內龍骨ト最下層梁トノ間ニ於テ內張板一條宛取離シ且艙內ニ防熱裝置ヲ施セル部分アルトキハ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ內張板ヲ取離シ防熱部ノ一部ヲ露出スルコト

七　木船ニ於テ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ用ウルトキハ最下層梁ノ位置ニ於テ兩舷トモ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ六本以上宛拔取ルコト但シ該釘ガ外板ヲ貫通セザルトキハ兩舷トモ該部ノ外板ヲ一枚宛取離スコト

木船ニ於テ龍骨、船首材及船尾材ノ固著釘ガ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ナルトキハ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ拔取ルコト

八　木船ニ於テハ上部外板、彎曲部外板其ノ他ノ外板中管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ木釘ヲ拔取ルコト但シ木釘ナキ部分ニ於テハ錐揉スルカ又ハ內張板若ハ外板ヲ取離スコト

九　汽罐ノ下部ヲ檢査シ得ル準備ヲ爲スコト

十　船首尾艙ハ燃料油ノ積載ニ使用スルモノト雖モ其ノ出入口ヲ開キ油ヲ排出シテ內部ヲ掃除シ危險性瓦斯ヲ排除シ檢査ニ支障ナカラシムルコト

十一　二重底、水槽、油槽及活魚艙ノ水壓試驗ノ準備ヲ爲スコト

十二　第八十七條ニ揭グル水密試驗ノ準備ヲ爲スコト

十三　滿載吃水線ノ標示ヲ檢査スルニ必要ナル足場及型板ヲ準備スルコト

第百七條　第二種準備ハ前條ノ外左ノ各號ニ依ルベシ

一　鋼船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通ジ彎曲部ニ於テ內張板ヲ一條宛取離シ且二重底、深水槽及深油槽ノ部分ニ於ケル內張板ヲ全部取離スコト

木船ニ於テハ首尾ヲ通ジテ底部肋材ヲ檢査スルニ最モ適當ナル位置ニ於テ兩舷トモ內張板又ハ外板ヲ一條宛取離シ且首尾ヲ通ジテ兩舷トモ甲板間ノ內張板又ハ外板ヲ一條宛取離スコト

二　木船ニ於テハ水線部外板中管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ木釘ヲ拔取ルコト但シ木釘ナキ部分ニ於テハ錐揉スルカ又ハ內張板若ハ外板ヲ取離スコト

三　二重底ハ燃料油ヲ積載スルモノト雖モ其ノ出入口ヲ開キ油ヲ排出シテ內部ヲ掃除シ危險性瓦斯ヲ排除シ檢査ニ支障ナカラシムルコト

第百八條　第三種準備ハ前二條ノ外左ノ各號ニ依ルベシ

一　鋼船ニ於テハ艙內內張板ノ大部分ヲ取離シ且艙內ニ防熱裝置ヲ施セル部分アルトキハ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ內張板ヲ取離シ防熱部ノ一部ヲ露出スルコト

木船ニ於テハ首尾ニ於テ兩舷トモ船舶ノ長サノ五分ノ一間內張板ノ半數ヲ取離スコト

二　石炭庫內ノ內張板ヲ全部取離スコト

三　木船ニ於テハ首尾ニ於テ兩舷トモ上部外板ヲ一條宛取離スコト

四　鋼船ニ於テハ船體內外ノ要部ヲ錆落スルコト

五　鋼船ニ於テハ梁上側板ヲ檢査スル爲其ノ上面ノ木甲板ヲ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ取離スコト

木船ニ於テハ梁端ヲ檢査スル爲梁壓材ニ接スル甲板ヲ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ取離スコト

六　鋼船ニ於テハ外板、肋板、隔壁、鋼甲板、二重底諸板其ノ他ノ要部ニ於ケル鋼板ハ其ノ厚サヲ檢査スル爲之ニ試孔ヲ穿ツコト

七　深油槽ハ其ノ出入口ヲ開キ內部ヲ掃除シ危險性瓦斯ヲ排除シ檢査ニ支障ナカラシムルコト

八　木船ニ於テハ船底包板及毛紙ヲ全部取去ルコト

九　檣及斜檣ノ楔ヲ拔取ルコト但シ檣又ハ斜檣ガ鋼製ニシテ二重張板ヲ有スルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百九條　機關ニ關スル定期檢査ニ於テハ左ノ各號ノ準備ヲ爲スベシ但シ製造檢査又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル檢査ヲ受ケタル機關ヲ船舶ニ初メテ備附ケタル場合ノ定期檢査ニ於テハ管海官廳ノ指示スル所ニ依ルベシ

一　往復動汽機

(一)　「ピストン」及滑弁ヲ取出スコト

(二)　「クランク」軸ノ受金ノ上半竝ニ十字頭栓及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉セシメ得ル樣爲シ置クコト

二　「タービン」汽機

「タービン」筒上半及「ローター」ヲ扛擧スルコト

三　發動機

(一)　「ピストン」ヲ取出シ其ノ冷却部ヲ檢査シ得ル樣解放スルコト

(二)　氣筒蓋附屬ノ諸弁ヲ取外シ蓋ノ冷却部ヲ檢査シ得ル樣爲シ置クコト

(三)　「クランク」軸ノ受金ノ上半竝ニ十字頭栓及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉セシメ得ル樣爲シ置クコト

(四)　消音器ヲ掃除スルコト

四　推進器及推進軸系

(一)　各軸受ノ上半又ハ覆金及推力受ヲ取外スコト

(二)　船尾管後端軸受部內面上部ト螺旋軸トノ間隙ヲ測定シ得ル樣爲シ置クコト

五　減速裝置

(一)　各軸受金ノ上半ヲ取外シ且各軸ヲ回轉シ得ル樣爲シ置クコト

(二)　齒車箱ノ上半ヲ解放スルコト

(三)　液體ニ依ル動力傳導裝置ノ翼車ヲ檢査シ得ル樣爲シ置クコト

六　汽罐

(一)　罐內ノ水ヲ排出シ人孔蓋、泥孔蓋及覗孔蓋ヲ取外シ且火側及水側ヲ十分掃除スルコト

(二)　火床棧ヲ取出スコト

(三)　煙室扉ヲ開キ置クコト

(四)　安全弁、塞汽弁、給水制限弁及放水弁ノ弁匣ヲ開キ置クコト

七　給水裝置

(一)　給水「ポンプ」ノ「プランヂヤー」又ハ「ピストン」ヲ取出シ且弁匣ヲ開キ置クコト

(二)　給水漉器及給水加熱器ヲ開キ置クコト

八　復水裝置

(一)　復水器蓋ヲ開キ置クコト

(二)　抽氣「ポンプ」及循環「ポンプ」ノ「バケツト」又ハ扇車ヲ取出スコト

九　吸水、排水及冷却ノ裝置

(一)　最大吃水線以下ニ於テ船外ニ通ズル弁及「コック」ヲ開キ置クコト

(二)　淦水「ポンプ」及冷却「ポンプ」ノ「プランヂヤー」又ハ「ピストン」ヲ取出シ且弁匣ヲ開キ扇車「ポンプ」ナルトキハ扇車ヲ取出スコト

(三)　芥除箱及泥芥箱ヲ掃除スルコト

(四)　油、清水又ハ空氣ノ冷却器ヲ開キ置クコト

十　潤滑油裝置

潤滑油「ポンプ」及其ノ弁匣竝ニ油漉器ヲ開キ置クコト

十一　空氣壓縮機、氣槽及掃除空氣「ポンプ」

(一)　空氣壓縮機ノ「ピストン」ヲ取出シ且弁匣及冷却器蓋ヲ開キ置クコト

(二)　氣槽ノ檢査孔ヲ開キ內部ヲ掃除スルコト

(三)　掃除空氣「ポンプ」ノ「ピストン」ヲ取出シ弁匣ヲ開キ置クコト

十二　油槽

油ヲ排出シ人孔又ハ檢査孔ヲ開キ內部ヲ掃除スルコト

十三　船舶ノ推進ニ關係アル補發動機及救命艇用發動機主發動機ニ準ジ準備ヲ爲スコト

十四　水壓試驗

第八十八條ニ揭グル水壓試驗ノ準備ヲ爲スコト

十五　機關備品

適當ノ場所ニ陳列スルカ又ハ近寄リ易キ場所ニ整備シ置クコト

第百十條　設備及屬具ニ關スル定期檢査ノ準備ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一　屬具中取離サザレバ檢査シ得ザルモノハ之ヲ取離シ消防、操舵、繫船、揚錨及揚貨ノ機具、手用淦水「ポンプ」竝ニ艙口、載炭口、通風器、載貨門、載炭門、船樓端ノ開口其ノ他ノ開口ノ閉鎖裝置ハ所屬具ヲ取揃ヘ置キ錨鎖、索、船燈、信號器、救命器具其ノ他ノ航海用具ハ總テ之ヲ適當ノ場所ニ陳列シ置クコト

二　端艇ハ所屬具ヲ備ヘ水上ニ浮ベ置クコト

三　帆船ノ帆類ハ所定ノ位置ニ取附ケ展開シ得ベキ準備ヲ爲スコト

四　第八十九條ニ揭グル效力試驗ノ準備ヲ爲スコト

五　操舵機、揚錨機其ノ他ノ甲板補機ノ氣筒又ハ汽筒及軸受ヲ開キ置クコト

六　應急用動力設備、點燈設備、水密戸開閉裝置及荷役設備ノ原動機ノ要部ヲ管海官廳ノ指示スル所ニ依リ解放ス

ルコト

第百十一條　初メテ滿載吃水線ニ關スル檢査ヲ受ケントスルトキハ管海官廳ノ指示スル所ニ依リ船體ノ構造及現狀ノ檢査ニ必要ナル準備ヲ爲スベシ

第百十二條　中間檢査ニ於テハ第百六條第五號及第百十條第一號乃至第四號ニ掲グル準備ヲ爲スベシ

機關ヲ備フル船舶ノ中間檢査ニ於テハ前項ノ準備ノ外左ノ準備ヲ爲スベシ

一　往復動汽機

「クランク」軸ノ受金ノ上半、汽筒蓋、滑弁匣蓋及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉セシメ得ル樣爲シ置クコト

二　「タービン」汽機

「タービン」筒ノ上半ヲ扛擧シ「ローター」軸ノ受金ノ上半ヲ取外シ且「ローター」ヲ回轉セシメ得ル樣爲シ置クコト

三　發動機

「クランク」軸ノ受金ノ上半、氣筒蓋及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉セシメ得ル樣爲シ置クコト

四　推進器及推進軸系

定期檢査ニ準ジ準備ヲ爲スコト

五　減速裝置

各軸受金ノ上半ヲ取外シ且減速齒車ノ齒ヲ全般ニ亘リ檢査シ得ル樣爲シ置クコト

六　汽罐

定期檢査ニ準ジ準備ヲ爲スコト但シ管海官廳ニ於テ必要アリト認ムル場合ノ外火床棧ハ取外サザルモ妨ナシ

七　吸水及排水ノ裝置

最大吃水線以下ニ於テ船外ニ通ズル弁及「コック」竝ニ淦水「ポンプ」ノ蓋及弁匣又ハ扇車匣ノ上半ヲ開キ置キ且芥除箱及泥芥箱ヲ掃除スルコト

八　潤滑油裝置

定期檢査ニ準ジ準備ヲ爲スコト但シ二重裝置ナルトキハ其ノ一方ニ付準備ヲ爲スニ止ムルモ妨ナシ

九　空氣壓縮機及掃除空氣「ポンプ」

空氣壓縮機及掃除空氣「ポンプ」ノ蓋竝ニ弁匣ヲ開キ置クコト但シ二箇以上ヲ備フルトキハ一箇ニ付準備ヲ爲スニ止ムルモ妨ナシ

十　船舶ノ推進ニ關係アル補發動機及救命艇用發動機

主發動機ニ準ジ準備ヲ爲スコト

十一　機關備品

定期檢査ニ準ジ準備ヲ爲スコト

第百十三條　特殊船檢査及臨時檢査ニ於テハ管海官廳ノ指示スル所ニ依リ必要ナル準備ヲ爲スベシ

第百十四條　船舶用機關ノ出來上リ檢査ニ於テハ第百九條ニ準ジ當該機關ノ檢査ニ必要ナル準備ヲ爲スベシ

第百十五條　管海官廳ハ前十條ニ規定スル檢査ノ準備ニ付船舶ノ大小、用途、年齡、構造、前檢査ノ成績又ハ現狀ニ依リ適當ニ增減セシムルコトヲ得

第百十六條　檢査申請者檢査ニ必要ナル準備ヲ爲サザルトキハ第七十八條ノ規定ヲ準用ス

第十三章　證書

第百十七條　船舶檢査證書ヲ分チテ甲種船舶檢査證書（第五號書式）、乙種船舶檢査證書（第六號書式）及漁船檢査證書（第七號書式）ノ三種トス

甲種船舶檢査證書ハ滿載吃水線ノ標示ヲ要スル船舶ニ、乙種船舶檢査證書ハ滿載吃水線ノ標示ヲ要セザル船舶ニ、漁船檢査證書ハ漁船ニ之ヲ交付ス

第百十八條　左ニ掲グル船舶ニ付テハ船舶檢査證書ノ有效期間ハ三年以內ニ於テ管海官廳之ヲ定ム但シ漁船ニ付テハ漁船特殊規則ノ定ムル所ニ依ル

一　推進機關ヲ有セザル長サ二十メートル未滿ノ帆船

二　旅客船ニ非ザル長サ二十メートル未滿ノ船舶ニシテ平水ノ航行區域ヲ有シ且汽罐ヲ有セザルモノ

第百十九條　前條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル船舶ガ其ノ適用ヲ受クル船舶ト爲リタルトキハ船舶檢査證書ノ有效期間ハ當該船舶ノ現狀ニ應ジ三年以內ニ於テ管海官廳之ヲ定ム

第百二十條　特殊船檢査證書ヲ分チテ甲種特殊船檢査證書（第八號書式）、乙種特殊船檢査證書（第九號書式）、丙種特殊船檢査證書（第十號書式）及漁船特殊檢査證書（第十一號書式）ノ四種トス甲種特殊船檢査證書ハ移民船ニ、乙種特殊船檢査證書ハ臨時旅客ヲ搭載スル船舶ニ、丙種特殊船檢査證書ハ甲板旅客ヲ搭載スル船舶ニ、漁船特殊檢査證書ハ第五十七條第二項ノ規定ニ依リ特殊船檢査ヲ受ケタル漁船ニ之ヲ交付ス

特殊船檢査證書ノ有效期間ハ當該航海ニ必要ナル期間ヲ標準トシ管海官廳之ヲ定ム

臨時旅客又ハ甲板旅客ヲ搭載スル船舶ニシテ管海官廳ニ於テ其ノ設備、航路、季節等ノ狀況ニ依リ差支ナシト認ムルモノニ付テハ其ノ運送區域及旅客ノ種類ガ同一ナル場合ニ限リ前項ノ有效期間ハ二航海以上ニ亙リ之ヲ定ムルコトヲ得

第百二十一條　合格證明書（第十二號書式）ハ製造檢査ヲ受ケタル船舶又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル檢査ヲ受ケタル船舶用機關ニ之ヲ交付ス

第百二十二條　左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶檢査證書ハ其ノ有效期間滿了後五月迄ハ仍其ノ效力ヲ有ス

一　船舶安全法施行地外ニ於テ船舶檢査證書ノ有效期間滿了シタル場合ニ於テ當該船舶ヲ同法施行地內ノ目的港迄回航スルトキ

二　船舶安全法施行地ニ在ル船舶ガ船舶檢査證書ノ有效期間滿了シ又ハ航海中其ノ有效期間滿了スベキ場合ニ於テ管海官廳ノ認可ヲ受ケ檢査ヲ受ケズシテ引續キ短期ノ航海ヲ爲ストキ

前項第一號ノ場合ニ於テハ船長ハ船舶安全法施行地內ノ最初ニ到達シタル港ニ在ル管海官廳ニ遲滯ナク其ノ事實ヲ屆出ヅベシ第一項二第號ノ認可ヲ受ケントスルトキハ船長ハ事由ヲ具シタル申請書ニ船舶ノ運航豫定表竝ニ次回定期檢査ヲ受ケントスル場所及期日ヲ記載シタル書面ヲ添附シ之ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ

前項ノ申請アリタルトキハ管海官廳ハ船舶ガ當該航海ニ適スルヤ否ヤヲ調査シ差支ナシト認ムルトキハ期間ヲ附シテ之ヲ認可ス

第一項第一號ノ航海ヲ終了シ同項第二號ノ認可ヲ受ケザルトキ又ハ同項第二號ノ航海ヲ終了シタルトキハ船舶檢査證書ハ其ノ效力ヲ失フ

第百二十三條　第五十三條ノ規定ニ依リ定期檢査ヲ行ヒタルトキハ船舶檢査證書ノ有效期間ハ滿了シタルモノト看做ス

第百二十四條　左ニ揭グル場合ニ於テハ船舶所有者又ハ船長ハ船舶檢査證書及特殊船檢査證書ヲ管海官廳ニ提出スベシ

一　船舶ニ付檢査ヲ受ケタルトキ

二　繫船シタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ當該船舶ガ管海官廳ヨリ前項ノ規定ニ依リ提出シタル證書ノ返付ヲ受クルニ非ザレバ船舶檢査證書ノ有效期間內ト雖モ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得ズ

第百二十五條　船舶檢査證書又ハ特殊船檢査證書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ當該證書ノ受有者ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ船舶檢査手帳ヲ添ヘ最寄管海官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スベシ

合格證明書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ當該證明書ノ受有者ハ其ノ事由ヲ具シ原證明書ヲ交付シタル管海官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第百二十六條　船舶檢査證書又ハ特殊船檢査證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ船長ハ船舶檢査手帳ヲ添ヘ遲滯ナク最寄管海官廳ニ其ノ書換ヲ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ變更ヲ生ジタル事項ガ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載スベキモノナルトキハ船長ハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ當該管海官廳ノ檢閱ニ供スベシ

第百二十七條　左ニ揭グル場合ニ於テハ遲滯ナク船舶檢査證書ヲ最寄管海官廳ニ返還スベシ

一　船舶ガ滅失若ハ沈沒シ又ハ解撤セラレタルトキ

二　船舶ガ檢査ヲ受クルコトヲ要セザルモノト爲リタルトキ

三　船舶檢査證書ノ有效期間滿了シタルトキ

第百二十八條　左ニ揭グル場合ニ於テハ遲滯ナク特殊船檢査證書ヲ最寄管海官廳ニ返還スベシ

一　前條ノ規定ニ依リ船舶檢査證書ヲ返還シタルトキ

二　船舶ガ其ノ特殊ノ用途ニ使用セラレザルニ至リタルトキ

三　特殊船檢査證書ノ有效期間滿了シタルトキ

第百二十九條　船舶用機關ヲ船舶ニ備附ケタルトキハ其ノ合格證明書ノ受有者ハ遲滯ナク之ヲ最寄督海官廳ニ返還スベシ

第百三十條　左ニ揭グル場合ニ於テハ船舶所有者若ハ船長又ハ合格證明書ノ受有者ハ舊船舶檢査證書、舊特殊船檢査證書又ハ舊合格證明書ヲ新證書又ハ新證明書ト引換ニ當該管海官廳ニ返還スベシ

一　船舶檢査證書又ハ特殊船檢査證書ノ書換ヲ受ケタルトキ

二　船舶檢査證書、特殊船檢査證書又ハ合格證明書ノ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキ

第百三十一條　船舶檢査證書、特殊船檢査證書又ハ合格證明書ヲ返還スル義務アル者其ノ所在分明ナラザルトキ又ハ死亡シタルトキハ現ニ之ヲ保管スル者ニ於テ前四條ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スベシ

第百三十二條　船長ハ船舶檢査證書、特殊船檢査證書及回航認可證書ヲ船內ノ見易キ場所ニ揭ゲ置クベシ

第百三十三條　船舶檢査證書又ハ特殊船檢査證書ノ英譯書ノ交付ヲ受ケントスルトキハ最寄管海官廳ニ申請スベシ

第百三十四條　前條ノ英譯書ハ原證書ヲ返還スルトキ之ヲ當該管海官廳ニ返還スベシ但シ第百三十條第二號ノ規定ニ依リ原證書ヲ返還スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第百三十五條　左ニ揭グル場合ニ於テハ船舶檢査證書ヲ受有セザル船舶ト雖モ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

一　日本船舶ヲ所有スルコトヲ得ザル者ニ船舶ヲ讓渡スル目的ヲ以テ之ヲ船舶安全法施行地外ニ回航スルトキ

二　船舶ヲ修繕シ又ハ檢査ヲ受クル爲之ヲ工場所在地又ハ檢査ヲ受クル場所ニ回航スルトキ

三　船舶法施行細則第四條第一項各號ニ該當スルトキ

四　繫船ノ繫留地ヲ變更スル爲之ヲ回航スルトキ

前項第一號、第二號又ハ第四號ノ場合ニ於テハ事由ヲ具シタル申請書ヲ管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ但シ船

舶安全法施行地外ニ於テ製造セラレ又ハ國籍ヲ取得シ其ノ他同法ノ規定ニ依リ檢査ヲ受クベキモノト爲リタル日本船舶ヲ前項第二號ノ規定ニ依リ回航スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第百三十六條 前條第一項各號ノ場合ニ於テハ旅客又ハ貨物ヲ搭載スルコトヲ得ズ但シ同條第二項但書ノ場合ニ於テ帝國領事館又ハ當該官廳ノ發給シタル堪航性ヲ證スル書面ヲ受有スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百三十七條 第三十七條第二項又ハ第百三十五條第二項ノ規定ニ依リ申請書ノ提出アリタルトキハ管海官廳ハ當該船舶ニ付其ノ回航ノ適否又ハ旅客若ハ貨物搭載ノ適否ヲ調査シ之ヲ適當ト認ムルトキハ回航認可證書(第十三號書式)ヲ交付ス

第百三十八條 回航認可證書ノ有效期間ハ回航ニ必要ナル期間ヲ標準トシ管海官廳之ヲ定ム

船舶ガ目的地ニ到達シタルトキハ回航認可證書ハ其ノ效力ヲ失フ

第百二十五條第一項、第百二十七條及第百三十條第二號ノ規定ハ回航認可證書ニ之ヲ準用ス

第百三十九條 船舶檢査證書又ハ特殊船檢査證書滅失シタルトキ又ハ之ヲ返還スベキ場合ニ於テ返還セザルトキハ其ノ無效ナルコトヲ官報ニ公告ス但シ其ノ有效期間滿了後ハ此ノ限ニ在ラズ

第百四十條 船舶檢査證書、特殊船檢査證書、其ノ英譯書又ハ回航認可證書ハ急速ヲ必要トスル場合ニ限リ申請ニ依リ休暇日ト雖モ其ノ交付、再交付又ハ書換ヲ爲スコトアルベシ

第十四章 再檢査

第百四十一條 船舶安全法第十一條ノ規定ニ依リ再檢査ヲ申請セントスルトキハ申請書ニ前檢査ニ對スル不服ノ事項及其ノ事由ヲ記載シタル書類ヲ添附シ前檢査ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第百四十二條 遞信大臣ニ於テ前條ノ申請ヲ理由ナシト認メタルトキ又ハ申請者ガ關係部分ノ原狀ヲ變更シタルトキハ申請ヲ却下ス

遞信大臣ニ於テ前條ノ申請ヲ理由アリト認メタルトキハ特ニ指命シタル者ヲシテ再檢査ヲ行ハシメ前檢査ヲ適當ナラズト認ムルトキハ更ニ當該管海官廳ヲシテ檢査ノ種類ニ應ジ必要ナル證書又ハ證明書ヲ申請者ニ交付セシム

第百四十三條 前條第二項ノ規定ニ依リ遞信大臣ノ指命シタル者ガ再檢査ヲ結了シタル場合ニ於テ遞信大臣ノ決定前關係部分ノ原狀ヲ變更セントスルトキハ再檢査ノ申請者ハ前檢査ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シテ遞信大臣ニ申請書ヲ提出シ其ノ許可ヲ受クベシ

第十五章 船舶乘組員ノ不服申立

第百四十四條 船舶乘組員船舶安全法第十三條ノ規定ニ依リ申立ヲ爲サントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル管海官廳宛ノ申立書ニ職務及氏名ヲ連記シ之ヲ當該船長ニ提出スベシ

一 重大ナル缺陷アリトスル事項及其ノ現狀

二 申立ヲ爲スニ至ル迄ノ顚末

第百四十五條 船舶ガ管海官廳所在地ニ在ル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタルトキハ船長ハ之ニ對スル意見書及船舶檢査手帳ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ當該管海官廳ニ提出スベシ

船舶ガ管海官廳所在地ニ在ラザル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタルトキハ船長ハ遲滯ナク前項ノ書類ヲ其ノ後最初ニ到達スベキ港ニ在ル管海官廳ニ郵便其ノ他適當ノ方法ニ依リ提出スベシ

第百四十六條 船舶ノ發航直前ニ於テ第百四十四條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタルトキハ申立ノ事項ガ貨物ノ過載、積附其ノ他船舶ノ發航直前ニ非ザレバ分明シ難キモノナル場合ヲ除クノ外船舶ガ管海官廳所在地ニ在ル場合ト雖モ船長ハ前條第一項ノ規定ニ拘ラズ同條第二項ノ規定ニ依ルコトヲ得

第百四十七條 管海官廳申立書ヲ審査シ船舶ガ當該管海官廳所在地ニ在ル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ當事者ノ出頭ヲ求メ又ハ船舶ニ臨檢シテ其ノ事實ヲ調査ス

管海官廳申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ其ノ旨ヲ船長及申立人ニ通告ス

第十六章 船級協會

第百四十八條 船舶安全法第八條ノ規定ニ依ル檢査ノ業務ニ從事スル爲遞信大臣ノ認定ヲ受ケントスル船級協會ハ營利ヲ目的トセザル法人ナルコトヲ要ス

第百四十九條 船級協會前條ノ認定ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

一 主タル事務所竝ニ出張所ノ名稱及所在地

二 役員ノ氏名

三 檢査員ノ氏名及履歷

四 定款又ハ寄附行爲

五 船級登錄及檢査ニ關スル規定

六 手數料及旅費ニ關スル規定

第百五十條 遞信大臣ノ認定ヲ受ケタル船級協會(以下單ニ船級協會ト稱ス)檢査員ヲ選任セントスルトキ又ハ前條第五號若ハ第六號ニ掲グル規定ヲ變更セントスルトキハ遞信大臣ノ認可ヲ受クベシ

前條第一號又ハ第二號ニ掲グル事項ニ變更アリタルトキハ

船級協會ハ遞信大臣ニ其ノ旨ヲ屆出ヅベシ

第百五十一條　船級協會船舶安全法第八條ノ規定ニ依ル船舶檢査ヲ行ヒタルトキハ遲滯ナク當該檢査報告書、乾舷計算表及該檢査ニ基キ發行シタル證書ノ謄本竝ニ檢査依賴者ヨリ差出シタル圖面ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第百五十二條　遞信大臣前條ノ書類ヲ審査シ船級協會ノ行ヒタル檢査ヲ適當ナラズト認ムルトキハ之ガ改訂ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトアルベシ

第百五十三條　船級協會ハ一月毎ニ船舶安全法第八條ノ規定ニ依ル檢査ノ業務ニ關スル報告書ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第百五十四條　遞信大臣ニ於テ船級協會ヲ認定シタルトキ又ハ其ノ認定ヲ取消シタルトキハ之ヲ告示ス

第十七章　航海上ノ危險防止

第百五十五條　本章中第百五十六條乃至第百六十九條ノ規定ハ國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ近海區域又ハ遠洋區域ヲ航行スルモノニ、其ノ他ノ規定ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外總テノ船舶ニ之ヲ適用ス

第百五十六條　船舶ハ其ノ搭載シタル救命艇又ハ救命筏ニ左ノ員數ヲ割當ツルニ足ル救命艇手適任證書ヲ受有スル船員ヲ乘組マシムベシ但シ臨時旅客又ハ甲板旅客搭載ノ爲特ニ之ヲ乘組マシムル必要ヲ生ジタルトキハ管海官廳又ハ帝國領事館ノ認可ヲ受ケ當該所要員數ノ一部又ハ全部ヲ減ジ相當ノ技能ヲ有スル船員ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

一　定員四十人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ二人

二　定員四十一人以上六十一人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ三人

三　定員六十二人以上八十五人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ四人

四　定員八十六人以上ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ五人

前項ノ船員ノ割當員數ニ付テハ事情ニ應ジ船長之ヲ定ム

船長ハ救命艇又ハ救命筏ニ其ノ指揮者トシテ甲板部職員又ハ第一項ニ規定スル船員ヲ配置シ且右指揮者ガ故障アル場合ニ於テ之ニ代リテ指揮スル者ヲ定メ置クベシ

船長ハ前項ノ指揮者ヲシテ其ノ指揮スル救命艇又ハ救命筏ノ乘組員ノ名簿ヲ所持セシムベシ

船長ハ發動機ヲ有スル救命艇ニハ發動機ヲ運轉シ得ル者ヲ、無線電信又ハ探照燈ノ設備ヲ有スル救命艇ニハ其ノ設備ヲ操作シ得ル者ヲ配置スベシ

船長ハ救命艇、救命筏、救命浮器其ノ他ノ救命設備ガ何時ニテモ使用シ得ルコトヲ確ムル爲甲板部職員ヲ指定シ置クベシ

救命艇手適任證書ノ交付、書換又ハ返還ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第百五十七條　船長ハ非常ノ出來事ニ對スル船員ノ特別任務ニ付左ノ事項ニ關スル船員ノ擔當ヲ定メ發航前之ヲ記載シタル召集表ヲ作成シ船員室其ノ他適當ノ場所ニ掲ゲ置クベシ

一　水密戸、弁等ノ閉鎖

二　救命艇、救命筏及救命浮器ノ艤裝

三　端艇鈎ニ取附ケタル救命艇ノ卸方

四　前號以外ノ救命艇、救命筏及救命浮器ノ一般準備

五　旅客ノ召集

六　火災ノ消防

召集表ニ於テハ事務部員ニ對シ左ノ事項ニ關スル擔當ヲ指定スベシ

一　旅客ニ警報スルコト

二　旅客ガ著衣シ救命胴衣ヲ適當ニ著用セルコトヲ確ムルコト

三　旅客ヲ集合所ニ集合セシムルコト

四　通路及階段ニ於ケル秩序ヲ維持シ旅客ノ行動ヲ統制スルコト

召集表ニハ全船員ヲ各員割當ノ救命艇及消防持場ニ呼出ス爲ノ一定ノ信號ヲ記載スベシ

第百五十八條　船長ハ發航前甲板間ニ於ケル貨物艙ヲ區畫スル水密隔壁ニ取附クル水密蝶番戸ヲ閉ヅルコトヲ要シ航行中ハ之ヲ開放スベカラズ

第百五十九條　機關室内ノ水密隔壁ニ取外シ得ル板戸ヲ設クル船舶ニ在リテハ船長ハ發航前該板戸ヲ其ノ位置ニ取附クルコトヲ要シ航行中ハ緊急ノ必要アル場合ヲ除クノ外之ヲ取外スベカラズ前項ノ板戸ハ其ノ接合部ガ水密ヲ保ツ樣之ヲ取附クベシ

第百六十條　船長ハ作業上必要アル場合ヲ除クノ外航行中水密隔壁ニ取附クル一切ノ水密戸ヲ閉ヂ置キ之ヲ開キタルトキハ迅速ニ閉ヂ得ル樣常ニ準備シ置クベシ

第百六十一條　船舶區畫規程ニ依リ錠前附ナルコトヲ要スル何レカノ舷窓ノ下緣ガ發航ノ際ノ吃水線ノ上方ニ於テ同吃水線ヨリ船ノ幅ノ千分ノ二十五ニ一・三七メートルヲ加ヘタル距離ニ最低點ヲ有シ且船側ニ於ケル隔壁甲板ニ平行ニ引キタル線ノ下方ニ在ルトキハ船長ハ發航前該舷窓ノ在ル甲板間ノ總テノ舷窓ヲ水密ニ閉ヂ且錠ヲ下スコトヲ要シ航行中ハ之ヲ開放スベカラズ

船舶ガ船舶滿載吃水線規程ニ定ムル熱帶ニ在ル場合又ハ熱帶季節ニ季節熱帶ニ在ル場合ニ於テハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ一・三七メートルアルハ之ヲ一・〇六五メートルト爲スコトヲ得船舶所有者又ハ船長ハ第一項ノ規定ヲ適用スベキ極限ノ平均吃水ノ指定ヲ管海官廳ニ申請スルコトヲ得

船舶區畫規程ニ依リ錠前附ナルコトヲ要スル舷窓ハ第一項

ニ規定スルモノ以外ノモノト雖モ船長ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ非ザレバ航行中之ヲ開放スベカラズ

第百六十二條 前條第一項ノ場合ニ於テハ船長ハ舷窓ノ鍵ヲ保管シ其ノ他必要ナル處置ヲ爲スベシ

前條第四項ノ舷窓ニ錠ヲ下シタルトキハ船長ハ其ノ鍵ヲ保管スル等其ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ開キ得ザル樣必要ナル處置ヲ爲スベシ

第百六十三條 船長ハ發航前航行中近寄リ難キ場所ニ在ル舷窓及其ノ蓋ヲ水密ニ閉ヅベシ

船長ハ發航前限界線下ニ設クル舷門、載貨門及載炭門ヲ水密ニ閉ヅルコトヲ要シ航行中ハ之ヲ開放スベカラズ

第百六十四條 灰棄筒、芥棄筒其ノ他之ニ類似ノモノニシテ其ノ船內開口ガ限界線下ニ在ルモノニ付テハ之ヲ使用セザルトキハ船長ハ筒ニ取附ケタル自働不還弁及開口ノ蓋ヲ締附ケ置クベシ

第百六十五條 船長ハ端艇操練ノ爲實行可能ナルトキハ每週一回船員ノ召集ヲ行フベシ又航海ガ一週間ヲ超ユルトキハ發航前之ヲ行フベシ

端艇操練ヲ行フニ當リテハ異リタル場所ニ備附ケタル救命艇及救命筏ヲ順次ニ使用スベシ

第百六十六條 船長ハ水密戸、舷窓、弁竝ニ排水孔、灰棄筒及芥棄筒ノ閉鎖裝置ノ操作ノ操練ヲ每週一回行フベシ又航海ガ一週間ヲ超ユルトキハ發航前之ヲ行ヒ爾後航海中少クトモ每週一回之ヲ行フベシ但シ主橫置隔壁ニ於ケル水密ナル動力戸及蝶番戸ニシテ航海中開閉スルコトアルモノハ每日之ヲ操作スベシ

水密戸、之ニ附屬スル機構及表示器竝ニ區畫室ノ水密ヲ保ツニ必要ナル弁ハ航海中少クトモ每週一回定期ニ之ヲ點檢スベシ

第百六十七條 前二條ニ定ムル操練及點檢ハ船員ガ其ノ任務ヲ完全ニ了解習熟スル樣且救命設備及其ノ附屬具ガ常ニ即時ノ使用ノ爲準備セラルル樣之ヲ行フベシ

第百六十八條 船長ハ航海ガ一週間ヲ超ユルトキハ其ノ初期ニ於テ旅客ノ召集ヲ行フベシ

旅客召集ノ危急信號ハ汽笛又ハ汽角ニ依リ短聲六發以上ノ連發ト之ニ續ク長聲一發トス

前項ノ信號ハ短國際航海ニ從事スル船舶ヲ除クノ外船橋ニ於テ操作セラレ電氣裝置ニ依リ船內ニ普及スル他ノ信號ヲ以テ之ヲ補足スルコトヲ要ス

旅客召集ノ危急信號其ノ他旅客ニ關係アル信號ハ種種ノ國語ヲ以テ其ノ意味ヲ明記シ旅客室其ノ他適當ノ場所ニ掲ゲ置クベシ

第百六十九條 船長ハ火災ヲ速ニ發見スル爲有效ナル巡視制度ヲ設クベシ

第百七十條 操舵命令ハ船舶ノ前進中其ノ船首ヲ轉ズル方向ヲ直接ニ示ス語ヲ使用スベシ

第百七十一條 流氷、委棄物、熱帶暴風雨（「ハリケーン」、「タイフーン」、「サイクローン」及之ト同樣ノ性質ヲ有スルモノ）其ノ他航海ニ直接ノ危險ヲ及ボスモノニ遭遇シタルトキハ船長ハ適當ト認ムル通信方法ニ依リ之ヲ附近ノ船舶及最モ速ニ通信シ得ベキ海岸局ニ通報スベシ

前項ノ通報ハ別ニ告示スル樣式ニ依ルベシ

第百七十二條 無線電信ヲ施設シタル船舶全强風以上ノ風力ヲ感知シタルトキハ之ヲ附近ノ船舶ニ通報スベシ

第百七十三條 船舶ハ重大且急迫ノ危險ニ陷リ即時ノ救助ヲ要スルトキニ限リ警急信號及遭難信號ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ヲ除クノ外船舶ガ救助ヲ要スルトキ又ハ後ニ警急信號若ハ遭難信號ヲ發スルノ必要アルニ至ルベキコトノ警告ヲ發セントスルトキハ緊急信號ヲ使用スベシ

警急信號又ハ遭難信號ヲ發シタル後救助ヲ要セザルコトヲ認メタルトキハ該船舶ハ直ニ其ノ旨ヲ一切ノ關係局ニ通報スベシ

第百七十四條 船長無線電信ニ依ル遭難信號ヲ接受シタルトキハ能フ限リノ速力ヲ以テ遭難者ノ救助ニ赴クベシ但シ遭難者ノ所在ニ到達シタル船舶ヨリ救助ノ必要ナキ旨ノ通報ヲ接受シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

遭難船舶ノ船長ハ遭難信號ニ應答シタル船舶ノ船長ト能フ限リ協議シタル上適當ト認ムル船舶ヲ選定シ救助ヲ要請スルコトヲ得

前項ニ依リ救助ヲ要請セラレタル船舶ノ全部ガ其ノ要請ニ應ジ救助ニ赴ク旨ノ通報ヲ接受シタルトキハ他ノ船舶ハ救助ニ赴クコトヲ要セズ

無線電信ニ依ル遭難信號ヲ接受シタル船舶ノ船長ハ已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ救助ニ赴クコト能ハザルカ又ハ特殊ノ事情ニ依リ救助ニ赴クヲ不合理若ハ不必要ト認メ救助ニ赴カザルトキハ直ニ其ノ旨遭難船舶ノ船長ニ通報スベシ

第百七十五條 北大西洋橫斷ノ航海ニ定期ニ船舶ヲ就航セシムル船舶所有者ハ其ノ協定シタル航路中船舶ヲシテ採ラシムベキ常用ノ航路及其ノ變更ニ付廣告ヲ爲スベシ

第十八章 雜則

第百七十六條 國際航海ニ從事スル船舶ノ船長ハ旅客船ニ在リテハ左ノ各號、總噸數千六百噸以上ノ船舶ニシテ旅客船ニ非ザルモノニ在リテハ第六號ニ掲グル事項ヲ航海日誌ニ記載スベシ

一 第百七十四條ニ定ムル遭難者ノ救助ニ赴カザリシトキハ其ノ事由

二 第百五十八條、第百五十九條、第百六十一條又ハ第百

六十三條ノ規定ニ依リ航行中開放スルコトヲ禁ゼラレタル水密蝶番戸、取外シ得ル板戸、舷窓、舷門、載貨門又ハ載炭門ヲ碇泊中開閉シタルトキハ其ノ日時

三　甲板間ニ於ケル石炭庫ヲ區畫スル水密隔壁ニ設クル水密戸ヲ開閉シタルトキ及第百五十九條若ハ第百六十條ノ規定ニ依リ航行中開放スルコトヲ禁ゼラレタル取外シ得ル板戸又ハ水密戸ヲ航行中緊急ノ必要上又ハ船舶ノ作業上開閉シタルトキハ其ノ日時

四　第百六十六條ニ定ムル水密戸等ノ操作ノ操練及之ガ點檢ヲ行ヒタルトキハ其ノ日時及點檢ニ當リテ發見シタル缺陷

五　第百六十五條ニ定ムル端艇操練ヲ行ヒタルトキハ其ノ日時又之ヲ行フコトヲ得ザリシトキハ其ノ事由

六　航行中無線電信ノ補助電源ノ全能力ヲ維持シタルコト及警急自働受信機ヲ試驗シタルコト

第百七十七條　船舶檢査證書ノ有效期間內ニ於テ船舶ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ旨管海官廳ニ屆出ヅベシ

一　入渠又ハ上架セントスルトキ（漁船ノ上架ヲ除ク）

二　船體若ハ機關ノ要部又ハ重要ナル設備若ハ屬具ニ損傷ヲ生ジタルトキ又ハ之ヲ修繕若ハ變更セントスルトキ

第百七十八條　國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケタルモノ又ハ同日以後旅客船ニ變更シタルモノニ付テハ船舶所有者ハ之ヲ本令施行後初メテ國際航海ニ使用スルニ先チ傾斜試驗ヲ行ヒ復原性ニ關スル要項ヲ決定スベシ但シ復原性ニ關スル十分ノ資料ヲ有シ管海官廳ニ於テ更ニ傾斜試驗ヲ行フノ必要ナシト認メタル船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ傾斜試驗ハ船舶ノ空艙狀態ニ於ケル重心ノ位置ヲ算定シ得ル狀態ニ於テ之ヲ行フベシ

傾斜試驗ヲ行ハントスルトキハ之ヲ管海官廳ニ屆出ヅベシ

第百七十九條　前條ノ船舶ニハ其ノ復原性ニ關スル要項ヲ記載シタル書類ヲ備フベシ

前項ノ書類ハ少クトモ左ノ事項ヲ記載シタルモノナルコトヲ要ス

一　傾斜試驗ノ成績

二　空艙狀態ニ於ケル船舶ノ重心ノ位置

三　橫「メタセンター」ノ位置ヲ示ス曲線圖（最高區畫滿載吃水線迄ノ各吃水ニ對シ龍骨ノ上面ヨリ橫「メタセンター」ニ至ル垂直距離ヲ示スモノ）

第百八十條　船舶安全法第十二條第一項ノ證票（第十四號書式）ハ船舶所有者又ハ船長ノ請求アルトキハ之ヲ示スベシ

第百八十一條　船舶ノ檢査ヲ受クルトキハ檢査申請者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ別表第二號ニ定ムル檢査手數料ヲ納付スベシ

檢査申請者ノ都合ニ依リ檢査ノ申請ヲ取下ゲ又ハ船舶ガ檢査ヲ要セザルモノト爲リタル場合ト雖モ檢査著手後ナルトキハ檢査手數料ヲ徵收ス

第百八十二條　船舶檢査證書、特殊船檢査證書又ハ其ノ英譯書ノ交付、再交付若ハ書換ヲ受ケントスルトキ、合格證明書又ハ回航認可證書ノ交付若ハ再交付ヲ受ケントスルトキ又ハ船舶檢査手帖ノ再交付ヲ受ケントスルトキハ別表第三號ニ定ムル手數料ヲ納付スベシ

第百八十三條　前二條ノ手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ手數料納付書ニ貼附シテ之ヲ納付スベシ

檢査手數料納付書ニハ船舶ノ名稱、總噸數、檢査ノ種類、旅客船ト旅客船ニ非ザルモノトノ區別及手數料額ヲ記載スベシ

前項ニ掲グル事項ノ外臨時檢査ヲ受ケタル場合又ハ休暇日ニ於テ檢査ヲ受ケタル場合ニハ臨檢回數ヲ、船體ノ製造檢査ヲ受ケタル場合ニハ船舶ノ長サヲ、機關ノ製造檢査ヲ受ケタル場合又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル檢査ヲ受ケタル場合ニハ往復動汽機ニ付テハ汽筒ノ徑ノ和ヲ、發動機ニ付テハ氣筒ノ徑ノ和及單働式又ハ複働式ノ別ヲ、「タービン」汽機ニ付テハ軸馬力ヲ、汽罐ニ付テハ受熱面積ヲ記載スベシ但シ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依リ船舶ノ機關ノ部分品ノ檢査ヲ受ケタル場合ニハ臨檢回數ノミヲ記載スベシ

第百八十四條　船舶檢査執行地外ニ於テ管海官廳ノ檢査ヲ受クルトキハ檢査申請者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ檢査官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ヲ納付スベシ

船舶法施行細則第五十三條第一項ノ場合ニ於テ出張シタル檢査官吏ノ檢査ヲ受ケタルトキハ其ノ旅費ハ相互ニ通算スス

第百八十五條　本章ノ規定ニ依ル手數料及旅費ハ官廳又ハ公共團體ニ對シテハ之ヲ徵收セズ

第十九章　罰則

第百八十六條　船舶所有者又ハ船長第四十六條、第百二十四條、第百三十六條、第百五十六條第一項又ハ第百七十七條ノ規定ニ違反シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十七條　船長左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第四十七條第一項第二項、第五十一條、第八十二條第二項、第八十三條第三項、第百二十二條第二項、第百三十二條、第百四十五條又ハ第百五十七條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

二　第百四十四條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタル場合ニ於テ申立ノ事項ガ船舶ノ發航直前ニ非ザレバ分明シ難キモノナルニ拘ラズ第百四十五條第一項ノ規定ニ依ル措

置ヲ執ラザリシトキ

附　則

第百八十八條　本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第百八十九條　船舶檢査法施行細則、船舶滿載吃水線法施行規則、船舶無線電信施設法施行規則、船舶檢査規程、木船檢査規程、漁船檢査規程及船舶滿載吃水線規程ハ之ヲ廢止ス

第百九十條　船舶安全法第三十三條ニ揭グル船舶ハ同法第三十六條第一項ノ檢査ヲ受クル迄滿載吃水線ヲ標示セザルコトヲ得

第百九十一條　船舶安全法第二條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケザル船舶ニシテ本令施行ノ際現ニ船舶檢査法ニ依リ檢査申請中ノモノニ付テハ檢査ヲ行ハズ

第百九十二條　昭和六年七月一日以後龍骨ヲ据附ケ本令施行ノ際現ニ製造中ノ旅客船ニシテ國際航海ニ從事スベキモノ又ハ昭和七年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ本令施行ノ際現ニ製造中ノ船舶ニシテ國際航海ニ從事スベキモノニ付テハ其ノ構造、設備及滿載吃水線ニ關シ本令ニ依リ檢査ヲ行フ

昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ本令施行ノ際現ニ製造中ノ船舶ニシテ國際航海ニ從事スベキモノニ付テハ其ノ無線電信施設ニ關シ本令ニ依リ檢査ヲ行フ

第百九十三條　船舶安全法第三十六條第一項ノ規定ニ依ル檢査ハ左ノ各號ニ依ル

一　船舶檢査法ニ依リ定メタル特別檢査ノ有效期間ガ滿了シタル船舶及同法ニ依リ特別檢査ヲ行ハザル船舶ノ受クベキ檢査ニ付テハ定期檢査ニ關スル規定ヲ準用ス

二　前號ノ有效期間ガ滿了セザル船舶ト雖モ申請ニ依リ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ付行フ檢査ニ付テハ定期檢査ニ關スル規定ヲ準用ス

三　前二號ニ該當セザル船舶ノ受クベキ檢査ニ付テハ中間檢査ニ關スル規定ヲ準用ス但シ管海官廳ニ於テ必要アリト認メタルトキハ檢査ノ方法及準備ニ付第一號ニ依ルコトヲ得

船舶安全法第三十三條ニ揭グル船舶前項ノ檢査ヲ受ケ滿載吃水線ヲ標示スベキ場合ニ於テ特ニ急速ノ發航ヲ必要トスル事情アルトキハ當該管海官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ指定スル時期迄滿載吃水線ヲ標示セザルコトヲ得

第百九十四條　國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ船舶安全法第三十五條ニ揭グルモノハ同法ニ依リ檢査ヲ受クル迄第百五十六條ノ規定ニ拘ラズ救命艇手適任證書ヲ受有スル船員ヲ乘組マシメザルコトヲ得

第百九十五條　船舶檢査法ニ依リ定メタル船舶ノ資格ガ第九十二條ノ表ニ揭グル船舶ノ長サ又ハ速力ニ依リ變更ヲ要スル場合ト雖モ當該船舶ノ用途其ノ他ノ事情ニ依リ管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認メタルトキハ當該船舶ノ現狀ニ變更ナキ限リ仍從前ノ資格ヲ存續セシムルコトヲ得

第百九十六條　（削除）

別表第一號

無線電信施設免除區域表

一　北海道各港間及樺太各港間ノ區域竝ニ北海道ト樺太トノ間ノ航路ニ當ル韃靼海灣及「オホツク」海

二　山口縣大津郡川尻岬ヨリ慶尙南道釜山ニ至ル線及長崎縣長崎ヨリ全羅南道馬羅島ヲ經テ同島珍島ニ至ル線內ノ區域

三　北緯三十七度以北ノ黃海

四　臺北州富貴角ヨリ中華民國福建省福州ニ至ル線及高雄州鵝鑾鼻ヨリ香港ニ至ル線內ノ區域

五　東經九十四度ノ「アジア」ノ沿岸ヨリ西貢ニ至ル沿岸線、西貢ヨリ北緯四度三十分東經百十度ノ地點、「パラワン」島ノ南端、「バルマス」島（「ミアンガス」）、緯度零度東經百四十度ノ地點、緯度零度東經百四十八度ノ地點及南緯十度東經百四十八度ノ地點ヲ經テ「ヨーク」岬ニ引キタル線、「ヨーク」岬ヨリ「ポートダーウイン」（「チアールズ」岬）ニ至ル「オーストラリア」ノ北沿岸線、竝ニ「チアールズ」岬ヨリ「アシユモア、リーフ」（「イースト」島）、南緯十度東經百九度ノ地點、「クリスマス」島、北緯二度東經九十四度ノ地點及北緯十度東經九十四度ノ地點ヲ經テ東經九十四度ノ「アジア」ノ沿岸迄引キタル各線內ニ在リテ「オーストラリア」聯邦及亞米利加合衆國ノ領域ヲ除キタル區域

六　香港ヨリ北緯十七度東經百十度ノ地點ニ至ル線、同地點ヨリ正南ヘ北緯十度ニ至ル線及同地點ヨリ西貢ニ至ル線ノ西方ノ支那海及東京灣

七　赤道、西經百三十度ノ線、南緯三十四度ノ線及「オーストラリア」ノ沿岸線ニ依リ圍マレタル南太平洋ヨリ「オーストラリア」ノ領域ヲ除キタル區域

八　「マダガスカル」島、「レユニオン」島及「モーリシアス」島ノ各港間ノ航路ニ當ル印度洋

九　「モロツコ」國「カサブランカ」、「アルジエリア」ノ「オラン」及其ノ中間ノ各港間ノ航路ニ當ル北大西洋及地中海一部

十　諸威國「ウトシレ」ヨリ和蘭國「テキセル」ニ至ル線ノ東方ニシテ「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦ノ領域ヲ除キタル「バルチツク」海及其ノ接續海

十一　亞米利加合衆國ノ領域ヲ除キタル「カリビアン」海

備考

第十一ノ區域ニ付テハ帆船ノ航海ニ限ル

別表第二號

檢査手數料表

製造檢査									
船體ノ長サ（米）	二〇未滿	二〇以上三〇未滿	三〇以上四〇未滿	四〇以上五〇未滿	五〇以上六五未滿	六五以上一〇〇未滿	一〇〇以上一二五未滿	一二五以上一五〇未滿	一五〇以上
船體	一隻ニ付	七圓	一〇圓	二〇圓	五〇圓	九〇圓	一五〇圓	二七〇圓	三五〇圓	四三〇圓
往復汽機 汽筒ノ徑ノ和（米）	一・〇未滿	一・〇以上一・五未滿	一・五以上二・〇未滿	二・〇以上二・七未滿	二・七以上三・五未滿	三・五以上
往復汽機	汽機一箇ニ付	一〇圓	一五圓	二〇圓	三〇圓	四五圓	六〇圓
「タービン」汽機	軸馬力	三〇〇未滿	三〇〇以上五〇〇未滿	五〇〇以上一、〇〇〇未滿	一、〇〇〇以上二、〇〇〇未滿	二、〇〇〇以上三、〇〇〇未滿	三、〇〇〇以上五、〇〇〇未滿	五、〇〇〇以上
汽機	汽機一箇ニ付	一〇圓	一五圓	二〇圓	三〇圓	四五圓	六〇圓
汽罐	受熱面積（平方米）	五〇未滿	五〇以上一〇〇未滿	一〇〇以上一五〇未滿	一五〇以上二三〇未滿	二三〇以上三五〇未滿	三五〇以上
汽罐	汽罐一箇ニ付	五圓	一〇圓	一五圓	二〇圓	三〇圓	四五圓
單動發機	氣筒ノ徑ノ和（米）	〇・五未滿	〇・五以上一・〇未滿	一・〇以上一・五未滿	一・五以上二・〇未滿	二・〇以上二・五未滿	二・五以上三・二未滿	三・二以上四・〇未滿	四・〇以上五・〇未滿	五・〇以上
單動發機	發動機一箇ニ付	五圓	一〇圓	一五圓	二〇圓	三〇圓	四五圓	六〇圓	七五圓	九〇圓
複動發機	氣筒ノ徑ノ和（米）	〇・五未滿	〇・五以上一・〇未滿	一・〇以上一・五未滿	一・五以上二・〇未滿	二・〇以上二・五未滿	二・五以上三・二未滿	三・二以上四・〇未滿	四・〇以上五・〇未滿	五・〇以上
複動發機	發動機一箇ニ付	一〇圓	一五圓	二〇圓	三〇圓	四五圓	六〇圓	七五圓	九〇圓	一三五圓

推進機關ヲ有スル船舶ノ檢査																		
總噸數	二〇噸未滿	二〇噸以上一〇〇噸未滿	一〇〇噸以上三〇〇噸未滿	三〇〇噸以上五〇〇噸未滿	五〇〇噸以上一、〇〇〇噸未滿	一、〇〇〇噸以上三、〇〇〇噸未滿	三、〇〇〇噸以上六、〇〇〇噸未滿	六、〇〇〇噸以上一〇、〇〇〇噸未滿	一〇、〇〇〇噸以上
定期檢査 旅客船	一五圓	二〇圓	三〇圓	五〇圓	七〇圓	一〇〇圓	一三〇圓	一六五圓	二〇〇圓
定期檢査 旅客船ニ非ザルモノ	一〇圓	一五圓	二〇圓	三〇圓	五〇圓	七〇圓	九〇圓	一一〇圓	一三〇圓
中間檢査 旅客船	六圓	九圓	一五圓	二〇圓	三〇圓	四〇圓	五〇圓	六五圓	八〇圓
中間檢査 旅客船ニ非ザルモノ	四圓	六圓	一〇圓	一五圓	二〇圓	二五圓	三五圓	四五圓	五五圓
臨時檢査 臨檢一回ニ付	二圓	三圓	二、〇〇〇噸以上五圓	二、〇〇〇噸以上	七圓
特殊船檢査	三五圓

推進機關ヲ有セザル船舶ノ檢査									
總噸數	二〇噸以上五〇噸未滿	五〇噸以上一〇〇噸未滿	一〇〇噸以上三〇〇噸未滿	三〇〇噸以上五〇〇噸未滿	五〇〇噸以上
定期檢査	五圓	七圓	一〇圓	一五圓	二五圓
中間檢査	二圓	三圓	五圓	七圓	一〇圓
臨時檢査 臨檢一回ニ付	一圓	二圓
往復汽筒ノ徑ノ和（米）	一・〇未滿	一・〇以上一・五未滿	一・五以上二・〇未滿	二・〇以上二・七未滿	二・七以上三・五未滿	三・五以上
往復汽機	汽筒一箇ニ付	一〇圓	一五圓	二〇圓	三〇圓	四五圓	六〇圓

船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル檢査

備考		臨檢一回ニ付	船舶ノ總噸數	出來上リ檢査	製造中檢査	出來上リ檢査	製造中檢査	出來上リ檢査	製造中檢査	出來上リ檢査	製造中檢査	出來上リ檢査	製造中檢査	出來上リ檢査	製造中檢査	出來上リ檢査	製造中檢査	出來上リ檢査	製造中檢査	出來上リ檢査	製造中檢査
船舶安全法第八條ニ掲グル船舶ニ付定期檢査ヲ受クルトキハ本表ノ手數料ノ半額トス	特定船舶使用關係部分ニキベス品	特使機		複働一筒		發動機付		單働一筒		發動機付		汽罐付		汽一筒		汽「タービン」機一筒ニ付		動汽機付		動筒ニ付	
臨檢回數ハ檢査官吏一人一回ノ臨檢ヲ以テ臨檢一回トシ一人一回ノ臨檢時間ガ四時間ヲ超ユル時ハ之ヲ二回トシ算出ス		船舶ノ總噸數		汽筒ノ徑ノ和（米）		出來上リ檢査		氣筒ノ徑ノ和（米）		出來上リ檢査		受熱面積（平方米）		出來上リ檢査		軸馬力		出來上リ檢査		出來上リ檢査	
臨時檢査ノ檢査手數料ガ當該船舶ノ定期檢査ノ檢査手數料ニ相當スル金額ヲ超ユルトキハ之ヲ該金額ニ止ム	一	一〇〇噸未滿	二	〇・五以上一・〇未滿	一	五圓	一〇圓	一・〇以上一・五未滿	一五圓	三圓	五圓	五〇未滿	五圓	二圓	一〇圓	三〇〇未滿	三〇〇以上五〇〇未滿	三圓	一〇圓	一五圓	二〇圓
休暇日檢査ヲ受クルトキハ臨檢一回ニ付前三號ノ規定ニ依リ算出シタル檢査手數料ニ其ノ三割ニ相當スル金額ヲ加算ス但シ臨檢一回ノ加算手數料ガ三圓未滿ナルトキハ之ヲ三圓トシ二十五圓ヲ超ユルトキハ之ヲ二十五圓ニ止ム	二	一〇〇噸以上五〇〇噸未滿	三	一・〇以上一・五未滿	二	七圓	二〇圓	一・五以上二・〇未滿	二〇圓	五圓	七圓	一〇〇未滿	一〇圓	三圓	一〇圓	一、〇〇〇以上三、〇〇〇未滿	一、五〇〇以上二、〇〇〇未滿	五圓	二〇圓	二〇圓	三〇圓
船舶安全法施行地外ニ於テ檢査ヲ受クルトキハ檢査手數料ハ前四號ノ規定ニ依リ算出シタル金額ノ四倍トス	三	五〇〇噸以上一、〇〇〇噸未滿	四	一・五以上二・〇未滿	三	一〇圓	三〇圓	二・〇以上二・五未滿	三〇圓	七圓	一〇圓	一〇〇未滿	一五圓	五圓	一五圓	三、〇〇〇以上五、〇〇〇未滿	二、〇〇〇以上三、〇〇〇未滿	七圓	三〇圓	三〇圓	四五圓
汽罐ノ受熱面積ハ一面ガ火焰又ハ燃燒瓦斯ニ暴露シ反對ノ面ガ水ニ接觸スル部分ノ火焰又ハ燃燒瓦斯ニ暴露スル面ノ面積トス但シ筒形汽罐又ハ直立汽罐ニ在リテハ前管板ヲ除外シ且焰管ノ受熱面積ハ外徑ヲ基トシテ算定シ筒形汽罐ニ在リテハ各火爐及之ニ附屬スル燃燒室中該火爐ノ中心線ヲ含ム水平面以下ノ部分ヲ除外シ水管汽罐ニ在リテハ汽胴及水胴ヲ除外スルモノトス	四	二〇〇噸以上五〇〇〇噸未滿	五	二・〇以上二・五未滿	四	一五圓	四五圓	二・五以上三・二未滿	四五圓	一〇圓	一五圓	二〇〇未滿	二〇圓	七圓	二〇圓	四、〇〇〇以上五、〇〇〇未滿	三、〇〇〇以上四、〇〇〇未滿	一〇圓	四五圓	四五圓	六〇圓
檢査ノ申請ヲ取上ゲタル場合ニ於テ船體ノ長サ、往復動汽機ノ汽筒ノ徑、「タービン」汽機ノ軸馬力、汽罐ノ受熱面積又ハ發動機ノ氣筒ノ徑ヲ定ムルコト能ハザルトキハ夫々計畫クモノニ依リ手數料ヲ定ムルモノトス	五	五〇〇噸以上一、〇〇〇噸未滿	六	三・二以上四・〇未滿	五	二〇圓	六〇圓	三・二以上四・〇未滿	六〇圓	二〇圓	二五圓	二三〇以上三五〇未滿	三〇圓	一〇圓	三〇圓	五、〇〇〇以上未滿	二三〇以上三五〇未滿	一五圓	四五圓	一五圓	七五圓
	六	一、〇〇〇噸以上二、〇〇〇噸未滿	七	四・〇以上五・〇未滿	六	二五圓	七五圓	四・〇以上五・〇未滿	七五圓	三〇圓	三〇圓	三五〇以上	四五圓	一五圓	四五圓	五、〇〇〇以上	三五〇以上	二〇圓	六〇圓	二〇圓	九〇圓
	七	二、〇〇〇噸以上	八	五・〇以上	七	三〇圓	九〇圓	五・〇以上	九〇圓	三〇圓	四五圓	四五圓	六〇圓	一五圓	六〇圓	二〇圓	四五圓	二五圓	七五圓	二五圓	一一〇圓
	八	三、〇〇〇噸以上	九	六・〇以上	八	三五圓	一一〇圓	六・〇以上	一一〇圓	三五圓	五〇圓	五〇圓	七〇圓	二〇圓	七〇圓	二五圓	五〇圓	三〇圓	八〇圓	三〇圓	一三五圓

一 船舶安全法第八條ニ掲グル船舶ニ付定期檢査ヲ受クルトキハ本表ノ手數料ノ半額トス

二 臨檢回數ハ檢査官吏一人一回ノ臨檢ヲ以テ臨檢一回トシ一人一回ノ臨檢時間ガ四時間ヲ超ユル時ハ之ヲ二回トシ算出ス

三 臨時檢査ノ檢査手數料ガ當該船舶ノ定期檢査ノ檢査手數料ニ相當スル金額ヲ超ユルトキハ之ヲ該金額ニ止ム

四 休暇日檢査ヲ受クルトキハ臨檢一回ニ付前三號ノ規定ニ依リ算出シタル檢査手數料ニ其ノ三割ニ相當スル金額ヲ加算ス但シ臨檢一回ノ加算手數料ガ三圓未滿ナルトキハ之ヲ三圓トシ二十五圓ヲ超ユルトキハ之ヲ二十五圓ニ止ム

五 船舶安全法施行地外ニ於テ檢査ヲ受クルトキハ檢査手數料ハ前四號ノ規定ニ依リ算出シタル金額ノ四倍トス

六 船舶安全法施行地ニ於テ執行シタル檢査ト雖モ申請ニ依リ其ノ一部ヲ同法施行地外ニ於テ受ケタルトキハ檢査手數料ハ前號ノ規定ニ依リ之ヲ算出ス

七 汽罐ノ受熱面積ハ一面ガ火焰又ハ燃燒瓦斯ニ暴露シ反對ノ面ガ水ニ接觸スル部分ノ火焰又ハ燃燒瓦斯ニ暴露スル面ノ面積トス但シ筒形汽罐又ハ直立汽罐ニ在リテハ前管板ヲ除外シ且焰管ノ受熱面積ハ外徑ヲ基トシテ算定シ筒形汽罐ニ在リテハ各火爐及之ニ附屬スル燃燒室中該火爐ノ中心線ヲ含ム水平面以下ノ部分ヲ除外シ水管汽罐ニ在リテハ汽胴及水胴ヲ除外スルモノトス

八 檢査ノ申請ヲ取上ゲタル場合ニ於テ船體ノ長サ、往復動汽機ノ汽筒ノ徑、「タービン」汽機ノ軸馬力、汽罐ノ受熱面積又ハ發動機ノ氣筒ノ徑ヲ定ムルコト能ハザルトキハ夫々計畫クモノニ依リ手數料ヲ定ムルモノトス

別表第三號

證書、證明書及船舶檢査手帳手數料表

一	船舶檢査證書又ハ特殊船檢査證書	推進機關ヲ有スル船舶 二圓 推進機關ヲ有セザル船舶 一圓
二	前號ニ掲グル證書ノ英譯書	推進機關ヲ有スル船舶 四圓 推進機關ヲ有セザル船舶 二圓
三	合格證明書	一圓
四	回航認可證書	二圓
五	船舶檢査手帳	推進機關ヲ有スル船舶 一圓 推進機關ヲ有セザル船舶 二圓 總噸數百噸以上ノ推進機關ヲ有スル船舶 十圓 總噸數百噸未滿ノ推進機關ヲ有スル船舶 七圓 推進機關ヲ有セザル船舶 五圓

備考

第一號乃至第四號ノ手數料ハ第百四十條ノ規定ニ依リ休暇日ニ於テ證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受ケントスルトキハ各號ニ定ムル金額ノ倍額トス

第一號書式ノ一

船舶檢査申請書

一　船舶ノ番號、種類、名稱及總噸數
二　所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
三　船籍港
四　船舶ノ用途
五　航行セントスル航路（漁船ニ在リテハ從事セントスル業務ノ種類）
六　無線電信施設ノ有無
七　檢査ヲ受ケントスル期日及場所
八　檢査ノ種類及其ノ申請ノ事由

年　月　日　　申請者　氏　　名印

管海官廳宛

備考

一　船舶ガ長國際航海若ハ短國際航海ニ從事スルモノナルトキ又ハ第二十二條第一號乃至第三號ニ該當スルトキハ其ノ旨ヲ第五號ニ附記スベシ
二　初メテ滿載吃水線ニ關スル檢査ヲ受ケントスル船舶又ハ滿載吃水線ノ再指定ヲ受ケントスル船舶ニ付申請者ニ於テ滿載吃水ノ限度ヲ豫定スルトキハ各號ノ外龍骨ノ上面ヨリ測リタル其ノ限度ヲ附記スベシ
三　漁船ニ付テハ特定區域內ノミニ於テ從業セントスルトキハ第五號ニ其ノ區域ヲ附記スベシ

第一號書式ノ二（移民船ニ付特殊船檢査ヲ受ケントスルトキ用ウルモノ）

船舶檢査申請書（移民船）

一　船舶ノ番號、種類、名稱及總噸數
二　所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
三　航行區域
四　檢査ヲ受ケントスル期日及場所
五　移民又ハ三等旅客ノ員數及之ヲ搭載スル港
六　發航港、寄航港、到達港及移民又ハ三等旅客ノ下船港
七　出港ノ日時及豫定航海期間
八　航行里程
九　平均速力
十　移民又ハ三等旅客ノ船內ニ於ケル搭載場所

年　月　日　　申請者　氏　　名印

管海官廳宛

備考

第八號ニハ船舶安全法施行地ニ於ケル最後ノ發航港ヨリ初メテ到達スベキ外國ノ港迄ノ里程ヲ記載スベシ

第一號書式ノ三（第五十七條第一項第二號第三號又ハ第二項ノ規定ニ依リ特殊船檢査ヲ受ケントスルトキ用ウルモノ）

船舶檢査申請書

一　船舶ノ番號、種類、名稱及總噸數
二　所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
三　航行區域（漁船ニ在リテハ操業場所）

四　臨時ニ搭載スル者ノ種類及員數竝ニ之ヲ搭載スル港
五　檢査ヲ受ケントスル期日及場所
六　航行里程
七　平均速力
八　發航港、寄航港及到達港
九　豫定航海期間（漁船ニ在リテハ豫定ノ漁期）
十　第四號ニ掲グル者ノ船内ニ於ケル搭載場所

年　月　日　　申請者　氏　　名　印

管海官廳宛

備考

第六號ニハ第五十七條第一項第二號又ハ第三號ノ規定ニ依リ特殊船檢査ヲ受クル船舶ニ在リテハ其ノ運送航路ノ里程ヲ、同條第二項ノ規定ニ依リ特殊船檢査ヲ受クル船舶ニ在リテハ其ノ仕立港ヨリ操業場所迄ノ里程ヲ記載スベシ

第二號書式　　製造檢査申請書

一　船舶ノ種類及資格
二　鋼船又ハ木船ノ區別
三　船舶ノ長サ及總噸數
四　機關ノ種類及數
五　實馬力
六　制限汽壓
七　推進器ノ種類及數
八　使用ノ目的

九　航行セントスル航路（漁船ニ在リテハ從事セントスル業務ノ種類）
十　申請者ニ於テ滿載吃水ノ限度ヲ豫定スルトキハ龍骨ノ上面ヨリ測リタル其ノ限度
十一　船體及機關ノ製造所ノ名稱竝ニ其ノ所在地
十二　起工ノ年月

年　月　日　　申請者　氏　　名　印

管海官廳宛

備考

機關ニ付船體ト同時ニ製造檢査ヲ受ケザルトキハ其ノ事由ヲ附記スベシ

第三號書式　　機關檢査申請書

一　檢査ヲ受クベキ機關又ハ其ノ部分ノ名稱及數
二　製造番號及製造年月
三　主要件名
四　檢査ヲ受ケントスル期日及場所
五　出來上リ檢査又ハ製造中檢査ノ別

年　月　日　　申請者　氏　　名　印

管海官廳宛

備考

第三號ニハ往復動汽機ニ在リテハ制限汽壓竝ニ各汽筒ノ徑及行長ヲ、「タービン」汽機ニ在リテハ制限汽壓、軸馬力及「タービン」筒ノ數ヲ、發動機ニ在リテハ型式竝ニ氣筒ノ數、徑及行長ヲ、汽罐ニ在リテハ型式、制限汽壓、徑、長サ（又ハ高サ）及受熱面積ヲ記載スベシ

第四號書式ノ一（汽船ニ用ウルモノ）

第　　號　　　　申請者　氏　　名

割印

船舶滿載吃水線指定書

船ノ長サノ中央ニ於ケル上甲板ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交點ヨリ乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上緣ニ至ル垂直距離	方へ	粍
乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上緣ヨリ圓標ノ中心ニ至ル垂直距離（夏期乾舷）	下方へ	粍
圓標ノ中心ヨリ熱帶滿載吃水線ニ至ル垂直距離	上方へ	粍
圓標ノ中心ヨリ冬期滿載吃水線ニ至ル垂直距離	下方へ	粍
圓標ノ中心ヨリ冬期北大西洋滿載吃水線ニ至ル垂直距離	下方へ	粍

區畫滿載吃水線			
貨物搭載場所ノ旅客室ニ充ツル場所	當該區畫滿載吃水線ノ記號	乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上緣ヨリ區畫滿載吃水線ニ至ル垂直距離	
	C_1	下方へ	粍
	C_2	下方へ	粍
	C_3	下方へ	粍

海水ニ於ケル各種滿載吃水線ヨリ之ニ對應スル淡水滿載吃水線ニ至ル垂直距離	上方へ	粍

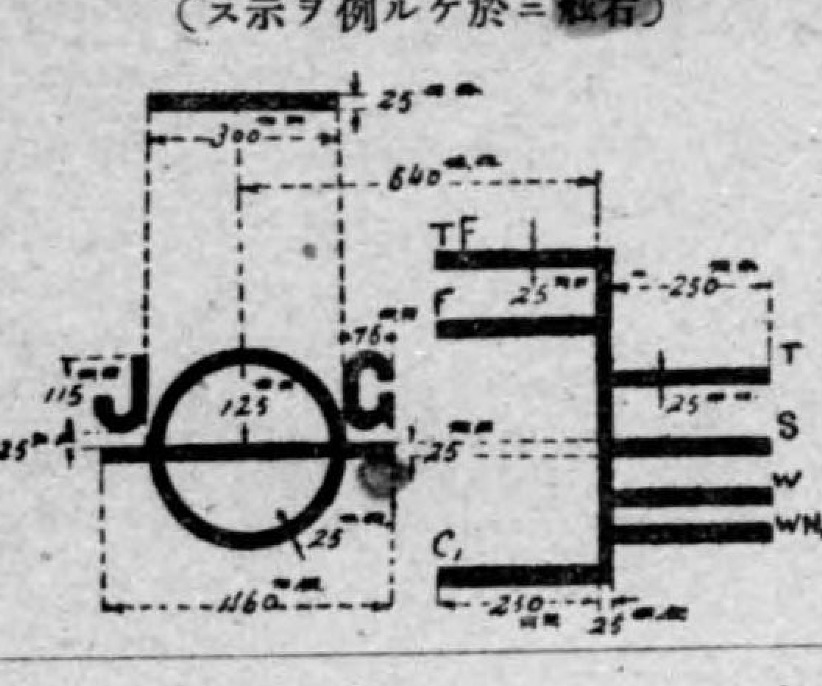
汽船　　　　丸ニ標示スベキ滿載吃水線ノ位置右ノ通指定ス

年　月　日

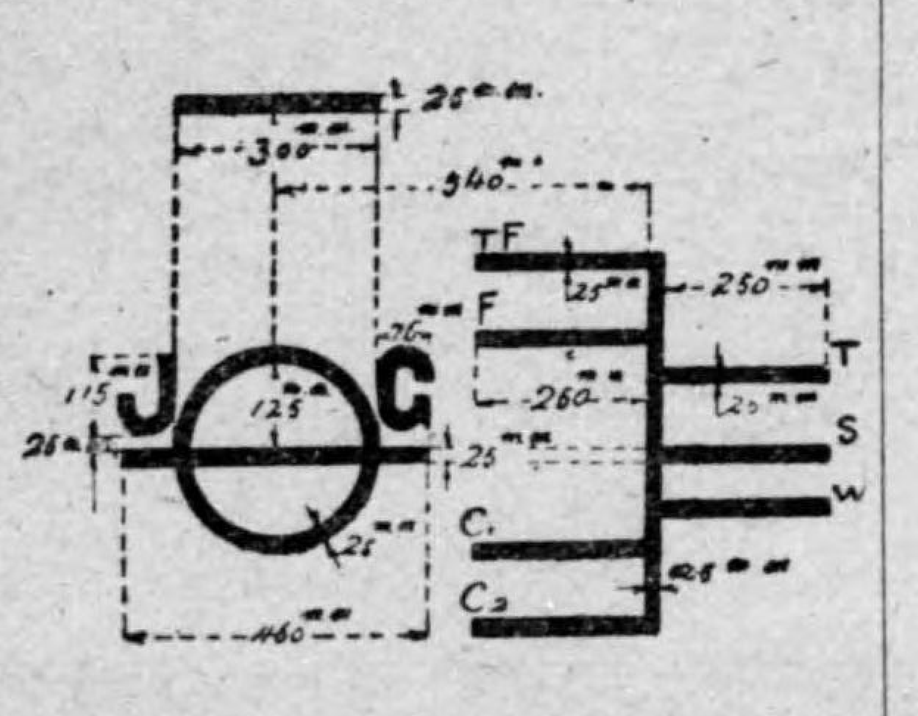
管海官廳印

記事

滿載吃水線標示例（右舷ニ於ケル例ヲ示ス）



（槽船及槽船ニ非サル長サ一〇〇・五八米以下ノ汽船ニシテ遠洋ノ航行區域ヲ有スルモノ）



（近海ノ航行區域ヲ有スル汽船及長サ一〇〇・五八米ヲ超エ遠洋ノ航行區域ヲ有スル汽船（槽船ヲ除ク））

備考

一　該當事項ナキ欄ニハ斜線ヲ引クヘシ

二　木材滿載吃水線ヲ標示スル汽船ニ對シ指定ヲ爲ス場合ニハ第四號書式ノ二ヲ併セ用ウヘシ

三　船舶滿載吃水線規程第二十九條第四項ニ依リ船ノ長サノ中央ヨリ前方船ノ長サノ四分ノ一ノ箇所ニモ圓標ノ標示ヲ要スル船舶ニ對シ指定ヲ爲ス場合ニハ該箇所ニ於ケル乾舷甲板ノ梁上測板（木甲板アルトキハ木甲板）ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交點ヨリ圓標ノ中心ニ至ル垂直距離ヲ記事欄ニ記載スベシ

第四號書式ノ二（木材滿載吃水線指定ニ用ウルモノ）

第　　號　　　　申請者　氏　　名

割印

船舶滿載吃水線指定書

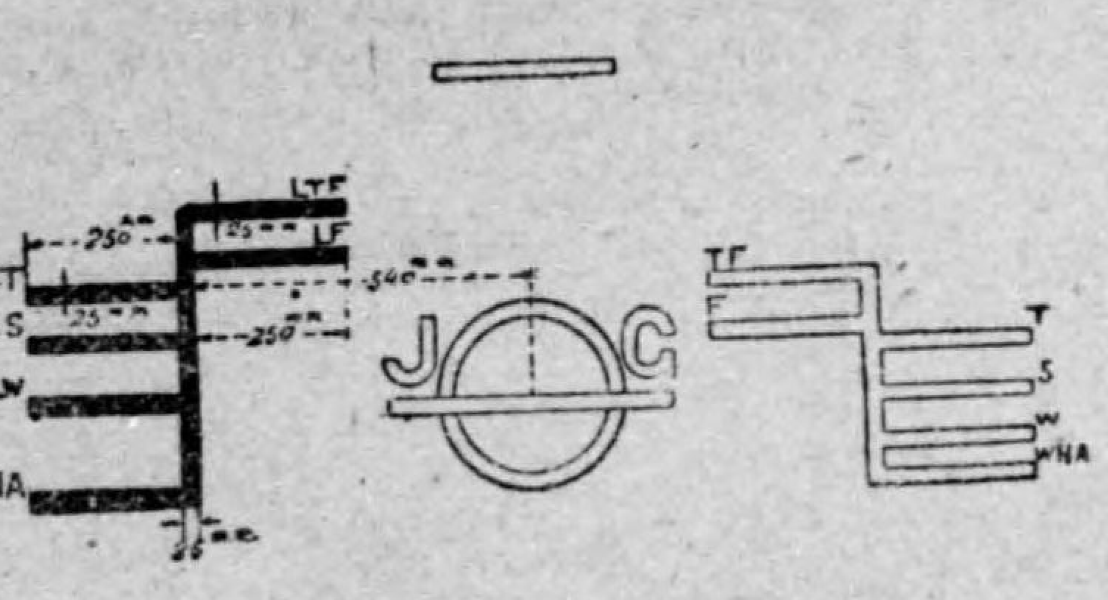
圓標ノ中心ヨリ夏期木材滿載吃水線ニ至ル垂直距離	上方へ	粍
圓標ノ中心ヨリ熱帶木材滿載吃水線ニ至ル垂直距離	上方へ	粍
圓標ノ中心ヨリ冬期木材滿載吃水線ニ至ル垂直距離	方へ	粍
圓標ノ中心ヨリ冬期北大西洋木材滿載吃水線ニ至ル垂直距離	下方へ	粍
海水ニ於ケル各種木材滿載吃水線ヨリ之ニ對應スル淡水木材滿載吃水線ニ至ル垂直距離	上方へ	粍

汽船　　　　丸ニ標示スベキ滿載吃水線ノ位置右ノ通指定ス

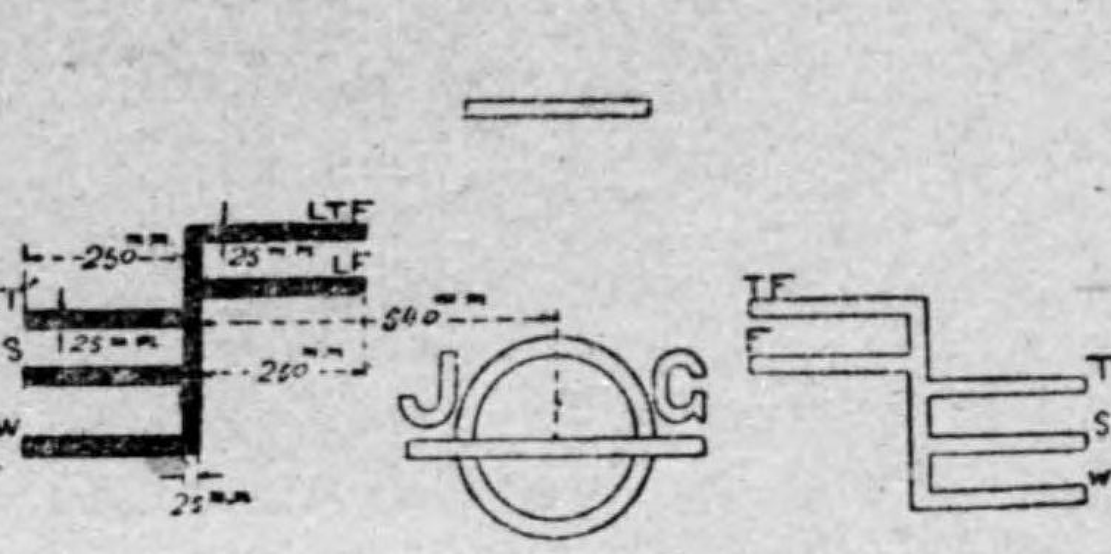
年　月　日

管海官廳印

木材滿載吃水線標示例（右舷ニ於ケル例ヲ示ス）



（遠洋ノ航行區域ヲ有スル汽船）



（近海ノ航行區域ヲ有スル汽船）

備考

近海ノ航行區域ヲ有スル汽船ニ對シ指定ヲ爲ス場合ニハ「圓標ノ中心ヨリ冬期北大西洋木材滿載吃水線ニ至ル垂直距離」ノ欄ニ斜線ヲ引クベシ

第四號書式ノ三（帆船ニ用ウルモノ）

第　　號　　　　申請者　氏　名

割印

船舶滿載吃水線指定書

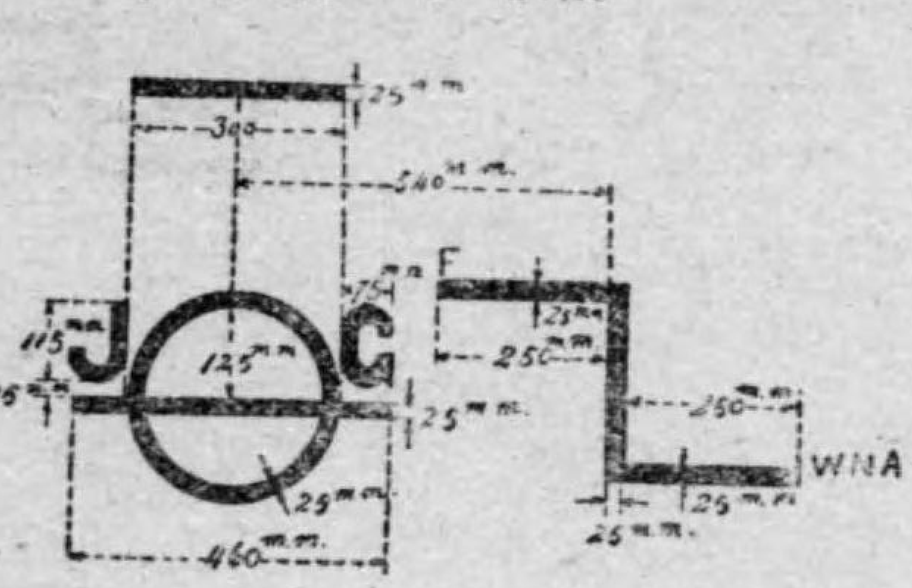
船ノ長サノ中央ニ於ケル外板ノ外面ト甲板ノ上面ノ延長トノ交點ヨリ乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上緣ニ至ル垂直距離	方ヘ	粍
乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上緣ヨリ圓標ノ中心ニ至ル垂直距離（海水乾舷）	下方ヘ	粍
圓標ノ中心ヨリ冬期北大西洋滿載吃水線ニ至ル垂直距離	下方ヘ	粍
海水ニ於ケル各種滿載吃水線ヨリ之ニ對應スル淡水滿載吃水線ニ至ル垂直距離	上方ヘ	粍

帆船　　丸ニ標示スベキ滿載吃水線ノ位置右ノ通指定ス

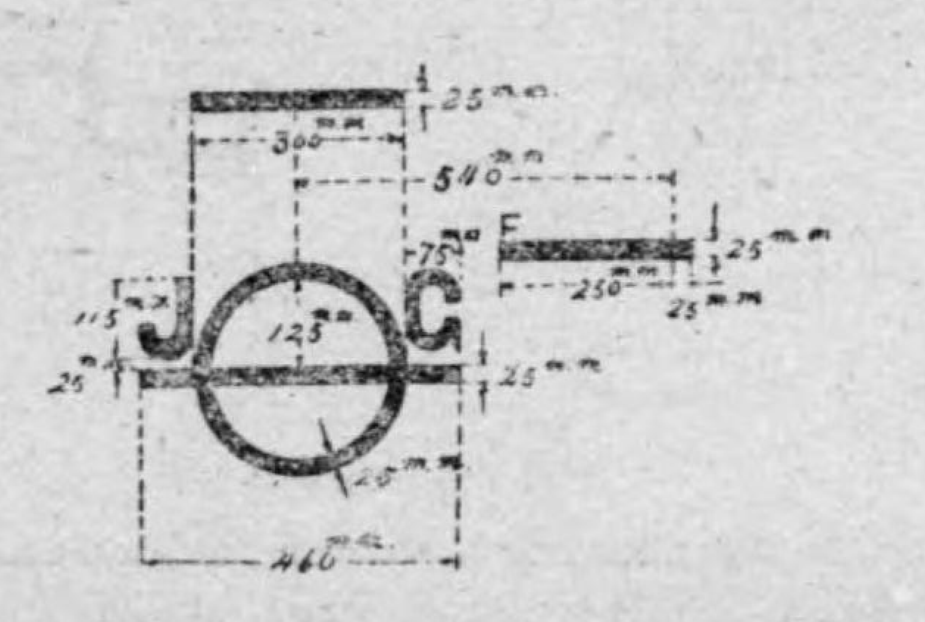
年　月　日　　　　管海官廳　印

記事

滿載吃水線標示例
（右舷ニ於ケル例ヲ示ス）



（遠洋ノ航行區域ヲ有スル帆船）



（近海ノ航行區域ヲ有スル帆船）

備考

一　近海ノ航行區域ヲ有スル帆船ニ對シ指定ヲ爲ス場合ニハ「圓標ノ中心ヨリ冬期北大西洋滿載吃水線ニ至ル垂直距離」ノ欄ニ斜線ヲ引クベシ

二　船舶滿載吃水線規程第二十九條第四項ニ依リ船ノ長サノ中央ヨリ前方船ノ長サノ四分ノ一ノ箇所ニモ標示ヲ要スル船舶ニ對シ指定ヲ爲ス場合ハ該箇所ニ於ケル乾舷甲板ノ梁上側板（木甲板アルトキハ木甲板）ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交點ヨリ圓標ノ中心ニ至ル垂直距離ヲ記事欄ニ記載スベシ

第五號書式ノ一（木材滿載吃水線ヲ標示セザル船舶ニ用ウルモノ）（竪二七糎 横四〇糎）

第　　號

割印

甲種船舶檢査證書

船舶番號	船種 船名	總噸數	信號符字	船籍港	船舶ノ用途	機關 種類	機關 制限汽壓	公稱馬力	航行區域	證書有效期間
第　號	船　丸	噸								自 年 月 日 至 年 月 日

所有者	最大搭載人員 旅客	船員	其ノ他ノ者	合計	無線電信	救命設備 端艇	救命筏	救命浮器	救命浮環	救命胴衣
	一等旅客定員 人 二等旅客定員 人 三等旅客定員 人 計 人	人	人	人	式	隻	箇	箇	箇	箇

滿載吃水線

船ノ長サノ中央ニ於ケル甲板ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交點ヨリ乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上緣ニ至ル垂直距離	方ヘ	粍
乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上緣ヨリ圓標ノ中心ニ至ル垂直距離	下方ヘ	粍
圓標ノ中心ヨリ熱帶滿載吃水線ニ至ル垂直距離	上方ヘ	粍
圓標ノ中心ヨリ冬期滿載吃水線ニ至ル垂直距離	下方ヘ	粍
圓標ノ中心ヨリ冬期北大西洋滿載吃水線ニ至ル垂直距離	下方ヘ	粍
海水ニ於ケル各種滿載吃水線ヨリ之ニ對應スル淡水滿載吃水線ニ至ル垂直距離	上方ヘ	粍

區畫滿載吃水線

貨物搭載場所ノ中旅客室ニ充ツル場所	當該區畫滿載吃水線ノ記號	乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上緣ヨリ區畫滿載吃水線ニ至ル垂直距離	
	C_1	下方ヘ	粍
	C_2	下方ヘ	粍
	C_3	下方ヘ	粍

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス

年　月　日　　　　管海官廳　印

第五號書式ノ二（木材滿載船ニ用フル乾舷標示ノモノ）（竪四二〇 横二七〇 粍）

第　號

割印

甲種船舶檢査證書

船舶番號	第　號	所有者	
船種船名	船　丸	最大搭載人員 旅客	一等旅客定員 人 二等旅客定員 人 三等旅客定員 人 計 人
總噸數	噸	船員	人
信號符字		其ノ他ノ者	人
船籍港		合計	人
船舶ノ用途		無線電信	式
機關 種類		救命設備 端艇	隻
汽制限壓		救命艇	箇
公稱馬力		救命浮器	箇
航行區域		救命浮環	箇
證書有效期間	自 年 月 日 至 年 月 日	救命胴衣	箇

滿載吃水線	船ノ長サノ中央ニ於ケル甲板線ノ上縁ヨリ乾舷標示ノ圓ノ中心ニ至ル垂直距離 方 粍	圓ノ中心ヨリ夏期滿載吃水線ニ至ル垂直距離 下方 粍	圓ノ中心ヨリ熱帶滿載吃水線ニ至ル垂直距離 上方 粍	圓ノ中心ヨリ冬期滿載吃水線ニ至ル垂直距離 下方 粍	圓ノ中心ヨリ冬期北大西洋滿載吃水線ニ至ル垂直距離 下方 粍	海水ニ於ケル各滿載吃水線ヨリ淡水ニ於ケル滿載吃水線ニ至ル垂直距離 上方 粍
木材滿載吃水線	乾舷標示ノ圓ノ中心ヨリ木材甲板ノ上面ニ至ル垂直距離 方 粍	圓ノ中心ヨリ木材夏期滿載吃水線ニ至ル垂直距離 上方 粍	圓ノ中心ヨリ木材熱帶滿載吃水線ニ至ル垂直距離 上方 粍	圓ノ中心ヨリ木材冬期滿載吃水線ニ至ル垂直距離 方 粍	圓ノ中心ヨリ木材冬期北大西洋滿載吃水線ニ至ル垂直距離 下方 粍	海水ニ於ケル各木材滿載吃水線ヨリ淡水ニ於ケル各木材滿載吃水線ニ至ル垂直距離 上方 粍

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス

年　月　日

管海官廳印

第六號書式（竪二七〇 横四二〇 粍）

第　號

割印

乙種船舶檢査證書

船舶番號	第　號	所有者	
船種船名	船　丸	信號符字	
總噸數	噸	船籍港	
機關 種類		船舶ノ用途	
汽制限壓		最大搭載人員 旅客	一等旅客定員 人 二等旅客定員 人 三等旅客定員 人 計 人
公稱馬力		船員	人
航行區域		其ノ他ノ者	人
證書有效期間	自 年 月 日 至 年 月 日	合計	人
		無線電信	式
		端艇	隻

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス

年　月　日

管海官廳印

第七號書式ノ二（滿載吃水線ヲ標示スル漁船ニ用ウルモノ）（竪二七糎 横四〇糎）

第　　號

割印

漁船檢査證書

項目		記載
船舶番號		第　　號
船種船名		船　　丸
總噸數		噸
機關	種類	
	制限汽壓	
從業制限		
證書有效期間		自　年　月　日 至　年　月　日
滿載吃水線	船ノ長サノ中央ニ於ケル甲板ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交點ヨリ乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上緣ニ至ル垂直距離	方ヘ　粍
	乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上緣ヨリ圓標ノ中心ニ至ル垂直距離	下方ヘ　粍
	圓標ノ中心ヨリ冬期滿載吃水線ニ至ル垂直距離	下方ヘ　粍
	圓標ノ中心ヨリ熱帶滿載吃水線ニ至ル垂直距離	上方ヘ　粍
	圓標ノ中心ヨリ冬期北大西洋滿載吃水線ニ至ル垂直距離	下方ヘ　粍
	海水ニ於ケル各種滿載吃水線ヨリ之ニ對應スル淡水滿載吃水線ニ至ル垂直距離	上方ヘ　粍
所有者		
信號符字		
船籍港		
公稱馬力		
最大搭載人員	船員	人
	其ノ他ノ者	人
	合計	人
無線電信		式
端艇		隻

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス

年　月　日

管海官廳印

第七號書式ノ二（滿載吃水線ヲ標示セザル漁船ニ用ウルモノ）（竪二七糎 横四〇糎）

第　　號

割印

漁船檢査證書

項目		記載
船舶番號		第　　號
船種船名		船　　丸
總噸數		噸
機關	種類	
	制限汽壓	
從業制限		
證書有效期間		自　年　月　日 至　年　月　日
所有者		
信號符字		
船籍港		
公稱馬力		
最大搭載人員	船員	人
	其ノ他ノ者	人
	合計	人
無線電信		式
端艇		隻

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス

年　月　日

管海官廳印

第八號書式（竪二七糎横三三糎）

第　號

割印

甲種特殊船檢査證書

船種船名	船　丸	所有者		
總噸數	噸	搭載人員		
航路		總員	人	
證書有效期間	自　年　月　日 至　年　月　日	課内		

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス

年　月　日

管海官廳印

第九號書式（竪二七糎横三三糎）

第　號

割印

乙種特殊船檢査證書

船種船名	船　丸	所有者	
總噸數	噸	臨時旅客	
航路		總員	人
證書有效期間	自　年　月　日 至　年　月　日	課内	

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス

年　月　日

管海官廳印

第十號書式（竪二七糎横三三糎）

第　號

割印

丙種特殊船檢査證書

船種船名	船　丸	航路		總噸數	噸	證書有效期間	自　年　月　日 至　年　月　日
所有者		甲板旅客					
		內譯		總員	人		

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス

年　月　日

管海官廳印

第十一號書式（竪二七糎横三三糎）

第　號

割印

漁船特殊檢査證書

船種船名	船　丸	總噸數	噸	業務ノ種類		操業場所		證書有效期間	自　年　月　日 至　年　月　日
所有者		仕立港		豫定歸著港		搭載人員			
						內譯	總員	人	

船舶安全法第九條ニ依リ本證書ヲ交付ス

年　月　日

管海官廳印

第十二號書式ノ一（船舶ニ用ウルモノ）（竪二七糎横一九糎）

第　號

割印

合格證明書

一　船舶ノ種類及鋼船又ハ木船ノ區別
一　製造番號
一　總噸數
一　船體ノ主要寸法
一　船舶ノ用途
一　機關ノ種類及數
一　製造者ノ住所及氏名又ハ名稱
一　檢査ノ成績　別紙ノ通

右ハ船舶安全法第六條ニ依ル船舶ノ製造檢査ニ合格シタルモノナルコトヲ證明ス

年　月　日

管海官廳印

第十二號書式ノ二（船舶用機關ニ用ウルモノ）（竪二七糎横一九糎）

第　號

割印

合格證明書

一　檢印及檢査番號
一　檢査品名及數
一　製造中檢査又ハ出來上リ檢査ノ區別
一　製造者ノ住所及氏名又ハ名稱
一　檢査ノ成績　別紙ノ通

右ハ船舶安全法第六條ニ依ル船舶用機關ノ檢査ニ合格シタルモノナルコトヲ證明ス

年　月　日

管海官廳印

第十三號書式（竪二七糎 横一九糎）

第　號

割印

回航認可證書

船舶所有者住所

氏名又ハ名稱

右所有（汽 帆）船　丸ハ船舶安全法施行規則第　條第　號ニ該當スルニ因リ（旅客若ハ貨物ノ搭載ヲ許サレタルトキ又ハ之ヲ禁ゼラレタルトキハ其ノ旨ヲ記入ス）

ヨリ　ヲ經テ　迄航行スルコトヲ認可シ本證書ヲ交付ス

本證書ハ　年　月　日限リ其ノ效力ヲ失フ

年　月　日

管海官廳印

第十四號書式（竪八・五糎 横六糎）

第　號

官氏名

船舶檢査官吏之證印

遞信省

船舶設備規程

（昭和九年二月遞信省令第六號）
改正（昭和十一年二月省令第八號 昭和十五年四月省令第二十三號）

目次

第一編　救命設備
第一章　總則
第二章　端艇
第三章　船舶ニ備フベキ端艇其ノ他ノ救命器具ノ數量
第一節　第一種船ノ端艇、救命筏及救命浮器
第二節　第二種船ノ端艇、救命筏及救命浮器
第三節　第三種船ノ端艇、救命筏、救命浮器、救命浮環
又ハ救命胴衣
第四節　第四種船ノ端艇、救命筏及救命浮器
第五節　第五種船ノ端艇、救命筏及救命浮器
第六節　救命胴衣、救命浮環及救命索發射器
第四章　端艇及救命筏ノ附屬品
第五章　端艇其ノ他ノ救命器具ノ積附及標示
第六章　乘艇裝置
第二編　消防設備
第一章　總則
第二章　近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船ノ消防設備
第三章　旅客船ニ非ザル船舶及沿海區域以下ノ航行區域ヲ有スル旅客船ノ消防設備
第三編　居住及衛生設備
第一章　旅客室
第二章　旅客定員
第三章　旅客ニ關スル設備
第四章　船員室等
第五章　衛生設備
第四編　航海用具等
第一章　錨、錨鎖及索
第二章　操舵設備
第三章　航海用具其ノ他ノ屬具
第五編　特殊貨物ノ積附設備
第一章　火藥庫
第二章　甲板積木材貨物ノ積附
第三章　穀類貨物ノ積附
第六編　電氣設備
第一章　總則
第一節　通則
第二節　機械及器具
第三節　電線、電路及附屬設備
第二章　配線工事

第三章　特殊場所ニ於ケル設備
附則

船舶設備規程

第一編　救命設備

第一章　總則

第一條　本編ノ規定ノ適用ニ付テハ船舶ヲ分チテ左ノ六種トス

第一種船　近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船

第二種船　沿海ノ航行區域ヲ有スル旅客船又ハ沿海ノ區域ニ於テ臨時旅客ヲ運送スル旅客船

第三種船　平水ノ航行區域ヲ有スル旅客船又ハ平水ノ區域ニ於テ臨時旅客ヲ運送スル旅客船

第四種船　近海以上ノ區域ニ於テ臨時旅客又ハ甲板旅客ヲ運送スル旅客船

第五種船　旅客船ニ非ザル船舶ニシテ沿海以上ノ航行區域ヲ有スルモノ

第六種船　旅客船ニ非ザル船舶ニシテ平水ノ航行區域ヲ有スルモノ

第二條　救命艇ヲ分チテ左ノ五種トス

一　第一級甲型救命艇　內部浮體ノミヲ有シ固定舷側ヲ有スル無甲板救命艇

二　第一級乙型救命艇　內部浮體及外部浮體ヲ有シ固定舷側ヲ有スル無甲板救命艇

三　第二級甲型救命艇　內部浮體及外部浮體ヲ有シ舷側ノ上部ヲ疊込ミ得ル無甲板救命艇

四　第二級乙型救命艇　固定水密舷墻又ハ疊込ミ得ル水密舷墻ヲ有スル有甲板救命艇

五　發動機附救命艇　第一級救命艇ニシテ發動機ヲ備フルモノ

第三條　端艇ト稱スルハ救命艇及容積一・四立方メートル以上ノ普通艇、傳馬船其ノ他ノ艀舟ヲ謂フ

第四條　救命設備トシテ船舶ニ備フベキ救命艇、救命筏、救命浮器、救命浮環、救命胴衣、救命索發射器、救命焰及信號紅焰ハ試驗規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

第二章　端艇

第五條　救命艇ノ容積又ハ面積ノ算定竝ニ救命艇、救命筏及救命浮器ノ定員ノ算定ニ付テハ試驗規程ニ依ル

第六條　發動機附救命艇ハ燃料ヲ十分ニ備ヘ何時ニテモ直ニ使用シ得ル狀態ニ置キ且之ヲ迅速ニ水上ニ卸ス爲ノ適當ナル裝置ヲ備フベシ

第七條　普通艇、傳馬船其ノ他ノ艀舟ノ構造ハ管海官廳ニ於テ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

第八條　普通艇ノ容積ハ其ノ外部ニ於テ長サ及幅ヲ測リ長サノ中央ニ於テ內部ノ深サヲ測リ之ヲ相乘ジタルモノノ十分

ノ六トス傳馬船其ノ他ノ艀舟ノ容積ハ前項ノ長サ、幅及深サヲ相乗ジタルモノノ十分ノ七トス

第九條 普通艇、傳馬船其ノ他ノ艀舟ノ定員ハ其ノ容積立方メートルニテヲ〇・二八三ニテ除シ之ヲ定ム

第十條 沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶又ハ沿海以下ノ區域ニ於テ臨時旅客ヲ運送スル船舶ニ備フル端艇ノ定員ハ第五條又ハ前條ノ規定ニ依ル定員ノ一・一倍トス

第三章 船舶ニ備フベキ端艇其ノ他ノ救命器具ノ數量

第一節 第一種船ノ端艇、救命筏及救命浮器

第十一條 第一種船ニハ其ノ長サニ應ジ第一號表(イ)欄ニ掲グル組數ノ端艇鈎ヲ備フベシ但シ最大搭載人員ヲ收容スルニ必要ナル端艇ノ數ヨリ多キコトヲ要セズ

管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル場合ニ於テハ端艇鈎ノ組數ヲ第一號表(ロ)欄ニ掲グルモノ迄減ズルコトヲ得

第十二條 前條ノ端艇鈎ノ各組ニハ第一級救命艇一隻ヲ取附クルコトヲ要ス

前項ノ救命艇ノ合計定員ガ船舶ノ最大搭載人員ニ達セザルトキハ之ニ達スル迄救命艇ヲ增備スベシ

前項ノ增備救命艇ハ第一項ノ救命艇ノ下ニ一隻宛配置シ尙殘餘アルトキハ其ノ內側ニ配置スベシ

第十三條 長國際航海ニ從事スル第一種船ニ在リテハ管海官廳ニ於テ救命筏ガ前條第一項ノ救命艇ノ內側ニ配置セラルル增備艇ヨリモ一層迅速且有效ニ利用セラルト認ムルトキハ該增備艇ニ代ヘ救命筏ヲ備フルコトヲ得但シ救命艇ノ總容積ヲ第一號表(ニ)欄ニ掲グル最小容積未滿ト爲スコトヲ得ズ

第十四條 長國際航海ニ從事スル第一種船ニ於テ救命艇ノ數十三隻ヲ超ユルトキハ中一隻、十九隻ヲ超ユルトキハ中二隻ヲ發動機附救命艇ト爲スベシ

第十五條 長國際航海ニ從事セザル第一種船ニ在リテハ第十二條第二項ノ規定ニ依ル增備艇ニ代ヘ救命筏又ハ救命浮器ヲ備フルコトヲ得但シ救命艇ノ總容積ヲ第一號表(ホ)欄ニ掲グル最小容積未滿ト爲スコトヲ得ズ

第十六條 長國際航海ニ從事スル第一種船ニ在リテハ最大搭載人員ノ百分ノ二十五ヲ收容シ得ベキ救命浮器ヲ備ヘ短國際航海ニ從事スル第一種船ニ在リテハ前條ノ規定ニ依ルモノノ外最大搭載人員ノ百分ノ十ヲ收容シ得ベキ救命浮器ヲ備フベシ

第二節 第二種船ノ端艇、救命筏及救命浮器

第十七條 第二種船ニハ其ノ長サニ應ジ第一號表(イ)欄ニ掲グル組數ノ端艇鈎ヲ備フベシ但シ管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル場合ニ於テハ其ノ組數ヲ同表(ロ)欄ニ掲グルモノ迄減ズルコトヲ得

臨時旅客ヲ運送スル船舶ニ在リテハ管海官廳ノ適當ト認ムル揚卸裝置ヲ備フルモノニ限リ前項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第十八條 前條ノ端艇鈎ノ各組ニハ第一級救命艇一隻ヲ取附クルコトヲ要ス

前項ノ救命艇ノ總容積ガ第一號表(チ)欄ニ掲グル最小容積ニ達セザルトキハ之ニ達スル迄救命艇ヲ增備スベシ

前二項ノ救命艇ハ臨時旅客ヲ運送スル船舶ニ在リテハ救命艇ニ非ザル端艇ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

第十九條 端艇ノ總容積及端艇鈎ノ組數ハ前二條ノ規定ニ拘ラズ船舶ノ最大搭載人員ヲ收容スルニ必要ナル程度ヲ超ユルコトヲ要セズ

第二十條 第十八條ノ規定ニ依ル端艇ノ總容積ガ第一號表(チ)欄ノ容積ニ達スルモ船舶ノ最大搭載人員ノ百分ノ五十ヲ收容スルニ必要ナル容積ニ達セザルトキハ之ニ達スル迄端艇、救命筏又ハ救命浮器ヲ增備スベシ

第二十一條 長サ三〇メートル未滿ノ第二種船ニ在リテハ管海官廳ノ見込ニ依リ救命艇ニ代ヘ端艇鈎ヲ備ヘザル端艇、救命筏又ハ救命浮器ヲ備フルコトヲ得

第三節 第三種船ノ端艇、救命筏、救命浮器、救命浮環又ハ救命胴衣

第二十二條 湖川港內ノミヲ航行スル船舶ヲ除クノ外第三種船ニハ最大搭載人員ノ百分ノ三十ヲ收容スルニ必要ナル端艇、救命筏、救命浮器、救命浮環又ハ救命胴衣ヲ備フベシ

前項ノ場合ニ於テ船舶ニ備フベキ救命浮環又ハ救命胴衣ノ數ハ其ノ一箇ヲ以テ一人ヲ收容スルモノトシテ之ヲ算定ス

第四節 第四種船ノ端艇、救命筏及救命浮器

第二十三條 第四種船ニハ其ノ長サニ應ジ第一號表(イ)欄ニ掲グル組數ノ端艇鈎ヲ備フベシ但シ最大搭載人員ヲ收容スルニ必要ナル端艇ノ數ヨリ多キコトヲ要セズ

管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル場合ニ於テハ端艇鈎ノ組數ヲ第一號表(ハ)欄ニ掲グルモノ迄減ズルコトヲ得

第二十四條 前條ノ端艇鈎ノ各組ニハ第一級救命艇一隻ヲ取附クルコトヲ要ス

前項ノ救命艇ノ合計定員ガ船舶ノ最大搭載人員ニ達セザルトキハ之ニ達スル迄救命艇ヲ增備スベシ

前項ノ增備救命艇ハ端艇、救命筏又ハ救命浮器ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得但シ救命艇ノ總容積ヲ第一號表(ヘ)欄ニ掲グル最小容積未滿ト爲スコトヲ得ズ

第二十五條 長國際航海ニ從事セザル第四種船ニ付テハ第二十三條ノ規定ニ依リ增備スベキ端艇鈎ノ組數及前條第二項ノ規定ニ依リ增備スベキ救命艇ハ最大搭載人員ノ百分ノ八十ヲ收容スルニ必要ナルモノ迄、前條第三項但書ノ規定ニ依

ル最小容積ハ第一號表(ト)欄ニ掲グルモノ迄之ヲ減ズルコトヲ得

第二十六條 特ニ限定セラレタル區域ヲ航行スル第四種船ニ付管海官廳前三條ノ規定ヲ適用スルコト實際上不可能ナリト認メタルトキハ當該航路及旅客ノ性質ヲ考慮シ適當ト認ムル程度迄其ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

第五節　第五種船ノ端艇、救命筏及救命浮器

第二十七條 近海以上ノ航行區域ヲ有スル第五種汽船ニハ各舷ニ最大搭載人員ヲ收容シ得ルニ足ル總容積ノ第一級救命艇及之ニ對スル端艇鈎ヲ備フベシ但シ救命艇ノ總數三隻ナルトキハ中一隻ヲ、三隻ヲ超ユルトキハ中二隻ヲ第一級救命艇ニ非ザル端艇ト爲スコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ第一級救命艇ニ非ザル端艇ヲ備フル場合ニ於テハ最大搭載人員ヲ收容スルニ必要ナル容積ノ二分ノ一以上ノ總容積ヲ有スル第一級救命艇ヲ各舷ニ備フベシ

前二項ノ規定ハ海難救助船其ノ他特殊ノ用途ニ使用スル汽船ニシテ多數ノ人員ヲ搭載スルモノ又ハ長サ三〇メートル未滿ノ汽船ニ付テハ管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル程度迄其ノ適用ヲ斟酌ヌルコトヲ得

第二十八條 近海以上ノ航行區域ヲ有スル第五種帆船及沿海ノ航行區域ヲ有スル第五種船ニハ最大搭載人員ヲ收容スル

ニ必要ナル端艇及之ニ對スル端艇鈎ヲ備フベシ但シ長サ三〇メートル未滿ノ船舶ニ在リテハ管海官廳ノ見込ニ依リ端艇鈎ヲ備フル端艇ニ代ヘ之ヲ備ヘザル端艇、救命筏、救命浮器又ハ救命浮環ヲ備フルコトヲ得

前項ノ但書ノ場合ニ於テ船舶ニ備フベキ救命浮環ノ數ハ一箇ヲ以テ一人ヲ收容スルモノトシテ之ヲ算定ス

第六節　救命胴衣、救命浮環及救命索發射器

第二十九條 左ノ各號ノ船舶ニハ最大搭載人員ト同數ノ救命胴衣ヲ備フベシ

一　第一種船、第二種船又ハ第四種船

二　遠洋ノ航行區域ヲ有スル第五種船又ハ近海ノ航行區域ヲ有スル第五種汽船

前項第一號ニ掲グル船舶ニ於テハ小兒ヲ搭載スル爲實際ノ搭載人員ガ船舶ノ最大搭載人員ヲ超ユル場合ニ對シ超過人員ニ相當スル數ノ救命胴衣ヲ增備シ置クベシ

第三十條 旅客船ニハ左表ニ依リ救命浮環及救命焰ヲ備フベシ

船ノ長サ(米)	第一種船		第二種船		第三種船		第四種船	
	救命浮環	救命焰	救命浮環	救命焰	救命浮環	救命焰	救命浮環	救命焰
六一未滿八	一二	六	六	二	四		八	四
八以上六未滿九	一二	六	六	二	四		一〇	六
九以上一一未滿一二	一二	六	六	二	四		一二	六
一二以上一八未滿一一	一八	九	六	二	四		一二	六
一八以上二四未滿二一	二四	一二	六	二	四		一二	六
二四以上二四	三〇	一五	六	二	四		一二	六

第三十一條 旅客船ニ非ザル船舶ニハ左表ニ依リ救命浮環及救命焰ヲ備フベシ

船舶ノ種類			航行區域	汽船		帆船	
				救命浮環	救命焰	救命浮環	救命焰
第五種船			遠洋區域	六	四	四	
			近海區域	四	二	二	
			沿海區域	二		二	
第六種船			平水區域	二			

第三十二條 國際航海ニ從事スル第一種船ニハ救命索發射器一組ヲ備フベシ

第四章　端艇及救命筏ノ附屬品

第三十三條 救命艇ニハ左ノ各號ニ掲グル附屬品ヲ備フベシ

一　櫂(各腰掛ニ付一挺)、豫備櫂二挺、操舵櫂一挺、櫂栓又ハ櫂架一組半及鈎竿一本

二　各栓孔ニ對シ栓二箇(適當ナル自働弁ヲ取附クルトキハ栓ヲ要セズ)、淦汲一箇及亞鉛鍍鐵製バケツ一箇

三　舵一箇及舵柄又ハ索附横舵柄一箇

四　手斧二箇

五　油ヲ滿タシ蕊ヲ整ヘタル燈一箇

六　有效ナル羅針儀一箇

七　一枚以上ノ良好ナル帆及附屬裝置ヲ備フル檣一本

八　海錨一箇

九　繫索一筋

十　植物性又ハ動物性ノ油四・五リツトルヲ容レタル容器一箇(該容器ハ水面ニ容易ニ油ヲ撒布シ得ル構造ヲ有シ且海錨ニ取附ケ得ル樣裝置シタルモノナルコトヲ要ス)

十一　定員一人ニ付一リツトルノ割合ノ飲料水ヲ容レ且紐附ノ杓ヲ備ヘタル水密容器一箇

十二　水密容器ニ容レタル信號紅焰一二箇及水密容器ニ容レタル燐寸一箇

十三　小型附屬品ヲ格納スルニ適當ナル箱一箇

第二級乙型救命艇ニハ前項各號ニ掲グル附屬品ノ外淦水「ポンプ」二箇ヲ備フベシ

第三十四條 長國際航海ニ從事スル第一種船ノ救命艇ニハ前條ノ規定ニ依ル附屬品ノ外左ノ各號ニ掲グル附屬品ヲ備フ

ベシ

一　定員一人ニ付一キログラムノ割合ノ糧食ヲ容レタル氣密容器一箇

二　定員一人ニ付半キログラムノ割合ノ煉乳

第三十五條　發動機附救命艇ニハ第三十三條ノ規定ニ依ル附屬品ヲ備ヘ且鈎竿一本ヲ增備スベシ但シ櫂ノ數ハ腰掛ノ數ノ二分ノ一ニ止メ檣及帆ハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ

長國際航海ニ從事スル第一種船ノ發動機附救命艇ニハ前項ノ規定ニ依ル附屬品ノ外前條各號ニ揭グル附屬品ヲ備フベシ

第三十六條　長國際航海ニ從事スル第一種船ノ發動機附救命艇ニハ無線電信設備ヲ爲シ且探照燈ヲ備フベシ探照燈ハ八〇ワット以上ノ燈、有效ナル反射鏡及動源ヲ備ヘ明キ色ノ物體ヲ一八〇メートルノ距離ニテ約一八メートルノ幅ニ亙リ合計六時間有效ニ照明シ得ルコトヲ要シ且連續三時間使用シ得ルモノナルコトヲ要ス

無線電信及探照燈ニ要スル動力ガ同一動源ヨリ供給セラルルトキハ該動源ハ兩設備ノ同時ノ操作ニ對シ十分ナルコトヲ要ス

第三十七條　近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ普通艇ノ附屬具ニ付テハ第三十三條ノ規定ヲ準用ス

沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ普通艇ニハ左ノ各號ニ揭グル附屬品ヲ備フベシ

一　櫂（各腰掛ニ付一挺）、豫備櫂二挺、操舵櫂一挺、櫂栓又ハ櫂架一組半及鈎竿一本

二　各栓孔ニ對シ栓二箇（適當ナル自働弁ヲ取附クルトキハ栓ヲ要セズ）、淦汲一箇及桶一箇

三　舵一箇及舵柄又ハ索附横舵柄一箇

四　繫索一筋

第三十八條　傳馬船其ノ他ノ艀舟ニハ櫂、舵及其ノ附屬品ニ代ヘ櫓二挺、櫂一挺ヲ備フルノ外前條第二項各號ニ揭グル附屬品ヲ備フベシ

第三十九條　救命筏ニハ左ノ各號ニ揭グル附屬品ヲ備フベシ

一　櫂四挺

二　櫂架五箇

三　繫索一筋

四　救命焰一箇

五　海錨一箇

六　植物性又ハ動物性ノ油四・五リツトルヲ容レタル容器（該容器ハ水面ニ容易ニ油ヲ撒布シ得ル構造ヲ有シ且海錨ニ取附ケ得ル樣裝置シタルモノナルコトヲ要ス）

七　定員一人ニ付リ一ツトルノ割合ノ飲料水ヲ容レ且紐附ノ杓ヲ備ヘタル水密容器一箇

八　水密容器ニ容レタル信號紅焰一二箇及水密容器ニ容レタル燐寸一箇

第四十條　長國際航海ニ從事スル第一種船ノ救命浮ニハ前條各號ニ揭グル附屬品ノ外定員一人ニ付一キログラムノ割合ノ糧食ヲ容レタル氣密容器一箇ヲ備フベシ

沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ救命筏ニハ前條第四號乃至第八號ノ附屬品ヲ備フルコトヲ要セズ

第五章　端艇其ノ他ノ救命器具ノ積附及標示

第四十一條　已ムコトヲ得ザル場合ニ於テハ端艇ハ上下ニ重ネテ積附ケ又他ノ端艇内ニ重ネテ積附クルコトヲ得但シ之ヲ進水セシムルニ當リ吊リ上グルコトヲ要スル積附ハ動力ニ依ル吊上裝置ヲ備ヘザル場合ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第四十二條　端艇鈎下ニ重ネテ配置シタル端艇ノ外其ノ内側ニ端艇又ハ救命筏ノ積附ヲ必要トスルトキハ之ヲ甲板上ニ横ニ積附クルコトヲ得但シ其ノ積附ハ端艇又ハ救命筏ガ之ヲ進水セシムル暇ナキ場合ニ於テハ船舶ヨリ離レテ容易ニ浮ビ得ル樣之ヲ爲スベシ

端艇ヲ内側ニ配置スル場合ニ於テハ其ノ成ルベク多數ヲ甲板ノ一側ヨリ他側ニ移動シ進水セシムル爲管海官廳ノ適當ト認ムル移動裝置ヲ設クベシ

第四十三條　端艇ハ其ノ揚卸ニ當リ相互ニ妨害セザル樣特殊ノ方法ヲ講ズル場合ニ限リ之ヲ二層以上ノ甲板ニ積附クルコトヲ得

第四十四條　端艇ハ進水ニ際シ推進器ニ接近シ危險ヲ生ズル虞アル位置又ハ船舶ノ前端部ニ之ヲ積附クルコトヲ得ズ

第四十五條　端艇鈎ハ管海官廳ノ適當ト認ムル形式ノモノニシテ端艇ノ揚卸操作ガ他ノ端艇ノ揚卸操作ニ依リ妨害セラレザル樣之ヲ配置スベシ

第四十六條　端艇鈎ニ配置セラレタル端艇ニハ何時ニテモ使用シ得ル吊索ヲ備附ケ且端艇ヲ吊索ヨリ迅速ニ取外ス爲ノ裝置ヲ設クベシ

第四十七條　國際航海ニ從事スル第一種船及甲板旅客ヲ搭載スル第四種船ノ端艇揚卸裝置ハ左ノ各號ノ規定ニ適合スルモノナルコトヲ要ス但シ短國際航海ニ從事スル船舶ニシテ最低航海吃水線ヨリ端艇甲板迄ノ高サガ四・五メートル以下ノモノニ付テハ管海官廳ニ於テ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

一　端艇鈎、滑車、吊索其ノ他ノ一切ノ裝具ハ船舶ガ何レカノ側ニ一五度傾キタル場合ニ於テモ滿載狀態ノ端艇ヲ安全ニ卸シ得ル程度ノ强力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

二　吊索ハ船舶ガ最小航海吃水ニ於テ反對ニ一五度傾キタル場合ニ水面ニ達スル長サノモノナルコトヲ要ス

三　端艇鈎ニハ旅客ヲ除クノ外艤裝品及艇手ノ全部ヲ搭載

シタル端艇ヲ吊卸可能ナル最大傾斜ニ逆ヒ振出スニ十分ナル力ヲ有スル裝置ヲ備フベシ

四　二隻以上ノ端艇ガ同一組ノ端艇鈎ニ依リ取扱ハルル場合ニ於テハ各端艇ニ付各別ニ吊索ヲ備フベシ但シ捲返ス爲ノ機械裝置ヲ備ヘ且吊索ニ鋼索ヲ使用スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

五　前號ノ場合ニ於テハ端艇ノ揚卸裝置ハ各端艇ヲ順次迅速ニ卸シ得ルモノナルコトヲ要シ且鋼索ヲ捲返ス爲ノ機械裝置ヲ備フルトキハ尙手動捲返裝置ヲ備フベシ

第四十八條　鋼製普通型端艇鈎ノ徑ハ船舶ノ種類ニ應ジ左ノ各號ノ規定ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ但シ傳馬船其ノ他ノ艀舟ニ用ウル端艇鈎ノ徑ハ管海官廳ニ於テ適當ト認ムルモノト爲スコトヲ得

一　前條ノ規定ノ適用ヲ受クル船舶ニ用ウル鋼製普通型端艇鈎ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

$$10.2\sqrt[3]{\frac{W(H+4S)}{12.5}}\ \text{ミリメートル}$$

Wハ(人端艇ノ定員一人ニ付七五キログラムノ割合トス)及艤裝品ヲ滿載シタルトキノ端艇ノ重量キログラムニテ

Hハ上部支點ヨリ測リタル端艇鈎ノ高サメートルニテ

Sハ端艇鈎上部突出ノ徑メートルニテ

右算式ヲ適用スルニ當リテハ尙左ノ規定ニ依ル

(一)　端艇鈎ガ二箇以上ノ端艇ノ揚卸ニ使用セラルル場合ニ於テハWハ各端艇ノ重量中最大ナルモノトス

(二)　Wヲ當該端艇ノ定員ニテ除シタル數ガ一〇〇未滿ナル場合ニ於テWハ端艇ノ定員ニ一〇〇ヲ乘ジタルモノト看做ス

二　前條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル船舶ニ用ウル鋼製普通型端艇鈎ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

$$124\sqrt[3]{\frac{L\times B\times D(H+4S)}{174}}\ \text{ミリメートル}$$

Lハ外板ノ外面ト船首材トノ交點ヨリ船尾ニ於ケル之ニ相當スル點迄測リタル端艇ノ長サメートルニテ

Bハ外板ノ外面ヨリ外面迄測リタル端艇ノ最大幅メートルニテ

Dハ長サノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷端迄測リタル端艇ノ深サメートルニテ

H及Sハ前號ノ規定ニ依ル

第四十九條　救命筏及救命浮器ハ何時ニテモ近寄リ得ル場所ニ容易且迅速ニ之ヲ進水セシメ得ル樣備置クベシ

第五十條　救命浮環ハ何時ニテモ近寄リ得ル場所ニ容易且迅速ニ取外シテ投ゲ得ル樣之ヲ備置クベシ

船舶ノ各舷ニ備フル救命浮環中少クトモ一箇ニハ長サ二七・五メートル以上ノ救命索ヲ取附ケ置クベシ

第五十一條　救命焰ハ必要ナル取附具ヲ附シ其ノ屬スル救命浮環ノ附近ニ之ヲ備置クベシ

第五十二條　救命胴衣ハ容易ニ使用シ得ル樣旅客室、船員室其ノ他適當ノ場所ニ配置スベシ

一船ニ備フル救命胴衣ノ種類ハ二種ヲ超ユルコトヲ得ズ

第五十三條　端艇、救命筏及救命浮器ニハ其ノ定員竝ニ之ヲ搭載スル船舶ノ名稱及船籍港ヲ標示シ且端艇ニハ其ノ寸法ヲ標示スベシ

前項ノ標示ハ見易キ場所ニ明瞭且耐久的ナル文字ヲ以テ之ヲ爲シ管海官廳ノ適當ト認メタルモノナルコトヲ要ス

第五十四條　救命浮環ニハ船名ヲ標示スベシ

第一種船ニ在リテハ救命浮環ノ備附場所ヲ示スベキ適當ナル標示ヲ爲スベシ

第五十五條　救命胴衣ヲ備附ケタル箇所ニハ明瞭ナル標示ヲ爲シ且旅客室毎ニ救命胴衣ノ著用法說明書ヲ掲ゲ置クベシ

第六章　乘艇裝置

第五十六條　本章ノ規定ハ國際航海ニ從事スル旅客船ニ之ヲ適用ス但シ臨時旅客又ハ甲板旅客ヲ運送スル船舶ニ付テハ管海官廳本章ノ規定ヲ適用スルコト實際上不可能ナリト認メタルトキハ船舶ノ大小、航路等ヲ考慮シ適當ト認ムル程度迄其ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

第五十七條　乘艇甲板ニハ旅客ノ乘艇ニ對スル適當ナル設備ヲ爲スベシ

各組ノ端艇鈎ニハ適當ナル梯子ヲ備置クベシ

第五十八條　各區畫室及各甲板ニハ管海官廳ノ適當ト認ムル出入設備ヲ設クベシ

第五十九條　船舶ノ各部分殊ニ端艇ノ備附アル甲板ニハ安全上十分ナル電燈其ノ他ノ照明設備ヲ爲スベシ

最低航海吃水線ヨリ端艇甲板迄ノ高サガ九・一五メートルヲ超ユル船舶ニ在リテハ端艇ノ吊出若ハ吊卸作業中又ハ吊卸直後ニ於テ必要ニ應ジ船舶ヨリ端艇ヲ照明スル爲適當ナル設備ヲ設クベシ

前二項ノ安全照明設備ハ照明用主機械ニ故障ヲ生ジタル場合ニ於テ隔壁甲板以上ノ箇所ニ備ヘタル獨立ノ動源ニ依リ照明シ得ベキモノナルコトヲ要ス

第六十條　旅客又ハ船員ニ供用スル各主要區畫室ノ出口ハ常ニ非常燈ヲ以テ照シ置クベシ

前項ノ非常燈ハ照明用主機械ニ故障ヲ生ジタル場合ニ於テ前條第三項ノ動源ニ依リ照明シ得ベキ裝置ノモノナルコトヲ要ス

第六十一條　長國際航海ニ從事スル旅客船ニ在リテハ汽笛又ハ汽角ニ依ル信號裝置ノ外旅客ヲ集合所ニ召集スル爲船橋ヨリ電氣裝置ニ依リ操作セラルル危急信號裝置ヲ適當ノ場

所ニ備フベシ

第二編　消防設備

第一章　總則

第六十二條　本編第二章ノ規定ハ近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニ之ヲ適用ス但シ臨時旅客又ハ甲板旅客ヲ運送スル船舶及國際航海ニ從事セザル船舶ニ付管海官廳該規定ヲ適用スルコト實際上不可能ナリト認メタルトキハ船舶ノ大小、航路等ヲ考慮シ適當ト認ムル程度迄其ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

本編第三章ノ規定ハ旅客船ニ非ザル船舶及沿海以下ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニ之ヲ適用ス

第六十三條　船舶ニ備フベキ火災警報裝置、防毒面、安全燈、移動式泡消火器、携帶用泡消火器及携帶用液體消火器ハ試驗規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

第六十四條　前條ニ揭グルモノ以外ノ消防裝置ニ付テハ本令ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ本令ニ定ムルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限リ之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

第六十五條　消防裝置ハ航海中何時ニテモ使用シ得ル狀態ニ整備シ置クコトヲ要ス

第二章　近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船ノ消防設備

第六十六條　船舶ニハ巡視員ガ近寄リ得ザル場所ニ於ケル火災ノ發生又ハ徵候ヲ乘組員ノ注意ヲ引キ易キ一箇所又ハ數箇所ニテ自働的ニ表示シ又ハ記錄スル火災警報裝置ヲ設クベシ

第六十七條　船舶ニハ十分ナル數ノ携帶用液體消火器ヲ備ヘ各機關室ニハ少クトモ二箇ノ携帶用液體消火器ヲ配置スベシ

第六十八條　船舶ニハ防毒面一箇及安全燈一箇ヨリ成ル裝具二組ヲ隔リタル箇所ニ一組宛備フベシ

第六十九條　總噸數四千噸未滿ノ船舶ニハ二箇、總噸數四千噸以上ノ船舶ニハ三箇ノ消防用蒸汽「ポンプ」其ノ他ノ動力「ポンプ」ヲ備フベシ

前項ノ各「ポンプ」ハ船內何レノ部分ニモ十分ナル水量ヲ二箇ノ强力ナル噴射ヲ以テ同時ニ放出シ得ベキモノナルコトヲ要シ且船舶ノ發港前何時ニテモ使用シ得ル狀態ト爲シ置クコトヲ要ス

第七十條　前條ノ規定ニ依リ三箇以上ノ消防「ポンプ」ヲ備フル船舶ニ在リテハ該「ポンプ」ノ全部ヲ同一室內ニ備フルコトヲ得ズ汽罐ニ油ヲ焚ク汽船ニ在リテ汽機室ト汽罐室トノ仕切ガ完全ナル鋼製隔壁ニ非ズシテ燃料油ガ汽罐室淦水道ヨリ汽機室ニ流ルル虞アル構造ノモノナルトキハ消防「ポンプ」中一箇ヲ軸路又ハ機關室外ノ場所ニ置クベシ

第七十一條　消防「ポンプ」ノ送水管ハ水密戸及防火戸ヲ閉ヂタル場合ニ於テ居住設備ヲ設ケタル甲板ノ何レノ部分ニモ同時ニ二箇ノ强力ナル射水ヲ爲シ得ル樣配置スベシ

送水管ノ支管ハ各甲板上ニ於テ之ニ消防布管ヲ容易ニ連絡シ得ル樣配置スベシ

送水管及布管ハ十分ナル大サヲ有シ且適當ナル材料ヲ以テ製造シタルモノナルコトヲ要ス

第七十二條　貨物積載場所ニハ何レノ部分ニモ消防「ポンプ」ニ依リ迅速且同時ニ二箇ノ强力ナル射水ヲ爲シ得ル樣設備スベシ

總噸數千噸以上ノ船舶ニ在リテハ遊離狀態ニテ最大艙ノ全容積ノ百分ノ三十以上ヲ占有シ得ル量ノ鎭火性瓦斯ヲ常設ノ管系ニ依リ貨物ヲ搭載スル各區畫室ニ迅速ニ送込ミ得ル樣設備スベシ但シ蒸汽機關ヲ備フル船舶ニ在リテハ鎭火性瓦斯ニ代ヘ蒸汽ヲ用ウルコトヲ得

第七十三條　主汽罐ニ油ヲ焚ク汽船ノ機關室ノ消防設備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一　消防「ポンプ」ニ依リ機關室ノ何レノ部分ニモ迅速且同時ニ二箇ノ强力ナル射水ヲ爲シ得ル樣設備スベシ

二　各汽罐室及燃料油槽、燈油槽其ノ他燃料油設備ヲ設置シタル各機關室ニハ泡ヲ急速ニ放出撒布シ得ベキ裝置ヲ備フベシ本號ノ裝置ハ之ヲ備ヘタル室ノ外側ヨリ操作シ且調節シ得ルモノナルコトヲ要ス

本號ノ裝置ハ各區畫室底面（二重底ヲ有スル船舶ニ在リテハ二重底內底板ノ上面、二重底ヲ有セザル船舶ニ在リテハ底部外板ノ內面）ノ全面積ヲ一五・二四センチメートルノ深サ迄蔽フニ十分ナル泡ヲ放出シ得ルモノナルコトヲ要ス若シ汽機室ト汽罐室トノ仕切ガ完全ナル鋼製隔壁ニ非ズシテ燃料油ガ汽罐室淦水道ヨリ汽機室ニ流ルル虞アル構造ナルトキハ汽罐室ト汽機室トヲ併セタルモノヲ一區畫トシ泡ノ量ヲ定ムベシ

三　容量一三六リットル以上ノ泡消火器ヲ汽罐室ガ一室ナル汽船ニ在リテハ一箇、汽罐室ガ二室以上ナル汽船ニ在リテハ二箇備フベシ

本號ノ消火器ニハ汽罐室又ハ燃料油設備ヲ設置シタル場所ノ何レノ部分ニモ達シ得ル布管ヲ備ヘ之ヲ卷車ニ卷附ケ置クベシ

四　油ノ表面ハ甚シク攪亂セズシテ油上ニ撒水スル爲適當ナル送水管ヲ備フベシ

五　各焚火場ニハ砂、曹達ヲ飽和シタル鋸屑又ハ管海官廳ノ適當ト認ムル乾燥物質二八三立方デシメートルヲ容レタル容器一箇及撒布用具ヲ備フベシ

六　各汽罐室及燃料油設備ヲ設置シタル各機關室ニハ携帶用泡消火器二箇ヲ備フベシ

七　各容器及之ヲ操作スル弁ハ近寄リ易ク且火災ノ發生ニ依リ容易ニ遮ラレザル場所ニ之ヲ備置クベシ

第七十四條　發動機ニ依リ推進スル船舶ノ機關室ノ消防設備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一　消防「ポンプ」ニ依リ機關室ノ何レノ部分ニモ迅速且同時ニ二箇ノ强力ナル射水ヲ爲シ得ル樣設備スベシ

二　油ノ表面ヲ甚シク攪亂セズシテ油上ニ撒水スル爲適當ナル送水管ヲ備フベシ

三　機關室内ニ補汽罐ヲ有スル場合ニ於テハ適當ナル布管ヲ備フル容量一三六リットルノ泡消火器一箇ヲ備フベシ

四　機關室内ニ補汽罐ヲ有セザル場合ニ於テハ容量四五リットルノ移動式泡消火器一箇ヲ備フベシ

五　容量九リットルノ携帶用泡消火器ヲ機關ノ軸馬力一千毎ニ一箇ノ割合ヲ以テ備フベシ但シ其ノ總數ハ二箇ヨリ少カラザルコトヲ要シ六箇ヨリ多キコトヲ要セズ

第三章　旅客船ニ非ザル船舶及沿海以下ノ航行區域ヲ有スル旅客船ノ消防設備

第七十五條　沿海ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニハ四箇、平水ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニハ二箇ノ消防手桶ヲ備フベシ

消防手桶ハ常時水ヲ滿タシ消火ニ便利ナル場所ニ之ヲ備置クベシ

第七十六條　總噸數百噸以上ノ旅客船ニ在リテハ蒸汽「ポンプ」其ノ他ノ動力「ポンプ」ヲ備ヘ船内各部ニ射水シ得ル樣送水管及消防布管ヲ備フベシ

總噸數三百五十噸以上ノ旅客船ニ在リテハ第七十七條又ハ第七十八條ノ規定ニ依リ機關室ニ備フルモノノ外十分ナル數ノ携帶用液體消火器ヲ備フベシ

第七十七條　主汽罐ニ油ヲ焚ク汽船ノ機關室ノ消防設備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一　汽罐室ニハ動力「ポンプ」ノ送水管ヲ適當ノ位置ニ導キ布管ヲ容易ニ取附ケ得ル樣裝置スベシ

二　蒸汽ヲ汽罐室ノ下部ニ噴出セシメ得ベキ多孔管ヲ備フベシ

三　汽罐室ニハ近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ二箇、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ一箇ノ砂三〇立方デシメートル以上ヲ容レタル箱ヲ備フベシ

四　近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ二箇、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ一箇ノ携帶用液體消火器ヲ備フベシ

第七十八條　發動機ニ依リ推進スル船舶ノ機關室ノ消防設備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一　近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニハ二箇、其ノ他ノ

船舶ニハ一箇ノ携帶用液體消火器ヲ備フベシ但シ瓦斯發動機ヲ備フル船舶又ハ旅客船ニ非ザル沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

二　近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ二箇、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ一箇ノ砂三〇立方デシメートル以上ヲ容レタル箱ヲ備フベシ

第三編　居住及衛生設備

第一章　旅客室

第七十九條　左ニ掲グル旅客以外ノ旅客ニ對シテハ本章ノ規定ニ依リ旅客室ヲ設備スベシ

一　甲板旅客

二　航行豫定時間三時間未滿ノ航路ニ於テ搭載スル臨時旅客

三　沿海以下ノ航行區域ニシテ航行豫定時間三時間未滿ノ航路ニ於テ搭載スル旅客

管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ七月一日ヨリ八月末日ニ至ル期間ニ限リ前項第二號及第三號ノ規定ニ依ル航行豫定時間ヲ五時間迄延長スルコトヲ得

第八十條　旅客室ハ滿載吃水線ノ直下ノ甲板以上ニ之ヲ設クベシ

第八十一條　甲板間ニハ其ノ高サ遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ二・一メートル以上、近海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一・四メートル以上、沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一・八メートル以上、沿海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一・四メートル以上ナルコトヲ要ス

第八十三條　客席ヲ二層以上ト爲ス場合ニ於テハ客席ノ上面ヨリ甲板ノ下面又ハ上層客席ノ下面迄ノ高サハ移民ヲ搭載スル移民船ノ雜居客席ニ在リテハ一メートル以上、其ノ他ノ船舶ノ三等客席ニ在リテハ〇・七六メートル以上ト爲スベシ

前項ノ場合ニ於テハ甲板ノ上面ヨリ下層客席迄ノ高サヲ一五センチメートル以上ト爲スベシ

第八十四條　旅客室ハ燃料油槽ノ隔壁又ハ頂板ニ隣接シテ之ヲ設クルコトヲ得ズ但シ油槽隔壁ト旅客室トヲ隔離スル爲通風十分ニシテ且通行シ得ル間隙ヲ以テ氣密ナル鋼製隔壁ヲ設ケタル場合又ハ人孔其ノ他ノ開口ナキ油槽頂板ノ上面

ヲ厚サ三八ミリメートル以上不燃性塗料ヲ以テ塗裝シ且該場所ノ通風ヲ特ニ十分ト爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第八十五條　旅客室ハ假設ノ梁上ニ之ヲ設クルコトヲ得ズ

旅客甲板ハ梁ニ固著シ墳際シタルモノナルコトヲ要ス

旅客室直上ノ暴露鋼甲板及旅客ヲ搭載スル暴露鋼甲板ニハ木甲板ヲ張ルコトヲ要ス

第八十六條　臨時旅客ヲ搭載スル船舶又ハ沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

甲板旅客ヲ搭載スル船舶ハ管海官廳ニ於テ航路ノ狀況等ニ依リ差支ナシト認ムルトキハ前條第三項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第八十七條　雜居客室ニハ出入口ニ通ズル通路ヲ適當ニ設クベシ但シ客席ヲ一層ト爲ス場合ニ於テ客席ノ面積ノ六分ノ一ヲ通路ニ充ツルトキ又ハ長サ及幅三・七メートル以下ノ客席ニシテ他室ノ通路ニ當ラザルトキハ別ニ通路ヲ設ケザルモ妨ナシ

前項ノ通路ノ幅ハ遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ九〇センチメートル以上、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ六〇センチメートル以上ト爲スベシ

第八十八條　左ニ掲グル場所ハ客室ニ充ツルコトヲ得ズ

一　外車汽船ノ車覆

二　船首隔壁アル船舶ニ在リテハ其ノ前部、船首隔壁ナキ船舶ニ在リテハ上甲板上面ニ於テ船首材ノ內面ヨリ船ノ最大幅ノ二分ノ一ニ當ル箇所ヨリ前部

三　幅又ハ長サ六〇センチメートル未滿ノ場所

四　汽罐室ノ周圍ニ防熱裝置ヲ施サザル場合ニ於テハ其ノ周圍六〇センチメートル迄ノ場所

五　其ノ他管海官廳ニ於テ旅客ノ起臥動作ニ不適當ト認ムル場所

第八十九條　左ニ掲グル場所ハ客室ノ面積ニ算入セズ但シ湖川港內ノミヲ航行スル船舶又ハ發航港ヨリ到達港迄直航スル船舶ニ在リテハ艙口ノ上面、周圍及載貨門ノ內側ヲ客席ニ算入スルモ妨ナシ

一　通路

二　艙口ノ上面

三　艙口ノ周圍六〇センチメートル迄ノ場所

四　載貨門ノ前後各三五センチメートルノ箇所ヨリ其ノ幅ニテ艙口ノ周圍六〇センチメートル迄ノ場所

第九十條　上甲板其ノ他閉塞セザル場所ニ旅客ヲ搭載スル場合ト雖モ左ニ掲グル場所ハ之ヲ旅客搭載場所ニ充ツルコトヲ得ズ

一　艙口、天窓、舷側水道其ノ他障害物ノ占ムル部分

二　甲板室、艙口、天窓及舷側水道ノ間ニ於ケル幅六〇センチメートル未滿ノ場所

三　短船首樓甲板上ノ場所

四　船首材ノ前面ヨリ船ノ長サノ八分ノ一間ニアル上甲板及長船首樓甲板上ノ場所

五　其ノ他管海官廳ニ於テ旅客ノ搭載ニ適セズト認ムル場所

第九十一條　旅客室ノ容積ノ算定ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一　形狀整正ナル場所ニ在リテハ平均ノ幅ニ長サ及高サヲ乘ズ

二　形狀整正ナラザル場所ニ在リテハ各室每ニ其ノ前中後ノ三箇所ニ於テ上中下ノ幅ヲ測リ前後ニ於ケル上下ノ幅ノ和ニ前後ノ中幅ノ四倍及中央ニ於ケル上下ノ幅ノ各四倍ヲ加ヘ且中央ノ中幅ノ十六倍トヲ加ヘタルモノヲ三十六ニテ除シ之ニ長サ及平均ノ高サヲ乘ズ

三　船尾斜曲ナル場所〔長サ(矢)ガ幅(弦)ノ二分ノ一ノ箇所ヨリ後部〕ニ在リテハ長サノ三分ノ二ニ其ノ場所ノ前端ノ幅ト高サトヲ乘ズ

四　前各號ノ規定ニ依リ定メタル容積ヨリ該容積內ニ於テ客室ニ充ツルコトヲ得ザル場所ノ容積ヲ減ズ

第九十二條　客席ノ面積又ハ第七十九條第一項各號ニ掲グル旅客ヲ搭載スル場所ノ面積ノ算定ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一　形狀整正ナル場所ニ在リテハ平均ノ幅ニ長サヲ乘ズ

二　形狀整正ナラザル場所ニ在リテハ前中後ノ三箇所ノ幅ヲ測リ前後ノ幅ノ和ニ中央ノ幅ノ四倍ヲ加ヘ六ニテ除シ之ニ長サヲ乘ズ

三　船尾斜曲ナル場所〔長サ(矢)ガ幅(弦)ノ二分ノ一ニ等シキ場所ヨリ後部〕ニ在リテハ長サノ三分ノ二ニ其ノ場所ノ前端ノ幅ヲ乘ズ

四　前各號ノ規定ニ依リ定メタル面積ヨリ第八十九條ノ規定ニ依リ客室ノ面積ニ算入セザル場所及第九十條各號ニ掲グル場所ノ面積ヲ減ズ

第二章　旅客定員

第九十三條　旅客室ノ定員ハ左ノ各號ノ計算法ニ依リ算出シタル員數ノ中小ナルモノトス

一　第九十一條ノ規定ニ依リ定メタル旅客室ノ容積（立方メートル）ニテヲ左表ニ掲グル單位容積ニテ除シタル數

二　遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ旅客室及近海ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ一等室ニ付テハ寢臺ノ數其ノ他ノ旅客室ニ付テハ寢臺ヲ備フルトキハ寢臺ノ數ト前條ノ規定ニ依リ定メタル寢臺外ノ客席ノ面積（平方メートル）ニテヲ左表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル數ノ和、寢臺ヲ備ヘザルト

キハ前條ノ規定ニ依リ定メタル客席ノ面積（平方メートル）ヲ左表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル數

航行區域	等級	上甲板以上ノ場所及上甲板直下ノ場所 單位面積（平方米）	上甲板以上ノ場所及上甲板直下ノ場所 單位容積（立方米）	第二甲板ヨリ下方ノ場所 單位面積（平方米）	第二甲板ヨリ下方ノ場所 單位容積（立方米）
遠洋	一等室	一人ニ付一・一〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	三・五〇	一人ニ付一・一〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	三・五〇
	二等室		三・五〇		三・五〇
	三等室		二・七五		三・〇〇
近海	一等室	一人ニ付一・一〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	三・五〇	一人ニ付一・一〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	三・五〇
	二等室	一・一〇	二・〇五	一・四〇	二・〇五
	三等室	〇・八五	一・五五	一・一〇	二・〇五
沿海	一等室	一・一〇	二・〇五	一・四〇	二・〇五
	二等室	〇・八五	一・五五	一・一〇	二・〇五
	三等室	〇・五五	一・一五	〇・八五	一・五五
平水	一等室	〇・八五	—	一・一〇	—
	二等室	〇・五五	—	〇・八五	—
	三等室	〇・四五	—	〇・五五	—

備考

一　沿海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ於テ雜居客室ノ客棚ヲ二段以上ト爲ストキハ該室ノ定員ノ算定ニ用ウル單位面積ハ表ニ掲グルモノノ一・五倍トス

二　近海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ於テ雜居客室ノ客棚ヲ二段以上ト爲ストキハ該室ノ定員ノ算定ニ用ウル單位面積及單位容積ハ表ニ掲グルモノノ一・三倍トス

三　平水ノ航行區域ヲ有シ最遠里程ヲ一時間以内ニ航行シ得ベキ船舶ノ旅客室ノ定員ヲ算定スルニ當リテハ其ノ航路ノ狀況ニ依リ三等室單位面積ヲ上甲板以上ノ場所又ハ其ノ直下ノ場所ニ於テハ〇・三平方メートル迄、第二甲板ヨリ下方ノ場所ニ於テハ〇・四五平方メートル迄減ズルコトヲ得

第九十四條　臨時旅客ヲ搭載スル室ノ定員ハ左表ニ掲グル單位面積及單位容積ニ依リ前條ニ準ジ之ヲ定ム但シ臨時旅客ヲ運送スル區域ニ應ジ前條ノ規定ニ依リ算出シタル三等室定員大ナルトキハ之ニ依ルコトヲ得

航行豫定時間	上甲板以上ノ場所及上甲板直下ノ場所 單位面積（平方米）	上甲板以上ノ場所及上甲板直下ノ場所 單位容積（立方米）	第二甲板ヨリ下方ノ場所 單位面積（平方米）	第二甲板ヨリ下方ノ場所 單位容積（立方米）
一時間未滿	〇・三〇	—	〇・四五	—
六時間未滿	〇・四五	—	〇・五五	—
六時間以上十二時間未滿	〇・五〇	一・〇〇	〇・七五	一・四〇
十二時間以上二十四時間未滿	〇・六五	一・二〇	〇・九五	一・七〇
二十四時間以上	〇・八五	一・五五	一・一〇	二・〇五

第九十五條　第七十九條第一項第二號又ハ第三號ニ掲グル旅客ヲ搭載スベキ上甲板上其ノ他閉塞セザル場所ノ定員ハ第九十二條ノ規定ニ依リ算定シタル甲板面積（平方メートル）ヲ第九十三條又ハ前條ノ表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル員數トス

第九十六條　甲板旅客ノ定員ハ其ノ運送區域ニ應ジ第九十二條ノ規定ニ依リ算定シタル面積（平方メートル）ヲ左表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル員數トス

區域	單位面積（平方米） 暴露上甲板	其ノ他ノ暴露甲板
甲區域	〇・八五	〇・八五
乙區域	〇・八五	—
丙區域	〇・八五	〇・八五
丁區域	一・一〇	—

前項ニ於テ甲區域トハ大小「スング」列島ノ西方ニ在ル南緯一一度以北、北緯八度以南ノ印度洋ヲ謂ヒ乙區域トハ北緯八度以北ニ於ケル印度洋、「ベンガル」灣、「アラビヤ」海、「ペルシヤ」灣及紅海ヲ謂ヒ丙區域トハ南ハ南緯一一度ノ線ニ依リ北ハ東經一三〇度以西ニ在リテハ北緯八度、東經一三〇度以東ニ在リテハ北緯二一度ノ線ニ依リ東ハ東經一八〇度ノ線ニ依リ西ハ大小「スング」列島及馬來半島ニ依リ限ラレタル區域ヲ謂ヒ丁區域トハ南ハ東經一三〇度以西ニ在リテハ北緯八度、東經一三〇度以東ニ在リテハ北緯二一度ノ線ニ依リ北ハ北緯三五度（黃海及渤海ヲ含ム）ノ線ニ依リ東ハ東經一八〇度ノ線ニ依リ西ハ亞細亞ノ沿岸ニ依リ限ラレタル船舶安全法施行地外ノ區域ヲ謂フ

乙區域及丁區域ニ於テハ上甲板以外ノ暴露甲板ニ甲板旅客ヲ搭載スルコトヲ得ズ但シ特ニ限定セラレタル區域内ニ於テ甲板旅客ヲ運送スル場合ニ於テ管海官廳ニ於テ差支ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ場合ニ於テハ單位面積ヲ暴露上甲板其ノ他ノ暴露甲板ニ對シ何レモ〇・八五平方メートルトシ甲板旅客ノ定員ヲ算定ス

第九十七條　管海官廳ハ航路、季節、船舶ノ大小、乾舷、復原力、救命設備又ハ旅客ニ關スル設備等ヲ考慮シ旅客定員ヲ第九十三條乃至前條ニ依リ算定シタルモノヨリ適當ニ減ズルコトヲ得

第三章　旅客ニ關スル設備

第九十八條 旅客室ニハ少クトモ莚、疊其ノ他旅客ノ坐臥ニ適スベキ敷物ヲ備フベシ

第九十九條 旅客室ニハ採光通風ノ爲相當ノ窓ヲ設クベシ

第百條 甲板間ニ旅客室ノ設アルトキハ甲板上ニ出入シ得ベキ出入口ヲ設ケ之ニ梯子ヲ備フベシ

沿海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ前項ノ出入口ハ天氣ノ如何ニ拘ラズ何時ニテモ甲板上ニ出入シ得ベキ裝置ト爲シ又其ノ梯子ハ旅客定員五十人未滿ナルトキハ幅六〇センチメートル以上ノモノ一箇以上、五十人以上百人未滿ナルトキハ幅一〇〇センチメートル以上ノモノ一箇以上若ハ幅六〇センチメートル以上ノモノ二箇以上、百人以上ナルトキハ一人ニ付一センチメートルノ割合ニテ定メタル總幅ニ達スル迄幅六〇センチメートル以上ノモノヲ備フベシ

同リ梯子又ハ勾配急ニシテ段面狹ク柵欄ニ依ラザレバ昇降シ難キ梯子ハ其ノ幅ノ三分ノ二ヲ以テ、出入口ニ近ク梯子ヲ架ケタル場合ニ於テ出入口ノ幅ガ梯子ノ幅ヨリ狹キトキハ該出入口ノ幅ヲ以テ又梯子ノ下部ニ於テ之ニ面スル壁又ハ他ノ梯子迄ノ距離不十分ニシテ昇降ニ不便ナルトキハ管海官廳ノ適當ト認ムル實際ヨリ狹キ幅ヲ以テ梯子ノ幅ト看做ス

臨時旅客ヲ搭載スル場所ニ對スル梯子ノ幅ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ前二項ノ規定ニ適合セザルモ妨ナシ

梯子ハ成ルベク前後ノ方向ニ置キ且甲板ト六〇度以内ノ角度ニ据エ柵欄ヲ附シ其ノ後面ニ板ヲ張ルベシ

第百一條 近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ上甲板下ニ於ケル雜居客室ニハ通風管ヲ旅客甲板毎ニ各別ニ設ケ其ノ截面積ハ旅客定員一人ニ付出口入口トモ各一六平方センチメートルノ割合ヲ以テ之ヲ定ムベシ但シ機關室ノ兩側ニ於ケル雜居客室ニ於テハ通風管ノ截面積ハ二一平方センテメートルノ割合ト爲スベシ

屈曲セル通風管ヲ用ウルトキハ其ノ截面ヲ屈曲ノ度ニ應ジ各屈曲ニ對シ前項ノ截面ノ百分ノ五乃至十ヲ增スベシ又屈折セル通風管ヲ用ウルトキハ其ノ截面ヲ各屈折ニ對シ屈折ノ度ニ應ジ百分ノ十六乃至三十六ヲ增スベシ

船樓内又ハ甲板室内ニ在ル上甲板口ヲ通ジ雜居客室ニ通風シ得ル場合、機械的通風ノ裝置アル場合、雜居客室内ノ容積ニ餘剩アル場合又ハ雜居客室ト他室トノ空氣ノ流通シ得ル場合ニ於テハ管海官廳ノ見込ニ依リ通風管ノ截面ヲ適當ニ減少スルコトヲ得臨時旅客ヲ搭載スル場所ニ對スル通風管ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ第一項及第二項ノ規定ニ適合セザルモ妨ナシ

第百二條 移民ヲ搭載スル移民船ノ上甲板下ニ於ケル雜居客室ニ對シテハ適當ナル機械的通風裝置ヲ設クベシ

第百三條 第九十六條第二項ニ掲グル甲、乙又ハ丁區域ニ付左ニ掲グル荒天季節ニ於テ甲板旅客ヲ搭載スルトキハ甲板旅客逃避ノ爲甲板旅客一人ニ對シ甲板面積一・一平方メートル容積二・〇五立方メートルノ割合ノ遮蔽場所ヲ甲板室内、船樓内又ハ甲板間ニ備フベシ但シ甲板旅客ヲ搭載スル部分ノ天幕ヲ二重ト爲ストキハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ

一 甲區域 四月十六日ヨリ十月三十一日迄

二 乙區域 五月一日ヨリ八月三十一日迄

三 丁區域 六月一日ヨリ十月十四日迄

第百四條 旅客船ニ於テハ高サ一メートル以上ノ舷墻又ハ柵欄ヲ堅牢ニ取附クベシ但シ沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ管海官廳ノ見込ニ依リ舷墻若ハ柵欄ノ高サヲ減ズルカ又ハ他ノ方法ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得、

柵欄ノ横棒ハ其ノ間隔二三センチメートルヲ超ユルコトヲ得ズ但シ之ニ帆布若ハ網ヲ取附クルカ又ハ管海官廳ニ於テ安全ト認ムル他ノ裝置ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラズ

第百五條 旅客船ニハ適當ノ舷梯ヲ設ケ且堅牢ナル舷梯鈎ヲ備フベシ但シ沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ舷梯ニハ柵欄ヲ附シ且其ノ裏面ニ板又ハ帆布ヲ張ルベシ

第百六條 熱帶地方ヲ航行スル船舶ニハ旅客及船員ニ對スル適當ノ防熱設備ヲ爲スベシ

第百七條 第七十九條第一項各號ニ掲グル旅客ヲ搭載スル場所ニハ天幕ヲ設備スベシ

第百八條 移民ヲ搭載スル移民船ニ於テハ雜居室内ニ旅客ノ手廻品ヲ格納スル物入ヲ設備スベシ但シ甲板ノ上面ヨリ下層客席迄ノ高サ四〇センチメートル以上ニシテ其ノ間ノ場所ヲ物入ニ利用スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四章 船員室等

第百九條 船員室ノ定員ハ左ノ各號ノ計算法ニ依リ算出シタル員數ノ中小ナルモノトス

一 船員室ノ容積 立方メートル ニ ヲ左表ニ掲グル單位容積ニテ除シタル數

二 遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ船員室ニ付テハ寢室ノ數其ノ他ノ船舶ノ船員室ニ付テハ寢臺ヲ備フルトキハ寢臺ノ數ト寢臺外ノ座席ノ面積 平方メートル ニ ヲ左表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル數トノ和、寢臺ヲ備ヘザルトキハ其ノ座席ノ面積ヲ左表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル數

船舶ノ航行區域	單位面積（平方米）	單位容積（立方米）
遠洋區域	一人ニ付一・一〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	二・七五
近海區域	一・一〇	二・〇五
沿海區域	〇・五五	一・一五
平水區域	〇・四五	

備考

沿海ノ航行區域ヲ有シ最遠里程ヲ航行スル時間十二時間以上ヲ要スル船舶ノ船員室ノ定員ハ近海區域ニ對スル單位面積及單位容積ニ依リ算定スルモノトス

管海官廳ハ平水ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ前項ノ規定ヲ適用スルニ當リテハ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第百十條 第八十條乃至第八十九條、第九十一條及第九十二條ノ規定ハ船員室ニ之ヲ準用ス但シ第八十八條第二號ニ掲グル場所ハ之ヲ船員室ニ充ツルコトヲ得

第百十一條 船員室其ノ他船員ニ供用スル室ニハ錨鎖管ノ開口又ハ揚錨機、捲揚機其ノ他ノ機具ヲ設置スルコトヲ得ズ

第百十二條 船員室ニハ其ノ定員ニ相當スル押入又ハ戸棚ヲ設クベシ但シ平水ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第百十三條 船員室ニハ釣床、寢臺又ハ船員ノ坐臥ニ適スル敷物ヲ備フベシ

第百十四條 船員室ニハ舷窓、甲板明取リ又ハ天窓ヲ設クベシ

上甲板下ノ雜居船員室ニハ適當ノ通風管ヲ設クベシ

前項ノ通風管ノ截面積ハ近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ付テハ船員室定員一人ニ付出口入口トモ各一六平方センチメートルノ割合ヲ以テ之ヲ定ム

第百十五條 船員又ハ旅客ノ何レニモ非ザル者ノ居室ニ付テハ旅客室ニ關スル規定ヲ準用ス

第五章 衛生設備

第百十六條 近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニハ船舶檢査證書ニ掲グル旅客定員一人ニ付〇・四五平方メートルノ割合ヲ以テ上甲板以上ノ閉塞セラレザル場所ニ適當且安全ナル運動場ヲ設クベシ

第百十七條 旅客船ニハ最大搭載人員五十人ニ對シ一箇ノ割合ヲ以テ大便所ヲ設クベシ但シ最大搭載人員三百人以上ノ船舶、沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶又ハ臨時旅客ヲ搭載シテ其ノ航行豫定時間十二時間未滿ノ航海ヲ爲ス船舶ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ其ノ割合ヲ斟酌スルコトヲ得

第百十八條 移民船ニハ上甲板以上ノ場所又ハ上甲板直下ノ甲板間ノ場所ニ於テ成ルベク旅客室及船員室ヨリ隔離シタル箇所ニ病室ヲ設ケ最大搭載人員二百人迄ハ四十人毎ニ一箇、二百人ヲ超ユル人員ニ付テハ超過人員六十人毎ニ一箇ノ割合ヲ以テ寢臺ヲ備フベシ病室ハ一・八三メートル以上ノ高サヲ有シ且收容人員一人ニ付四立方メートル以上ノ容積ヲ有スルコトヲ要ス

第百十九條 前條ノ病室及寢臺ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一 病室ノ一部ハ之ヲ隔離室ト爲シ病室用寢臺ノ四分ノ一以上ヲ設備シ得ル構造ト爲スベシ

二 病室ニハ規定ノ數ノ二分ノ一以上ノ寢臺ヲ常置スベシ

三 寢臺ハ金屬製ニシテ長サ一・八三メートル以上幅六〇センチメートル以上ノモノトシ之ヲ上下ニ重ヌルコトナク其ノ一側ニ幅一メートル以上ノ通路ヲ存シ据附クベシ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ寢臺ヲ上下ニ重ネテ配置スルコトヲ得

第百二十條 移民船ニハ病室附屬ノ浴室、便所、診療室竝ニ藥局ヲ設クベシ但シ藥局ハ之ヲ診療室ニ兼用スルモ妨ナシ

第百二十一條 移民船ハ船舶安全法施行地ニ於ケル最後ノ港ヲ發航セントスル際該港ヨリ初メテ到達スベキ外國ノ港迄ノ航行豫定時間ニ應ジ特殊船檢査證書ニ掲グル旅客ニ對シ支給スベキ第二號表ニ定ムル食料及飲用水ヲ備フベシ

第百二十二條 移民船ニハ第三號表ニ定ムル醫藥其ノ他ノ衛生用品ヲ備フベシ

第四編 航海用具等

第一章 錨、錨鎖及索

第百二十三條 鋼製汽船ニ於テ艤裝數トハ鋼船構造規程ニ依ル船ノ深サ（遮浪甲板船ニ在リテハ遮浪甲板迄ノ深サ）ト幅トノ和ニ其ノ長サヲ乘ジタル數ニ船樓又ハ甲板室ノ種類ニ應ジ左ノ各號ニ掲グル數ヲ加算シタルモノヲ謂フ

一 低船首樓又ハ低船尾樓ヲ有スル船舶ニ在リテハ該樓ノ長サト高サトヲ相乘ジタル數

二 船首樓、船橋樓又ハ船尾樓等ヲ有スル船舶ニ在リテハ船樓ノ長サト高サトヲ相乘ジタル積ノ四分ノ三

三 船ノ幅ノ二分ノ一ヲ超ユル長サ又ハ幅ヲ有スル甲板室其ノ他類似ノ構造物ヲ備フル船舶ニ在リテハ其ノ長サト高サトヲ相乘ジタル積ノ二分ノ一

鋼製帆船ニ於テ艤裝數トハ船樓ヲ有セザル場合ニ於テハ鋼船構造規程ニ依ル船ノ深サト幅トノ和ニ長サヲ乘ジタル數ヲ謂ヒ船樓ヲ有スル場合ニ於テハ該數ニ其ノ十五分ノ一ヲ加算シタルモノヲ謂フ

前二項ノ長サ、幅、深サ及高サハ單位ヲメートルトシ單位以下第二位ニ止ム

第百二十四條 木船ニ於テ艤裝數トハ船樓ヲ有セザル船舶ニ

在リテハ上甲板下ノ積量立方メートルニテヲ謂ヒ船樓ヲ有スル船舶ニ在リテハ該積量立方メートルニテニ船樓ノ積量立方メートルニテノ二分ノ一ヲ加ヘタルモノヲ謂フ

第百二十五條 船舶ニハ其ノ艤裝數ニ應ジ第四號表又ハ第五號表ニ定ムル錨、錨鎖及索ヲ備フベシ

第百二十六條 大錨ノ合量ガ表ニ掲グルモノヨリ減少セザル限リ大錨二箇ヲ備フベキ船舶ニハ中一箇ハ百分ノ七・五以内又ハ三箇ヲ備フベキ船舶ニハ中一箇ハ百分ノ十五以内、一箇ハ百分ノ七・五以内表ニ掲グル單量ヨリ少量ナルモノト爲スモ妨ナク又各大錨ノ單量ヲ相等シキモノト爲スモ妨ナシ

沿海以下ノ航行區域ヲ有スル汽船ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ大錨三箇ヲ備フベキ場合ト雖モ其ノ數ヲ二箇ト爲スコトヲ得但シ中一箇ノ大錨ノ錨量ハ表ニ掲グル單量以上、他ノ一箇ハ該單量ノ百分ノ八十五以上ト爲スベシ

第百二十七條 有錨錨ノ錨錨ノ重量ハ錨錨ヲ除キタル錨ノ重量ノ四分ノ一以上ナルコトヲ要ス

無錨錨ノ錨柄ヲ除キタル重量ハ錨ノ全重量ノ五分ノ三以上ナルコトヲ要ス

第百二十八條 遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶、近海ノ航行區域ヲ有スル汽船ニ備フル錨（錨錨ヲ含ミタル重量七六・二キログラム以下ノモノヲ除ク）、錨鎖及鋼索ハ試驗規程ニ適合シタルモノナルコトヲ要ス

第百二十九條 近海以下ノ航行區域ヲ有スル帆船及總噸數五十噸未滿ノ汽船ニ在リテハ日本形錨ヲ代用スルモ妨ナシ

前項ノ規定ニ依リ代用シタル日本形錨ニ對シテハ相當ノ錨索ヲ以テ錨鎖ニ代用スルモ妨ナシ

日本形錨ノミヲ備フル帆船ノ錨、錨索及索ハ第五號表ニ代ヘ艤裝數ニ應ジ第六號表ニ定ムルモノヲ備フベシ

前項ノ船舶ニ備フル大錨索以外ノ錨索ノ長サハ第六號表ニ定ムル大錨索ノ長サニ等シクシ其ノ徑ハ其ノ錨量ニ應ジ第七號表ノ定ムル所ニ依ル

第百三十條 第四號表及第五號表ニ定ムル中錨ノ鎖又ハ鋼索ハ相當ノ大サノ麻索又ハ棕梠索ヲ以テ之ニ代用シ又同表中撚索ノ麻索ハ相當ノ大サノ棕梠索ヲ以テ之ニ代用スルモ妨ナシ

第百三十一條 錨鎖ハ衰耗ノ最モ甚シキ箇所ニ於ケル平均ノ徑ガ其ノ原徑ニ應ジ第八號表ニ定ムルモノ以下トナリタルトキハ之ヲ使用スベカラズ

第百三十二條 總噸數三十噸未滿ノ帆船、浚渫船、總噸數二十噸以上ノ旅客船ヲ除キタル平水ノ航行區域ヲ有スル船舶及湖川港内ノミヲ航行スル船舶ニ付テハ錨數、錨量竝ニ錨

鎖、大索等ノ徑及長サハ管海官廳ニ於テ適當ト認ムル程度迄之ヲ減ズルコトヲ得

第百三十三條 錨ハ常時使用セザルモノト雖モ取出シ易キ場所ニ備置クベシ

重量一五〇キログラム以上ノ錨ヲ備フル船舶ニハ適當ナル揚錨ノ設備ヲ爲スベシ

第二章 操舵設備

第百三十四條 長サ六〇メートルヲ超ユル汽船ニハ動力ニ依ル操舵裝置ヲ備フベシ

第百三十五條 手用操舵具ヲ常用スル船舶ニハ豫備操舵索一揃ヲ備フベシ但シ平水ノ航行區域ヲ有スル船舶及總噸數五十噸未滿ノ船舶ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ

第百三十六條 動力ニ依ル操舵機ヲ常用スル船舶ニハ舵柄ノ制動裝置又ハ制動索ヲ備ヘ且豫備トシテ手用操舵具又ハ動力ニ依ル操舵機ヲ用ウベシ

小形船ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ前項ノ舵柄制動索ヲ以テ豫備手用操舵具ニ兼用セシムルコトヲ得

第百三十七條 動力ニ依ル操舵機ヲ有スル船舶ニハ其ノ操舵裝置ニ發條其ノ他ノ緩衝裝置ヲ備ヘ且舵柄ニ連絡スル部分ノ操舵鎖ノ豫備ヲ備フベシ但シ平水ノ航行區域ヲ有スル船舶及總噸數五百噸未滿ノ船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

總噸數五百噸以上ノ船舶ニ備附クル操舵鎖又ハ操舵鋼索ハ試驗規程ニ適合シタルモノナルコトヲ要ス

第三章 航海用具其ノ他ノ屬具

第百三十八條 船舶ニ備フベキ航海用具其ノ他ノ屬具ハ第九號表ノ定ムル所ニ依ル

本章ニ於テ船燈トハ檣燈、舷燈、船尾燈、碇泊燈、紅燈其ノ他海上衝突豫防法ニ規定スル燈ヲ謂フ

第百三十九條 電氣船燈ヲ常用スル船舶ニ在リテハ第九號表ノ規定ニ依リ豫備燈ヲ要セザル場合ト雖モ各電氣船燈ニ對シ豫備ノ油船燈ヲ備フベシ

第百四十條 船燈、油信號燈、霧中號角、火箭、榴彈及信號青焰ハ試驗規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

船燈ニ付テハ其ノ船名及備附年月日ヲ記載シタル合格證明書又ハ檢定證明書ヲ船内ニ保管シ置クベシ

第百四十一條 船燈ノ備附ニ付テハ左ノ規定ニ依ル

一 油船燈ヲ備フル船舶ニ於テハ船燈一種ニ付沿海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ三箇以上、近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ五箇以上ノ豫備燈筒ヲ備フベシ

二 船燈ハ其ノ射光ニ妨ナキ適當ノ場所ニ於テ其ノ燈光ヲ甲板上ニ發射セザル裝置ヲ爲スベシ

三 近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ綠紅ノ挿

入硝子ヲ使用スル舷燈ヲ備フトキハ綠紅各二箇ノ豫備挿入硝子ヲ備フベシ

四　舷燈ヲ常平架ニ裝置スルトキハ其ノ支點ハ透鏡ノ中心ト同一水平面內ニ在ルコトヲ要ス

五　油舷燈二對ヲ備フル場合ニ於テハ該燈ハ何レモ同一ノ隔板ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

六　電氣舷燈及油舷燈ニ對シテハ各別ノ隔板ヲ備フベシ

第百四十二條　舷燈隔板ノ形狀及寸法ハ船燈試驗規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

隔板ハ其ノ側板ガ垂直ニシテ且船ノ首尾線ニ平行ナル樣之ヲ船舷又ハ其ノ他ノ固定物（檣ノ靜索ノ如キハ固定物ト看做サズ）ニ取付クルコトヲ要ス

第百四十三條　汽船及機關ヲ有スル帆船ニハ適當ナル場所ニ汽笛若ハ汽角又ハ適當ノ音響信號器ヲ裝置スベシ

第百四十四條　沿海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニハ其ノ航行スベキ區域及港灣ノ海圖ヲ備フベシ

海圖ハ水路部ノ最近刊行ニ係ルモノヲ使用スベシ但シ最近ノ刊行ニ非ザルモ改正ノ廉ヲ記入シタルモノ又ハ外國出版ノ海圖ニシテ最近ノ刊行ニ係ルモノヲ使用スルモ妨ナシ

第百四十五條　帆船ニハ檣ニ相當スル帆一揃ヲ備フベシ

近海以上ノ航行區域ヲ有スル帆船ニ於テハ前項ノ帆ノ外左表ニ依リ豫備帆ヲ備フベシ

區別	豫備帆ノ種類	數
橫帆ヲ備ヘザル船	「フオースル・ステースル」	一
	「フオースル」	一
橫帆ヲ備フル船	「フオースル」又ハ「メインスル」	一
	「フオースル・ステースル」	一
	「トツプスル」	一

第百四十六條　總噸數五千噸以上ノ旅客船ニハ無線方位測定機ヲ備フベシ但シ臨時旅客ヲ搭載スル爲旅客船ト爲リタルモノニ付テハ管海官廳ノ承認ヲ受ケ其ノ備附ヲ省略スルコトヲ得

第五編　特殊貨物ノ積附設備

第一章　火藥庫

第百四十七條　火藥庫ハ成ルベク熱氣ナク且旅客室又ハ船員室ニ接近セザル甲板間ノ場所ニ設置シ其ノ扉ハ艙口ヨリ容易ニ接近シ得ル箇所ニ設クベシ

管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ火藥庫ヲ甲板間以外ノ場所ニ設ケシムルコトヲ得

第百四十八條　鋼製火藥庫ノ內面ハ亞鉛鍍スルカ又ハ之ニ塗料ヲ施スベシ

第百四十九條　木製火藥庫ノ構造ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一　庫壁ハ六一センチメートルヲ超エザル間隔ニ配置セラレ上下兩端ヲ甲板ニ固著セラレタル七五ミリメートル角以上ノ支柱ノ內面ニ厚サ三〇ミリメートル以上ノ板ヲ取附ケタル構造ト爲スベシ

二　各支柱ノ連結ヲ完全ナラシムル爲其ノ上部及下部ニ幅二三〇ミリメートル以上厚サ三〇ミリメートル以上ノ板ヲ固ク取附クベシ

第百五十條　鋼製又ハ木製火藥庫ノ內面ニハ鐵釘其ノ他ノ鐵材ヲ露出セザル樣木板、革又ハ毛布ノ類ヲ以テ內張スベシ

第百五十一條　火藥庫ノ床ハ三〇センチメートル以下ノ間隔ニ配置セラレタル幅七五ミリメートル以上厚サ二五ミリメートル以上ノ橫木ノ上ニ之ト同一寸法ノ內張板ヲ七五ミリメートル以下ノ間隔ニ取附ケタル網目格子ニシテ掃除ノ爲取外シ且持出シ得ベキ構造ト爲スベシ

第百五十二條　火藥庫ガ船側迄達スル場合ニ於テハ船側ニ二三センチメートルヲ超エザル間隔ニ內張板ヲ取附クルコトヲ要ス

第百五十三條　船ノ橫ノ方向ニ於ケル幅一二・二メートルヲ超ユル火藥庫ニハ縱通隔壁ヲ設クルコトヲ要ス

前項ノ隔壁ハ九〇センチメートル以下ノ間隔ニ配置セラレ上下兩端ヲ甲板ニ固著セラレタル七五ミリメートル角以上ノ支柱ノ兩側ニ厚サ二五ミリメートル以上ノ木板ヲ一五センチメートル以內ノ間隔ヲ以テ交互ニ取附ケタル構造ノモノト爲スベシ但シ船舶ノ常設支柱ガ適當ノ位置ニ在リテ其ノ間隔一八〇センチメートルヲ超エザルトキハ之ヲ縱通隔壁ノ支柱ニ代用スルコトヲ得

第百五十四條　火藥庫ノ扉ハ堅牢ナル構造トシ之ニ强固ナル錠ヲ備フベシ

第百五十五條　火藥庫ニハ適當ナル通風裝置ヲ備フベシ

火藥庫ニ通ズル通風管ノ管口ニハ二枚ノ細目金網ヲ附スルカ又ハ他ノ適當ナル防火蓋ヲ備フベシ

通風管ヲ備ヘザル鋼製火藥庫ニ於テハ側壁ノ成ルベク上部ニ十分ナル數ノ徑五〇ミリメートル以上ノ換氣孔ヲ穿ツベシ

第百五十六條　持運式火藥庫ハ容積二・二六立方メートル以下ニシテ其ノ床及側壁ハ厚サ七五ミリメートル以上五〇ミリメートル以上ノ支柱及厚サ三〇ミリメートル以上ノ木板ヲ用ヰテ構造シ其ノ蓋ハ之ヲ取附ケタルトキ移動セザル樣嵌込構造ト爲シ且堅牢ナル錠ヲ備フベシ

第二章　甲板積木材貨物ノ積附

第百五十七條　甲板積木材貨物トハ上甲板又ハ船樓甲板ノ暴露部ニ積載スル木材貨物ヲ謂フ

前項ノ木材貨物ニハ木質「パルプ」又ハ之ニ類似ノ貨物ヲ包含セズ

第百五十八條 上甲板下ノ場所ニ通ズル甲板口ニシテ甲板積木材貨物ニ依リ蔽ハルルモノハ其ノ積附前ニ艙口梁、縱材、蓋板等ノ閉鎖裝置ヲ所定ノ位置ニ配置シ之ヲ完全ニ閉鎖スベシ

甲板積木材貨物ヲ積載スル場所ニ在ル通風管ハ十分之ヲ保護スベシ

第百五十九條 船員ノ通路ニ當ル開口ノ附近ニ於テハ各開口ヨリ浸水スルコトヲ妨グ爲隨時之ヲ閉ヂ且留メ得ル樣木材貨物ヲ積附クベシ

船員室ヘノ通路ニ當ル甲板積木材貨物ノ上面ハ步行ニ適スル樣十分平坦ナラシメ且其ノ各側ニハ貨物上少クトモ一・二二メートルノ高サヲ有シ且三〇センチメートル以內ノ間隔ニ配置セラレタル橫棒ヲ備ヘタル保護欄干又ハ之ニ相當スル保護索ヲ設クルコトヲ要ス

第百六十條 操舵裝置ハ木材貨物ニ依リ損傷セラレザル樣十分ニ之ヲ保護シ且成ルベク之ニ近寄リ易キ樣木材貨物ヲ積附クベシ

第百六十一條 甲板積木材貨物ノ性質ニ依リ支杆ヲ要スル場合ニ於テハ適當ナル强力ヲ有スル木製又ハ金屬性ノ支杆ヲ心距三・〇五メートル以內ニ於テ木材ノ長サ及性質ニ應ジ適當ニ配置シ且之ヲ定著スル爲有效ナル裝置ヲ備フベシ

第百六十二條 甲板積木材貨物ヲ其ノ全長ニ亙リ十分締附ク

ル爲貨物ノ兩側ニ跨ル十分ナル强力ヲ有スル縛索及其ノ締附裝置ヲ備フベシ

前項ノ縛索ニハ何時ニテモ近寄リ得ル箇所ニ於テ解放裝置ヲ備フベシ

第百六十三條 甲板積木材貨物ハ之ヲ密ニ積附ケ縛リ且動カザル樣爲スベシ又其ノ積附ハ船舶ノ航行及必要ナル操作ニ支障ナク且水分ノ吸收ニ依ル木材ノ重量ノ增加竝ニ燃料及倉庫品ノ消費ニ依ル其ノ重量ノ減少其ノ他船內ニ於ケル重量ノ變更ヲ考量ノ上航海ノ全道程ヲ通ジ復原性ノ十分ナル餘裕ヲ保持シ得ルモノナルコトヲ要ス

第百六十四條 木材滿載吃水線ヲ標示シタル船舶ガ普通ノ滿載吃水線ヲ超エ甲板積木材貨物ヲ搭載セントスルトキハ其ノ積附ニ付キ本章ノ規定ニ依ルノ外船舶滿載吃水線規程ノ定ムル所ニ依ルベシ

第三章 穀類貨物ノ積附

第百六十五條 穀類貨物トハ米、麥、豆、堅果、果核種子其ノ他之ニ類似ノ散粒狀貨物ヲ謂フ

第百六十六條 近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ其ノ純噸數ノ三分ノ一ニ相當スル容積以上ノ容積ノ穀類貨物ヲ散積スル場合ニ於テハ其ノ積附ハ本章ノ規定ニ依ル

穀類貨物ノ容積分明ナラザルトキハ其ノ重量二瓲ヲ以テ船舶ノ純噸數一噸ニ相當スルモノト看做ス

第百六十七條 穀類貨物ハ上甲板ト第二甲板トノ間ノ場所ニ散積スルコトヲ得ズ但シ艙內ノ空積ヲ塡充スル爲適當ナル構造ノ補給裝置ニ積載スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

穀類貨物ヲ積載シタルトキハ十分ニ之ヲ荷均シ且塡込ムベシ

第百六十八條 穀類貨物ヲ艙內ニ滿載スル場合ニ於テハ其ノ全高ニ亙リ縱通隔壁又ハ適當ニ定著セラレタル荷止板ヲ設ケ適當ニ之ヲ區畫シ其ノ上部ニ於ケル梁ノ間ノ間隙ニハ塡材ヲ施スベシ穀類貨物ヲ艙內ニ滿載セザル場合ニ於テハ前項ニ準ジ適當ナル荷止板ヲ設クベシ

第百六十九條 穀類貨物ヲ艙內ニ滿載セザル場合ニ於テハ其ノ積載スル穀類貨物ノ約四分ノ一ヲ袋入ト爲シ之ヲ散積貨物ノ上ニ設ケタル適當ナル踏板ノ上ニ搭載スベシ但シ當該貨物ノ性質又ハ他ノ貨物ト積合セニ依リ穀類貨物ノ移動ノ虞ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ穀類貨物ヲ滿載スル場合ト雖モ艙內ノ空積ヲ塡充スル爲ノ適當ナル補給裝置ノ備ナキ場合ニ之ヲ適用ス

第六編 電氣設備

第一章 總則

第一節 通則

第百七十條 本編ノ規定ハ推進以外ノ用途ニ供スル電氣設備ニ之ヲ適用ス

第百七十一條 供給電壓ハ直流ニ在リテハ五〇〇ヴオルト、交流ニ在リテハ二五〇ヴオルト以下ナルコトヲ要ス

電氣扇、電熱器、小形電動機其ノ他之ニ類スル小形ノ電氣器具(以下單ニ小形電氣器具ト稱ス)及白熱電燈ニ供給スル電路ノ電壓ハ直流ニ在リテハ二五〇ヴオルト、交流ニ在リテハ一五〇ヴオルト以下ナルコトヲ要ス

第百七十二條 供給電壓ハ供給點ニ於テ保持スベキ一定電壓ニ成ルベク百分ノ四ヲ超ユル變動ヲ生ゼシメザルモノト爲スベシ

第百七十三條 電氣方式ハ左ノ各號ノ一ニ依ルコトヲ要ス

一 直流又ハ交流單相ノ二線式
二 直流又ハ交流單相ノ三線式
三 交流三相三線式
四 交流三相四線式

第百七十四條 電氣設備ニ關シ本編ニ規定セザル事項ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル船舶ノ種類、用途等ニ依リ本編ノ規定ニ依リ難キモノニ付亦同ジ

第二節 機械及器具

第百七十五條 發電機、電動機等ハ其ノ捲線ト大地トノ間ノ絕緣ガ其ノ最大使用電壓ノ一・五倍ノ電壓ニ依ル絕緣耐力試驗ニ十分間以上耐フルコトヲ要ス

第百七十六條 計器用變成器以外ノ變壓器ハ適當ノ絶縁耐力試驗ニ耐フルモノナルコトヲ要ス

前項ノ變壓器ハ其ノ最大使用電壓ガ第百七十一條ノ電壓ヲ超ユルモノナルトキハ兩捲線ノ混觸ヨリ生ズル危險ヲ防止スル爲之ニ適當ナル安全裝置ヲ備フベシ

第百七十七條 發電機、電動機、變壓器等ハ特殊ノ場合ヲ除クノ外易燃性瓦斯、酸性瓦斯又ハ油蒸氣ノ鬱積セザル通風良好ナル區畫内ノ水、蒸氣、油若ハ熱ニ因ル障害又ハ他動的損傷ヲ受クル處ナキ場所ニ之ヲ設置スベシ

第百七十八條 發電機、電動機等ノ鐵製ノ臺及變壓器ノ外函ハ接地スルコトヲ要ス但シ乾燥シタル木製ノ床其ノ他之ニ類スル絶縁性物ノ上ヨリ之ヲ取扱フ樣設置シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第百七十九條 配電盤ハ不燃性物ヲ以テ製作シタルモノナルコトヲ要ス

第百八十條 配電盤ノ各帶電部ハ之ヲ適當ニ離隔スルカ又ハ不燃性絶縁物ヲ以テ保護シ其ノ間ニ弧光ノ持續セザル樣設置スベシ配電盤ニ取附クル器具及電線（電纜及管ニ藏メタル電線ヲ除ク）ハ容易ニ點檢シ得ル樣之ヲ設置スベシ

第百八十一條 主配電盤ニハ適當ナル計器ヲ備フベシ

第百八十二條 開閉器、自働遮斷器其ノ他充電スル導體ニ接スル器具ハ不易燃性物ヲ以テ絶縁シタルモノナルコトヲ要ス

第百八十三條 開閉器、自働遮斷器其ノ他之ニ類スル器具ハ其ノ使用電流及電壓ヲ表示シタルモノナルコトヲ要ス

第百八十四條 機械及器具ハ船舶ノ動搖ニ依リ支障ヲ生ゼザルモノナルコトヲ要ス

第三節　電線、電路及附屬設備

第百八十五條 絶縁電線ハ使用電流ニ因ル溫度上昇ノ爲絶縁物ヲ損傷セザルモノナルコトヲ要ス

第百八十六條 電纜及鉛被電線ハ電氣工作物規程ニ定ムル第四種絶縁電線（以下單ニ第四種電線ト稱ス）ト同等以上ノ效力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第百八十七條 電路中必要ナル箇所ニハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ各極ニ適當ナル開閉器ヲ裝置スベシ

第百八十八條 機械、器具及電線ヲ保護スル爲電路中必要ナル箇所ニ適當ナル自働遮斷器ヲ裝置スベシ

地線工事ノ接地線及多線式電路ノ中性線ニハ自働遮斷器ヲ裝置スルコトヲ得ズ

第百八十九條 電路中必要ナル箇所ニハ常ニ漏電ノ有無ヲ自働的ニ表示スル適當ナル裝置ヲ備フベシ

第百九十條 電路ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ヲ除クノ外其ノ全部ヲ十分大地ヨリ絶縁スベシ

第百九十一條 電線ニ接續點ヲ設クルトキハ左ノ各號ニ依ル

一　電線ノ電氣抵抗ヲ增加セシメザルコト

二　電線ノ强サヲ二割以上減少セシメザルコト

三　接續管又ハ特殊ノ方法ニ依リ接續スル場合ヲ除クノ外接續部分ハ之ヲ鑞附スルコト

第二章　配線工事

第百九十二條 配線ハ電纜、鉛被電線又ハ金屬製管、金屬製線樋若ハ木綿線樋ニ藏メタル絶縁電線ナルコトヲ要ス

第百九十三條 配線ハ徑一・六ミリメートル以上ノ軟銅線ナルコトヲ要ス但シ使用場所又ハ工事ノ方法ニ依リ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第百九十四條 電纜ノ金屬被覆及鉛被電線ノ鉛被ハ接地スルコトヲ要ス

第百九十五條 他動的損傷ヲ受クル處アル場所ニハ鎧裝電纜又ハ適當ナル保護裝置ヲ有スル鉛被電線ヲ使用スルコトヲ要ス

第百九十六條 木製線樋ヲ用ウル配線工事ハ乾燥セル場所ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ配線工事ハ左ノ各號ニ依ル

一　電線ハ第四種電線ナルコト

二　線樋内ニ於テハ電線ニ接續點ヲ設ケザルコト

三　線樋ハ乾燥シタル堅緻ナル木材ヲ以テ製作シ其ノ内外面ニ耐水性ノ塗料ヲ施スコト

第百九十七條 金屬製管又ハ金屬製線樋ヲ用ウル配線工事ハ左ノ各號ニ依ル

一　電線ハ第四種電線ナルコト

二　電線ハ燃線ナルコト但シ短小ナル管若ハ樋内ニ藏ムルモノ又ハ徑二ミリメートル以下ノモノハ此ノ限ニ在ラズ

三　管又ハ樋ノ接續ハ電氣的ニ完全ニシテ且振動ニ依リ破損セザルモノナルコト

四　管又ハ樋ハ接地スルコト但シ短小ナル管又ハ樋ニシテ乾燥シタル場所ニ設置スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

五　管又ハ樋ノ内部ニ於テハ電線ニ接續點ヲ設ケザルコト

六　鐵製ノ管又ハ樋ハ酸化作用ヲ防止スル爲亞鉛鍍ヲ施スカ又ハ「エナメル」等ヲ以テ被覆スルコト

七　濕氣アル場所又ハ壁内ニ設置スル管又ハ樋ハ其ノ内部ニ濕氣ノ浸入スル事ヲ防グ爲接手其ノ他ノ附屬品ニ適當ナル防濕裝置ヲ施スコト

第百九十八條 電纜又ハ鉛被電線ガ甲板又ハ水密隔壁ヲ貫通スル部分ニハ甲板管又ハ水密「グランド」ヲ備ヘ梁又ハ水密ナラザル隔壁ヲ貫通スル部分ニハ鉛其ノ他ノ軟質非鐵物質ノ嵌輪ヲ備フベシ

第四種電線ガ甲板、梁又ハ隔壁ヲ貫通スル部分ニハ絶縁性物ヲ備ヘ適當ニ之ヲ保護スベシ

第百九十九條 電氣使用場所ニ於ケル電線ハ適當ニ分岐シ且分岐點ニ近キ箇所ニ於テ各分岐回路ノ各極ニ開閉器及自働遮斷器ヲ裝置スベシ

前項ノ各分岐回路ヨリ更ニ分岐スル二線式電路ニ備フル開閉器及自働遮斷器ハ單極ニ之ヲ裝置スルコトヲ得

第二百條 汽機室及汽罐室內ノ配線ハ各獨立ノ分岐回路ト爲スベシ

第二百一條 檣燈、舷燈、兩色燈、三色燈及船尾燈ニ對シテハ燈每ニ獨立ノ配線ト爲シ別箇ノ開閉器及自働遮斷器ニ依リ制御シ得ル裝置ト爲スベシ

前項ノ開閉器及自働遮斷器ハ航海船橋上ニ之ヲ集合設置スベシ又船燈ガ電球ノ纖條ノ切斷其ノ他ノ原因ニ因リ減ジタル場合ニハ之ヲ自働的ニ表示スル設備ヲ爲スベシ

管海官廳ハ差支ナシト認ムル場合ニ於テハ前二項ノ規定ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

第二百二條 應急送電裝置ヲ要スル船舶ニ在リテハ應急送電路ハ主電源ヨリ應急電源ニ急速ニ切換ヘ得ル裝置ト爲スベシ

第三章 特殊場所ニ於ケル設備

第二百三條 濕氣アル場所又ハ雨露ニ暴露スル場所ニ設置スル電氣設備ニハ適當ナル防濕又ハ防水裝置ヲ施スベシ

第二百四條 石炭庫其ノ他爆埃アル場所ニ於ケル電氣設備ハ左ノ各號ニ依ル

一 配線ハ鎧裝電纜又ハ金屬製管ニ藏メタル第四種電線ナルコト

二 開閉器、自働遮斷器其ノ他ノ器具ハ適當ナル防塵裝置ヲ有スルモノナルコト

三 電球承口ハ無鏈承口ナルコト

第二百五條 腐蝕性ノ瓦斯又ハ溶液ノ發散スル場所ニ於ケル電氣設備ニハ瓦斯若ハ溶液ノ爲侵サレザル樣適當ナル塗裝其ノ他ノ豫防方法ヲ施スコトヲ要ス

第二百六條 爆發又ハ燃燒シ易キ危險ナル物質ヲ發生又ハ貯藏スル場所ニ於ケル電氣設備ハ左ノ各號ニ依ル

一 配線ハ鎧裝電纜又ハ金屬裝線樋若ハ金屬製管ニ藏メタル第四種電線ナルコト

二 自働遮斷器、開閉器、點減器、抵抗器其ノ他火花ヲ發シ又ハ溫度過昇ノ處アル器具ハ該場所內ニ設置セザルコト但シ堅牢ナル氣密函若ハ油中ニ藏ムルカ又ハ其ノ他ノ適當ナル保安裝置ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

三 電球承口ハ無鏈承口ナルコト

四 電球ニハ氣密ナル外球ヲ裝置シ且堅固ナル外裝ヲ施スコト

五 電動機ハ火花ヲ發スル部分ヲ有セザルモノ又ハ火花ヲ發スル部分ニ適當ナル保安裝置ヲ特ニ施シタルモノニ限リ之ヲ使用スルコト

六 電線ト機械又ハ器具トノ接續ハ電氣的ニ完全ニシテ且振動ニ因リ弛緩セザル樣堅固ニ取附ケタルモノナルコト

第二百七條 磁氣羅針儀ニ接近スル電氣設備ハ羅針儀ニ有害ナル影響ヲ及ボサザル樣設置スルコトヲ要ス

附 則

第二百八條 本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二百九條 本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル端艇及端艇鈎ハ本令ノ規定ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ本令ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

前項ノ端艇ニ付テハ其ノ容積ハ船舶檢査規程ニ依リ算定シタル容積ヲ立方メートルニ換算シタルモノヲ以テ、其ノ定員ハ同規程ニ依リ算定シタルモノヲ以テ第五條又ハ第八條及第九條ノ規定ニ依リ算定シタル容積及定員ト看做ス

前二項ノ規定ハ昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ據附ケタル國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ近海以上ノ航行區域ヲ有スルモノニ付テハ之ヲ適用セズ

第二百十條 國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ昭和六年六月三十日以前ニ龍骨ヲ据附ケタルモノニ付テハ發動機附救命艇及救命索發射器ノ備附、端艇及救命筏ノ附屬品ノ備附、端艇ノ積附及揚卸裝置、乘艇裝置竝ニ消防設備ニ關シ本令ヲ適用スルコト實際上困難ナリト認ムルトキハ管海官廳ニ於テ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第二百十一條 本令施行ノ際沿海以下ノ航路定限ヲ有スル旅客船ニ現ニ備フル救命艇ニ非ザル端艇ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ救命艇ニ代用セシムルコトヲ得

第二百十二條 國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ近海以上ノ航行區域ヲ有スルモノヲ除キ本令施行前製造シタル船舶ニ付管海官廳本令ニ依リ救命設備ヲ備フルコト實際上困難ナリト認メタルトキハ近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ本令施行後二年、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ四年以內ニ於テ行フ最後ノ中間檢査又ハ定期檢査ノ時期迄其ノ設備ニ付仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

第二百十三條 本令施行ノ際現ニ存スル旅客室ニ付テハ左ニ掲グル事項ニ關シ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

一 室ノ高サ、通路及梯子ノ幅竝ニ客席ト甲板又ハ上層客席トノ間ノ高サ

二 移民搭載場所トシテ使用スル旅客室ニ付テハ雜居客室ノ通風裝置及病室ノ設備

三 旅客定員ノ算定ニ用ウル單位容積及單位面積但シ旅客室ノ現狀其ノ他旅客定員ノ算定ニ關スル條件ニ變更ナキ

場合ニ限ル

第二百十四條 前條第一號ノ規定ハ船員室及船員又ハ旅客ニ非ザル者ノ居室ニ之ヲ準用ス

第二百十五條 本令施行前製造シタル旅客船ノ舷墻又ハ柵欄ノ高サニ付テハ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

第二百十六條 本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル錨、錨鎖及索ノ數、重量、徑又ハ長サニ付テハ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル錨、錨鎖、鋼索、操舵鎖又ハ操舵鋼索ニ付テハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ第百二十八條又ハ第百三十七條第二項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第二百十七條 本令施行後一年以内ニ新ニ船舶ニ備附クル救命筏、救命浮器、救命索發射器、信號紅焔、火災警報裝置、防毒面、安全燈、移動式泡消火器、携帶用泡消火器、携帶用液體消火器及油信號燈ハ本令ノ規定ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ適當ト認ムルモノニ限リ之ヲ本令ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

第二百十八條 本令施行ノ際現ニ船舶ニ備ヘ又ハ前條ノ規定ニ依リ船舶ニ備ヘタル救命筏、救命浮器、救命索發射器、信號紅焔、火災警報裝置、防毒面、安全燈、移動式泡消火器、携帶用泡消火器、携帶用液體消火器及油信號燈ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ本令ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

第二百十九條 第百四十六條ノ規定ニ依ル無線方位測定機ハ昭和十二年九月十日ヲ限リ管海官廳ニ於テ其ノ備附ヲ猶豫スルコトヲ得

第二百二十條 本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル電氣設備ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ限リ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

附則（昭和十一年二月二十八日）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號表　端艇

船ノ長サ（米）	端艇ノ最小組數 (イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)	(ヘ)	(ト)	(チ)	救命艇ノ最小容積（立方米）
三一未滿	二	二	—	—	—	—	—	六	
三一以上三七未滿	二	二	二	一八	一二	二三	九	九	
三七	二	二	二	二三	一七	二六	一三	一二	
四三	二	二	二	四四	二四	三五	一七	一七	
四九	三	三	二	五二	三二	四二	二三	二三	
五三	三	三	二	六八	三七	五四	二六	二六	
五八	三	三	二	六六	三七	五四	二六	二六	
六三	四	四	四	七八	四一	六二	二〇	二九	
六七	四	四	四	七八	四一	六二	二〇	二九	
七〇	四	四	四	一一〇	四八	八八	三四	三四	
七五	四	四	四	一二九	五二	一〇三	四六	三六	
七八	四	四	四	一四四	六〇	一二五	五二	四二	
八二	五	五	五	一六〇	六八	一二八	五七	四八	
八七	五	五	五	一七五	七六	一四〇	六九	五三	
九一	五	五	五	一九六	八七	一五七	八〇	六〇	
九六	六	六	六	二一四	九四	一七一	九四	六六	
一〇一	六	六	六	二三五	一〇五	一八八	一〇五	七四	
一〇七	七	七	六	二五五	一一六	二〇四	一一六	八一	
一一三	七	七	六	二七三	一二五	二一八	一二五	八八	
一一九	七	七	七	二四一	一三三	二四一	一三三	九三	
一二五	七	七	七	二六四	一四四	二六五	一四四	一〇一	
一三三	八	八	七	二九〇	一五六	二九六	一五六	一〇九	
一四〇	九	九	八	三一四	一六五	三二七	一七〇	一一九	
一四九	一〇	一〇	一〇	三四五	一八五	三六一	一八五	一三〇	
一五九	一〇	一〇	一〇	三六九	一九六	三九二	一〇一	一四一	
一六八	一一	一一	一〇	三九二	二〇七	四二四	二一七	一五二	
一七七	一一	一一	一一	四一六	二一八	四五五	二二八	一六三	
一八六	一二	一二	一二	四四〇	二二九	四八六	二四〇	一七四	
一九五	一二	一二	一二	四六四	二四〇	五一七	二五一	一八五	
二〇四	一二	一二	一二	四八八	二五一	五四八	二六二	一九六	
二一三	一三	一三	一三	五一二	二六二	五七九	二七三	二〇七	
二二二	一三	一三	一三	五三六	二七三	六〇一	二八四	二一八	
二三二	一四	一四	一四	五五八	二八四	六二四	二九五	二二九	
二四一	一七	一七	一七	五八一	二九五	六五六	三〇六	二四〇	
二五〇	二四	一七	一七	六〇四	三〇六	六八八	三一七	二五一	
二六一	二六	一八	一八	六二六	三一七	七一一	三二八	二六二	
二七一	二六	一八	一八	六五八	三二八	七四三	三三九	二七三	
二八二	二八	一九	一九	六八一	三三九	七七五	三五〇	二八四	
二九三	二八	一九	一九	七〇三	三四〇	七九八	三六一	二九五	
三〇三	三〇	二〇	二〇	七二五	三五一	八二〇	三七二	三〇六	
三一四	三〇	二〇	二〇	七五七	三六二	八四二	三八三	三一七	

備考

救名艇ノ容積ヲ求ムルニ當リ第二級救命艇ノ容積立方メートルテハ該救命艇ノ定員ニ〇・二八三ヲ乘ジタルモノヲ用ウベシ

第二號表　移民船ニ對スル食料飲用水表

品名	量額
米	七四〇グラム
獸肉	一八八〃
野菜類	適宜
漬物類	適宜
梅干類	適宜
調味料（味噌、醤油、鹽、砂糖、酢ノ類）	適宜
飲用水	三・六リットル

備考

一　本表ノ量額ハ一人一日ニ對シ支給スベキ最小額トス

二　主食物中米ハ七分搗米又ハ胚芽米トシ成ルベク新鮮良質ナルモノヲ支給スベシ

三　無砂搗白米七五〇グラム、麵麭八六三グラム又ハ麥粉若ハ乾麵麭六九四グラムヲ以テ七分搗米七四〇グラムニ代用スルコトヲ得

四　無砂搗白米ヲ用ウルトキハ其ノ量額ノ十分ノ一迄麥ヲ混用スルコトヲ得

五　鳥肉、魚肉ヲ以テ獸肉ニ代用スルコトヲ得但シ魚肉ヲ以テ代用スルトキハ鳥獸肉ノ用量ノ倍量以上ヲ用ウベシ

六　蒸溜機ヲ備フル船舶ニハ水量ヲ半減スルコトヲ得

第三號表　移民船ニ對スル醫藥及衛生用品表

（一）內用藥

藥名	數量
アスピリン	二五〇グラム
サルチル酸	一〇〇〃
サルチル酸ソーダ	五〇〇〃
鹽酸キニーネ	二五〃
重曹	一、〇〇〇〃
マグネシヤ	一〇〇〃
次硝酸蒼鉛（ビスミット）	二五〇〃
ビオフルミン	二〇〇〃
タンナルビン	二五〃
ヂアス・ターゼ	二五〇〃
稀鹽酸	二〇〇〃
苦味チンキ	五〇〇〃
薄荷水	五〇〇〃
バルビタール（ベロナール）	五〇〃
セネガシロップ	一、〇〇〇〃
香仁水	一〇〇〃
硫酸マグネシヤ（硫苦）	二五〇〃
ヒマシ油	二五〇〃
ロカイヤラバ丸	五〇〇箇
醋酸カリ液	二五〇グラム
ヂガーレン又ハヂギタミン	一五立方糎
安息香酸ソーダカフェイン（安那加）	五〇グラム
カンフル	二五グラム
ブロムカリ	五〇〃
ブロムワレリル尿素（カルモチン又ハブロバリン）	一〇〇〃
ヨードカリ	五〇〃
サンタル油	一〇〇〃
コパイババルサム	五〇〃
サントニン	五〃
アミノピリン錠	五〇箇
炭酸グアヤコール	五〇グラム
規鐵丸	五〇〇箇
オリザニン	五〇〇グラム
燐酸コデイン十倍末	五〇〃
パントポン錠又ハナルコポン錠	二〇箇

（二）注射藥

藥名	數量
澱粉	二五〇グラム
乳糖	二五〇〃
炭末	二〇〇箇
錠	二五〇グラム
ホミカエキス十倍末	二五〇〃
ロートエキス十倍末	二五〇〃

（三）外用藥

藥名	數量
クラウデン	一〇立方糎入五管トロンボゲン一・五立方糎入六管ヲ以テ代用スルコトヲ得
バントポン	一二管
カンフルオレフ油	一立方糎ニ付二〇%ノモノ二四本
ヴイタカンファー	一〇本
リンゲル液又ハロツク液	六〃
生理的食鹽水	一、〇〇〇グラム
鱗片狀硼酸	五〇〇グラム

品名	數量
醋酸鉛	五〇〇グラム
酸化亞鉛	五〇〇〃
硫酸亞鉛	二五〃
硝酸銀	二五〃
デルマトール	二五〃
ヨードホルム	二五〃
イスラピン又ハバンセプチン又ハトリパラピン	二五〃
青酸酸化汞	一〇〃
リパノール	一〇〃
アンモニア水	一〇〇〃
クレオソート又ハカンホニツク	二五〃
イヒチオール	五〇〃
過マンガン酸カリ	二五〃
過酸化水素水	一〇〇〃
オレフ油	五〇〇〃
粉末芥子	五〇〇〃
アルコール	一、〇〇〇〃
グリセリン	五〇〇〃

（四）血精類

品名	數量
蒸溜水	五〇〇グラム
單軟膏	二五〇〃
硼酸軟膏	五〇〇〃
水銀軟膏	一〇〇〃
タール軟膏	一〇〇〃
亞鉛華軟膏	二五〇〃
ワゼリン	二五〇〃
亞鉛華絆創膏	一本〃
硫亞水（硫酸亞鉛水）	二〇〇グラム
石炭酸	五〇〇〃
クレゾール石鹸液	五〇〇〃
葡萄酒	五〇〇〃
ビツク・硬膏	一本

藥名	數量
チフテリヤ血精（一、〇〇〇國際免疫單位）	二本
破傷風血精（六、〇〇〇國際免疫單位）	一本

品名	數量
小外科器械	一函
（內譯）外科刀	三箇
直剪刀	一〃
反剪刀	一〃
鑷子	一〃
有鈎鑷子	一〃
兩頭鋭匙	一〃
ペアン氏血鉗子	一〃
持針器	一〃
消息子	一〃
有溝消息子	一〃
縫合針	大、中、小各五本
縫合絲	一箇
消毒盤	一〃
膿盆	三〃
注射器（針二本附）	一立方糎一〃
グリセリン浣腸器	一〇〇〃
カテーテル	二〇立方糎一〃
尿道注射器	胃洗滌用一〃 尿道洗滌用二〃
スポイド	一〃
洗眼用コップ	二〃
反射鏡	一〇箇
卷綿棒（咽頭用）	一〃
同（耳鼻用）	五〃
消毒ガーゼ貯槽	一〃
食鹽注射用ゴム及針	一〃
器械消毒器	一〃
天秤（上皿）	一〃
竿秤（一瓦用）	一〃
液量器	二〇〇立方糎一〃
硝子製乳鉢（乳棒共）	二〇〇〃一組
藥匙	一〃
金屬製	一箇